

業務資料 NO. 860

ブラジル国における農牧林業の
生産流通実績
(1990～1991)

〈平成4年〉

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農業情報室

ブラジル国における農牧林業の生産流通実績 (1990～1991)

国際協力事業団
サン・パウロ事務所
農業情報室
LIBRARY

ブラジル国における農牧林業の
生産流通実績
(1990～1991)

JICA LIBRARY



1110840141

〈平成4年〉

国際協力事業団サン・パウロ事務所
農業情報室

28

国際協力事業団
国際協力銀行
国際協力基金



国際協力事業団

25795

目次

1 国内経済概況	1
1.1 1990年度の国内生産状況	1
1.1.1 工業部門	2
1.1.2 エネルギー部門	4
1.1.3 農業生産状況	7
1.2 1990年度の対外部門	13
1.2.1 外国貿易政策	13
1.2.2 対外収支	16
1.2.3 貿易収支	17
イ) 輸出	18
ロ) 輸入	25
ハ) 貿易相手国	28
1.2.4 サービス収支	29
1.2.5 資本収支	30
1.2.6 対外債務	32
1.3 1990年度の経済指標	32
1.4 1991年度の経済指標	35
2 農業界の動向	37
2.1 主要農業政策	37
2.1.1 90/91農年に対する対策	37
2.1.2 90/91農年に対する対策	39
2.2 生産資材部門の動向	40
2.2.1 肥料	40
2.2.2 農薬	46
2.2.3 種子	50
2.2.4 農業機械	51
3 主要農産物の生産流通状況	55
3.1 穀類	55
3.1.1 とうもろこし	55
3.1.2 米	61
3.1.3 フェイジョン	67
3.1.4 ソルガム	71
3.1.5 小麦	72
3.1.6 大麦	75
3.1.7 からす麦	76
3.1.8 ライ麦	77

3. 2	油脂原料作物	78
3. 2. 1	大豆	78
3. 2. 2	落花生	88
3. 2. 3	綿	91
3. 2. 4	ヒマ	97
3. 2. 5	ココヤシ	99
3. 3	工業原料作物	100
3. 3. 1	砂糖キビ	100
3. 3. 2	マンシヨカ	109
3. 3. 3	煙草葉	111
3. 3. 4	サイザル	112
3. 3. 5	ジュート及びマルパ	114
3. 3. 6	ラミー	116
3. 4	嗜好作物	116
3. 4. 1	コーヒー	116
3. 4. 2	ココア	123
3. 4. 3	ピメンタ	127
3. 4. 4	グアラナ	129
3. 5	果実類	130
3. 5. 1	オレンジ	130
3. 5. 2	バナナ	138
3. 5. 3	パインアップル	140
3. 5. 4	ぶどう	141
3. 6	野菜類	143
3. 6. 1	トマト	143
3. 6. 2	じゃがいも	145
3. 6. 3	玉ねぎ	147
3. 6. 4	にんにく	149
3. 7	牧畜部門	150
3. 7. 1	牛	150
3. 7. 2	豚	158
3. 7. 3	鶏	160
3. 8	林業部門	163

〈図表索引〉

表 1	国内総生産 (PIB) の推移	1
表 2	国内総生産 (PIB) の成長率	1
表 3	工業生産：部門別成長率	3
表 4	自動車の生産台数とアルコール車の割合	5
表 5	石油副産物の推定消費量	5
表 6	アルコールの推定消費量	6
表 7	電力消費量	6
表 8	過去5ヶ年間の農業生産状況 (面積)	9
表 9	過去5ヶ年間の農業生産状況 (生産量)	11
表 10	過去5ヶ年間の農業生産状況 (単収)	12
表 11	為替レート(1990年) 自由レート	15
表 12	ブラジルの国際収支	16
表 13	ブラジルの貿易収支	17
表 14	コーヒー：世界とブラジルの生産、消費、輸出量	18
表 15	砂糖：世界とブラジルの生産、消費、輸出量	19
表 16	大豆：世界とブラジルの生産、消費、輸出量	20
表 17	ココアの生産と輸出	21
表 18	品目別輸出実績1989年1990年対比	22
表 19	石油の生産、輸入、輸出及び消費	25
表 20	小麦の生産、消費及び輸入	26
表 21	輸入実績1988年89年対比	26
表 22	ブラジルの貿易相手国と実績	29
表 23	サービス収支の内訳	30
表 24	資本収支	31
表 25	ブラジルの外債にかゝる指数	32
表 26	国内インフレ率	33
表 27	その他の指標	34
表 28	為替レート (月末のレート)	34
表 29	INPC (全国消費者物価指数)	35
表 30	IGP (総物価指数)	35
表 31	その他の指標	35
表 32	為替レート (月末のレート)	36
表 33	VBC (生産費融資基準額) 融資限度	38
表 34	肥料の生産、消費、輸入及び在庫	40
表 35	肥料1トンを購入するのに必要とした作物の量	41
表 36	作物別肥料消費量	42
表 37	地域別、州別肥料需要	43
表 38	肥料原料の生産推移	43

表 39	主要肥料及び原材料の国際価格	44
表 40	肥料及び石灰の価格指数 (1989年1月=100とした実質価格)	45
表 41	農業：上半期の販売高推移	46
表 42	農業の種類別 (販売量)	47
表 43	農業の輸出入 (重量)	47
表 44	農家渡し農業平均価格 (サン・パウロ市)	49
表 45	改良種子の生産推移	50
表 46	サン・パウロ州における91/92 農年雨期作への改良種子需要	50
表 47	サン・パウロ州における91年8月時点の改良種子価格	51
表 48	4輪トラクター販売台数の推移	51
表 49	トラクターの生産推移	52
表 50	農業機械の生産、販売台数 (90/91年1-7月)	53
表 51	トラクター1台を購入するために要した作物の量	54
表 52	とうもろこし：1990年の生産実績	55
表 53	とうもろこし：1991年の生産状況 (91年9月調査)	55
表 54	とうもろこし：過去5ヶ年間の生産推移	56
表 55	とうもろこし：主要生産地の反収	56
表 56	とうもろこし：生産者受取価格推移 (時価)	58
表 57	とうもろこし：需給バランス	59
表 58	とうもろこし：91/92 農年生産コスト予想 (A)	60
表 59	とうもろこし：91/92 農年生産コスト予想 (B)	60
表 60	とうもろこし：91/92 農年生産コスト予想	61
表 61	米：1990年の生産実績	61
表 62	米：1991年の生産状況 (91年9月調査)	62
表 63	米：過去5ヶ年間の生産推移	62
表 64	米：主要生産地の反収	62
表 65	米：世界の需給バランス	63
表 66	米：生産者受取価格	64
表 67	米：生産者受取価格推移	65
表 68	米：国内需給バランス	65
表 69	米：91/92 年生産コスト予想 (A)	66
表 70	米：91/92 年生産コスト予想 (B)	67
表 71	フェイジョン：1990年の生産実績	67
表 72	フェイジョン：1991年の生産状況 (91年9月調査)	67
表 73	フェイジョン：過去5ヶ年間の生産推移	68
表 74	フェイジョン：主要生産地の反収	69
表 75	フェイジョン：需給バランス	69
表 76	フェイジョン：生産者受取価格	70
表 77	フェイジョン：91/92 年生産コスト予想	70
表 78	ソルガム：1990年の生産実績	71
表 79	ソルガム：1991年の生産状況 (91年9月調査)	71
表 80	ソルガム：過去5ヶ年間の生産推移	71

表 81	ソルガム：主要生産地の反収	72
表 82	小麦：1990年の生産実績	72
表 83	小麦：1991年の生産状況（91年9月調査）	72
表 84	小麦：過去5ヶ年間の生産推移	73
表 85	小麦：主要生産地の反収	73
表 86	小麦：91/92 農年生産コスト予想	74
表 87	大麦：過去5ヶ年間の生産推移	75
表 88	大麦：主要生産地の反収	75
表 89	大麦：1990年の生産実績	75
表 90	大麦：1991年の生産状況	75
表 91	からす麦：1990年の生産実績	76
表 92	からす麦：1991年の生産状況	76
表 93	からす麦：過去5ヶ年間の生産推移	76
表 94	からす麦：主要生産地の反収	77
表 95	ライ麦：1990年の生産実績	77
表 96	ライ麦：1991年の生産状況	77
表 97	ライ麦：過去5ヶ年間の生産推移	77
表 98	ライ麦：主要生産地の反収	78
表 99	大豆：1990年の生産実績	78
表 100	大豆：1991年の生産状況	79
表 101	大豆：過去5ヶ年間の生産推移	80
表 102	大豆：主要生産地の反収	80
表 103	大豆：10大油脂作物の世界需給	80
表 104	大豆：大豆の国際相場	81
表 105	大豆：大豆及び副産物の輸出実績	81
表 106	大豆：大豆（豆）の輸出推移	82
表 107	大豆：大豆（豆）の輸出先市場	83
表 108	大豆：大豆粕の輸出推移	83
表 109	大豆：大豆粕の輸出先市場	84
表 110	大豆：大豆油の輸出先市場	84
表 111	大豆：大豆生産者受取価格	85
表 112	大豆：大豆生産者受取価格（実質価格）推移	86
表 113	大豆：需給バランス	86
表 114	大豆：91/92 年生産コスト予想（A）	87
表 115	大豆：91/92 年生産コスト予想（B）	87
表 116	落花生：1990年の生産実績	88
表 117	落花生：1991年の生産状況	88
表 118	落花生：過去5ヶ年間の生産推移	88
表 119	落花生：主要生産地の反収	89
表 120	落花生：生産者受取価格	89
表 121	落花生：輸出実績	89
表 122	落花生：落花生油国際価格	90

表 123	落花生：生産者受取価格（実質価格）	90
表 124	落花生：91/92 年生産コスト予想	90
表 125	綿：1990年の生産実績（草綿）	91
表 126	綿：1990年の生産実績（木綿）	91
表 127	綿：1991年の生産状況（草綿）	91
表 128	綿：1991年の生産状況（木綿）	92
表 129	綿：過去5ヶ年間の生産推移（草綿）	92
表 130	綿：過去5ヶ年間の生産推移（木綿）	92
表 131	綿：主要生産地の反収（草綿）	93
表 132	綿：主要生産地の反収（木綿）	94
表 133	綿：世界の需給バランス	94
表 134	綿：綿の国際相場	94
表 135	綿：ブラジルの繰綿需給	95
表 136	綿：生産者受取価格	95
表 137	綿：91/92 年生産コスト予想（A）	96
表 138	ヒマ：1990年の生産実績	97
表 139	ヒマ：1991年の生産状況	97
表 140	ヒマ：過去5ヶ年間の生産推移	97
表 141	ヒマ：主要生産地の反収	98
表 142	ヒマ：生産者受取価格	98
表 143	ココヤシ：1990年の生産実績	99
表 144	ココヤシ：1991年の生産状況	99
表 145	ココヤシ：過去5ヶ年間の生産推移	99
表 146	ココヤシ：主要生産地の反収	100
表 147	砂糖キビ：1990年の生産実績	100
表 148	砂糖キビ：1991年の生産状況	101
表 149	砂糖キビ：過去5ヶ年間の生産推移	102
表 150	砂糖キビ：主要生産地の反収	102
表 151	砂糖キビ：91/92 農年の砂糖及びアルコール生産計画	103
表 152	砂糖キビ：アルコールの需給バランス	104
表 153	砂糖キビ：砂糖の輸出実績	104
表 154	砂糖キビ：砂糖（粗糖）の輸出先市場	105
表 155	砂糖キビ：精製糖の輸出先市場	105
表 156	砂糖キビ：結晶糖の輸出先市場	106
表 157	砂糖キビ：91/92 年生産コスト予想（A）	106
表 158	砂糖キビ：91/92 年生産コスト予想（B）	107
表 159	マンジロカ：1990年の生産実績	109
表 160	マンジロカ：1991年の生産状況	109
表 161	マンジロカ：過去5ヶ年間の生産推移	110
表 162	マンジロカ：主要生産地の反収	110
表 163	マンジロカ：生産者受取価格	110
表 164	煙草葉：1990年の生産実績	111

表 165	煙草葉：1991年の生産状況	111
表 166	煙草葉：過去5ヶ年間の生産推移	112
表 167	煙草葉：主要生産地の反収	112
表 168	サイザル：1990年の生産実績	112
表 169	サイザル：1991年の生産状況	113
表 170	サイザル：過去5ヶ年間の生産推移	113
表 171	サイザル：主要生産地の反収	113
表 172	ジュート：1990年の生産実績	114
表 173	ジュート：1991年の生産状況	114
表 174	ジュート：過去5ヶ年間の生産推移	114
表 175	ジュート：主要生産地の反収	115
表 176	マルバ：1990年の生産実績	115
表 177	マルバ：1991年の生産状況	115
表 178	マルバ：過去5ヶ年間の生産推移	115
表 179	マルバ：主要生産地の反収	116
表 180	ラミー：1990年の生産実績	116
表 181	ラミー：1991年の生産状況	116
表 182	ラミー：過去5ヶ年間の生産推移	116
表 183	ラミー：主要生産地の反収	116
表 184	コーヒー：1990年の生産実績	116
表 185	コーヒー：1991年の生産状況	117
表 186	コーヒー：過去5ヶ年間の生産実績	117
表 187	コーヒー：主要生産地の反収	118
表 188	コーヒー：コーヒーの国際相場	118
表 189	コーヒー：コーヒー（豆）の輸出推移	119
表 190	コーヒー：コーヒー（豆）の輸出先市場	120
表 191	コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出推移	120
表 192	コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出先市場	121
表 193	コーヒー：精選コーヒーの生産者受取価格	121
表 194	コーヒー：91/92年生産コスト推定（A）	122
表 195	コーヒー：91/92年生産コスト推定（B）	123
表 196	ココア：1990年の生産実績	123
表 197	ココア：1991年の生産状況	124
表 198	ココア：過去5ヶ年間の生産推移	124
表 199	ココア：主要生産地の反収	124
表 200	ココア：ココア（豆）の輸出推移	125
表 201	ココア：ココア（豆）の輸出先市場	125
表 202	ココア：ココア・リコールの輸出推移	125
表 203	ココア：ココア・リコールの輸出先市場	126
表 204	ココア：ココア・バターの輸出推移	126
表 205	ココア：ココア・バターの輸出先市場	126
表 206	ビメンタ：1990年の生産実績	127

表 207	ビメンタ：1991年の生産状況	127
表 208	ビメンタ：主要生産地の反収	127
表 209	ビメンタ：過去5ヶ年間の生産推移	127
表 210	ビメンタ：ビメンタ（黒）の輸出先市場	128
表 211	ビメンタ：ビメンタ（白）の輸出先市場	128
表 212	グアラナ：1990年の生産実績	129
表 213	グアラナ：1991年の生産状況	129
表 214	グアラナ：過去5ヶ年間の生産推移	129
表 215	グアラナ：主要生産地の反収	130
表 216	オレンジ：1990年の生産実績	130
表 217	オレンジ：1991年の生産状況	131
表 218	オレンジ：過去5ヶ年間の生産推移	132
表 219	オレンジ：主要生産地の反収	132
表 220	オレンジ：ニューヨーク取引市場の濃縮オレンジ・ジュース相場	133
表 221	オレンジ：濃縮オレンジ・ジュースの輸出推移	135
表 222	オレンジ：ブラジルの輸出総額に占めた濃縮オレンジ・ジュースの比率	135
表 223	オレンジ：濃縮オレンジ・ジュースの輸出先市場	135
表 224	オレンジ：濃縮オレンジ・ジュースの輸出（1991年1-10月）	136
表 225	オレンジ：濃縮オレンジ・ジュースの輸出会社	136
表 226	オレンジ：オレンジ生産者受取価格の推移	137
表 227	オレンジ：オレンジ園達成コスト	137
表 228	オレンジ：オレンジ生産コスト	138
表 229	バナナ：1990年の生産実績	138
表 230	バナナ：1991年の生産状況	138
表 231	バナナ：過去5ヶ年間の生産推移	139
表 232	バナナ：主要生産地の反収	139
表 233	パイナップル：1990年の生産実績	140
表 234	パイナップル：1991年の生産状況	140
表 235	パイナップル：過去5ヶ年間の生産推移	141
表 236	パイナップル：主要生産地の反収	141
表 237	ぶどう：1990年の生産実績	141
表 238	ぶどう：1991年の生産状況	141
表 239	ぶどう：過去5ヶ年間の生産推移	142
表 240	ぶどう：主要生産地の反収	142
表 241	トマト：1990年の生産実績	143
表 242	トマト：1991年の生産状況	143
表 243	トマト：過去5ヶ年間の生産推移	144
表 244	トマト：主要生産地の反収	144
表 245	トマト：トマト（食卓用）生産者受取価格	144
表 246	トマト：トマト（工業原料用）生産者受取価格	145
表 247	ジャガイモ：1990年の生産実績	145
表 248	ジャガイモ：1991年の生産状況	145

表 249	じゃがいも	：過去5ヶ年間の生産推移	146
表 250	じゃがいも	：主要生産地の反収	146
表 251	じゃがいも	：生産者受取価格	147
表 252	玉ねぎ	：1990年の生産実績	147
表 253	玉ねぎ	：1991年の生産状況	147
表 254	玉ねぎ	：過去5ヶ年間の生産推移	148
表 255	玉ねぎ	：主要生産地の反収	148
表 256	玉ねぎ	：生産者受取価格	148
表 257	にんにく	：1990年の生産実績	149
表 258	にんにく	：1991年の生産状況	149
表 259	にんにく	：過去5ヶ年間の生産推移	150
表 260	牛	：生産者受取価格（仔牛）	151
表 261	牛	：生産者受取価格（放牧牛）	152
表 262	牛	：生産者受取価格（肥育牛）	152
表 263	牛	：生産者受取価格（1日10ℓ以上の乳牛）	153
表 264	牛	：世界の牛肉需給	153
表 265	牛	：冷凍牛肉の輸出先市場	155
表 266	牛	：サン・パウロ州における牧場面積	156
表 267	牛	：サン・パウロ州内の乳牛数の推移	156
表 268	牛	：牛乳（C型）の生産者受取価格	156
表 269	牛	：乳牛（1日5ℓ）1頭を購入するのに必要とする牛乳（C）量	157
表 270	牛	：飼料1kgを購入するのに必要とした牛乳の量	157
表 271	牛	：乳製品世界の12月末在庫及び価格	158
表 272	豚	：サン・パウロ州における豚肉価格	158
表 273	豚	：豚肉ととうもろこしの価格関係	159
表 274	豚	：豚肉と大豆粕の価格関係	159
表 275	鶏	：鶏肉1kgの価格で購入出来た配合飼料の量～kg	161
表 276	鶏	：牛肉1kgの価格で購入出来た鶏肉の量～kg	161
表 277	鶏	：プロイラーの輸出推移	162
表 278	鶏	：プロイラーの輸出先国	162
表 279	鶏	：卵1打の価格で購入出来た産卵鶏飼料の量～kg	162
表 280	林業部門	：全国の木材及び薪生産量（天然林）	163
表 281	林業部門	：全国の木材及び薪生産量（植林）	164

1 国内経済概況

ブラジル中央銀行の年次報告書によると、1990年における国内生産状況、物価動向、雇用、国内投資状況、対外取引等の状況を次の通り解説している。

1.1. 国内生産状況

IBGE (ブラジル地理統計院) の予備推定によると、1990年におけるPIB (国内総生産高) は前年比(-)4.6%の減少で、前年に達した3.2%の成長よりマイナス成長へと転じた。ドルに換算したPIB総額は2,967億ドル、約150.4百万人と推定される人口によって割出した1人当り所得は\$1,973.44で前年の\$2,110.19を(-)6.5%低下する結果となった。

PIBを構成する各部門の中、農牧部門は年間を通じて下降を続け前年比(-)4.4%と後退したが、中でも農牧部門を構成する農業部門の落ち込みが大きく、前年比(-)8.6%で牧畜部門にみられた成長も全体を成長に導くまでにはいたらなかった。

第二次産業部門 (工業部門) では製造工業における前年比(-)9.5%及び建築部門の(-)12.4%が大きく影響して全体的に(-)8.6%の後退、鉱業部門や公共工業部門は、成長したもの、その率は低く、生産下降の傾向が続いた。

第三次部門では、第3四半期以降減速傾向に入り、年間を通じて(-)0.7%と過去5ヶ年間で始めてマイナス成長を記録した。各部門の中では、商業部門における(-)6.5%、輸送部門における(-)3.3%が大きく影響している。

表1 国内総生産 (PIB) の推移

年 度	ドル換算額 100万ドル (1990年価格)	指 数 1980=100	年間成長率 (%)	推定人口 (100万人)	1人当り所得US\$ (1990年価格)	指 数 1980=100
1981	245.126	95.6	(-)4.4	124.1	1,975.74	(-)6.5
82	246.597	96.2	0.6	126.9	1,943.27	(-)1.7
83	238.213	92.9	(-)3.4	129.8	1,835.71	(-)5.5
84	250.838	97.8	5.3	132.7	1,890.85	3.0
85	270.905	105.6	8.0	135.6	1,998.35	5.6
86	291.223	113.5	7.5	138.5	2,102.80	5.3
87	301.707	117.6	3.6	141.5	2,132.93	1.4
88	301.405	117.5	(-)0.1	144.4	2,086.89	(-)2.2
89	311.050	121.2	3.2	147.4	2,110.19	1.2
90	296.742	115.6	(-)4.6	150.4	1,973.44	(-)6.5

出所: IBGE

表2 国内総生産 (PIB) 成長率 %

部 門 別	1986	87	88	89	90
農 牧 部 門	8.5	14.9	0.6	2.5	-4.4
工 業 部 門	11.8	1.1	2.6	3.0	-8.6
(鉱 業 部 門)	(3.7)	(-0.8)	(0.4)	(4.0)	(2.7)
(製 造 業)	(11.3)	(1.0)	(-3.4)	(2.9)	(9.5)
(建 築)	(18.4)	(1.1)	(-3.0)	(3.3)	(12.4)
(公 共 工 業)	(8.3)	(3.3)	(5.8)	(3.4)	(1.8)

サービス部門	8,2	3,3	2,4	3,6	0,7
(商業部門)	(7,7)	(2,6)	(-2,6)	(2,9)	(6,5)
(運送部門)	(11,2)	(4,6)	(4,2)	(2,5)	(3,3)
(通信部門)	(19,6)	(9,1)	(11,2)	(18,5)	(9,0)
(金融部門)	(-1,7)	(-4,7)	(0,3)	(1,3)	(2,69)
(公共部門)	(2,1)	(2,1)	(2,1)	(2,1)	(2,1)
平均	7,5	3,6	0,1	3,2	-4,6

出所：IBGE

1.1.1 工業部門

国内の工業生産は前年とは逆に3月以降、すなわちコーロル政府の発足以降、生産減速の方向に向った。工業部門の生産高は、その大半が製造工業部門によって占められるため部門全体の生産動向は、製造工業部門の動向によって決定されるが、90年の場合、製造工業部門は(-)9,5%の大幅な後退で、鉱業部門における2,7%の成長をもってしても全体の傾向を緩和することは出来なかった。

工業部門の中で唯一の成長を記録した鉱業部門も年間を通じて減速気味であり、その成長率は前年の3,9%に対し2,7%に終わった。鉱業部門の中で活発な生産活動を行なったのは、液体ガスを含む石油部門の6,0%、天然ガスの3,1%の成長であった。

工業部門の成長を決定する製造工業部門は過去5ヶ年間最低の成長率(-)9,5%に終わった。製造工業部門を構成する各部門の中では、食品及び飲料部門がそれぞれ1,7%及び1,5%のわずかな成長を残した以外は、すべてマイナス成長に止まっている。減少率が高かったのは、機械(-)16,5%、プラスチック(-)16,1%、輸送機器(-)15,9%、衣料及び靴(-)14,3%等であった。

工業生産を製品の使用目的別にみると、消費財と前年の3,9%の成長を(-)5,5%に落しており、この中、耐久消費財は前年の4,3%の成長より、90年は(-)5,4%へ、又非耐久消費財は、4,3%より(-)5,4%への下降であった。耐久消費財における減少は輸送機器の生産減少が影響したものである。

中間財も前年の2,7%の成長より(-)8,8%のマイナス成長へと変化した。これは金属部門における(-)12,6%、非鉄鉱業部門の(-)11,1%に影響されたものである。

資本財は、経済減速の影響をもっと大きく受けた部門で前年のわずかながらも、0,56%の増加に対し、90年は(-)15,3%という大きな落ち込みであった。これは船舶、農業機械類の生産減少をその主な原因としている。

各工業分野の生産状況についてみると、製鉄部門では鉄鋼の生産が21,240千トンで前年の生産量を(-)12,2%減少した。この中粗鋼の生産量は、20,577千トンで前年を(-)17,9%下回るものであったが、これは国内需要そのものの減少のほか一部製鉄所のストによる操業の中断等が影響したものである。販売に向けられる半製品の生産量は4,841千トンで前年を(-)22,1%減少しており、この中海外向けの販売量は、3,520千トンで前年比(-)35,4%の落ち込みであった。鉄鋼製品の中、薄板(平板)の生産量は89年の9,756千トンより90年は、8,753トンへ、又薄板(非平板)の生産量は、5,962千トン、又これらの海外輸出量は、5,148千トンで生産量の減少とは逆に前年比10,9%の増加であった。

非鉄金属部門では前年比4,9%の増加を示したアルミの生産が特筆される。これに対し銅の生産は前年比(-)5,8%の157千トン、亜鉛も又(-)3,0%減少して153千トンであった。又少量の生産が行なわれた錫、鉛、ニッケル等も前年より低い実績に止まっている。

セメントの国内生産について見ると、86年より89年にかけて期間の年間平均生産量は25,500千トンであったが、1990年はこれをや、上回る25,845千トンの生産に止まった。これはコーロル政府が発足と同時に採用した流動資金の凍結による影響を受けた建築部門の停滞を反映したものである。国内の消費分布は、南東地方において最も大きく56%、

南部地方の16,7%、東北地方の16,0%がこれに続いている。

輸送機器部門では、すべての機種を合わせた自動車の生産台数は、831,3千台で前年を(-)11%下廻っており、バスを除く全機種に生産の減少が見られた。この中、国内市場への販売台数は、900千台、海外への輸出は151,4千台でそれぞれ前年の実績を下廻っているが、バスだけは生産の場合と同様に前年を上廻る実績を残した。部品・製造部門における困難な情勢、組立メーカーのストなどが生産レベルを大巾に落した理由の1つであった。

8月以降は、乗用車、トラック及びバスの価格自由化により通常の生産リズムに戻ったが上半期にみられた減速分を回復するにはいたらなかった。自動車全体に対するアルコール車の割合は、乗用車を例にとると生産台数において76%に達した1986年を頂点として以後減少を続け1990年には10,7%に落ち販売台数においては、99,4%に達した1987年より90年は生産台数の場合と同様に10,7%へと下降した。

トラクター部門における生産の減退はとくにひどく、すでに4年間連続した生産の減少が続き80年代を通じて83年に記録した26,559台のみを上廻る32,337台という低い生産であった。この生産台数は前年比(-)24,1%の減少であり、販売量の27,413台も又、前年を(-)21,7%下廻り、輸出も前年より(-)43,9%低い、4,855台に止まった。

国内のタイヤ工業部門は天然、合成を合せ、250,4千トンのゴムを消費し、29,162千個のタイヤを生産したが、これは前年を(-)0,2%下廻るものであった。この中、乗用車用のタイヤが、19,648千個、又販売量は、1989年の29,475千個に対し、90年は、28,523千個に落ちた。販売個数の中、21,7%が海外に輸出されている。

家電部門では空気環境器、床磨器、扇風機は、満足すべき販売状況で、前年それぞれ(-)12,1%、(-)5,5%、及び(-)0,5%と落ちていたものを31,3%、6,0%及び33,7%へと復活させた。

この他、カラーTV、及びビデオ・カセットがそれぞれ9,2%及び17,6%の生産増加を記録したが、エアコンでは(-)11,2%、冷蔵庫では(-)11%の前年比減少があった。

表3 工業生産 部門別成長率

区 分	生産高比率 (1980年度セオ)	成 長 率 (%)				
		1986	1987	1988	1989	1990
鉱業部門	2,93	3,7	- 0,7	0,4	3,9	2,7
製造工業部門	97,07	11,3	1,0	- 3,4	3,1	-9,5
計	100,00	10,9	0,9	- 3,2	3,2	-8,9
製造工業部門内訳						
非鉄金属	6,38	18,2	2,3	- 4,1	3,6	-11,1
金 属	12,63	11,8	0,4	- 3,2	5,3	-12,6
機 械	11,02	21,6	4,1	- 8,6	4,4	-16,5
電気・通信機器	6,97	22,2	- 2,3	- 4,4	5,8	- 5,6
輸送機器	8,30	12,5	-10,1	9,1	- 2,7	-15,9
製 紙	3,32	10,5	3,6	- 1,6	8,1	- 6,3
ゴ ム	1,39	14,1	4,0	2,1	- 1,7	- 4,3
化 学	16,10	1,6	5,4	- 3,0	- 0,2	- 8,2
薬 品	1,80	22,3	3,8	-14,0	5,3	- 9,5
香料・石ケン	0,95	22,0	12,8	- 7,8	11,5	- 5,7
プラスチック	2,67	21,7	- 4,2	- 7,2	12,4	-16,1
織 維	7,02	13,5	- 0,6	- 6,1	2,3	-10,0
衣料・靴	5,31	6,4	- 9,9	- 7,0	0,9	-14,3
食 品	11,02	0,2	7,0	- 2,4	1,3	1,7
飲 料	1,33	23,2	- 3,0	2,2	14,7	1,5
煙 草	0,86	7,4	2,1	1,0	5,1	- 1,4

使用目的別分類						
資本財	10,10	21,6	- 1,8	2,1	0,5	-15,3
中間財	56,00	8,4	1,1	2,1	2,7	- 8,8
消費財	33,90	11,0	0,2	- 3,5	3,9	- 5,5
耐久消費財	5,90	20,3	- 5,4	0,7	2,5	- 5,9
非耐久消費財	28,00	8,9	1,6	- 4,4	4,3	- 5,4

出所：IBGE

1. 1. 2. エネルギー部門

毎年基幹事業省によって発表されるBEN（国家エネルギー・バランス）のデータによると、国内の第1次エネルギー源の生産は、85～89年中に8,2%成長し、特に再生可能なエネルギー源（水力、薪、砂糖キビを原料とする製品、その他）の9,9%増加により、1989年には石油換算（TEP）152,428千トンの生産量に達した。これに対し、非再生可能エネルギー（石油、天然ガス、石炭、及びウラン）の生産量は同期間中、僅か3,4%の成長に止まり、1989年におけるTEPは、38,193千トンであった。

一方、この期間（88～89年）中における国内のエネルギー消費量は170,901千TEPより188,125千TEP(+10,1%)へと増加したため、輸入量を33,322千TEPより36,784千TEPへと10,4%増大せしめた。このように第1次エネルギー源の輸入割合は、国内消費量の20%前後であった。エネルギーの対外依存は1974～78年内の36%より、1979年には39,7%に達したが、この期間以後、減少を続け85～89年にいたって20%に落ち今日にいたっているものである。

この中、石油についてみると国内のエネルギーに占めた割合は、85～89年間で、19,5%を維持した。液体ガスを含む石油の生産量は1985年の日産563千バレルより1990年には、653千バレルに増加、これに対し石油及び副産物の推定消費量は、この期間中、1日当り、975千バレルより1,176千バレルへと増加した。結果的に石油の国内消費量に対する国産比率は、1985年の58,4%より1990年には54,3%へと低下した。

1990年末における石油の推定埋蔵量は、1989年と同等レベルの28億バレルで、その74,6%は、大陸棚に位置するものである。

石油の開発と生産に対して行なわれた直接投資額は、1989年が32,55億クルゼイロ、1990年が885,12億クルゼイロでペトロブラス（石油公団）の総投資額に占めた比率は60,6%より、72,3%へと増加している。但し、この間のインフレ率を除外した実績価格でみる場合、同投資額は、1990年において(-)4,2%の減少であった。1990年中には、大陸内及び大陸棚に593千m掘削が行なわれたが、これは前年を(-)26,6%減少したものであった。

90年中に新しく発見された油田としては、パラナ州及びサンタ・カタリーナ州沖合170Kmに位置する1-B55-56油田とCAMPO DE TUBARAO沖南東12Kmに位置する1-B55-55油田がある。その埋蔵量は、前者が石油150百万バレル、天然ガス80億m³、後者において石油120百万バレルと推定されている。

天然ガスの生産量は、1985～89年間でエネルギー消費の2,9%を占めたに過ぎないが、その生産コストが低いことからエネルギーの対外依存を軽減する政策のもとにペトロブラスでは、次第に生産量を増加してその消費を促進しており、1990年には、89年を3,1%上回る63億m³の生産を行なった。

国内経済活動の後退を反映して石油副産物の消費は、1990年において前年比(-)1,0%減少した。この間、石油副産物の価格は、物価の傾向を示す指数をとってもインフレ率以下の調整に終っている。

89年末よりみられた国内アルコールの不足を機会に増加したガソリン車の需要が継続したため、ガソリンの消費量は、前年比14,4%増の9,453 m³に達した。これに対して国内生産台数に占めたアルコール車の比率は1986年に達した66,1%の高い比率のあと、1989年には39,4%に下降、1990年にいたって更に9,1%へと落ちた。

表4 自動車の生産台数とアルコール車の割合

年 度	車 種	生産台数 1,000台	内アルコール車 1,000台	アルコール車の割合 (%)
1986	乗用車	815	620	76,0
	その他	242	79	32,6
	計	1,057	699	66,1
1987	乗用車	683	388	56,8
	その他	238	73	30,7
	計	921	461	50,1
1988	乗用車	783	498	63,0
	その他	285	76	26,7
	計	1,068	574	53,7
1989	乗用車	731	346	47,3
	その他	282	53	17,8
	計	1,013	399	39,4
1990	乗用車	654	72	11,0
	その他	261	11	4,2
	計	915	83	9,1

出所：ANFAVEA

ディーゼル油の消費量は、24,514千 m^3 で89年に比して(-)0,9%減少し、石油副産物の消費量に占める割合を1989年の37,0%より、90年には、35,9%へと落した。液化ガスの需要は、5,5%増加して9,168千 m^3 に達したが、燃料油の消費は(-)5,2%減少して、10,463千 m^3 に落ちた。

表5 石油副産物の推定消費量 1,000 バレル/1日

内 訳	1988	1989	1990	1990年構成比 (%)
ディーゼル油	419,7	430,6	422,4	35,9
燃 料 油	191,5	190,1	180,3	15,3
ガ ソ リ ン	123,2	142,4	162,9	13,9
液 体 ガ ス	142,3	149,7	158,0	13,4
航空機用ケロシン	47,8	50,2	49,6	4,2
そ の 他	198,1	201,3	202,9	17,3
計	1,122,6	1,164,3	1,176,1	100,0

出所：CNP

毎年4月に開始される1990/91農年のアルコール生産認可量は12月までに12,747千 m^3 と設定された。これに対し12月までの生産量は10,019千 m^3 で前年比(-)1,2%の減少であった。生産されたアルコールの種類別分類は含水アルコール(アルコール車専用)が、9,785千 m^3 、無水アルコール(ガソリンに混入用)が、1,234千 m^3 であった。歴年でみる場合、アルコール全体の生産量は、11,518千 m^3 で89年よりも(-)2,3%減少した。

アルコール車よりガソリン車への移行に加え、90年当初にみられたアルコールの供給不順からアルコールの国内消費量は前年を(-)10,1%下回る11,327千 m^3 に落ちた。90年当初にみられたアルコールの不足は、砂糖キビ及びアルコールの生産者価格がインフレ対策の1つとして低く押えられた結果によるものであったが、この事態を解消し、国内供給の保証と最低1ヶ月分の消費量に相当する在庫量の確保を図るため政府は一連の措置を余儀なくされた。800百

万リットルのメタノール及び700百万リットルのぶどうを原料としたアルコールの輸入を始め、インフレ対策に順じながらも生産意欲を阻害しない価格の設定などが行なわれた。価格面では、90年始めに行なわれた物価凍結に際し、すべての燃料価格をインフレ率以上に調整し、生産者の利益が図られた。物価凍結解除のあとも毎月インフレ率以上の調整が行なわれ、凍結期間中の価格差が調整された。

表6 アルコールの推定消費量

内 訳	1988	1989	1990	1990年構成比 (%)
燃料用				
無水アルコール	1.966	1.723	1.218	9,8
含水アルコール	9.760	10.880	10.212	81,9
小 計	11.276	12.603	11.430	91,7
その他の用途	672	736	1.030	8,3
合 計	12.398	13.339	12.460	100,0

出所：DNC

第一次エネルギー源としては、最も重要な水力発電は、ブラジルのエネルギー源に占める割合を増加しており、1985～87年の平均37%より、1990年には40,8%にいたっている。国内の電力の消費量は、1990年に前年比1,9%の増加であった。但し、国内電力消費の49,9%を占める工業部門は、工業活動の減退を反映して前年よりも(-)2,5%消費量を落しており、家庭用電力消費量(全体の23,8%)の増加が全体の消費量増加の理由となっている。

電力公社(ELETROBRAS)のデータによると国内最大の消費地帯(全体の60%以上)である南東地方の消費は事実上前年と変化なく中西部地方、東北地方、南部地方に消費量の増加がみられた。1990年中電力部門に対して行なわれた投資額は、2.450億クルゼイロであったが、これは実質価格で1989年のレベルを(-)12,6%落したものであった。

表7 電力消費量

区 分	1988 (GWh)	1989 (GWh)	1990 *	
			(GWh)	%
部 門 別				
商 業	21.345	22.376	23.678	11,8
住 宅	40.564	43.685	47.884	23,8
工 業	99.402	102.818	100.235	49,9
そ の 他	27.180	28.167	29.023	14,5
地 域 別				
北 部	7.090	7.700	8.757	4,4
東 北 部	28.184	30.120	31.307	15,6
中 西 部	7.625	7.910	8.464	4,2
南 東 部	119.714	123.879	124.184	61,8
南 部	25.874	27.437	28.108	14,0
合 計	188.491	197.046	200.820	100,0

出所：ELETROBRAS

*予備推定

1. 1. 3. 農業生産状況

90年度を支配した国内経済情勢は、農牧部門に大きな影響を与え、農牧部門を構成する農業部門では、天候不順に加えた生産費融資の不足から大巾な生産の減少があった。これに対し牧畜部門は、とくに牛肉生産分野において良好な結果を得たが、農牧部門全体の減速をカバーすることは出来なかった。このためすでに前年の89年にわずかな成長(2,5%)に止まっていた農牧部門は、1990年において農業部門で(-)10,2%、牧畜部門で5,2%、全体で(-)4,4%の減産に終った。穀類、油脂原料作物の生産量合計は56.1百万トンで89年に達した71百万トンに対し(-)21,8%という大きな落ち込みであった。

8月に発表された新政府による次期作付に対する政策では、国内食糧の生産を優先する新しい方針が示され、農業政策の方向を大きく変えた。過去の政策が輸出農産物の生産拡大による外貨の獲得を目標としたのに対し、今後の方針は、国内供給の確保を優先し、供給不足が国内インフレに与える影響を最小限に止めることが目標とされた。基礎食糧とされる米、フェイジョン及びとうもろこしの次期生産の増加を図るため最低保証価格の大巾な改訂が行なわれたのも、この政策にもとづくものであった。

このような国内食糧生産優先の政策にかかわらず米の場合などは、こゝ数年間その生産と供給面で支障なく続いてきたものが、1990年には根本的に覆えられ、作付面積は前年を(-)20,1%減少して1964年以降最低のレベルに落ち、1ヘクタール当りの生産性も又(-)10,3%の低下をみた。め生産量は国内消費量の77%に止まる結果を招き、生産量と消費量の割合では80年代を通して最低の状態を呈した。この供給不足状態を緩和するため政府は、CFP(生産融資公社)の管理下にある政府在庫を各州の穀物取引所を通じて賤売した他20%の輸入税を継続したまゝ、米の輸入を許可した。又、8月には最低保証価格の大巾な改訂が行なわれたが、特に水田地帯の生産を刺激するため、地域毎に価格を変えた陸稲の場合と異なり、水稲の最低保証価格を全国的に統一した。水稲の生産を振興したのは、水稲が陸稲に比して品質的にすぐれているだけでなく、天候の変化による被害等、栽培上のリスクが少なく、それだけ国内供給が保証されるためであった。

フェイジョンの栽培はここ数年間停滞しており、国内穀物生産に占める比重を年々減少している。ブラジルのフェイジョン栽培は、7月から10~11月にかけて行なわれる雨期栽培(第1収穫)1月から4月にかけて第2収穫、別名乾期収穫と5月から7月にかけて最後の収穫(冬期収穫)の3回の栽培が行なわれる。1990年はこの3回合わせた国内のフェイジョン生産量は220万トンで前年を(-)3,0%下廻るものであった。三回の収穫の中、最初の雨期収穫では、前年を3,6%上廻る良好な成績であったが、第2、第3回目の生産が天候不順の影響を受けて減少し、全体の生産量を落すことになった。全国の栽培面積は前年を(-)4,7%減少したが、1ヘクタール当りの平均反収が478,0kgと前年を上廻ったため面積減少の割には生産の落ち込みは少なかった。国内市場は年間を通じて適当に供給されてきたものの国内消費は大きく変動し、前年を(-)10%も下廻った。

1990年におけるとうもろこしの生産量は前年比(-)19,9%の21.298千トンに止まった。他の作物の場合と同様に天候不順の影響を受けたこと、1989年を通じて低い市場価格が支配したこと、政府の生産費融資が不足したことなどが重なって生産者の作付意欲を押えたもので、その面積は前年を(-)11,2%減少した12.089千ヘクタールであった。とくに天候不順と資金の不足は生産性に大きな影響を与え、その反収は前年を(-)9,2%落す1.869kg/haであった。国内の主要生産地帯ではゴヤス州(-47,9%) ミナス・ジェライス州(-31,7%)及びサン・パウロ州(-26,4%)において大きな減産がみられた。リオ・グランデ・ド・スール州のみは、これらとは逆に前年を10,4%上廻る3.957千トンの生産をあげている。このような減産と国内供給量を減少させ、その結果として国内価格をつりあげることになり、国内とうもろこし市場は不安定な状態に置かれていたため、8月に発表された次期作付に対する対策では基礎食糧の国内供給態勢の確立を図る手段として最低価格の改訂(南部及び東部において54%、中西部において31%)が行なわれ、その中にとうもろこしも含まれた。

80年代の中期に大巾な増産により国内自給態勢にあと一歩と近づいていた小麦の国内生産は89/90農年を見舞った天候不順の影響を受けて再び大巾に減産し昔の供給態勢へと戻った。7月にパラナ州を襲った降雪、降雹、強風が全国生産を落す最大の原因であった。主要生産地帯の作付面積は、サンタ・カタリーナ州、ブラジリア連邦区、及びリ

オ・グランデ・ド・スール州において増加したが、その他の州における減少によって相殺され、全国作付面積を前年並みの3,3百万ヘクタールに押えた。減産の最も大きな理由となった反収は、過去3年間の平均1,700kg/haに対し、1,170kg/haと(-)30,9%の低下をみている。90年の小麦市場で特筆されることは、長年続けられてきた政府の専売制度が廃止されたことで、生産者は市場価格によって製粉工場へ直接販売することが出来るようになった。

コーヒー(豆)の生産量は前年の3,065千トンより90年は2,883千トンへと落ちた。生産の減少は、栽培面積の減少(89年の3,041千ヘクタールより90年の2,909千ヘクタール)によるものである。すでに3年間にわたる不況は、1990年を支配した天候不順のほか、コーヒー政策の不在及びコーヒー部門に対する融資資金の不足、生産コストの上昇、国際相場の低迷、等にもとづくものであり、その結果としてコーヒー生産者の資本減少、品質の低下、競争力の低いコーヒー園の廃園等が起っている。このような状況の中で、90年中には約15%のコーヒー樹が抜根されたものとされており、全国のコーヒー樹は35億本に減少しているものと推定されている。投下資本の減少は単収の低下となって表われており、平均反収は、89年の1,008kg/haを90年には、991kg/haへと落している。

ブラジルのコーヒーは、基本的にアラビカ種によっており、89/90農年を例にとると全コーヒー樹の85%がこの種類であった。このため、ロブスタやコニロン種は残りの15%と少ない。国内生産地帯の中では、サン・パウロ州とミナス・ジェライス州がアラビカ種を主体とし、ロブスタ種はエスピリト・サント州やロンドニア州において栽培されている。

1990年にとられたコーヒーの販売政策の中では、次の事項が特筆される。イ) 3月に新政策が行なったIBC(ブラジル・コーヒー院)の廃止、ロ) 最低保証価格を廃止し、販売融資の基準とする標準価格を設定した。これらの措置により政府はコーヒーの販売に対する国の干渉を廃止する方向を示した。

1990年における大豆の生産量は、前年に達した24,052千トンの大型収穫を(-)17,3%減少した19,888千トンに止まった。生産量の減少は栽培面積における(-)5,9%、単収における(-)12,2%の減少にもとづくものであった。

大豆栽培面積を大串に減少させた理由としては、前年の大量生産による国内価格の下落、及び農業融資にかゝる高い金利があげられる。更に消費市場より遠隔の地帯では、輸送コストが販売価格に比して高率であったこと、及び道筋事情が悪かったことも作付意欲を落させた他の原因であった。

大豆の生産性にみられたレベルの低下は、全般的な資金の不足から肥料や農薬の使用量が減少したことや、リオ・グランデ・ド・スール州とサンタ・カタリーナ州を除く他の生産地帯が天候不順に見舞われたことを最も大きな理由としている。

主要生産地帯としてのリオ・グランデ・ド・スール州では、栽培面積が前年の3,683千ヘクタールより3,521千ヘクタールへと減少したが、生産量は前年の6,296千トンより、6,313千トンへと伸びた。

又、パウロ州では面積において前年を(-)5,5%下廻る2,270千ヘクタール、生産量も前年を(-)7,6%下廻る4,650千トンであった。セラード地帯でも栽培面積及び生産量の減少があった。

セラード地帯を代表するマット・グロッソ州の場合、前年比面積において(-)9,4%、生産量で(-)19,2%の減産で3,065千トンの生産に止まっている。

砂糖キビは、1990年において前年比生産を伸した数少ない作物の1つでその収穫面積は、前年を5,0%増の4,269千ヘクタール、生産量もこれに平行して前年比4,5%増の263,604千トンであった。このような生産の増加は栽培期間を支配した良好な気象条件にもとづくものである。

砂糖キビの生産は過去数年間政府が設定した価格の低さから収益が極度に圧迫されていたため停滞し、その結果として89年末より90年当初にかけて国内アルコールの不足が深刻化した。この事態を解消するため、政府は8月に発表した一連の農業政策の中で砂糖キビ価格の回復を図る措置を講じた。国内砂糖キビ生産の50%以上を占めるサン・パウロ州における1990年の収穫面積は、1,812千ヘクタール、生産量は137,835千トンで、それぞれ前年比9,4%及び6,3%の増加であった。サン・パウロ州に続き、東北地方では最大の生産地帯を持つアラゴアス州でも前年を14,2%増加した562千ヘクタールより26,515千トン(前年は、22,816千トン)の生産をあげている。

こ、数年間かんきつ部門を潤わしてきた良好な国際市況は、1990年も継続したが年末にいたってその傾向は、変化を開始した。同年10月米国税務局によるフロリダ州の次期生産予想が、当時一般に予測されていた140万箱を大串

に上回る165百万箱と発表されたことから年末に向ってニューヨーク取引市場の相場は急激に下降し、以後約1年間にわたって低価格の時代を作ることになる。1990年におけるオレンジの栽培面積は、前年を3.6%増加して、911.7千ヘクタールにいたったものの、1ヘクタール当りの単収が前年の100.9千個より96.8千個へと低下したため全体の生産量を前年比(-)1.6%減の889億個へと下げた。このような単収の低下は、下半期にみられた国際市場価格の低下と供給過剰から、オレンジ生産者の収益が圧迫され栽培管理への投資が減少したためであった。

綿については、1990年の年間を通じて国内経済活動の減速から国内消費の減少が観察されたものの、国内生産の減少、国際相場の上昇に伴う輸入の困難などから国内市場への供給量は、減少し、この情勢を反映した国内価格の高値が続いた。綿の国内生産は草綿、木綿を合せて、2,067千ヘクタールで前年より(-)5.8%減少した。これは生産コストの上昇と農業融資の不足によるものであったが、天候条件に恵まれたのと昨年北部、東北部地方が襲われた害虫ピカードの防除を中心として生産性が向上し、1ヘクタール当り単収が前年の873kgより956kgへと伸びたため、面積の減少にかかわらず生産量は前年をわずかに(-)1.4%減少したものに止まっている。

最後に牧畜部門については低調であった農業部門に対し、5.2%の実質的成長が記録されている。これは主に養鶏及び養豚部門の生産増加にもとづくものであった。

牧畜部門の中核をなす牛肉の生産量は、2,774.8千トンで前年を1.0%増加、とくに集中飼育(コンフィナメント)分野の良好な活動によってこの結果が得られている。又、年間を通じた牝牛の屠殺数は前年に比して(-)14.5%の減少であった。国内の牛肉市場は年間を通じて高い価格が継続したため政府は、これを押えるべくすべての種類の牛肉についてその輸入税を免除し、国内供給の増加を図った。この措置はラブラク流域諸国(アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ)に対しては、すでに実施されていたものであるが、他の牛肉輸出国に対して拡大適用したものである。1990年における牛肉の国内消費量は1人年間22.5kgで前年を(-)3.0%低下したものであった。牛肉の消費の低下は、消費者の購買力低下から安価な白肉(鶏肉及び豚肉)が求められたためである。

養鶏部門は、1990年に大巾に飛躍した部門であり、鶏肉生産の95%を占める若鶏の内生産量は前年を12.4%増加する1,499.3千トンに達した。年間を通じて良好な市況下にあったが、消費者の購買力低下による需要の伸び悩みと主要飼料であるとうもろこしの価格の上昇は、養鶏収益を圧迫した。このような情勢下で9月まで維持されてきた良好な価格水準は、10月、11月と下降、12月にはクリスマス時期の需要により復活した。1990年における1人年間の鶏肉消費量は、13.4kgと算出されているが、これは1989年を1kg上回る史上最高の記録であった。

養豚部門は、第3四半期まで良好な収益が維持されていたが、第4四半期に入ると消費者価格に比して生産コストが大巾に上昇したため収益を落した。屠殺数の増加に消費が伴わず、ストックが増加したため価格が押えられたものである。サラメ(豚肉の腸詰)、パンニャ(ラード)など一部の加工品を除き低価格が支配し、年末に期待された需要の増加も消費者購買力の極度の低下から期待外れに終わった。

表8 過去5ヶ年間の農業生産状況(面積) 1,000ha

作物別	1986	1987	1988	1989	1990
A) 穀物					
とうもろこし	12,465.8	13,503.4	13,169.0	12,931.8	11,390.6
米	5,585.0	5,979.8	5,959.1	5,250.1	3,944.9
小麦	3,864.3	3,455.9	3,467.6	3,281.4	2,681.0
フェイジョン	5,477.7	5,201.8	5,781.2	5,181.0	4,680.1
ソルガム	195.9	230.7	195.4	164.6	133.4
大麦	103.2	102.2	102.0	113.4	105.1
からす麦	127.9	141.1	127.8	203.8	188.9
ライ麦	5.1	3.0	2.3	3.9	4.4
小計	27,824.9	28,617.9	28,804.4	27,130.0	23,128.4

B) 油脂作物					
大豆	9,181,6	9,134,3	10,520,0	12,211,2	11,481,1
綿(草綿)	1,995,9	1,277,3	1,824,0	1,506,8	1,383,6
々(木綿)	1,163,9	691,1	734,4	618,6	511,8
落花生	161,9	143,6	99,9	85,5	82,8
ヒマ	457,1	262,5	278,9	269,1	286,3
小計	12,960,4	11,508,8	13,457,8	14,691,2	13,745,6
A+B	40,785,3	40,126,7	42,262,2	41,821,2	36,874,0
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	3,951,8	4,314,1	4,117,4	4,075,8	4,270,1
マンジロカ	2,051,5	1,936,0	1,752,0	1,880,9	1,933,6
煙草葉	279,4	297,7	280,5	289,1	272,4
サイザル	322,4	296,2	270,2	270,2	249,2
マルバ	35,2	44,5	47,2	32,2	21,2
ジュート	28,7	20,6	13,5	7,1	3,0
ラミー	5,5	7,1	8,2	8,0	7,1
小計	6,674,5	6,916,2	6,489,0	6,563,3	6,756,6
D) 嗜好作物					
コーヒー	2,591,5	2,875,6	2,975,2	3,026,5	2,905,8
ココア	655,5	649,4	702,5	660,0	663,3
ビメンタ	20,6	20,8	23,9	29,2	33,2
グアツナ	10,6	11,7	12,4	11,2	9,7
小計	3,278,2	3,557,5	3,714,0	3,726,9	3,614,0
E) 果実類					
オレンジ	707,8	725,6	805,7	882,6	910,5
バナナ	430,6	447,4	466,0	483,2	487,4
パイナップル	39,1	45,7	46,1	38,0	32,1
ブドウ	59,1	58,8	58,3	59,2	57,4
リンゴ	21,0	21,0	22,4	20,9	22,3
ココ椰子	179,0	183,6	198,1	198,1	206,0
カジューナット	-	-	461,7	533,9	551,8
小計	1,436,5	1,482,1	2,058,3	2,215,9	2,267,5
F) 野菜類					
じゃがいも	160,7	176,9	173,7	156,8	157,8
トマト	51,9	57,6	62,8	64,5	60,5
玉ねぎ	63,7	75,0	69,4	73,8	74,4
にんにく	14,6	17,9	14,3	14,0	17,1
小計	290,9	327,4	320,2	309,1	309,8
合計	55,083,5	52,409,9	54,843,7	54,636,4	49,821,9

出所：IBGE

表9

過去5ヶ年間の農業生産状況 (生産量)

1,000t

作物別	1986	1987	1988	1989	1990
A) 穀物					
とうもろこし	20,531.0	26,802.8	24,748.0	26,572.6	21,341.2
米	10,374.0	40,419.0	11,809.5	11,044.5	7,418.5
小麦	5,689.7	6,034.6	5,738.0	5,552.8	3,093.5
フエイジョン	2,209.2	2,007.2	2,808.6	2,310.5	2,233.1
ソルガム	365.5	438.4	302.0	241.1	227.9
大麦	185.6	196.8	125.5	248.2	157.4
からす麦	133.7	176.0	139.5	235.9	174.2
ライ麦	5.1	4.1	2.3	4.0	4.5
小計	39,493.8	46,078.9	45,673.4	46,209.6	34,650.3
B) 油脂作物					
大豆	13,330.2	16,968.8	18,016.2	24,071.4	19,887.6
綿(草綿)	2,198.0	1,613.1	2,437.8	1,813.4	1,774.6
々(木綿)	116.0	60.3	99.3	47.1	38.2
落花生	216.9	196.1	167.0	151.1	137.2
ヒマ	263.2	103.6	147.9	128.6	147.7
小計	16,124.4	18,941.9	20,868.2	26,211.6	21,985.3
A+B	55,618.2	65,020.8	66,541.6	72,421.2	56,635.6
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	239,178.3	268,741.1	258,412.9	252,642.6	262,604.6
マンジョカ	25,620.6	23,464.5	21,673.8	23,668.5	24,284.7
煙草葉	386.8	397.5	431.0	446.0	444.4
サイザル	246.4	191.3	185.4	220.9	185.1
マルバ	35.3	46.1	52.9	31.7	18.5
ジュート	27.9	19.5	16.1	8.3	3.6
ラミー	7.0	15.5	19.1	9.2	10.2
小計	265,502.3	292,875.5	280,791.2	277,027.2	287,551.1
D) 嗜好作物					
コーヒー	2,082.1	4,405.4	2,737.7	3,059.7	2,926.2
ココア	458.8	329.3	392.4	392.6	355.2
ピメント	45.4	45.9	59.4	65.5	74.7
グアラナ	1.4	1.6	1.9	1.4	1.5
小計	2,587.7	4,782.2	3,191.4	3,519.2	3,357.6

E) 果実類					
オレンジ *	66,872.2	73,568.8	75,565.2	89,016.2	87,531.5
バナナ **	505.2	513.1	511.8	550.5	550.2
パイナップル*	825.9	957.4	1,012.8	838.8	724.0
ブドウ	594.8	566.0	771.7	716.6	786.2
リンゴ *	1,779.0	1,668.2	2,196.6	2,386.9	2,716.4
ココ椰子 *	588.1	603.2	699.9	681.0	709.3
カシューナット	-	-	133.4	144.0	99.4
小計	-	-	-	-	-
F) 野菜類					
じゃがいも	1,836.0	2,330.8	2,315.0	2,132.3	2,219.1
トマト	1,486.3	2,049.3	2,406.9	2,177.5	2,255.3
玉ねぎ	639.2	854.0	780.3	797.3	867.1
にんにく	61.9	76.2	57.5	62.0	71.1
小計	4,383.4	5,310.5	5,559.7	5,169.1	5,412.6
合計					

出所：IBGE *1,000個 ** 1,000房

表10 過去5ヶ年間の農業生産実績(単収) kg/ha

作物別	1986	1987	1988	1989	1990
A) 穀物					
とうもろこし	1,647	1,985	1,879	2,055	1,658
米	1,857	1,742	1,982	2,104	1,881
小麦	1,472	1,746	1,655	1,692	1,154
フェイジョン	403	385	486	446	477
ソルガム	1,866	1,900	1,545	1,465	1,708
大麦	1,799	1,925	1,231	2,188	1,498
からす麦	1,045	1,247	1,091	1,158	922
ライ麦	1,005	1,348	1,004	1,043	1,032
B) 油脂原料作物					
大豆	1,452	1,858	1,713	1,971	1,732
綿(草綿)	1,101	1,263	1,336	1,203	1,283
々(木綿)	100	87	135	76	75
落花生	1,340	1,366	1,672	1,767	1,658
ヒマ	576	395	530	478	516
C) 工業原料作物					
砂糖キビ	60,523	62,293	62,762	61,985	61,487
マンジョカ	12,488	12,120	12,371	12,584	12,559
煙草葉	1,385	1,350	1,537	1,543	1,632
サイザル	764	646	686	818	743
マルバ	1,002	1,037	1,121	984	873
ジュート	969	947	1,186	1,176	1,210
ラミー	1,266	2,183	2,335	1,145	1,426

D) 嗜好作物					
コーヒー	804	1,532	920	1,011	1,007
ココア	700	507	559	595	536
ビメンタ	2,203	2,207	2,490	2,241	2,249
グアラナ	129	135	156	122	155
E) 果実類					
オレンジ *	94,476	101,396	93,789	100,853	96,136
バナナ **	1,176	1,147	1,098	1,139	1,129
パイナップル*	21,128	20,945	21,980	22,072	22,561
ブドウ	10,086	9,625	13,230	12,110	13,699
リンゴ *	84,816	79,274	98,268	114,365	121,915
ココ椰子 *	3,285	3,284	3,533	3,439	3,443
カジューナット	.	.	289	270	180
F) 野菜類					
ジャがいも	11,426	13,179	13,325	13,602	14,066
トマト	35,606	35,574	38,328	33,780	37,208
玉ねぎ	10,038	11,380	11,240	10,802	11,653
にんにく	4,233	4,251	4,031	4,444	4,145

出所：IBGE

*個数

**房

1.2 対外部門

1.2.1. 外国貿易政策

1990年に政権を担当したコロール政府は、工業部門の効率化と技術の近代化を図ることを目的として、外国貿易分野にも一連の施策を行なった。このために採用された戦略は段階的な関税保護の縮小、輸出に対するインセンティブ、輸入に対する補助の撤廃、特定商品の輸入を禁止してきた旧法令の改訂、量的な輸入制限の撤廃等を含むものである。新政府が外貿易分野で実施した新しい規定は、次の通りである。

経済省布告第56号（3月15日付）：1988年にCACEX（ブラジル銀行貿易管理局）が布告第204号をもって輸入を中止していた商品リストを無効とした。この布告では、又、90年2月24日付CACEX布告として規定されていた特定金額以上の輸入に対しては、事前に輸入計画を提出することにより輸入資格を得る義務についても取消している。すなわち、人の血液、火薬、核物質、落葉用に用いられる除草剤、情報機器等を除き、輸入に関する当局の事前許可制度を廃止した。この決定は輸入の自由化、関税外輸入コントロール廃止の方向を示した規定として重要な意味を持っている。

法第8.032号（4月12日付）：3月15日に発令された暫定措置第158号に関連するもので各種の商品に対する輸入税、及び、IPI（工業製品税）の免除、又は軽減を行なってきた従来の規定を廃止した。この中には、石油の探査、発掘に用いられる機械器具類も含まれている。同法令では、又、輸入関税を変更する権限を関税政策審議会に委任したが、後日、同権は企画省、国家経済局関税部に移管されることになった。

法8.032では更に、海上運賃にかゝる商船隊更新のための運賃追加率50%を25%に軽減することも決定されている。この決定は輸入商品コストを大巾に軽減することを意味するものである。輸入に対する新しい政策は、輸入関税をそのもっとも重要な政策として用いた。従来の関税は一般に認められていた通り、非常に高く、1988年

以来議論的になってきたものであったが、新政府は90年中多くの布告を通じ、各商品毎に国内の需給状況に合わせて、その必要度に応じた適切な輸入関税設定の方向を求めた。又、政府の間接的な保護のもとに過剰な利益を得ていた商品についても、これを是正する措置が講じられている。

関税制度の大巾な改訂によって政府は、1994年までに輸入関税のレベルを0~40%の間に持っていきたい意向であり、その平均を20%とすることを当面の目標としている。この中、最高関税の40%は工業政策や外国貿易政策に基づき時期的に特別の保護を必要とする場合のみに適用される。

このような政策のもとに、1990年の下半期には一連の製品が輸入関税を免除されており、この中に機械器具及び部品、原材料、中間財で国産品のないものが含まれている。

法第8.034号(90年4月12日付)：90年を基礎年度とし91年に申告される所得税の中、製造工業製品の輸出にかかわる利益に対する所得税率を30%と規定した。間接的恩典廃止のほか、この措置は国の税収増加を図ったものである。

新政府による政策改革は、外国貿易分野にも及んでおり、CONCEX(外国貿易審議会)の廃止、CACEX(ブラジル銀行貿易管理局)の他の機関への権限委譲などが行なわれ、新たに経済省、国家経済局に属する3つの機関として外国貿易局(DEC EX)、供給価格局(DAP)及び商工局が新設された。外国貿易に関しても行政組織の簡素化を通じ、より迅速かつ効果的の事務の進捗を図ることが目的とされた。

経済省布告第354号(90年6月26日付)：DEC EXにおいて輸出業者と輸入業者の登録を更新した。これは、貿易相手国との良好な関係を維持し、交易の拡大を図るため、外国貿易に従事する企業を選定して政府の信任を与え、登録された企業及び個人のみが外国貿易に従事出来る組織作りを行なったものである。

経済省布告第363号(90年7月26日付)：国産率70%を達した資本財は、国産品とみなす。又、商工局の提案がある場合、特定の財に対してはこれ以下の率を設定することも出来ることを定めた。

経済省布告第365号(90年6月26日付)：工業政策及び外国貿易政策に関する基本方針を定めた。この中で政府は、生産性の向上、新しい技術の導入、労働の質の向上、国際市場においてより有利な価格で資材や機械を入手する方法等により、ブラジル製品の国際競争力強化を目指した。同時に政府は製造に長期を要し、付価値の高い財の輸出に対する融資メカニズムの設定、輸出業務の簡素化を図る必要性を認めている。

DEC EX布告第1号(90年5月10日付)：国際間の問題としてはブラジルが錫生産国会議において行なった約束に基づき、90年におけるブラジルの錫輸出を38千トンに限定することを決定した。

DEC EX布告第8号(90年8月8日付)：国連安全保障委が決定した経済制裁に順じ、イラク及びクウェートに対する貿易を一時的に中止した。但し、薬品、人道に必要とみとめられるもの及び食糧はその限りではない。

DEC EX回章第63号(90年8月31日)：ブラジル、アルゼンチン経済総合プログラムに予定されている恩典は、両国の自動車メーカー及び部品メーカーが行なった相互補完プログラムに含まれる自動車の部品、部分品に限定されることを決定。

経済省布告第324号(90年6月6日付)：小麦の輸入に対し、200万トンまで輸入税を免除することを決定。

経済省布告第342号(90年6月19日付)：科学、技術調査に向けられる輸入額の限度を100百万ドルとした。

大統領令第99.478号(90年8月27日付)：マナウス及びタパチンガ、フリーゾーンの輸入限度を1.270百万ドルと設定し、2月8日付前大統領令第98.937号で、設定されていた1.070百万ドルを変更した。

経済省回章第1.803号(90年8月16日付)：輸出振興政策の一環として農産物及びアグロインダストリー製品の輸出前融資が設定された他、同日付回章第1.804号では、輸出振興プログラムにかかわる資金及び世銀資金による輸出及び輸出前融資に向けられる資金の融資条件を設定した。

大統領令第99.472号(90年8月24日付)～従来の輸出用書類に代わる輸出特別書類を設定。

中銀決議第1.744号(90年8月30日付)～連邦政府の事務簡素化プログラムに基づき、輸出用財の生産に対する融資プログラムに適用される各種の基準を廃止した。

中銀布告第537号(90年9月13日付)～経済省及び各幹事業省と合同で発令されたもので港湾インフラの整備、海上輸送条件の改良、及び輸出に向けられる財の生産に対する課税システムの設定などを目的とする輸出援護委員会

を設置した。

DECEX布告第6号(90年8月8日付)～トラクター、乗用車、トラックを含む新車の輸入にかゝる規定を設定。
中銀布告第1,799号(90年8月15日付)～輸出の振興を図るため、商品の輸入にかゝる為替契約は先付精算を行ない得ることを決めた。又、同日付中銀回章第1,800号では、外国への販売を促進するため、輸出為替取決め契約の期間を拡大した。

中銀決議第1,749号(90年9月13日付)～工業部門の近代化と資本財の輸入に便宜を与えるため、これらの機械類が固定資産となるもので、その輸入税が免除されている場合に限り、機械器具の輸入条件としていた外国融資の必要性を除外した。

中銀決議第1,756号(90年10月25日付)～ココア及び加工品の輸出免除の期間を1年間延期した。

中銀決議第1,759号(90年10月31日付)～連邦政府の事務簡素化プログラムに従い、輸出に対する一般規定がコーヒーの輸出に対しても適用されることが決定された。

BNDES回章第76号(90年11月21日付)～機械器具の輸出に対する融資基準(FINAMBX)を設定した。これは船舶を除く機械器具の国内メーカーに向けられる船積前の融資を取扱ったものである。同上機械器具の国産化率については、輸入側と取引が行なわれる際、FINAMB(工業融資特別プログラム)によって個々に設定される。

中銀決議第1,769号(90年11月28日付)～リージング会社が輸入品についてもリージングを行なうことが出来ることを認めた。

法律第8,117号(90年12月13日付)～砂糖、アルコール、糖蜜の輸出入にかゝる事前コントロールの規定を設定した。これらの製品は年間を通じ多くの暫定措置によって規定されていたものであるが、本法によって最終的にその取扱い方が決定されたものである。同法によると1995年5月31日まで、その輸出入は大統領府地域開発庁の事前認可を要することとし、これにより国内供給及び安全保証用の在庫形成が図られることになった。

経済省布告第389号(90年12月19日付)～東北地方において肥料の製造原料とされる燐酸の輸入税を免除した。

中銀布告第822号(90年12月20日付)～小麦の輸入は、政府が締結した国際間協定及び政府が行なう国内供給計画に順ずることを条件として民間部門が行ない得ることを決定した。又、小麦及び副産物の輸入政策方針を分析することを目的として国家供給局内に小麦に関する諮問委員会(COTRI)を設置した。

中銀決議第1,690号(90年3月18日付)～国内の外国為替市場は前サルネイ政府の時代に属する1～3月の期間と3月16日以降、政権を交替したコーロル政府の期間の二つの時期に区分される。1～3月間の為替市場は、サルネイ政府の全期間を通じて行なった方法が踏襲され、政府が決定し、毎日変動する公定レートと市場の需給、とくに観光部門におけるドルの需給によって、相場を決める観光レート(活動レート)の二種のレートが、又コーロル政府に移行後は金融当局がレートを設定する方法を廃し、輸出入にかゝるドルの需給によって定まる自由レートの制度を新設し、観光レートはそのまま継続された。

新政府が採用した自由レートは、90年12月28日に買いCR168,59、売りCR170,06で取引されており、年間を通じて調整率は、1,391,7%、又浮動レート(観光レート)の方は買いCR181,02、売りCR181,13で90年を終っている。なお、ドル需要の実勢レートとみなされる平行レートは、90年12月末において買いCR183,00、売りCR185,00で自由レートとの差は8,8%であった。

表11 為替レート(1990年)月間平均自由レート CRA/US\$

年月日	買い	売り	過去12ヶ月間変動率(%)
90年1月30日	17,643	17,731	1.673,2
2 28	30,483	30,636	2.963,6
3 31	41,933	42,560	4.114,4
4 30	50,845	51,243	4.850,8
5 31	54,975	55,219	4.688,8
6 30	60,735	61,022	3.916,9

7 31	68,754	66,517	3,089,0
8 31	71,380	71,674	2,460,3
9 30	83,746	84,223	2,116,7
10 31	105,880	106,950	1,936,5
11 30	143,820	144,710	1,861,8
12 31	168,590	170,060	1,391,7
年間平均	67,671	68,056	

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1. 2. 2. 対外収支

表12 ブラジルの国際収支 100万ドル

項目	1989	1990
1 経常収支		
貿易収支(FOB)		
輸出	34.383	31.414
輸入	18.263	20.362
収支残	16.120	11.052
サービス収支		
利息	(-) 9.633	(-) 9.009
その他	(-) 5.167	(-) 5.044
収支残	(-)14.800	(-)14.053
移転収支	244	929
経常収支残	1.564	(-) 2.072
2 資本収支		
外国よりの直接投資(残高)	125	68
融資		
外国よりの融資	3.788	3.335
ブラジルより外国への融資	(-) 148	148
残高	3.640	3.483
元本償還		
支払額	(-) 5.889	(-) 7.057
再融資	(-)28.096	(-) 486
残高	(-)33.985	(-) 7.543
通貨貸付		
短期	(-) 1.664	(-) 1.821
長期	27.636	859
残高		
その他の資本勘定	69	264
資本収支残	(-) 4.179	(-) 4.690
3 誤差脱着	(-) 776	(-) 445
対外収支残	(-) 3.391	(-) 7.207

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1990年中、政府は対外債務の繰延しに対する交渉や経済関係の調整を図る努力を続けたものの、協定の締結にいたらなかったことや、輸出条件が悪化した中で新政府の政策に基づく市場解放が図られたことなどは、国の対外収支に大きな影響を与えた。

結果的に貿易収支では、輸出が前年比(-)8.0%の314.14億ドル、輸入が前年を11.5%増加した203.62億ドルに達したため、収支残高は前年の161.20億ドルより、110.52億ドルに落ち、これが全体の収支残を減少させる主要因となった。

サービス収支の中でも、最も大きな割合を占める利息の支払額は、100.75億ドルで前年よりも(-)7.9%の減少、このため、サービス勘定全体の収支残は前年を(-)5.0%下廻る140.53億ドルに止まった。

資本勘定の収支残高は、(-)46.90億ドルで前年のマイナス残高を5.11億ドル増加したものの、外国融資の減少が明らかな形で示されている。資本勘定における資金の受入分は、国際金融機関による融資(11.72億ドル) 政府機関の融資(7.32億ドル) サプライヤーズ及びバイヤーズ・クレジット(14.31億ドル) 及び国際間の企業融資(8.59億ドル)等であった。又、外国への支払いは外債元本の償還75.43億ドル(この中、4.86億ドルはパリー・クラブよりの融資)が多くを占めている。

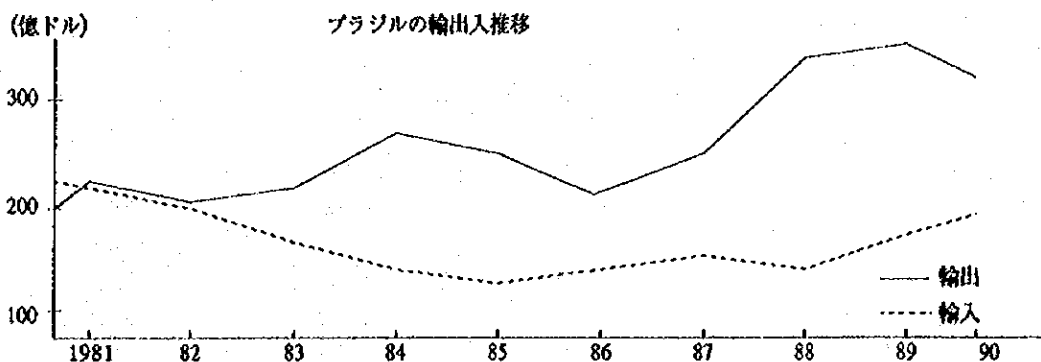
以上を総括した90年度の対外収支残は、前年の(-)33.91億ドルを倍加する(-)72.07億ドルであった。

1. 2. 3. 貿易収支

表13 ブラジルの貿易収支 100万ドル

年 度	輸出 FOB	輸入 FOB	収支残高
1981	23.293	22.051	1.202
82	20.175	19.397	778
83	21.899	15.429	6.470
84	27.005	13.916	13.089
85	25.639	13.153	12.486
86	22.393	14.044	8.349
87	26.224	15.052	11.172
88	23.789	14.605	19.184
89	34.383	18.263	16.120
90	31.414	20.362	11.052

出所：CACEX、DECEX



従来、ブラジルが採用してきた貿易政策は、国産品による輸入代替を主体とするものであった。この政策は、国内工業の振興と多様化に大きく貢献したが反面、長期にわたって続いた国産品保護の政策が国内工業の近代化を妨げ、国際競争力の低下を招く弊害も残した。

1990年に入って政権を担当したコーロル政府の貿易政策は、このような弊害を排し、市場の開放による国際競争力の強化を目指したところに大きな特徴を持っているが、輸出が全般に不振であったのに対し、輸入の増加がいちじるしくみられたため、貿易収支残は80年代を通じて80年代前半の3年間と86年のみに勝る11.052百万ドルに落ち、国の対外収支を悪化させた状況は前項で述べた通りである。

1990年度における貿易収支残高の減少は、石油価格の上昇を含む輸入の増大のみでなく、他の要素として外国需要の減少、国際市場における主要輸出品価格の低下、加工品輸出に対する融資資金の減少、農業生産の減少に伴う輸出余力の低下等によるものであった。

年間を通じて各月別の貿易収支残が前年と比して低いレベルに止まったものの、政府は輸入解禁の政策を継続したため年間を通じた収支残はと前年を(-)31.4%低下することになったが、貿易総額(輸出額と輸入額の合計)は89年のレベルを維持した。

輸入の自由化に伴い、石油と小麦を除く輸入額は史上最大の15.783百万ドルに達した。ただし、自由化にかかわらず奢侈品の輸入はそれ程大きなものではなかった。

イ) 輸出

1990年の輸出は合計、31.414百万ドルで前年を(-)8.6%下廻るものであった。この中、第1次産品の輸出による収入は、8.748百万ドルで前年より(-)8.4%劣っている。主要輸出品目別の輸出は次の状況であった。

コーヒー：1989年7月に国際コーヒー協定の経済条項(生産国の輸出割当量を定めて価格コントロールを行なってきたメカニズム)が破棄されて以降、コーヒーの国際相場は、急落し90年を通じた価格レベルは過去10年間最低のラインに落ちた。輸出統制の撤廃により、生産国より消費国に大量の輸出が行なわれ、消費国では、コーヒー・ストックが蓄積し、供給過剰を呈したためである。この間低品質品の供給量が増大した反面、高品質のものは品薄であった。

この3年間、ブラジルのコーヒー業界は最低の状況にあり、価格の低下に基づく資本減少のための生産は低下して輸出余力をも落し、輸出金額は89年に得た18億ドルより90年は、13億ドルへと下降した。このため従来ブラジルが世界の貿易に占めていた30%のシェアは20%へと低下した。世界的な供給過剰はインスタント・コーヒーの場合も同様であり、その価格を落したのが輸出量の増加(前年比4.1%増の517トン)によって価格の下落分がカバーされた。90年中に政府が採用したコーヒー部門対策としてはIBC(ブラジル・コーヒー院)の廃止、コーヒーの輸出に際して課税されてきた為替没収金制度の廃止、最低保証価格の融資基準価格への切換え等が特筆されるものであり、これらの措置を通じコーヒー部門に対する政府の介入を排除する方向をとった。国際分野では国の干渉を除去する政策との関連から国際コーヒー会議において経済条項の再導入に反対する態度を表明したが、世界最大の生産国であるブラジルの主張は国際協定を経済条項抜きで92年9月まで更新させる力があった。

表14 コーヒー：世界とブラジルの生産・消費・輸出量 1,000袋(60kg)

内 訳	1988	1989	1990
ブラジルの生産量	22,500	25,400	22,500
国内消費量	10,000	10,000	10,000
ブラジルの輸出量	17,100	18,300	17,000
世界の輸出量	91,640	96,433	100,886
世界に対するブラジルのシェア	69.292	77.708	78.506
生産 (%)	24.6	26.3	22.3
輸出 (%)	24.7	23.6	21.6

OIC指示価格 US\$/俵	161	130	110
----------------	-----	-----	-----

出所：DECEX、IBC、GEORGE、GORDON、PATON

砂糖：最近数年続いた市場構造と異なり、1990年には世界の生産国の中、インド、ソ連やEC諸国の生産が順調に行なわれたため、世界の生産量が需要量を越える状況にあった。すなわち世界の推定消費量が108,2百万トンであったのに対し、世界の生産量は109,0百万トンで前年を4,2%増加した。

国際市場では過去数年間の供給量の減少から世界の在庫が減少して、90年度で世界消費量の27,8%に落ちたため、砂糖の国際相場をつりあげていた。90年度も世界生産の増加はあったものの、すでにストック水準が低かったこと、消費量も増加傾向を示していたため、従来の相場を落すことなく高い価格が維持された。しかし、年度当初に行なわれた世界生産増加の予想は価格に反映し、一時的に上下の変動があった。

これに加え国際市場におけるソ連、中国等大型消費国の買付減少も価格に影響を与えた要素であった。

1990年におけるブラジルの砂糖生産量は前年の7,45百万トンを超え7,95百万トンで国内の推定消費量7,28百万トンを上回っている。国内における砂糖生産の増加は有利な国際価格を利用するため、アルコール用原料の一部が砂糖生産に廻されたためでもあった。

砂糖部門に対する新政府の政策として特筆されるのは従来、コーヒーの生産流通面を統轄してきたIAA（砂糖アルコール院）の廃止である。IAAの廃止により砂糖の輸出に対する政府の干渉は終り、90年以降、砂糖の生産工場によって直接外国への販売が出来るシステムへと変わった。又、従来IAAに与えられていた一部の権限としての生産計画、生産及び輸出割当、生産者価格の決定等は新設された大統領府地域開発庁に移管されることになった。

1990年における砂糖の輸出は、512百万ドルで前年の305百万ドルを大巾に上回った。この輸出額の増大は、輸出量が前年の1,1百万トンより1,5百万トンへ伸びたこと、輸出平均価格が昨年の\$290/トより\$340/トへと上昇したためであった。

表15 砂糖：世界とブラジルの生産・消費・輸出量 100万トン

年 度	生産量		消費量		輸出量	
	ブラジル	世界	ブラジル	世界	ブラジル	世界
1980	7,8	85,1	5,9	90,1	2,6	29,3
81	8,3	88,7	5,5	90,0	2,7	28,2
82	8,2	100,9	5,9	91,9	2,7	32,1
83	9,2	100,6	6,0	93,7	2,5	29,9
84	10,2	98,0	6,0	96,0	3,1	30,0
85	8,7	100,4	6,0	98,2	2,5	30,0
86	7,4	98,8	6,4	100,5	2,4	29,2
87	9,3	104,2	7,1	105,8	2,2	29,3
88	8,9	104,8	6,6	107,0	1,8	28,5
89	7,4	104,6	6,8	107,3	1,1	30,2
90	7,9	108,9	7,3	108,2	1,5	29,6

出所：DECEX、IAA、OIA

大豆：90年を通じた大豆の市場価格は、世界生産の増大（89年の95,1百万トンに対し90年は106,0百万トン）により前年を下回る下レベルであった。生産の増加により大豆及び大豆粕のストックも前年比それぞれ6,7%及び30,0%の増加をみせ、大豆において19,3百万トン、大豆粕で3,6百万トンのストックを保有した。大豆副産物の中では、大豆油のみが例外で、世界的な消費の増加と繰越在庫レベルの低下により価格が上昇した。

大豆の国内生産量は、前年に達した史上最大の記録23,9百万トン（-）16,0%下回るものであったが、これは栽培

面積が前年を(-)4.9%減少した11.6百万ヘクタール、1ヘクタール当りの反収も前年を(-)10.9%と下廻る1.953kgに落ちたためであった。

1990年の生産が減少した最大の理由は価格が満足すべきものでなかったこと、及び大豆生産者の資本減少に加え生産融資が潤沢になかったこと、これらに対し生産コストが増大したことがあげられている。生産融資の不足は肥料や農薬等生産資材の使用量を減少させたが、これに加えて作付時期の長雨が播付けを遅延させ単収を落す原因を作った。

又、新政府が経済安定策の中で実施した流動資金の凍結及び浮動為替制度の採用は生産者をして販売を延期させる空気を醸成したため、一時的に輸出も中断された。工場も又、外国との契約履行のためのストックを十分保有していたことや流動資金の不足から買付けを先に延ばした。

国際市場では、気象条件に恵まれた米国生産の増大(89年の42.1百万トンより90年は52.4百万トン)が世界の相場を押える最大の原因となった。これに加えブラジルの大豆輸出に大きな障害となったものに隣国アルゼンチンの生産増加がある。1989年は、ブラジルの販売遅延に加えアルゼンチンの生産低下(6.6百万トン)が加わったものであったが、90年はこれを反転して同国の生産は10.75百万トンに増大し、これが国際市場価格を押える他の要素として加わった。

ブラジルにおける大豆生産の減少は搾油用原料を前年の16.2百万トンより15.2百万トンに落しただけでなく、これに伴うすべての副産物の輸出量をも低下させることになった。

1990年における大豆、大豆粕、及び大豆油の輸出量は、それぞれ4.1百万トン、9.5百万トン及び795千トンで前年の4.6百万トン、9.9百万トン及び891千トンをいずれも下廻った。このため、大豆及び副産物輸出金額は、89年の36億ドルより90年は28億ドルへと落ちた。輸出量の減少と共に輸出金額低下の理由となった価格は、大豆において89年の\$250/tより、90年は\$223/t、大豆粕は\$216/tより\$184/tへと下降、大豆油のみが前年の\$401/tより\$419/tへと値上がりしている。

表16 大豆：世界とブラジルの生産・消費・及び輸出 1,000t

内 訳	1988	1989	1990
世界の生産量 (A)	103.300	95.100	106.010
ブラジルの生産量 (B)	18.127	23.929	20.101
B/A (%)	17.5	25.2	19.0
ブラジルの推定消費量			
大豆	15.516	18.389	16.900
大豆粕	2.293	2.779	2.893
大豆油	1.931	2.147	1.942
ブラジルの輸出			
大豆	2.597	4.618	4.076
大豆粕	8.128	9.871	8.744
大豆油	680	891	795
粗油	109	798	772
精製油	571	93	23

出所：DCEX、CFP、USDA

ココア：世界のココア生産は、1990年に前年比若干の減少をみたものの、すでに6年にわたる供給過剰の状態は変わっていない。このため、世界の在庫は、前年の1.26百万トンより90年末には、1.47百万トンへと増加しており、年間消費量の67.1%に相当する大きなものとなっている。

1990年の世界生産量は、象牙海岸、カメルーン、ガーナといった世界的生産地帯の天候が順調でなかったため、前年の2.49百万トンより、2.44百万トンへと落ちた。このような生産の減少に加え、消費が増加傾向を示したため、供

給過剰はや、緩和されており、価格が更に下落するのを妨げた。更に象牙海岸における政情不安は、同国の輸出が一時停止する予想をも与えたが、これも国際相場を維持する上に大きな影響を与えた。

但し、大量の世界在庫の前に価格の反発は長くは続かず再び低価格が支配する市場が継続した。世界のココア業界が直面している危機への対策を目的とした世界のココア生産国会議が8月上旬パイア州において開催された。同会議では、合せて世界生産の半分を占める象牙海岸とブラジルを始め、世界の主要生産国が出席、この二大生産国の提案を基本とした討議が行なわれたが、両大生産国の意見調整が出来ず、会議の目的を達成することなく終了。象牙海岸は生産国によって構成される在庫調整基金の設置を問題解決の鍵とする提案を行なったが、各生産国の経済情勢よりみて、その実現は困難とする意見が多くを占めた。ブラジルはこれに対し、世界の栽培面積を制約し、生産性の向上によって生産の増加を求め、結果的に生産コストの軽減、生産者収益の増加を図るべきであるとの提案を行なった。しかし、ココアを最大の外貨獲得源とする象牙海岸を含むアフリカ諸国は、ブラジルの提案が市場を安定させ、将来の収益を保証することは分かっているもの、現実の問題として賛同出来ないとの立場をとった。結局、具体的な結論を見出し得ぬまま、会議を終了している。

90年の国内生産状況についてみると5月～8月に行なわれる乾期収穫（テンボロンと呼ばれている）は、VASSOURA DE BRUXA（魔法使いの箒）と呼ばれる害虫の発生やパイア州南部の長期乾燥が影響してその生産量を前年の150千トンより、135千トンへと落したが、雨期に行なわれた本収穫では害虫の防除が行なわれたこと、降雨が順調であったことから前年の収穫量343千トンを上回る370千トンの生産をあげ、テンボロン収穫の減産分がカバーされた。

輸出面では国際市場を支配した低価格のほか、実勢を下回る為替レートの継続など悪条件下に置かれたため輸出収入を大巾に減少したが、その影響を受けて多くの輸出企業が和議申請に追い込まれ深刻な情勢下にあった。国際価格は89年の\$1,509/-より、90年は\$1,377/-に落ちたため、輸出量（244千トン）が前年を11,9%上回るものであったにかかわらず輸出収入の336百万ドルは前年の329百万ドルと大差ないものであった。

表17 ココアの生産と輸出 1,000t

内 訳	1987	1988	1989	1990
世界生産量	2,002	2,218	2,487	2,435
ブラジルの生産量	369	402	343	370
ブラジルの生産シェア（%）	18,4	18,1	13,8	15,2
ブラジルの輸出				
ココア（豆）	143	134	107	118
ココア・バター	43	47	34	48
ココア・リコール	42	46	43	33
練りココア	44	45	34	45
その他	28	41	45	32

出所：DECEX、CEPCAL、GILL&DUFFUS

その他の基礎産品：鉄鉱石の輸出量は前年を(-)4,2%下回る113,5百万トンであったが、輸出価格の上昇から輸出額は前年を7,8%上回る2,407百万ドルに達し、輸出総額の7,7%を占めた。ブラジルの輸出項目別では機械器具に次いで第2位基礎産品では、依然として最大の輸出項目である。

以上のほか、基礎産品の大型輸出項目としては、次のものがある。

煙草業：国際市況がよく、輸出単価\$3,532,-/に上昇したため、輸出量の減少にかかわらず輸出額を前年比7,6%増加し、551百万ドルを得た。

肉類：主要基礎産品に加えられるプロイラーは、輸出量の増加(26,9%)により、輸出額も増加(23,7%)して、324百万ドルの外貨を獲得したが、牛肉は88年の374百万ドル、89年の138百万ドルより90年は100百万ドルと下降を辿っている。

この他、綿、かんきつ粕、カシュー・ナットが年間1億ドルを越した第1次産品であった。

工業製品：コーロル政府が実施した経済安定策の中で融資資金の減少、各種のインセンティブや補助の打切りは工業製品の輸出に大きな影響を与えた。

工業製品の輸出額は、221.19億ドルで前年より(-)9.5%減少しており、工業製品を構成する半加工品は51.07億ドル、完成品が170.12億ドルでそれぞれ前年の実績を(-)12.1%及び(-)8.9%落している。

半加工品：半加工品では、アルミ粗金が輸出額のトップにあり、前年を4.0%増加した875百万ドル、輸出重量では、前年比30.1%増加した。鉄鉱及び合金を加えた鉄鋼半加工品の輸出は、前年比(-)29.9%の減少ながら合計輸出額は1.552百万ドルに及んでいる。このほか木材パルプ592百万ドル、大豆粗油321百万ドル、皮革261百万ドル、錫鉱石172百万ドル、ココア・バター及び木材が年間1億ドル以上を輸出した主要項目である。

完成品：ブラジルの輸出品目の大分類としては、最も大きなシェアを持つ項目で90年も輸出総額の54.3%を占めた。完成品の中で大きな割合を占める資本財は、歴史的に輸出伸び率のトップにあった項目であるが、90年は全般に下降しており、付加価値の高い資本財としての輸送機器、及び機械器具の輸出額は第1次産品の鉄鋼石に劣る（輸送機器）がやや上回る（機械器具）状態にあった。これは主に資本財の輸出に対する融資の不足に基づくものである。

完成品のトップにある機械器具の輸出額は、2.480百万ドルで、前年を(-)8.9%減少しており、内燃機関の輸出額890百万ドルを最大の項目としている。これに続く輸送機器は前年を(-)28.4%下回る2.146百万ドルで機械器具に1位の座を譲った形となっている。輸送機器を構成する項目としては、陸上車輦用の部分品（532百万ドル）トラック（452百万ドル）を2大項目としており、前年610百万ドルを輸出した乗用車は336百万ドルに止まった。

鉄鋼製品の輸出も前年を(-)10.8%下回る1.644百万ドルに止まったが、これに続く濃縮オレンジ・ジュースは、前年末米国フロリダ州の降霜によって高騰した国際価格の上昇と、これを利用した輸出量の増大により前年に44%勝る1.468百万ドルの実績を残している。この輸出金額は1985年に、これ又84年末のフロリダ州の降霜による影響で達した1.414百万ドルをしのぐもので史上最大の輸出額となっている。このような濃縮オレンジ・ジュースの進出により前年工業製品の4位にあった税、及びその部分品輸出は、輸出量及び金額の減少も加わって第6位に落ちた。これに電気機器を加えた6品目が年間10億ドルを越した輸出項目であり、別表に示す有機化学製品他16品目が1億ドル以上の輸出項目であった。

表18 品目別輸出実績 1989年 1990年対比

品目	重量 1,000t		金額 100万ドル		1990年の金額 比率 (%)
	1989	1990	1989	1990	
I 第1次産品					
鉄鉱石	118.475	113.511	2.233	2.407	7.7
大豆粕	9.871	8.744	2.136	1.610	5.1
コーヒー (豆)	949	853	1.560	1.106	3.5
大豆 (豆)	4.618	4.076	1.154	910	2.8
煙草葉	164	156	512	551	1.8
プロイラー	234	297	262	324	1.0
砂糖 (粗糖)	433	825	114	289	0.9
金属鉱品 (その他)	4.691	5.519	145	164	0.5
ココア (豆)	107	118	134	128	0.4
綿	175	110	158	128	0.4
かんきつ粕	1.055	1.130	88	102	0.3
カシュー・ナット	27	27	107	101	0.3
牛肉	62	49	138	100	0.3
カンガン鉄石	1.035	924	63	83	0.3

伊勢エビ	2	3	39	61	0,2
黄石	5	4	40	52	0,2
エビ	11	8	55	49	0,2
植物油残	564	445	66	44	0,1
ピメンタ	29	29	49	42	0,1
花崗岩	287	338	34	41	0,1
ブラジル・ナット	14	24	22	32	0,1
カオリン	307	292	32	30	0,1
冷凍魚類	28	20	25	21	0,1
豚肉	11	12	19	22	0,1
マグネシウム	56	92	12	21	0,1
マテ茶	16	15	22	22	0,1
石棉	59	53	22	19	0,1
オレンジ	91	77	18	18	0,1
その他	741	567	290	271	0,7
小 計	144.117	138.319	9.549	8.748	27,7
II 工業製品					
A) 半加工品					
アルミ粗金	419	545	841	875	2,8
鉄鋳半加工品	5.337	3.404	1.356	753	2,4
木材パルプ	986	1.026	677	592	1,9
鉄鉄	2.989	3.489	361	417	1,3
合金	387	430	438	381	1,2
大豆粗油	798	772	302	321	1,0
牛皮	67	75	211	261	0,8
錳鉱石	34	28	283	172	0,5
ココア・バター	34	48	100	136	0,4
角材	264	283	99	116	0,4
ココア・リコール	43	33	73	50	0,2
結晶糖	116	101	33	37	0,1
皮革(牛皮外)	4	3	33	29	0,1
羊毛	6	7	41	30	0,1
ココア製品	34	45	22	22	0,1
ウルナウバ・ワックス	12	11	21	22	0,1
タンニン	25	26	19	20	0,1
その他	1.828	2.046	897	873	2,8
小 計	13.383	12.372	5.807	5.107	16,3
B) 完成品					
機械器具	554	503	2.723	2.480	7,9
(内燃機関)	(191)	(188)	(891)	(890)	(2,8)
(コンプレッサー他)	(67)	(72)	(213)	(207)	(0,7)
(土木機械)	(54)	(36)	(259)	(183)	(0,6)
(情報機器)	(2)	(1)	(175)	(93)	(0,3)

(マシン及び部品)	(12)	(10)	(96)	(89)	(0,3)
(工作機械)	(10)	(9)	(57)	(67)	(0,2)
(製紙用機械)	(19)	(7)	(169)	(64)	(0,2)
(事務用機具)	(3)	(3)	(22)	(24)	(0,1)
(その他)	(196)	(69)	(841)	(863)	(0,7)
輸送機器	576	395	2.995	2.146	6,9
(部品)	(199)	(166)	(518)	(532)	(1,7)
(トラック)	(136)	(83)	(695)	(452)	(1,4)
(乗用車)	(107)	(60)	(610)	(336)	(1,1)
(航空機)	(1)	(-)	(487)	(323)	(1,0)
(その他)	(133)	(86)	(685)	(503)	(1,7)
鉄鋼製品	3.992	3.929	1.842	1.644	5,2
濃縮オレンジ・ジュース	724	955	1.019	1.468	4,7
糖及び部分品	82	72	1.312	1.184	3,8
電気機器	124	106	1.076	1.014	3,2
有機化学製品	1.049	1.026	792	742	2,4
紙及び製品	899	955	609	613	2,0
プラスチック製品	526	563	578	498	1,6
ガソリン	2.906	1.398	520	357	1,1
ゴム製品	120	120	297	305	1,0
無機化学製品	399	471	251	265	0,8
石油燃料油	2.486	1.890	282	215	0,7
砂糖 (精製糖)	504	577	158	186	0,6
シーツ・テーブル掛他	20	18	160	164	0,5
インスタント・コーヒー	49	51	221	147	0,5
陶器製品	310	235	173	140	0,4
綿布地	42	30	143	124	0,4
メリヤス布地	9	9	120	120	0,4
綿糸	53	47	138	138	0,4
金物	23	20	127	127	0,4
牛肉加工品	101	70	186	133	0,4
アルミ加工品	63	52	148	115	0,4
合板	207	197	101	100	0,3
狩猟用弾薬	1	3	8	81	0,3
木材長繊維パインル	262	245	77	81	0,3
紙、原紙	8	8	85	79	0,3
合成繊維	24	20	87	76	0,2
生糸	1	1	66	66	0,2
黄石、半黄石	2	2	59	64	0,2
衣料品	11	5	95	66	0,2
船舶	0	0	26	60	0,2
ガラス及び製品	67	57	66	59	0,2
トラクター	43	13	198	61	0,2

殺虫剤・除薬剤	8	7	74	51	0,2
計量機器	3	3	54	62	0,2
煙草	11	12	44	57	0,2
サイザル・ロープ	95	62	73	55	0,2
その他	1.922	1.839	1.651	1.669	5,2
小計	18.276	15.966	18.634	17.012	54,3
工業製品 計	31.659	28.338	24.441	22.119	70,6
特殊取引	1.257	1.206	393	547	1,7
合計	177.033	167.863	34.383	31.414	100,0

出所:

ロ) 輸入

1990年度におけるブラジルの輸入総額は、20.362百万ドルで前年を11,5%増加した。この合計額の中、31,1%に相当する6.341百万ドルが原材料29,2%の5.934百万ドルが資本財、25,9%相当の5.287百万ドルが燃料、残る13,8%の2.800百万ドルが消費財であった。

ブラジルの輸入は1989年にみられた石油価格の上昇により予定以上の支出を余儀なくしてきたが90年に入ると、中東危機の勃発により事態は悪化し、石油及び副産物の輸入額は前年の3.754百万ドルを大巾に上回る4.665百万ドルに達した。この中、原油の輸入額は4.282百万ドルでバレル当りの価格は前年の\$15,70より、\$20,54へと上った。又、石油副産物の輸入は383百万ドルで前年比(-)21,6%減少した。

表19 石油の生産、輸入、輸出及び消費

区 分	1986	1987	1988	1989	1990
原油					
国内生産量 (1,000 バレル/1日)	593	590	576	616	653
輸入量 (")	601	624	639	592	571
輸入金額 (100万ドル)	2.786	3.859	3.194	3.390	4.282
バレル当り単価 US\$	12,76	16,94	13,66	15,70	20,54
石油副産物					
輸入量 (1,000 バレル/1日)	44	52	86	80	70
輸入金額 (100万ドル)	234	264	321	364	383
バレル当り単価 US\$	14,57	13,91	10,20	12,41	14,99
ブラジルの輸出量 (1,000 バレル/1日)	131	149	155	129	92
◇ 輸出金額 (100万ドル)	674	930	867	832	656
輸出単価 (US\$/バレル)	14,10	17,10	15,28	17,64	19,49
推定消費量に対する国産量の割合 (%)	53,70	52,8	50,3	53,1	54,3
石油及び副産物輸入計 (100万ドル)	3.020	4.123	3.515	3.754	4.665
同上金額の輸入総額に対する比率 (%)	21,5	27,39	24,07	20,57	22,91
◇ 輸出	13,51	15,72	10,40	10,92	14,85

出所: PETROBRÁS

1 m³=6,28994113バレル

石油に次いで大きな輸入項目である小麦は、主要生産地帯における降雨と降霜や作付面積の減少により生産量が前年比(-)43,5%の大巾減産となったため、外国よりの大量輸入を余儀なくし、前年を51,8%上回る1,985千トンの輸入が行なわれた。

このように外国依存度を高めたブラジルにとって幸いであったことは、世界的な増産の前に世界の小麦相場が低く、例年よりも安く購入することが出来たことである。それでも量的に増加したため小麦の輸入額は、前年を40,8%上回る297百万ドルに達した。

表20 小麦の生産・消費及び輸入

区 分	1988	1989	1990
消費量 (1,000t)			
ブラジル	6,380	6,950	7,400
世 界	530,440	534,670	562,900
生産量 (1,000t)			
ブラジル	5,751	5,486	3,100
世 界	500,660	536,840	589,040
輸入量 (1,000t)	941	1,308	1,985
輸入金額 (100 万ドル)	97	211	297
輸入単価 (US\$ / t)	103	161	150

出所：SUNAB、CIEP、USDA

資本財の輸入は、前年を21,8%上回る5,934百万ドルであった。主な項目としては、機械及び電気機器の輸入が、5,177百万ドル、輸送機器が757百万ドルで、それぞれ前年比23,9%及び9,2%の増加であった。この中、車輛の輸入は、422百万ドルとなっている。全般的なリセッション傾向の中で行なわれた資本財、とくに機械器具類の輸入は輸入税の軽減によって従来よりも輸入が容易となったことのほか、来るべき経済活動の活性化に備えた投資として受けとめられている。

この他、化学製品は前年を6,5%増加した2,630百万ドル、プラスチック及びその製品の輸入も又、前年比14,5%増の386百万ドルを記録した。これに対してゴム及びその製品の輸入は、前年を2,7%下回る284百万ドル、パルプ・セルローズ及びその製品も又、前年の401百万ドルを393百万ドルへと落した。肥料も又重要な輸入項目であるが1990年には3百万トンの輸入に対し320百万ドルが支払われている。

前年は、2,6百万トンに対して282百万ドルの支出であった。鉄及び鋼鉄の輸入は重量において(-)48,3%金額において(-)11,2%減少した373百万ドルの輸入であった。食糧品の輸入は1,374百万ドルで前年を10,0%増加した。農産物及び畜産物の輸入は前年を15,8%減少したが、食糧の中では最も大きな項目である。

表21 輸入実績 1988年89年対比

品 目	重 量 1,000t		金 額 100万ドル		1990年の構成 比率 (%)
	1989	1990	1989	1990	
I 消費財					
1) 食品					
畜産物	555	570	863	727	3,6
野菜・苗類	125	181	121	152	0,7
果実類	264	243	152	144	0,7
マテ茶・他	7	5	11	8	0,0
加工食品・飲料・燃草	129	818	102	343	1,7

小計	1,080	1,817	1,249	1,374	6,7
2) 衣料品					
皮革及び加工品	35	21	337	202	1,0
布衣料品	1	2	30	47	0,2
靴・帽子	1	2	17	32	0,2
その他	2	4	28	39	0,2
小計	39	29	412	320	1,6
3) その他					
眼鏡・計量器・手術具等	7	10	724	851	4,2
工具金物	4	6	57	92	0,5
貴石・真珠等	1	2	121	74	0,4
食糧加工品	1	2	11	12	0,1
その他	3	53	45	77	0,3
小計	16	73	958	1,106	5,5
消費財計	1,135	1,919	2,619	2,800	13,8
II 原材料					
1) 小麦	1,308	1,985	211	297	1,5
2) 肥料	2,633	3,002	282	320	1,6
3) 化学製品					
有機化学製品	494	883	1,277	1,283	6,3
無機化学製品	1,201	1,387	374	407	2,0
タニシン機	52	39	221	192	0,9
写真・映画材料	6	6	114	110	0,5
その他	128	130	483	638	3,2
小計	1,881	2,445	2,469	2,630	12,9
4) パルプ・セルローズ	445	408	401	393	1,9
5) プラスチック及びゴム製品	262	308	629	670	3,3
6) 鋳鉄及び鋼鉄	652	337	420	373	1,8
7) 非鉄金属	128	130	441	410	2,0
8) 塩・硫黄・土	1,808	1,537	156	125	0,6
9) その他	2,484	3,222	1,333	1,123	5,5
原材料計	11,601	13,374	6,342	6,341	31,1
III 燃料・油脂					
1) 石油及び副産物					
原油	29,180	28,246	3,390	4,282	21,0
副産物	3,277	2,568	364	383	1,9
2) その他	11,869	11,029	676	622	3,0
小計	44,326	41,843	4,430	5,287	25,9
IV 資本財					
1) 輸送機器					
乗用車・トラクター	42	47	357	442	2,1
航空機	1	1	296	317	1,6
その他	5	1	40	652	-

小計	48	49	693	757	3,7
2) 機械類	183	239	4,179	5,177	25,5
資本財計	231	288	4,872	5,934	29,2
合計	57,293	57,424	18,263	20,362	100,0

燃料を除いた計	12,967	15,581	13,833	15,075	74,1
燃料及び小麦を除いた計	11,659	13,596	13,622	14,778	72,6
燃料・小麦及び資本財を除いた計	11,428	13,308	8,750	8,844	43,4

出所：CIEF（経済省）

ハ) 貿易相手国

90年度にローレル政府が採用した貿易の自由化政策は即時輸入の増加となって反映し、工業先進国よりの輸入、とくに資本財輸入の増加を招いた。すなわち、1990年には米国よりの輸入が前年を12,4%増加したほか、日本 (+3,2%)、西独 (+18,1%)、イタリー (+48,9%)、フランス (+8,5%) 等よりの輸入増加が記録されている。

米国は依然として最大の輸出市場かつ最大の輸入先国で90年にも輸出において7,675百万ドル、輸入が4,410百万ドルを記録しているが、輸出が前年比減少したのに反し、輸入が増加したため、その収支残は前年を(-)26,6%減少する、3,265百万ドル（ブラジルの出超）に止まった。

米国に続くEC圏との交易では、ブラジルの出超 5,616百万ドルで、輸出入額はほぼ前年の規模が継続されている。EC圏の中では、輸出入の合計額では西独の3,540百万ドル、ブラジルよりの輸出だけを見る場合は、オランダの2,495百万ドルが最大であった。

これら各国と共に伝統的な貿易相手国である日本に対しても1,107百万ドルの収支残を残したものの、前年の1,232百万ドルより低いレベルであった。

恒常的にブラジルが入超を続けているALADI（ラテン・アメリカ市場）との貿易は、89年の入超46百万ドルに続いて90年は、411百万ドルへとブラジルにとって赤字残高を拡大した。これはブラジルの対ALADI輸出の(-)8,9%減に対し輸入が3,0%増加した結果であった。中でも最大の貿易相手国であるアルゼンチンとは、最近すめられている市場解放政策の中で統合通商協定に基づく貿易の拡大があり、輸出入合計額は、前年の1,961百万ドルより90年は、2,059百万ドルへと増加している。こゝでもブラジルの対アルゼンチン輸出は前年比(-)11,5%の減、ブラジルのアルゼンチンより輸入が14,6%増加し、結果的に貿易収支の赤字は前年の517百万ドルより781百万ドルへと増大した。これに対しチリーとの貿易収支は均衡を保ち、又、メキシコとは輸入が前年並みであったのに対し輸出は17,2%伸びたため、その収支残は、前年を22,9%増加した315百万ドルを残した。

ブラジルが毎年巨額の石油輸入を余儀なくしているOPEPとの貿易赤字は90年にみられた石油価格上昇のため、前年を51%増加する2,634百万ドルに達した。90年中は国連の決定に従い、イラク及びクウェートとの取引を下半期において中断したが、年間を通じイラクよりは878百万ドルの輸入が行なわれており、他の石油供給国であるサウジ・アラビア（1,443百万ドル）、イラン（910百万ドル）、ベネズエラ（362百万ドル）、カタール（285百万ドル）アルジェリア（219百万ドル）と並ぶ大型の貿易相手国であった。又、これらOPEP諸国に対する輸出は、イラン（425百万ドル）、サウジ・アラビア（289百万ドル）、ベネズエラ（268百万ドル）、ナイジェリア（180百万ドル）、インドネシア（171百万ドル）等が行なわれている。

アフリカ諸国との交易は、エジプトの174百万ドルを最大とし、南アフリカ連邦の167百万ドルがこれに続いている。

AELC諸国（ヨーロッパ自由貿易連合）の中では、スイスへの輸出増加が目される。その他、スウェーデンよりの輸入が前年を21,0%増加した。

COMECON諸国の中では、ハンガリーとの貿易拡大（89年の134百万ドルより90年は201百万ドル）が特筆される。この他ソ連への208百万ドルの輸出、ポーランドよりの143百万ドルの輸入が比較的大きな金額であった。

なお、従来ブラジルとの取引関係が少なかった国で90年に大きな変化を示した国として韓国(543百万ドル)、台湾(432百万ドル)、香港(271百万ドル)、タイ(251百万ドル)、シンガポール(243百万ドル)、マレ半島(219百万ドル)等がある。

表22 ブラジルの貿易相手国と実績 100万ドル

ブロック 及び国別	輸 出		輸 入		貿易収支	
	1989	1990	1989	1990	1989	1990
米国	8,370	7,675	3,922	4,410	4,448	3,269
E C						
西独	1,714	1,788	1,483	1,752	231	36
オランダ	2,722	2,495	359	335	2,363	2,160
イタリー	1,771	1,596	436	649	1,335	947
英国	1,060	945	441	416	619	529
フランス	982	902	529	574	453	328
ベルギー	1,028	980	212	168	816	812
スペイン	754	704	116	217	638	487
その他	478	442	169	125	309	317
小 計	10,509	9,852	3,745	4,236	6,764	5,616
ALADI						
アルゼンチン	722	639	1,239	1,420	(-) 517	(-) 781
チリー	694	484	515	484	179	0
メキシコ	431	506	194	190	237	315
パラグアイ	323	379	359	330	(-) 26	(-) 49
ウルグアイ	335	295	596	585	(-) 261	(-) 290
その他	559	490	207	194	352	296
小 計	3,064	2,792	3,110	3,203	(-) 46	(-) 411
H 本	2,436	2,350	1,204	1,243	1,232	1,107
COMECON	1,095	704	323	359	772	345
カナダ	921	522	456	406	465	116
AELC	720	622	939	955	(-) 219	(-) 333
以上の計	32,559	29,616	14,695	15,930	17,864	13,686
OPEP	1,824	1,798	3,568	4,432	(-) 1,744	(-) 2,634
その他	5,444	5,099	996	1,118	4,448	3,981
合 計	34,383	31,414	18,263	20,362	16,120	11,052

出所: DECEX

1. 2. 4. サービス収支

1990年のサービス収支は、14,053百万ドルの赤字残高を残したが、前年の14,800百万ドルよりは(-)8%の減少であった。サービス収支の中では外債にかゝる利息の支払いが、全体の53.2%の多くを占めている。

利息にかゝる費用は、10,075百万ドルで前年の10,937百万ドルを(-)7.9%減少した。これは、主に国際金利の低下によるもので、88年7月~89年6月間の利率9.39%が89年7月~90年6月間には8.5%に低下したためのものである。又、ブラジルが受取った利息は、1,066百万ドルでこれも前年を(-)18.3%下廻っている。

利益配当にかゝる支出額は1,644百万ドルで前年よりも740百万ドル低いものであった。

利益配当の支出状況については、90年3月の政権交替による制度の変更を予想した送金が上半期中に集中したあとが観察される。上半期中の送金額は1.100百万ドルで年間支出額の66.9%に相当するものであった。

国際旅行勘定では、89年に474百万ドルの黒字残高を残したあと、90年は受入額1.362百万ドルに対し、1.504百万ドルの支出があったため、その収支残は122百万ドルの赤字であった。

保険勘定では、収入の増加により前年よりも40百万ドル低い72百万ドルの赤字に止まった。保険金として受取った115百万ドルの中104百万ドルはブラジル再保険院（IRB）が外国の保険機構より再保険金として受取った額である。

ブラジル政府、外国政府及び国際機関にかゝる支出で他の勘定に含まれていないもの、たとえば外交団、領事事務、外国に派遣された軍部代表等の経費を取扱う政府勘定は支出350百万ドル、収入39百万ドルで311百万ドルの赤字であった。

運輸勘定では、収入が1.354百万ドル、支出が2.691百万ドルで差引き1.337百万ドルの赤字を計上した。これは、前年に比して(-)7.9%の減少であった。この中で外国貿易と深い関係を持つ運賃勘定は、55百万ドルの残高を残したが、89年に得た183百万ドルの残高と比較すると低い指数であった。運賃勘定の中で海上輸送運賃は収入の86.9%、支出の84.6%を占めている。港湾サービス料、コンテナ借料、燃料補給修理費、船舶使用料等を含む。“その他の輸送”では前年を(-)14.9%下回る1.392百万ドルの赤字に止めている。又、外国船舶が国内で支出した費用は、541百万ドルで前年の実績を89百万ドルを増加している。

その他のサービス勘定は、1.588百万ドルで前年を22.7%上回るものであった。

表23 サービス収支の内訳 100万ドル

内 訳	収 入		支 出		残 高	
	1989	1990	1989	1990	1989	1990
国際旅行勘定						
観光	1,201	1,342	629	1,328	572	14
その他	23	40	121	176	98	-136
小 計	1,224	1,382	750	1,504	474	-122
運輸勘定						
運賃収支	898	813	715	758	183	55
その他	452	541	2,087	1,933	-1,635	-1,392
小 計	1,350	1,354	2,802	2,691	-1,452	-1,337
保険勘定	60	115	172	187	-112	-72
資本勘定						
利息	1,304	1,066	10,937	10,075	-9,633	-9,009
利益配当	1	30	2,384	1,644	-2,383	-1,614
小 計	1,305	1,096	13,321	11,719	-12,016	-10,623
政府勘定	44	39	444	350	-400	-311
その他	460	888	1,754	2,476	-1,294	-1,388
合 計	4,443	4,874	19,243	18,927	-14,800	-14,053

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1. 2. 5. 資本収支

1990年における資本収支は受入れ額8.342百万ドルに対し支出額が13.032百万ドルに達したため、差引(-)4.690百万ドルの残高となった。これは前年の残高(-)4.179百万ドルを上回るものである。

資本収支の中で直接投資は、ブラジルより外国への投資残高が669百万ドルあったのに対しブラジルが外国より受

け入れた資金の残高が737百万ドルあったため、差引68百万ドルの残高となっている。外国よりの投資額は1,035百万ドル(1989年は1,409百万ドル)で、この中、通貨による直接投資は688百万ドルに及んだ。これは1982年以降最大の通貨投資残高である。又、現物による投資は64百万ドルで、外国へ送金可能な融資、その他の投資転換額は284百万ドルに止まっており、前年の946百万ドルを大巾に下廻った。これは債務の投資転換のため競売が中断されたためであった。外国投資の本国償還は298百万ドルであったが、この中全体の82.2%に相当する245百万ドルは第1四半期に行なわれており、新政府が発足した3月以降その動きが急激に減少したのが観察される。

ブラジルが外国に対して行なった投資は670百万ドル、これに対し外国よりブラジルに償還された金額は1,000百万ドルであった。

ブラジル中央銀行に登録された外国投資及び再投資々金は90年9月現在で36,380百万ドル、この中24,851百万ドルが投資、11,529百万ドルが再投資々金であった。この金額は、前年9月と比較して10.6%の増加であるが、これは同月に行なわれた平価切下げの影響によるものである。

外国投資及び再投資の仕向け先としては、製造工業部門が全体の69.3%を占めて大きく、中でも化学工業(13.4%)、輸送機器(10.0%)、電気通信(8.5%)、金属(8.2%)等が大きな割合を占めた部門である。これに続いてサービス部門が24.9%を占めており、内訳としては、コンサルティング及び投資会社(13.2%)、輸出入を含む商業部門(4.2%)、商業銀行(3.2%)等が主要部門である。

国際金融機関よりの融資勘定は(-)397百万ドルの残高で、前年の(-)165百万ドルを上廻った。これは融資返済のための支出額1,172百万ドルに対し、融資の受入額が1,569百万ドルの結果に基づくものである。

政府機関の保証の有無にかかわらずサプライヤーズ及びバイヤーズ・クレジットとして行なわれた融資は、1990年において1,431百万ドルで前年の1,114百万ドルを上廻った。又、企業間の貸借形式で行なわれる通貨による貸付けは859百万ドルで、ブラジル内に所在する企業の回転資金に当てるため、外国市場において調達した資金を指している。企業間で行なわれた償還額は170百万ドルの範囲にある。

尚、ブラジルが外国に対して行なった融資は貸付け額として支出されたのが237百万ドル、融資の償還額として受入れたのが385百万ドルで、148百万ドルの残高を残した。前年は148百万ドルの赤字残高であった。

中央銀行がとりまとめた資本収支の内訳は次表の通りである。

項 目	受 入		支 出		残 高	
	1989	1990	1989	1990	1989	1990
投資勘定						
ブラジルの対外国投資	3	1	556	670	- 553	- 669
外国の対ブラジル投資	1,409	1,035	731	298	678	737
小 計	1,412	1,036	1,287	968	125	68
中長期融資						
ブラジルの対外融資	253	385	401	237	- 148	148
外国よりの融資						
国際金融機関	1,183	1,172	1,348	1,569	- 165	- 397
政府機関	1,491	732	1,369	2,662	122	- 1,930
サプライヤーズ・バイヤーズ・クレジット	1,114	1,431	2,081	1,966	- 967	- 535
国債	-	-	334	178	- 334	- 178
通貨貸付	27,636	859	28,842	1,161	- 1,206	- 302
その他	-	-	11	7	- 11	- 7
小 計	31,424	4,194	33,985	7,543	- 2,561	- 3,349
短期資本	1,045	1,980	2,709	3,801	- 1,664	- 1,821

その他の資本	1,381	747	1,312	483	69	264
計	35,515	8,342	39,694	13,032	- 4,179	- 4,690

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

1. 2. 6. 対外債務

ブラジル中央銀行の年次報告書による1986～1990年間の対外債務、外貨保有高、債務額とPIB（国内総生産高）との割合等は次表の通りである。

表2.5 ブラジルの外債にかかわる指数 100万ドル

内 訳	1986	1987	1988	1989	1990
外債元本の償還及び利息支払額					
元本	3,700	4,219	5,541	5,582	4,465
利息	10,062	5,543	13,836	7,237	3,819
小 計	13,762	9,762	19,337	12,819	8,284
登録済債務 (A)	101,759	107,514	102,555	99,285	97,469
外貨保有高 (B)	6,760	7,458	9,140	9,679	9,973
純債務 (C) = (A) + (B)	94,999	100,056	93,415	89,606	87,496
非登録済債務 (D)	9,286	13,660	10,914	15,811	24,483
債務合計 (E) = (A) + (D)	111,045	121,174	113,469	115,096	121,952
輸出額	22,349	26,224	33,789	34,383	31,414
PIB*	244,463	262,381	272,865	295,114	296,742
元本利息支払額/輸出額 (%)	62	37	57	37	26
"/ PIB (%)	6	4	7	4	3
債務合計/輸出額 (%)	497	462	336	335	388
"/ PIB (%)	45	46	42	39	41

出所：BANCO CENTRAL DO BRASIL

* PIB (国内総生産高は1985=100とした平均為替レートで算出したもの)

1. 3. 1990年度の経済指標

1990年の当初は、政権の更替を3月に控えたサルネイ政府末期にあったため、すでに何等の施策もなく、又、新政府による物価対策を予想した値上げなどのためインフレは昂進し、IBGE (ブラジル地理統計院) が算出した物価上昇率は1月が56%、2月72%、3月にいたっては、84%とハイパーインフレの様相を呈していた。

3月16日、政権を引継いだコッーラル政府は、インフレの収縮を緊急の課題とする次の暫定措置を発表し実施に入った。

1) 通貨統制

イ) 通貨呼称の変更：従来の通貨呼称クルザード・ノーボ (CRUZADO NOVO-NCZ\$) をクルゼイロ (CRUZEIRO-CR\$) に切り換える。通貨単位は変更なく、NCZ\$1,00 = CR\$1,00とする。

ロ) 流通資金の凍結：当座預金残高及び各種預金残高の中NCZ\$ 50,000,00を越える部分を中銀に強制預託とする。同上NCZ\$50,000,00は新呼称のCR\$50,000,00に切り換えられ自由に流通することが出来る。中銀への強制預託金は、18ヶ月後に12ヶ月分割の条件で返還される。但し、凍結期間中のコレソン (通貨価値修正) としてインフレ率+利息として年利6%調整が行なわれる。

ハ) クルゼイロの競売：中銀は定期的にクルゼイロの競売を行なう。クルザード・ノーボ(旧通貨)で中銀に封鎖さ

れた預金を持つものは、競売に応じ、クルザード・ノーボでクルゼイロを購入することが出来る。

エ) 物価：3月12日現在の物価（注3月13、14、15日は銀行業務が中止された）で凍結する。経済省の認可がない限り価格の変更を行なうことは禁止される。5月以降は、同月のインフレ率として政府が先決めする率によって価格の調整を行なう。6月以降もこの方法が継続される。

ホ) 給与：3月の給与は2月のインフレ率によって従来と同様に調整する。4月以降は新しい方法により、各15日に物価調整率をや、上回る率で当該月の調整率が先決めされる。若し先決めされた給与の調整率が新しく設定されるIBGEのインフレ率を下回る場合、その差額は、労使間の自由交渉に委ねる。たゞしその結果、生じる追加調整率を製品価格に上乗せすることは出来ない。

以上を骨子とし、インフレの遠因となっている財政赤字の解消とこれに伴う行政改革を含む一連の施策は、上述の通り一般預金の凍結という苛酷な手段までを含むもので、国民にもかつてない衝撃と犠牲を強いたものであった。この有史以来最も強硬な政策といわれたインフレ対策に対し大統領は、インフレを退治するための強丸は1発しかなく、これで仕止める以外にないとの背水の陣により、100日間にインフレ率を10%以下に抑えると公約し、それを実現させたものであったが、インフレ抑制の効果は、この辺までで終り、7月には早くも13.0%に上り、年末にいたって18%へと再燃して90年を終ることになった。IBGEの消費者物価指数（IPC）による90年の年間インフレ率は、1.794%、又ゼツリオ・ヴァルガス経済研究所の総物価指数（IGP）によるインフレ率は1.476%であり、この間過去12ヶ月間のインフレ率としては、4月に記録されたIPCにおける6.854%、IGPでの6.602%を史上最高のインフレ率としている。

表26 国内インフレ率

月別	IBGE消費者物価指数 IPC			FGV 総物価指数 IGP		
	月間上昇率(%)	年度内累計(%)	過去12ヶ月(%)	月間上昇率(%)	年度内累計(%)	過去12ヶ月(%)
1989年						
1月	70,28	70,28	1.410,64	36,6	36,6	1.203,8
2月	3,60	76,41	1.226,74	11,8	52,7	1.139,1
3月	6,09	87,15	1.113,29	4,2	59,1	993,0
4月	7,31	100,83	991,95	5,2	67,4	855,2
5月	9,94	120,84	918,88	12,8	88,7	801,2
6月	24,83	175,62	964,05	26,8	139,2	845,6
7月	28,76	254,89	1.004,55	37,9	229,8	972,7
8月	29,34	359,01	1.084,00	36,5	350,2	1.091,3
9月	35,95	524,03	1.198,00	38,9	525,4	1.215,9
10月	37,62	758,79	1.303,78	39,7	773,6	1.340,9
11月	41,42	1.114,50	1.464,16	44,3	1.160,4	1.524,5
12月	53,55	1.764,87	1.764,87	49,4	1.782,9	1.782,9
1990年						
1月	56,11	56,11	1.609,68	71,9	71,9	2.270,2
2月	72,78	169,73	2.751,34	71,7	195,1	3.539,3
3月	84,32	397,16	4.853,90	81,3	435,1	6.231,3
4月	44,80	619,89	6.584,60	11,3	495,7	6.602,3
5月	7,87	676,54	6.458,74	9,1	549,8	6.383,4
6月	9,55	750,70	5.655,91	9,0	608,4	5.475,7
7月	12,92	860,61	4.947,82	13,0	700,3	4.468,6
8月	12,03	976,18	4.272,25	12,9	803,8	3.680,3

9月	12,76	1.113,50	3.526,44	11,7	909,7	2.940,0
10月	14,20	1.285,81	2.909,30	14,2	1.052,6	2.384,2
11月	15,58	1.501,72	2.359,45	17,4	1.253,8	1.922,4
12月	18,30	1.794,84	1.794,84	16,5	1.476,6	1.476,6

出所：IBGE、FGV

表27 その他の指標

月 別	BTN CR	定期預金利息 (%)	最低給料 CR
90年 1月	10,9518	56,89	1.283,95
2月	10,0968	73,64	2.004,37
3月	29,5399	85,24	3.674,06
4月	41,7340	0,50	3.674,06
5月	41,7340	5,90	3.674,06
6月	43,9793	10,15	3.857,76
7月	48,2057	11,34	3.904,76
8月	53,4071	11,13	5.203,46
9月	59,0576	13,41	6.056,31
10月	66,6465	14,27	6.425,14
11月	75,7837	17,22	8.329,55
12月	88,3941	19,98	8.836,82

出所：IBGE

表28 為替レート (月末のレート)

月 別	A 自由レート	B 平行レート	B/A (売レート) %
90年 1月	17,64 ~ 17,33	36,50 ~ 37,30	110,4
2月	30,48 ~ 30,63	62,00 ~ 64,70	111,2
3月	42,00 ~ 45,00	57,00 ~ 65,00	44,4
4月	50,80 ~ 50,90	71,00 ~ 74,00	45,4
5月	54,90 ~ 55,05	86,00 ~ 88,00	59,9
6月	60,90 ~ 61,05	86,00 ~ 89,00	45,8
7月	69,45 ~ 69,55	80,00 ~ 81,50	17,2
8月	71,50 ~ 71,55	81,00 ~ 81,40	13,7
9月	84,15 ~ 84,20	88,80 ~ 89,50	6,3
10月	106,75 ~ 106,85	111,70 ~ 112,70	5,5
11月	141,45 ~ 141,35	162,00 ~ 164,00	11,6
12月	170,25 ~ 170,35	183,00 ~ 185,00	8,8

出所：FOLHA DE S.PAULO

1.4. 1991年の経済指標

表29 INPC (全国消費者物価指数)

月 別	90年12月=100 の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月上昇率 (%)
91年1月	120,95	20,95	20,95	1.111,86
2月	145,38	20,20	45,38	737,20
3月	162,52	11,79	62,52	413,72
4月	170,66	5,01	70,66	370,44
5月	182,06	6,68	82,06	367,68
6月	201,78	10,83	101,78	364,29
7月	226,28	12,14	126,28	362,32
8月	261,62	15,62	161,62	376,49
9月	302,49	-	202,49	382,17
10月	366,25	21,08	266,25	410,18
11月	463,23	26,48	363,23	451,89
12月	575,10	24,15	475,10	475,10

出所: IBGE

表30 IGP (総物価指数)

月 別	89年12月=100の指数	月当り上昇率 (%)	年度内上昇率 (%)	過去12ヶ月上昇率 (%)
91年1月	1.890,83	19,93	19,93	999,99
2月	2.294,94	21,11	45,25	675,95
3月	2.455,88	7,25	55,77	358,97
4月	2.670,50	8,74	69,39	348,28
5月	2.844,75	6,53	80,44	337,80
6月	3.125,28	9,86	98,23	341,19
7月	3.526,20	12,83	127,66	340,60
8月	4.072,38	15,49	158,31	350,59
9月	4.731,87	16,19	200,14	368,65
10月	5.954,92	25,85	277,72	416,64
11月	7.489,05	25,76	375,03	453,19
12月	9.146,88	22,14	280,18	480,18

出所: IBGE

表31 その他の指標

月 別	BTN CR	TR 基準利率 (%)	定期預金利息 (%)	最低給料 CR
91年1月	105,5337	-	20,81	12.325,00
2月	126,8621	-	7,53	15.895,46
3月	(廃止)	8,50	9,04	17.000,00
4月		8,93	9,47	20.000,00
5月		8,99	9,53	23.131,68
6月		9,40	9,94	23.131,68

7月		10,05	10,60	23.131,68
8月		11,95	12,50	23.131,68
9月		16,78	17,36	42.000,00
10月		19,77	20,36	42.000,00
11月		30,52	31,17	42.000,00
12月		28,42	29,06	63.000,00

出所：FOLHA DE S.PAULO

注：8月分の最低給料には上記のほか、5～8月の基礎必需品価格上昇分が加算された。

表32 為替レート (月末のレート)

月 別	A 自由レート	B 平行レート	B/A (売レート) %
91年1月	220,00 ~ 220,10	234,00 ~ 237,00	7,7
2月	224,80 ~ 224,90	248,00 ~ 251,00	11,3
3月	239,85 ~ 239,10	264,00 ~ 266,00	11,3
4月	260,47 ~ 260,57	295,50 ~ 297,50	14,2
5月	281,35 ~ 281,45	316,00 ~ 318,00	13,2
6月	312,65 ~ 312,75	346,00 ~ 348,00	11,5
7月	347,15 ~ 347,25	386,00 ~ 388,00	11,8
8月	394,50 ~ 394,60	440,00 ~ 445,00	12,9
9月	525,00 ~ 535,00	560,00 ~ 570,00	6,5
10月	647,00 ~ 647,10	810,00 ~ 840,00	29,8
11月	840,35 ~ 840,40	890,00 ~ 910,00	8,3
12月	1.068,60 ~ 1.068,70	1.120,00 ~ 1.140,00	6,7

出所：FOLHA DE S.PAULO

2 農業界の動向

2.1 農業政策

2.1.1 90/91農年に対する対策

90年3月に発足したコーロル政府は、流通資金の強制封鎖を始めとする強硬な国内経済安定策により、前政権末期に昂進したインフレ対策を実施しながらも市場への政府の介入を排し、補助を撤廃して民間主体の農産物市場を形成する自由解放経済の政策を推進し、この間、同対策の一環として国内食糧の潤沢な供給による農産物価格の安定を図る農業政策を8月に発表した。この政策は、90/91農年の作付けに対する融資資金の準備を中心とし、次期作付刺激策としての最低価格及びVBC（生産費融資基準額）の大幅な引上げ、生産コストの軽減による生産者収益の増加を図る融資利率の引下げを骨子とするものであり、農業界に新しい期待を与えたもの、同時に設定された最低価格保証制度の改訂により、奥地方の最低価格が消費都市に近い地域よりも低い価格に設定されたことから農業前線地帯での穀類生産が減少し、又、新政府発足直後に実施された流通資金の強制封鎖により、多くの生産者が自己資金の利用を妨げられたため、政府が期待した生産の増加はなくむしろ前年を大幅に下回る減産となって、食糧の大量輸入を余儀なくする事態すら発生することになった。

同政策によって設定されたコーロル政府第1回目の政府内容は、次のようなものである。

1) 農業融資資金

総額4,500億クルセイロを90/91農年の農業融資資金とし、中3,500億クルセイロを生産費融資として充当した。

2) 最低価格保証制度

イ) 最低価格の大幅引下げ：実質最高59%の大幅改訂により、生産コストをカバーし、かつ生産者の収益が保証される価格水準とした。

ロ) 制度の改訂：従来最低価格は、全国画一に設定されていたが、これを地域別に異なる価格とし、奥地方における最低価格は消費市場に近い地方の価格より消費市場までの輸送コストを差引いた額、すなわち、運賃をかけて消費市場に到着する価格がほぼ同一となる制度へ改訂した。この制度の改訂は、従来輸送コストがかさむ奥地方では往々にして市場価格が最低価格を下廻るため、政府への販売量が増加し、政府が買上げた大量の穀物が貯蔵設備不備のため腐敗し、巨額の損害を蒙っていた弊害を排除しようとしたものであり、奥地方では、運賃コストが高い穀類の生産を縮小させ、アグロインダストリーの導入により原料の現地での加工を通じ付加価値を高めて消費市場に出荷せしめようとする政策である。

この改訂と合せ従来最低価格の対象品目を41作物より次の10作物に減少することも決定された。綿、水稲（粳）陸稲（粳）、カルナウーバ畑、フェイジョン、ジュート及びマルバ、マンジョカ、とうもろこし、サイザル及び大豆。

3) VBC（生産費融資基準額）の改訂

農業融資額を算出する場合の基準となるVBCは、適格な農業融資、すなわち実際に必要とする資金の融資を行なう方法として79/80農年に導入された制度であるが、その後、大きく変動した経済情勢の中で生産コストとの間に格差が生じ、VBCを基準とした融資を受けても生産に必要な資金に不足する事態が生じていた。90/91農年の政策では、この歪みを是正して、VBCそのものの調整を行なったほか、農業融資の貸付枠を決める生産者カテゴリー（零細農、小農、中農及び大農）の分類基準も変更し（注：生産高に応じて分類される）農業融資面で優遇される小農の範囲を拡大した。なお、零細農の分類は廃止され、小農に含まれた。

更に基礎食糧でありながら生産が不安定なフェイジョンやマンジョカに対しては生産者のカテゴリーにかかわらず100%の融資を受け得る方法も設定されている。

表33 VBC (生産費融資基準額) 融資限度 %

作物別	小農	中農	大農
綿			
トウモロコシ、マトグロン	80	50	50
その他の州	80	40	20
落花生	80	50	30
米			
陸稲	100	80	60
水稲	100	80	60
じゃがいも種子	100	60	40
カシュー・ナット	80	50	30
カルナウーパ蠟	80	50	30
ジュート・マルバ	80	50	30
マモーナ	80	50	30
とうもろこし	100	80	60
サイザル	80	50	30
大豆			
中西部地方	70	40	30
その他の地方	70	30	20
ソルガム	100	80	60
ぶどう	80	60	40

出所：CFP

融資の時期については、前後3回にわけて行ない、作物の生育に応じ資金を必要とする時期に融資する方法は従来と同様である。

4) 農業融資利息の引下げ

90/91農年対策として実施された政策の中で、極めて重要な性格を持つものとして、農業融資利息の引下げがある。すなわち従来、コレソン（通貨価値修正率）+年利12%となっていた利息を国庫資金及びMCR（農業融資マニュアル）第6.2号規定の資金を源資とする資金については年利9%の利息とした。

以上の基幹政策のほか、次の事項が合せ決定されている。

5) 東北地方に対する融資基準の設定

6) ココアの輸出税免除期限の延長

7) 砂糖、アルコール生産者対策

消費者の負担を増加することなく、砂糖及びアルコール生産者の収入増加を図る方法の設定。

8) 農産物輸出に対する世銀融資の解除

又、中長期の対策としては、次の事項があげられている。

9) 農業生産資材輸入関税の引下げ

農業部門における生産コストの軽減と生産性の向上を図る手段として農業生産資材の輸入関税を15~50%範囲に止め、農業機械類については、25%とすることが決定された。

10) 農業生産者の所得税免除のインセンティブを含む新しい農業融資々金に関する規定。

11) FINAME（工業特別融資）資金の農業資本財への適用。

12) PROFIR（灌漑融資プログラム）PRODECER（セラード開発プログラム）PAPP（小農業者後援プログラム）各資金の解除。

13) PNDA (国家アグロインダストリー開発プログラム) PND R (国家農牧開発プログラム) に対する世銀融資資金の解除。

15) 農業保険制度の改訂 (現PROAGRO 制度の改訂)

2. 1. 2 91/92農年に対する対策

前 90/91農年における農業政策は自由解放経済を指向する政府方針のもとですゝめられ、政府の補助と介入を削除することにより、農業部門の近代化を図ることを目的としたものであったが、政府の期待通りにはいかず、逆に農業生産の大巾な減少という期待せぬ結果に終り大量の食糧輸入を余儀なくした。政府は、前年最初の農業政策において補助の撤廃、農産物市場の政府介入度合の軽減など、農業部門も政府がすゝめる自由解放経済の枠内に置いたことが、作付意欲を鈍らせ、国内供給量を減少させたとの認識から再び農業保護の政策に戻して生産の振興を図ることに方針を転換した。

このような背景の中で10月に実施されたコーロル政府第二回目の農業政策は次の内容によるものである。

1) 91/92 農年の作付資金

91/92 農年の作付に必要とする資金として9,000 億クルセイロを解除した。

2) 最低保証価格調整システムの変更

90年1月末第IIコーロル・プランと呼ばれる経済安定政策においてインフレ率に合わせて物価の調整を行なってきたシステムを廃止したが、これに伴ない最低価格も生産資材に対して農業が支払う価格の変動率によって調整するシステムに変更されていた。10月の政府では、これを再び元の方法に切換え物価指数の変動に合わせて最低価格の調整が行なわれることになった。

3) 生産物の現物換算による融資の積算方法

さきに国会を通過し、大統領の批准を受けた農業法の中で小農業者の債務返済を容易とする方法として債務額を最低価格によって生産物の量に換算し、融資返済の時点では、同量の作物の最低価格を返済額とする方法を実施することとした。これは従来債務残高のコレソン (通貨価値修正率) と最低価格のコレソンが同一ではなく、より以上の生産物を販売する必要があり、インフレによる目減りから返済能力を落していた弊害を避ける方法として採用されたものである。

4) EGF (現物担保の政府貸付)

生産者は銀行より受けていた生産費融資を、その返済日に自動的EGF (5ヶ月間の期限) に切換えることが出来る。但し、市場価格が政府の在庫解除価格 (注: 市場価格が一定の限度に達した時、政府在庫の放出時期を決める価格に達する場合は、融資を受けて高値を待つ必要がないため、EGFが縮小されることがあり得る)。

5) 農業融資利率

ブラジル銀行の農林貯蓄資金 (ポ-バンサ・ルラル) を源資とする融資利息は従来TR (インフレ率) 十年18%であったが、これをTR十年12.5%に改める。このため政府は、ブラジル銀行に対し約500 億クルセイロの補助を与える形となる。

又、一般民間銀行利息や、ブラジル銀行の当座預金をベースとする農業融資義務額の利息も、又 PIS, FINSOCIAL 等租税の軽減により引下げられる。

6) 農産物輸入関税の引上げ

9月末に行なわれたクルセイロの対米ドル平均切下げに伴ない、すでに決定されている農産物輸入関税の引下げを再検討する。

7) コーヒー生産者対策

不況が続くコーヒー部門対策としてコーヒー基金 (FUNCAFE) の支出を解除する。

8) 農業協同組合強化

農業協同組合の資本強化を目的としてBNDES (経済社会開発銀行) の資金400 億クルセイロの支出を解除する。

9) 肥料の輸入関税引下げ

肥料の輸入関税を引下げ生産コストの軽減を図る。

2. 2 農業生産資材部門の動向

2. 2. 1 肥料

1986年から91年にかけての6ヶ年間の肥料業界は、この間経済の安定を目指して実施された数回にわたる政府計画に大きな影響を受けてきた。まず1986年には、当時国民の熱狂的な支持の下で行なわれたクルザード・プランによる農業部門の振興策と全般的な消費の増大により、肥料の需要も増加し、その消費量が9.861百万トンに達した。販売面に良好な実績を残している。しかし、このようなブームも1年と持たず同年の末には再び経済不安定の時代へと逆行していき、再度安定を図ったブレッセル・プランでは、肥料部門の需要を復活させることは出来ず、消費量は前年比(-)4.7%の減少をみた。翌1988年になると、国外における農産物価格の回復により、肥料需要は10.1百万トンの増加があった。

表3.4 肥料の生産・消費・輸入及び在庫 1,000t

区 分	1986	1987	1988	1989	1990
期首在庫(a)	1.024	1.295	2.066	1.839	1.205
生産量 (b)	6.150	6.314	6.094	5.614	5.393
輸入 (c)	3.476	3.821	3.179	2.474	2.935
推定消費量(b+c)	9.626	10.135	9.273	8.088	8.328
輸出他 (d)	30	64	87	180	249
その他 (e)		345	352	217	58
供給量(a+b+c+d+e)=(f)	10.946	11.711	11.604	9.964	9.342
期末在庫(工場) g	1.295	2.066	1.839	1.205	1.120
販売量(f-g)=(h)	9.651	9.645	9.765	8.759	8.222
農業者の期首在庫(i)	810	600	850	530	270
〃 期末在庫(j)	600	850	530	270	167
実際消費量(h+i-j)	9.861	9.395	10.085	9.019	8.325

出所：ANDA

1989年1月、サルネイ政府最後の経済政策として昂進するインフレ抑制を目指したサンマー・プランを実施したものの、同年末には、物価は高騰し、90年に入ってよりは、政権の交替を前にして統制力を失った政府の下でハイパー・インフレへの様相を強め90年3月、これを引き継いだコーロル政府によるハイパー・インフレ阻止のための極度の政策が実施されることになるが、この動揺した経済情勢の中で、農業部門における肥料消費は2年間にわたって減少し、90年に記録された8.325千トンの消費量は、88年と比較して(-)17.5%の大幅な落ち込みであった。このような肥料消費の減少は、主要穀類の大豆やとうもろこしの反収を低下させ収穫量を反映した。

1989年以降は又、農業用石灰部門でも販売量の大幅な減少が観察された。ANDA（全国農業及び石灰普及協会）のデータによると、1990年における農業用石灰の消費量は、9.493千トンで88年に達した15.152千トンを(-)37%も減少する状況にあった。このような石灰需要の減退は、a) 農業融資資金の不足 b) 全般的な生産者資本の減少 c) 主要農産物たとえば大豆、コーヒー、小麦及びヒマ等の栽培面積の減少 d) 単位面積当たり肥料消費の減少、すなわち1ヘクタール当たりの肥料消費量は、1989年の133kgより90年には125kgに減少した。 e) コーヒー、オレンジ、フェイジオンを始めとする多くの作物について生産物の価格が低く、肥料の購買力を落した。等が理由としてあげられている。

肥料価格と農産物価格の関係を知るデータとして、肥料1トンを購入するのに作物毎にどれだけの量を必要としたかによって表わされる価格関係の指数は次の通りである。

表35 肥料1トンを購入するのに必要とした作物の量

作物 年度	綿 (15kg)	米 (60kg)	砂糖キビ (t)	フェイジョン (60kg)	かんきつ類 (1箱40,8kg)	とうもろこし (60kg)	大豆 (60kg)	小麦 (60kg)	コーヒー (60kg)
1986	35,6	18,9	23,5	5,0	81,9	20,5	21,9	14,7	0,8
87	38,8	30,5	23,1	6,2	68,3	29,0	23,5	23,2	3,2
88	46,8	24,2	25,4	5,4	44,5	22,7	17,5	25,9	3,3
89	50,5	31,8	37,5	5,1	60,1	40,1	24,8	33,3	3,6
90	47,0	26,1	28,7	6,0	96,1	37,7	31,8	39,2	3,7
91	37,2	16,1	23,7	4,6	141,2	30,9	22,3	32,1	3,5
91年1月	50,5	18,3	28,8	6,3	143,2	31,2	25,2	33,0	4,1
2々	45,0	16,1	23,3	6,2	146,8	31,6	23,4	32,3	4,1
3々	33,2	15,0	23,3	5,5	143,9	31,9	21,7	31,1	3,2
4々	32,2	14,9	22,4	4,5	140,0	30,5	20,8	31,9	3,0
5々	33,6	16,1	22,4	3,4	138,3	29,8	21,4	32,8	3,3
6々	35,2	16,5	22,6	3,4	134,7	30,4	21,4	31,5	3,4

1986年=100とした指数

1986	100	100	100	100	100	100	100	100	100
87	109	161	98	124	83	141	107	158	400
88	131	128	108	108	54	111	80	176	413
89	142	168	160	102	73	196	113	227	450
90	132	158	122	120	117	184	145	267	463
91	104	85	101	92	172	151	102	218	438
91年1月	142	97	123	126	175	152	115	224	513
2々	126	85	99	124	179	154	107	220	513
3々	93	79	99	110	176	156	99	212	400
4々	90	79	95	90	171	149	95	217	375
5々	94	85	95	68	169	145	98	223	413
6々	99	87	96	68	164	148	98	214	425

出所：ANDA

1990年中肥料を最も多く消費した作物は砂糖キビで、その量は1,67百万トンと推定されており、前年の消費量とほぼ同等の量であった。90年中全般の傾向としては、殆んどすべての作物に肥料消費の減少がみられたことである。前年比消費量の減少率は、大豆(-)16,3%、綿(-)14,6%、米(-)14,8%、コーヒー(-)6,3%、フェイジョン(-)7,0%、オレンジ(-)6,6%、とうもろこし(-)2,9%、小麦(-)18,1%、煙草葉(-)5,3%等であった。大豆の場合は、88年に200万トン以上を消費して砂糖キビをしのご最大の消費部門であったが、90年の消費はその66%に落ちている。

表36

作物別肥料消費量

作物別	栽培面積 1,000ha			肥料消費量 1,000t		
	1988	1989	1990	1988	1989	1990
砂糖キビ	4.951	5.163	5.312	1.710	1.705	1.670
大豆	12.241	11.595	9.492	2.072	1.635	1.370
とうもろこし	13.077	12.090	12.474	1.380	1.339	1.300
コーヒー	3.037	2.910	2.830	918	619	580
フェイジョーン	5.531	5.340	5.003	506	568	528
小麦	3.604	3.310	3.303	707	629	510
米	5.491	4.290	4.207	797	564	480
オレンジ	883	911	909	342	394	368
綿(草綿)	1.507	1.507	1.458	284	316	270
煙草葉	297	275	290	255	243	230
ジャガイモ	159	159	140	228	218	226
バナナ	519	492	459	134	119	115
牧場	12.751	12.564	13.200	102	94	110
野菜類	370	372	370	87	76	82
マンジロカ	1.909	1.967	1.991	89	76	78
トマト	66	61	61	89	80	74
ココア	697	668	667	81	59	67
植林	1.179	1.290	1.250	59	58	47
果樹	285	285	285	45	43	47
玉ねぎ	79	75	74	29	28	30
ソルガム	186	135	163	28	18	18
大麦	107	113	113	20	19	18
からす麦	214	198	196	19	16	16
ヒマ	273	292	246	15	13	15
パイナップル	39	34	31	18	14	14
落花生	89	83	84	16	13	13
にんにく	14	17	17	13	12	13
その他	1.882	1.792	1.720	42	49	46
計	71.437	67.988	66.344	10.085	9.019	8.325

出所：IEA

農家への販売量を基準とした各州別の需要量は次表の通りである。肥料工業連盟の地域区分(注：IBGBによる地域区分とは異なる分類を行なっている)に従うと国内肥料消費は、中央地方において最も大きく、南部、東北、北部地方の順となっており、州別ではサン・パウロ州が全国消費量の30%、リオ・グランデ・ド・スール州及びパラナ州がそれぞれ14%、13%の割合で続く大型の消費州である。

表37

地域別・州別肥料需要

1,000t

地域及び州別	1988	1989	1990
中央地方			
サン・パウロ	2,550.2	2,638.5	2,584.9
パラナ	1,291.3	1,230.1	1,088.7
ミナス・ジェライス	1,064.5	960.6	979.1
ゴヤス トラジス プラジヤ	866.9	737.1	717.4
マツト・グロッソ	600.8	539.8	397.4
マツト・グロッソ・スチ	435.4	389.2	301.4
エスピリト・サント	130.9	101.2	86.5
リオ・デ・ジャネイロ	46.8	63.1	41.4
調整	271.7	—	—
小計	7,258.5	6,659.8	6,196.8
南部地方			
リオ・グランデ・ド・スール	1,302.4	1,140.9	1,149.9
サンタ・カタリーナ	255.6	259.1	266.2
小計	1,558.0	1,400.0	1,416.1
東北地方			
バイア	329.9	240.9	188.8
アラゴアス	193.7	166.6	153.7
ベルナンブーコ	195.5	132.9	135.9
パライーバ	56.7	50.7	33.2
リオ・グランデ・ド・ノルチ	28.2	24.4	23.1
その他	114.7	57.5	58.9
小計	918.7	673.0	593.6
北部地方	30.2	26.0	16.0
全国計	9,765.4	8,758.8	8,222.5

出所：ANDA他業界団体資料

国内工業界の肥料生産量は1986年に6,150千トンを製造したあと87年もほぼ同レベルの6,314千トンの製造を行なったあと88年以降は次第に生産を落し、1990年にいたって5,393千トンへと低下した。これは窒素、磷、カリ三要素のすべてにわたり、又肥料原料の生産も減少した。この間肥料工場数の減少が記録されており、SIACESP（サン・パウロ州肥料及び石灰工業シンジケート）のデータによると1988年に512社あったものが91年には358社へと減っている。

表38

肥料原料の生産推移

1,000t

内 訳	1986	1987	1988	1989	1990
原料					
アンモニア	797.9	959.4	946.7	978.8	971.2
燐礦石	4,031.6	4,236.5	4,297.6	3,245.1	2,676.7
燐酸	—	1,245.2	1,368.4	1,264.4	1,026.8
硫酸	2,867.3	2,723.9	2,912.3	2,695.7	2,333.2

肥料					
硫安	137,5	138,6	161,8	191,9	156,7
尿素	899,3	995,4	952,2	1.048,4	1.076,4
ニトロカルシウム	159,2	147,6	129,1	167,6	144,6
硝酸アンモニウム	176,2	196,8	173,3	205,1	190,6
DAP剤	190,1	197,5	184,4	148,7	127,7
MAP剤	529,2	586,9	541,5	406,2	436,4
燐酸	2.254,3	2.376,2	2.258,1	1.934,6	1.981,8
過燐酸	11,3	4,4	6,9	10,3	0,6
重過燐酸	700,0	862,3	956,3	753,3	594,5
塩化カリ	17,5	62,2	92,9	182,4	113,5
複合肥料	-	311,7	376,8	364,9	358,0
その他	-	433,8	261,6	200,5	212,5
肥料計	-	6.313,4	6.094,9	5.613,9	5.393,3

出所：ANDA

1986～90年間におけるブラジルの肥料輸入も90年を除いて国内生産の推移に類似した傾向を示した。90年度のみは、重過燐酸の国内生産が一時的に減少して国内供給が不足したことや、ヨーロッパの需要減退を理由とした硫安の国際価格が低下し、これを利用した輸入が行なわれたことなどから同年の肥料輸入は前年を18,6%増加した。同年米国市場における硫安価格は6月に\$62,-～72,-/tであったものが12月には\$28,-～30,-へと値下りしている。肥料の中で外国依存が最も大きいのは依然として塩化カリで、90年の海外依存度は62,9%であった。とくにPBTRMISA社の操業中止により国内生産は、113千トンに止まったため輸入量は1.847千トンに達した。

表39 主要肥料及び原材料の国際価格 US\$/t FOB

年度 (各年6月)	硫安 (USA)	尿素 (USA)	塩化カリ (カナダ)	燐酸 (USA)	DAP剤 (USA)	重過燐酸 (USA)
1986	39～45	95～100	75～80	290～305	150～152	115～120
87	45～50	85～95	70～75	250～255	167～171	138～142
88	50～57	120～125	86～89	320～323	186～188	151～154
89	62～67	95～100	98～99	332～342	162～164	138～143
90	62～67	118～125	99～101	277～287	175～177	120～125
91	40～50	150～155	99～105	290～295	182～185	-
	(カナダ)	/	(カナダ)	(アフリカ)	(アフリカ)	(アフリカ)
1986	32～35	/	70～71	285～305	190～195	140～145
87	45～50	/	68～72	250～260	170～175	140～145
88	50～55	/	82～87	295～310	205～210	162～165
89	60～64	/	98～99	415～425	225～238	158～160
90	60～64	/	90～97	311～312	170～172	145～150
91	30～45	/	111～113	310～312	205～210	153～160

出所：SIACESP

肥料の国内価格形成に大きな影響を与えたものとして、肥料及び原料にかゝる輸入関税の軽減がある。この措置は、1990年8月以降コーヒル政府によって開始されたもので、91年1月31付経済省布告第058号をもって1991～94年

間における段階的減税が発表されている。

最近の国内市場における肥料価格については91年2月、コーロル政府第2回の経済安定プランにより1月末時点の価格が4月まで凍結されたあと5～6月分は、政府と肥料工業部門の協定による調整が行われ、7月以降は政府の監督つき価格制度へと移行した。この間多くの州政府が、州内農業者保護の立場から肥料を含む農業生産資材のコストを軽減するため州税の減税を行なったことが特筆される。その1例としてサン・パウロ州政府は、農業界に対する二重課税を排除するため91年4月24日付州条令第33.194号をもって、肥料及び石灰に対するICMS（商品流通サービス税）の延払いを決定したがこの措置は、91年6月の石灰価格に反映しており、89年1月～91年間の平均価格と比較して実質的値下りがあった。

表40 肥料及び石灰の価格指数（1989年1月=100とした実質価格）

月別	配合肥料 (02-30-10)	配合肥料 (04-14-08)	配合肥料 (20-05-20)	硫安	塩化カリ	石灰
1989年1月	100	100	100	100	100	100
2月	89	89	89	99	97	89
3月	86	86	86	95	93	86
4月	83	86	91	109	104	82
5月	81	82	87	103	110	89
6月	84	88	91	107	103	93
7月	89	104	102	130	116	110
8月	114	125	126	155	126	95
9月	100	135	128	167	145	105
10月	82	111	104	129	118	102
11月	86	108	101	126	115	109
12月	70	101	94	126	112	117
1990年1月	96	112	107	135	142	--
2月	84	104	98	130	115	115
3月	82	106	87	143	128	94
4月	89	97	81	143	125	71
5月	81	89	75	131	115	65
6月	78	95	81	129	115	86
7月	80	105	87	128	107	88
8月	87	114	88	122	114	92
9月	82	111	96	129	120	96
10月	84	108	98	120	115	95
11月	92	111	101	114	125	92
12月	90	118	111	138	132	91
1991年1月	94	120	112	134	129	76
2月	78	99	92	110	107	63
3月	93	106	102	123	116	72
4月	83	90	95	117	114	79
5月	80	96	92	115	124	61
6月	73	90	93	110	112	55

出所：IERA

1991年の上半期については、農家に引渡された量が2,757千トンとなっており、前年同期をわずか3,1%増加したに止まっているが、この需要量は前年上半期がコーロル・ブランによって購買力を極度に落した時期であったことを考えると非常に低いレベルであったとみることができる。91年上半期中の肥料需要をSIACESP（サン・パウロ州肥料及び石灰工業連盟）が設定している地方区分別にみると、中央部ではゴヤス、マツト・グロソ及びマツト・グロソ・ド・スール州で大豆作のための早目の買付けがあったことや、砂糖キビの生育が良好であったことなどから前年を1,7%増加する需要があった。但し、コーヒーとオレンジ栽培農家の需要は減少しており、これらの作物が前年並みであったならば肥料需要は更に増加した筈であった。又、南部地方では小麦栽培面積の縮小、乾燥の被害などを主な理由として需要量は、前年を(-)4%減少した。これに対し東北地方では、砂糖キビ部門における肥料消費の増加から全体の肥料需要は27,5%の増加、北部地方では(-)16,5%の減少がみられた。

91/92農年に関しては連邦政府による農業融資の拡大策や、工場より生産者に対する融資の実施、新しい農業政策にもとづく生産者規模の再編成（融資の対象とする大、中、小の生産者分類方法の改訂）等も高金利の中では肥料部門を刺激するに及んでいない。

1991年の国内消費量は、前年とほぼ同じレベルの8,4百万トンに達したものと推定されている。この量は1986~89年の平均値と比較して非常に低いレベルであるが、これはコーヒー、小麦、オレンジ等肥料消費の大きい部門における需要が減退したのを大きな理由としている。

石灰に関しては、サン・パウロ州の場合をみると3年間連続した需要減退が続いている。SINDICAL（サン・パウロ州石灰生産者シンジケート）によると、91年度における州内の石灰需要は、約1,5百万トンと推定され、前年を30%下廻る量となっている。これは肥料の場合と同様の理由の他、重要な需要先であるかんきつ、とくにオレンジ部門の需要がドラスタックに減少したことを最大の理由としている。オレンジ部門における需要の減退は約1年間にわたった国際相場の低迷から、これを基準とした生産者の受取価格が1箱当り\$1,12となり、過去3年間の平均値の3分の1に落ち、購買力を失ったためであった。

全国の石灰需要は8,0百万トンと推定されており、前年を(-)16,0%減少することとなる。

こ、数年間、農業界における生産資材消費の減少は、すでに多くの州において面積拡大の余地がなく、既存農地の生産性向上を図らねばならない現状下において憂慮すべき事項の1つとなっている。

2. 2. 2 農業

全国農業工業協会（ANOPF）のデータによると1990年度における農業の販売高は、ドルに換算して1,084,3百万ドルに達しており、前年の980,5百万ドルを10,6%上廻るものであった。同90年度の販売高は、又1986年以降最大の前年比伸び率ともなるものであるが、農業部門ではこの販売高と伸び率の中には、クルセイロによる売上高のドル換算の方法が妥当な方法であったかという疑問と、90年を通じて支配した為替レートにおけるクルセイロの過大評価により換算されたドル額は高いものであったのではないかという二つの疑問点があるため、上の販売高は多分に過大評価されたもので実態を示す金額ではないとの見方もある。しかしその論議はいつれにしろ他の農業機械や農機具と比較してポジティブな伸びを示したことだけは間違いない。

表4-1 農業：上半期の販売高推移

種 類 別	89年1-6月(a)	90年1-6月(b)	91年1-6月(c)	b/a(%)	c/b(%)
殺虫剤	94.153	107.219	95.264	13,9	-11,1
殺ダニ剤	39.192	42.402	22.553	8,2	-46,8
殺菌剤	71.741	74.925	66.630	5,2	-11,1
除草剤	208.906	248.547	210.691	19,0	-15,2
計	413.492	473.093	395.138	14,4	-16,5

出所：ANDEF

表4 2

農薬の種類別 (販売量)

種 類 別	1986	1987	1988	1989	1990
殺虫剤	16,910	14,109	14,979	14,689	—
殺ダニ剤	1,619	1,237	2,214	7,172	—
殺蟻剤	53	63	56	129	—
殺菌剤	22,105	17,545	20,541	14,089	—
除草剤	28,350	24,471	25,777	25,741	—
計	69,037	57,425	63,567	61,820	—

(金額)

US\$ 1,000

種 類 別	1986	1987	1988	1989	1990
殺虫剤	229,353	206,086	226,841	223,351	262,853
殺ダニ剤	48,122	38,395	60,634	90,804	93,352
殺蟻剤	4,279	6,660	6,141	11,253	10,550
殺菌剤	185,497	173,733	162,732	147,451	170,990
除草剤	368,747	401,431	447,905	507,650	546,588
計	835,998	826,305	904,253	980,509	1,084,333

出所：ANDEF

従来、農薬販売の増加は主に除草剤を中心に行われてきた。除草剤は他の農薬が天候次第ではその必要性を失なうのに対し天候の如何にかかわらず毎年必要であり、栽培面積が拡大されると、それに平行した需要があるためである。従って作物の中では栽培面積が大きい大豆、砂糖キビ、水稲においてその使用量が増加してきた。他方86年から89年にかけて販売の伸び率がもっとも高かったのは殺ダニ剤で、これを使用するかんきつ部門の栽培面積拡大をその理由としてきた。

1990年の場合も従来と変わらず除草剤が農薬消費の50.4%を占めて圧倒的に大きく、殺虫剤(24.2%)、殺菌剤(15.8%)、殺ダニ剤(8.8%)、殺蟻剤(1%)の順となっている。これら農薬の販売高を前年と比較すると、そのすべてにおいて増加がみられているが中でも殺虫剤と殺菌剤の増加率が最大であった。

作物別の農薬消費状況についてみると、90年も又、ごく少数の作物に集中したあとが残っている。中でも大豆及び棉(除草剤及び殺虫剤)、かんきつ(殺虫剤)、水稲(除草剤)における消費量が特に大きなものであった。このほかコーヒー、トマト、フェイジロン、リンゴ等に農薬消費の増加があったが、小麦の場合は大きな変化はなく砂糖キビでは除草剤消費の減少がみられた。

農薬部門の貿易に関しては、90年中に新政府による市場の開放と工業部門の近代化を図る各種の措置が構じられた中で、農薬の貿易総額(輸出及び輸入額の合計)はむしろ大巾な減少であった。すなわち、1989年の輸出入総額が500百万ドルであったのに対し90年のそれは、428百万ドルへと落ちており、90年に実施された量的な輸入制限の緩和、輸入手続きの簡素化、関税の引き下げ等の措置も輸入を根本的に変化させるにはいたらなかった。輸出入額の減少により、農薬部門の貿易収支は前年の255,2百万ドルより90年は225百万ドルへと落ちた。

表4 3

農薬の輸出入 (重量)

区 分	1986	1987	1988	1989	1990
輸入					
殺虫剤	9,268	5,663	7,239	5,963
殺ダニ剤	1,723	2,513	2,251	2,127
殺菌剤	3,660	2,267	3,009	2,509

除草剤	4.105	4.782	5.338	5.555
原材料	53.447	47.158	47.452	31.683
計	63.416	72.203	62.383	65.289	47.837
輸出					
殺虫剤	} 1.306	1.688	980	1.301
殺ダニ剤		36	15	27
殺蟻剤	539	481	440	370
殺菌剤	7.979	4.861	3.167	2.140
除草剤	15.217	16.938	12.728	15.219
計	21.972	25.041	24.004	17.330	19.063

(金額)

US\$1,000

輸入					
殺虫剤	} 75.315	61.367	43.400	56.845	42.678
殺ダニ剤		11.673	25.505	40.411	40.215
殺菌剤	54.396	48.646	51.588	61.263	40.068
除草剤	60.656	41.797	50.970	65.297	100.265
原材料	86.260	128.759	139.947	154.047	103.574
計	276.627	292.242	311.410	377.863	326.800
輸出					
殺虫剤	} 7.006	} 11.923	11.863	7.021	7.213
殺ダニ剤			388	182	101
殺蟻剤	289	398	331	394	407
殺菌剤	17.145	27.169	20.139	28.247	22.330
除草剤	59.307	71.730	88.078	86.808	70.807
計	83.747	111.220	120.799	122.652	100.858
収支	-192.880	-181.022	-190.611	-255.211	-225.942

出所：ANDEF

1991年に入ると、これまでと異った現象をみせ、上半期中にすべての農薬について販売高の減少がみられた。すなわち91年1～6月間の売上高は395,1百万ドルで前年同期の473,1百万ドルと比較して(-)16,5%の減少であった。91年の上半期にみられたこのような販売高の減少は 1) 天候が順調であった、め主要作物の病害、害虫防除の必要性が減少した。 2) 小麦栽培面積が減少した。 3) 濃縮オレンジ・ジュースの国際価格低下によるかんきつ部門の収入が減少し、生産資材への投資額が低下した(注：かんきつ部門は殺ダニ販売高の90%を占める) 4) 1月末政府が実施した経済安定策としての物価凍結により一部の農薬では、小売部門における凍結価格が工場価格と見合わず、供給の中断があった。等をその理由としている。91年上半期の販売高を前年同期と比較すると(-)4%の減少となっているが、各農薬別にその減少率が異なっているのが観察される。

90年5月の末より91年1月末まで凍結解除の状態にあった農薬価格の推移をみると、90年7月より91年7月間に、287%の上昇であったが、この期間のインフレ率として発表されているIGP(総物価指数)341%をはるかに下回っており、インフレ率以下の価格調整に終わっている。

表44

農家渡し農業平均価格 (サン・パウロ市)

C.R.

農薬名	単位	90年7月(a)	91年1月	91年7月(b)	b/a %
殺ダニ剤					
KELTANB EC	リットル	983	--	5.100	418
NEORON 500	800ml	2.005	5.701	7.720	285
OMITE	リットル	1.790	4.545	6.377	256
殺蟻剤					
MIREX	1/2kg	58	120	203	250
殺菌剤					
CERCOBIM	5kg	8.785	23.730	32.360	268
DITHANB M-45	kg	444	1.389	1.833	312
MANZATE BR	25kg	10.886	28.783	38.437	253
OXICL DB COBRB	kg	--	888	1.119	--
TILT 250 CZ	リットル	4.134	11.061	14.350	247
除草剤					
KARMEX 800	5kg	4.975	14.600	18.500	272
PRIMEXTRA 500	5リットル	3.593	8.226	12.300	243
ROUND UP	5リットル	5.186	16.409	23.088	345
SEPTER	5リットル	15.019	35.181	62.176	314
TORDON	20リットル	20.720	61.300	90.497	337
TRIFURALINA	5リットル	4.232	9.204	13.900	228
殺虫剤					
AMBUSH 500	リットル	5.373	14.663	23.086	330
DECIS	リットル	2.292	6.359	8.645	277
FOLIDOL 600	リットル	788	2.332	3.246	312
FURADAN 5G	10kg	2.338	6.202	8.906	281
NUVACRON 400	リットル	854	2.192	2.730	220

出所: IEA

91年に入ると1月30日に再び凍結され、4月末まで継続されたあと、5月1日より6月21日間は工場渡し現金価格が、1月30日時点の工場渡し30日払い価格より4月のTR (インフレ率) 8,93%を差引いたあとこれに8%の調整を加えるという面倒な価格に切換えられた。その後6月20日には、新たに8,5%の価格調整が承認され、7月21日以降は当局の監視は価格制度へと移行した。すなわち、工場側は価格の調整を必要とする場合、供給価格局に対し新調整価格の認可申請を行ない、5日間の中に承認するか否かの解答を受けるシステムとなった。この方法により91年末までにはインフレ率と同等又は、これを上回る価格調整が行なわれ、従来の低目の調整率が修正されることとなった。

農業に関する研究、調査、製造、販売、貯蔵、残滓物の処理及び包装等にかわる規定については、現行法規の検討、問題点についての討議が続けられた。短期の問題としては新製品の登録、既存製品の登録更新に際する条件、検査期限の遅延等が焦点となった。

91年上半年期にみられた農業販売の低下にかかわらず91/92農年の生産費融資の規模如何では、90年のレベルに到達する可能性は残されている。このためには、天候に大きな影響を受けない除草剤の販売増加が必要となる。又、そのためには除草剤を多く用いる大豆、水稲、砂糖キビ等の栽培面積が前年並みに維持されるか、前年を上回るかいつれが必要となる。この他、野菜果樹への殺菌剤使用の増加、同じく除草剤を必要とするとうもろこし栽培の増加も考えられる。

2. 2. 3. 種子

改良種子の国内生産は最近数年間減少傾向にあり、サン・パウロ州ではとくに大豆ととうもろこしにその傾向がみられる。改良種子生産の障害となっているのは、政府の農業政策が不安定であることを最大の原因としている。生産企業にとっては少なくとも販売の3年前より投資を開始せねばならず不安定な政策下では計画通りの投資が行ない得ないためである。

表45 改良種子の生産推移 (t)

年度	総	米	フェイジョン	とうもろこし	大豆	小麦	計
1983/84	50,845	153,950	16,669	141,764	899,242	375,662	1,638,132
84/85	40,220	140,605	23,520	137,960	847,105	351,530	1,540,940
85/86	56,844	168,616	28,834	173,223	866,560	584,815	1,878,892
86/87	43,941	201,571	21,508	183,577	859,920	745,036	2,055,553
87/88	44,039	211,499	21,911	118,545	1,014,234	671,407	2,081,635
88/89	44,862	220,247	23,003	172,575	1,192,070	642,442	2,295,199
89/90	41,498	117,622	29,379	157,392	983,807	523,575	1,853,273
90/91	48,400	206,978	25,340	138,883	957,643	352,354	1,729,598

出所：ABRASEM

サン・パウロ州における種子生産は気象上、土壌上、良好な条件を備えているが、生産量ではとうもろこしを除いてパラナ州とリオ・グランデ・ド・スール州に劣っている。全国種子生産者協会(ABRASEM)によると、パラナ州が国内で改良種子利用率が最も高く、最近数年間の統計では、その利用率は80%に及んでおり、サン・パウロ州が70%でこれに続いている。サン・パウロ州では水稲と大豆を除く他の作物について州内の需要を満たす生産が行なわれており、とくにとうもろこしの種子生産は州内需要を満たした残りを他州に供給する態勢にある。

表46 サン・パウロ州における91/92農年雨期作への改良種子需要

種子	推定面積90/91 (1,000ha)	改良種子 利用率 (%)	必要量 (kg/ha)	需要量(a) (t)	州内供給量(b) (t)	過不足(b-a) (t)
綿	221	90	45	8,970	9,286	316
落花生	59	70	134	5,571	8,797	3,226
水稲	38	75	100	2,550	678	- 2,172
陸稲	152	30	30	1,368	1,754	386
フェイジョン	336	20	50	3,359	4,156	797
とうもろこし	1,191	70	20	16,668	40,019	23,350
大豆	495	90	90	40,113	26,694	-13,419

出所：DSMM CATI IEA

91/92農年雨期作に対する主要作物種子の供給状況は、次の通りである。

- イ) 綿：サン・パウロ州農務局技術指導部(CATI)の情報によると、前農年よりの繰越しが6,000t残っており、これに91/92農年の生産量9,286tを加えた供給量は約8,970tと推定される需要量を賅ってなお余りあり、他州へ供給出来る態勢にある。ただし、3月にあった降雨の影響で品質は良好ではない。
- ロ) 落花生：落花生の種子生産は予定通りに進行しており、供給量は8,797tで品質もよい。予想される栽培面積の増加に対しても応じ得る態勢にある。

- ハ) 水稻：需要が1,800tの予想に対し、供給量は678tに止まるため供給不足が発生する見込みが強い。供給は全面的にCATIの農事試験場によって行なわれている。水稻の価格は常時陸稲の価格を上廻るものであるが、農務局では水稻と陸稲の種子価格を同一としたため、農業者による水稻種子の生産に興味が失なわれているといわれている。
- ニ) 陸稲：栽培面積の急激な増加がない限り種子の需給は均衡を保つ予想である。種子の供給量が1,754トンと予想されているのに対し需要は1,368トンである。
- ホ) フェイジョン：次の理由により州内のフェイジョン種子需給を量的に掘むのは困難とされている。 a) 雨期、乾期、冬期の3期の収穫があること。 b) 栽培周期が短い作物のため供給面が大きく変動すること。 c) 穀物をそのまま種子として使用する割合が高いこと。但し91/92農年については、供給量が4,000トンあるので供給面に支障はないものと思われる。
- ヘ) とうもろこし：州内需要が17,000トンに対し、供給量が40,000トンあるのでありあまる状況にあり、他州への供給能力を有している。このように供給過剰の状況にあるにもかかわらずハイブリッド種子の生産が前年を(-)40%下廻っているため価格は上昇傾向にある。
- ト) 大豆：州内の種子供給は、大巾に不足かつ品質の低下が予想されている。91年1月に発生したペラニコ（雨期中の長期乾燥）が生育に影響して品質を落した他、収穫期の長雨により生産量を減少させたためである。供給量が推定26,694トンに対し、需要量は40,113トンで不足分はリオ・グランデ・ド・スール州やパラナ州等大型の生産州のほか、中央部諸州（マツト・グロッソ、マツト・グロッソ・ド・スール、ゴヤス、パイア）等より補給される予定である。

表47 サン・パウロ州における91年8月時点の改良種子価格 CR/Kg

種 類 別	種子価格		穀物価格 (c)	比率	
	農務局 (a)	民間 (b)		a/c	b/c
綿	188,33	...	123,51	1,48	...
落花生	522,50	522,50	115,20	4,54	4,54
水稻	265,55	...	90,00	2,95	...
陸稲	265,55	270,00	71,98	3,69	3,75
フェイジョン	544,00	325,00	225,43	2,41	1,44
とうもろこし (ハイブリッド)	250,00	675,00	34,13	7,32	16,51
〃 (普通種)	200,00	375,00	34,13	5,86	10,99
大豆	150,00	120,00	50,97	2,94	2,37

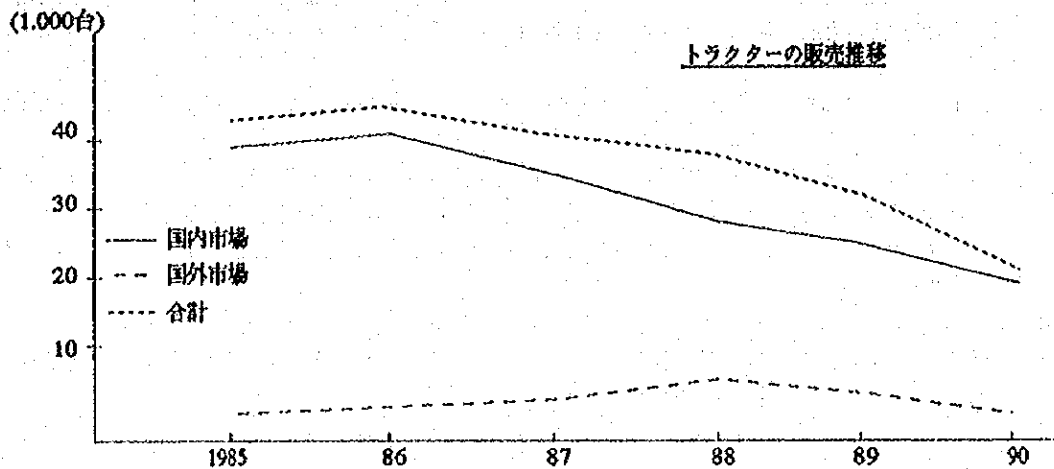
出所：IEA、CATI

2. 2. 4. 農業機械

表48 4輪トラクター販売台数の推移

年 度	国内市場	国外市場	計
1985	39.982	3.275	43.257
86	42.335	5.353	47.688
87	36.158	6.358	42.516
88	28.150	9.129	37.279
89	24.444	6.258	30.702
90	20.045	2.714	22.759

出所：ANFAVEA



農業機械を代表する4輪トラクターの生産は、クルザード・プランによって一時的な景気をもたらした1986年を頂点としたあと下降を続け、当時47,7千台に達していた販売台数は90年にいたって22,7千台へと半分以下に落ちた。

トラクター部門としては4輪トラクターのほか耕運機、マイクロトラクター、ブルドーザーが加えられるが、そのいずれも4輪トラクターと同様の傾向を示し、全体の合計も又、86年の61,6千台より90年の32,3千台にいたる間、ほぼ直線の下降を続け、途中で生産、販売を復活したことは一度もなかった。

このような生産下降は、年毎の農業生産量の大小にかかわらず起こっているが、これは農業政策の変更に基づく補助的農業融資資金の減少に基づくところが大きく、農業生産収益が固定投資を行なうだけの余裕を与えなかったことを示すデータといえる。とくにコーロル政府への移行以後は、全般的なリセッション下で農産物価格が低く押えられたのに加え、高金利政策の下で融資へのリスクが大きくなり、多くの農家が耐用年数を過ぎたトラクターの更新を控えたためであった。

表4 9 トラクターの生産推移 1,000台

種別	1986	1987	1988	1989	1990
4輪トラクター					
生産台数	47,4	43,2	37,7	30,4	23,0
国内販売台数	42,3	36,2	28,2	24,4	20,0
輸出台数	5,4	6,3	9,1	6,3	2,7
販売台数計	47,7	42,5	37,3	30,7	22,7
耕運機					
生産台数	7,1	4,3	2,0	3,0	2,5
国内販売台数	6,5	3,6	1,8	2,6	1,9
輸出台数	0,5	0,6	0,4	0,2	0,6
販売台数計	7,0	4,2	2,2	2,8	2,4
マイクロトラクター					
生産台数	4,5	4,5	2,3	2,5	2,1
国内販売台数	4,4	3,6	2,5	2,5	2,0
輸出台数	0,1	0,3	0,2	0,1	0,1

販売台数計	4,5	3,9	2,6	2,6	2,1
ブルドーザー					
生産台数	2,4	2,7	2,8	2,0	1,7
国内販売台数	2,2	2,0	1,5	1,5	1,1
輸出台数	0,2	0,6	0,9	0,9	0,5
販売台数計	2,4	2,6	2,4	2,4	1,7
合計					
生産台数	61,4	54,7	44,8	37,6	32,3
国内販売台数	55,5	45,4	33,9	31,1	27,4
輸出台数	6,1	7,9	10,6	7,4	4,8
販売台数計	61,6	53,3	44,5	38,5	32,3

出所：ANPAVBA

1991年度については、1～7月までのデータしかなく年間の統計は不明であるが、90年と対比した1～7月間の実績をみると生産台数では、すべての機種において前年を下廻り、販売数では200馬力以上のトラクターを除いたすべての販売が下降、輸出面では50～99馬力100～199馬力のトラクターが辛じて前年を上回る結果を示している。しかし、合計ではいづれも減少しており、生産及び販売の下降は依然として続いている状況にある。

表50 農業機械の生産、販売台数（90/91年1～7月） 台

種 類 別	1990年（1～7月）	1991年（1～7月）	増減 %
生産台数			
耕運機	1.670	1.114	- 33,3
ブルドーザー	1.011	588	- 41,8
トラクター			
49馬力まで	1.292	824	- 36,2
55～99馬力	10.962	7.972	- 27,3
100～199馬力	2.982	2.369	- 20,6
200馬力以上	43	21	- 51,2
小 計	15.279	11.186	- 26,8
収穫機	1.966	1.140	- 42,0
計	19.926	14.028	- 29,0
販売台数			
耕運機	1.218	1.168	- 4,0
ブルドーザー	754	384	- 49,1
トラクター			
49馬力まで	1.252	770	- 38,5
55～99馬力	10.282	5.920	- 42,4
100～199馬力	2.693	1.894	- 29,7
200馬力以上	10	19	90,0
小 計	14.237	8.603	- 39,6
収穫機	1.865	910	- 51,2
計	18.074	11.065	- 38,8
輸出台数			

耕運機	540	129	- 76,1
ブルドーザー	352	246	- 30,1
トラクター			
49馬力まで	73	69	- 5,5
55~99馬力	939	1.347	43,5
100~199馬力	386	444	15,0
200馬力以上	31	3	- 90,3
小計	1.429	1.863	30,4
収穫機	593	289	- 51,3
計	2.914	2.527	- 13,3

出所：ANFAVBA

過去の実績の中で、86年の生産販売を高めたのは、物価の凍結に伴う現物投資の増加、これに伴う農地価格の上昇、農地の販売益による機械類の投資などの要因のほか、農産物の交換係数が高く、購買力があつたこともあげられる。1例として米をとると、49馬力のトラクター1台を購入するのに680俵(60kg入)を要したものが90年になると2.342俵を必要としており、購買力が3分の1以下に落ちたことを示している。この傾向はほぼすべての作物についていえることであるが、中でも国際相場の下から最低の状況におかれているコーヒーなどは86年に104俵でトラクター1台が購入出来たものが90年になると1.252俵と実に12倍を必要とする状況にあり、トラクターが購入出来ない理由が理解される。

表5-1 トラクター1台を購入するために要した作物の量(44馬力トラクター)

作物 年度	綿 (15kg)	米 (60kg)	じゃがいも (60kg)	コーヒー (40kg)	砂糖キビ (t)	とうもろこし (60kg)	大豆 (60kg)	トマト (t)
1986	1.233	680	300	104	966	1.169	715	117
1987	1.991	1.382	550	479	913	2.154	964	136
1988	3.120	1.505	1.356	808	1.892	2.547	1.004	266
1989	2.559	1.472	531	583	1.959	3.310	1.505	225
1990	4.392	2.342	1.412	1.252	3.789	3.545	2.829	333
1991	2.512	984	513	784	1.572	2.212	1.530	185

(61馬力トラクター)

1986	1.667	913	403	140	1.298	1.570	961	157
1987	2.447	1.719	683	596	1.136	2.679	1.199	169
1988	4.189	2.020	1.820	1.085	2.540	3.420	1.354	357
1989	3.477	2.001	721	792	2.662	3.139	2.004	305
1990	5.924	3.159	1.905	1.689	5.111	4.782	3.816	449
1991	3.404	1.333	695	1.063	2.130	2.997	2.073	250

出所：IEA

1991年中、農業機械部門の再活性化を図るために採られた措置としては、連邦ベースにおいてBNDES(経済社会開発庁)の特別工業融資(FINAME)を農業部門に拡大適用し約1億ドルの資金を農業投資に向けたこと、6月には新しい機械に対するIPI(工業製品税)を免除したこと、又、州政府ベースではサン・パウロ州政府が、資本財にかかわるICMS(商品サービス流通税)を18%より12%に減税したことなどがあげられる。91年には、90年に比して作物の交換係数も大巾に改善され、上の措置と共に農業機械部門の再活性化が期待されたが、極度のリセッション経済

の中で販売は、依然として伸びずむしろ最低線へと落ちている。

3. 主要農産物の生産流通状況

3. 1 穀類

3. 1. 1 とうもろこし

イ) 生産

表52 とうもろこし：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	2,089.3	2,079.8	5,160.8	2,481
リオ・グランデ・ド・スル	1,650.2	1,646.0	3,957.4	2,404
サン・パウロ	1,151.1	1,151.0	2,766.0	2,403
サンタ・カタリーナ	1,014.5	1,011.6	2,674.4	2,644
ミナス・ジェライス	1,458.0	1,410.8	2,272.8	1,611
ゴヤス	902.8	873.7	1,848.4	2,166
マット・グロッセ	273.5	270.3	619.0	2,290
マト・グロッセ・スル	268.5	255.7	595.7	2,329
ロンドニア	121.7	121.7	212.7	1,748
パラナ	165.1	162.3	193.4	1,191
マラニョン	499.1	483.3	135.9	281
その他	2,501.3	1,924.5	904.7	470
全 国 計	12,095.1	11,390.7	21,341.2	1,874

出所：IBGE

表53 とうもろこし：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	2,435.0	2,355.0	4,850.0	2,059
ミナス・ジェライス	1,570.2	1,570.1	3,816.7	2,431
サン・パウロ	1,384.5	1,384.5	3,784.2	2,733
ゴヤス	884.6	881.1	2,886.4	3,276
リオ・グランデ・ド・スル	1,873.4	1,806.4	2,053.8	1,136
サンタ・カタリーナ	1,055.1	962.7	1,559.3	1,520
マト・グロッセ・スル	362.7	346.1	916.9	2,649
マット・グロッセ	266.8	264.9	703.9	2,657
セアラ	641.5	595.9	371.4	623
ピアウイ	418.3	418.3	336.7	805
エスピリト・サント	128.5	128.5	319.4	2,486
その他	2,585.2	2,396.1	1,971.4	823
全 国 計	13,605.8	13,109.6	23,573.1	1,798

出所：IBGE

90/91 農年の作付時期 (90年半期) における農産物市場の状況は、生産融資の不足や天候の不順にかかわらず、とうもろこし部門にとっては、とくに養鶏部門を中心とした需要の高まりがあり、前年よりの繰越在庫も少量であったところから価格は堅調に推移し、先行き期待のもてる市場構成であった。更に競合作物の大豆市場が悪く、とうもろこしに切替える傾向も増加していた。このような情勢の下に87年(86/87農年) 以後89/90 年にかけて下降してきた栽培面積は、90/91 農年において前年比15%増と一挙に回復し、生産量においても10.5%の増加であった。若し作付時期の長期乾燥や主要生産地帯の南部地方が、生育期間の12月末から2月始めにかけて見舞われた高温の被害がなかったならば生産量は更に増大したと思われる。この高温による南部地方の被害は、前年の反収を基準として計画する場合、約4.4 百万トンに達したものと推定されている。最も大きな被害を受けたリオ・グランデ・ド・スール州において前年比(-)51.5 %、サンタ・カタリーナ州では(-)43.3 %の減産であった。又被害の程度が比較的少なかったパラナ州でも本収穫 (雨期) において(-)7.6%、サフリンニャと呼ばれる乾燥収穫で(-)14.1 %の減産が記録されている。その他の地方は農業融資の不足から全般的に肥料の使用度が低く、生産性の低下が懸念されていたが天候に恵まれたため、平常の反収を得ることが出来、89/90 農年にみられた生産の減少をカバーすることを得た。

表 6 4 とうもろこし：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	7,641.8	5,508.1	5,268.0	5,160.8	4,850.0
ミナス・ジェライス	3,332.0	3,288.8	3,333.3	2,272.8	3,816.7
サン・パウロ	3,732.5	3,684.0	3,756.0	2,766.0	3,784.2
ゴヤス	3,032.3	2,990.0	3,693.6	1,848.4	2,886.4
リオ・グランデ・ド・スール	3,873.5	2,537.0	3,583.8	3,957.4	2,053.8
サンタ・カタリーナ	2,440.5	2,371.2	2,376.0	2,674.4	1,559.3
その他	2,750.2	4,368.9	4,562.9	2,661.4	4,622.7
全 国 計	26,802.8	24,748.0	26,572.6	21,341.2	23,573.1

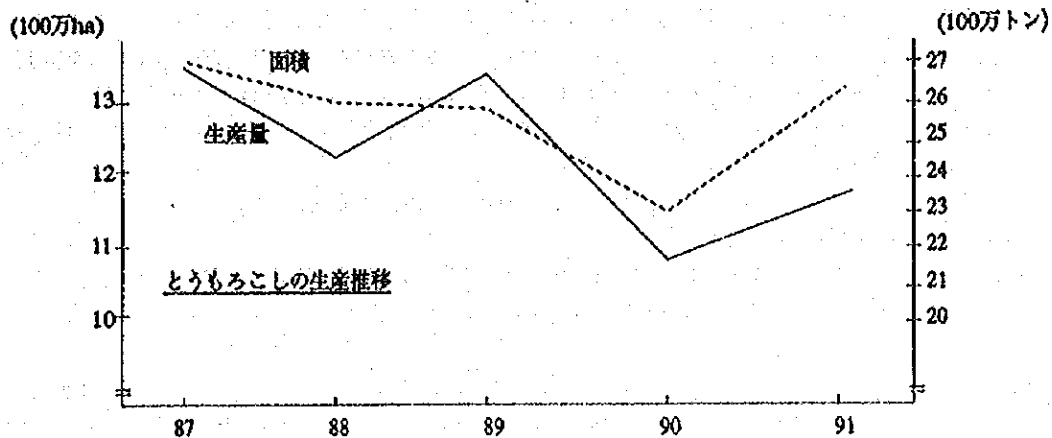
収穫面積 1,000 ha	13,503.4	13,169.0	12,931.8	11,390.7	13,107.6
---------------	----------	----------	----------	----------	----------

出所：IBGE

表 6 5 とうもろこし：主要生産地の反収 kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	2,685	2,454	2,494	2,481	2,059
ミナス・ジェライス	2,086	2,122	2,249	1,611	2,431
サン・パウロ	2,700	2,866	2,832	2,403	2,733
ゴヤス	2,621	2,688	3,225	2,166	3,276
リオ・グランデ・ド・スール	1,981	1,567	2,279	2,404	1,136
サンタ・カタリーナ	2,403	2,400	2,412	2,644	1,520
全 国 平 均	1,985	1,879	2,055	1,874	1,798

出所：IBGE



ロ) 国際市場

USDAが90年末に行なった発表によると90/91農年における世界のとうもろこし生産量は、470,4百万トンで前年を2,2%上回るものであった。この2ヶ年間を通じた世界生産の増加は、米国の生産増加に伴うものであり、米国を除く他の生産国は合せて0,7%の増加に止まっている。米国の90/91農年生産量は、199,4百万トンで世界生産の42,3%に相当するものであった。世界及び米国の供給量は、それぞれ541,3百万トン及び233,2百万トン、又世界の貿易量は70,4百万トンで前年を8,9%増加したが、この中米国の輸出は52,7百万トンで世界輸出の74,8%を占めた。

90/91農年における世界の消費量は475,1百万トンで前年とは同レベルにあり、この中米国の消費は前年を2,1%上回る149,9百万トンであった。91年9月末における90/91農年の期末在庫は世界全体で66,2百万トン、米国で30,6百万トンと推定されており、前年と比較してそれぞれ(-)6,7%及び9,2%減少となっている。米国では国内需要の増加に合せた在庫量の減少が価格を 상승させ、1ブッセル当り前年の\$2,35より\$2,75(トンあたり\$92,51~\$108,26)へと8,5%の増加をみた。

90/91農年(91年10月に開始され92年9月に終る)の世界生産量は、USDAが91年8月に行なった推定によると469,4百万トンで実質的に前年の規模が繰返される形である。但し、前年と異って、この生産量を維持したのは米国を除く生産国の増産によるものであり、米国は逆に前年を(-)6,5%減少する188,4百万トンの生産に終った。

91/92農年には東ヨーロッパやソ連など主要消費国において政治上、経済上の大きな変動があったことや、飼料原料として小麦の方がとうもろこしよりも有利な状況にあったことなどから、91/92農年における世界のとうもろこし取引量は減少する見通しがある。世界の消費量は前年を、上回る479,0百万トン、米国は154,3百万トンの消費量で前年と同レベルが繰返されるものと考えられている。

91/92農年末(92年9月末)の世界在庫量は65,3百万トン、この中米国在庫は31,1百万トンの予想である。

とうもろこしの国際価格については、2年間連続した世界貿易量の減少から低下しており、米国の輸出価格を例にとると89年のトン当り\$112,-、90年の\$110,-を経たあと91年上半期の平均値は\$108,-へと落ちている。

ロ) 国内市場

90/91農年の収穫物販売も過去数年間の場合と同様に政府が実施したインフレ対策の下で行なわれた。今回は91年2月1日より実施された第IIコーロル・プランにもとづくものであるが、内容的には消費者価格や給料の凍結など旧政策の繰返しのほか、新しい措置としては物価のインフレ率連動システムの廃止が加えられたが、本質的な問題が解決されることなく行なわれるこれらの政策は根本的な効果を現わすことなく、凍結の解除と同時に公共料金を始めとした諸物価の上昇といったパターンを繰返した。この間金利や為替レートの成行きは極めて不安定なものであった。

他の作物と同時にこのような情勢下に置かれたとうもろこしの販売面に現われた特徴としては、その生産者価格が季節別に従来と異った傾向を示してきたことである。すなわち、とうもろこし価格は収穫期の1月から6月にかけて

次第に下降し、収穫期の7月から12月にかけて上昇するのを常としていたものであったが、この5ヶ年間価格が低下するのは2月の収穫開始後3月から4月までで、以後は年末まで上昇を続けるという形に変化してきたのが観察される。このような価格動向の変化は次を理由とする供給面の不安定にものかくものと解釈されている。

イ) 政府の資金不足により農家は資金の自己調達を余儀なくされたが、延期することの出来ない支払分のみを販売し価格の上昇を待つて産品を保留する方法が一般化した。

ロ) 大型消費者、主に養鶏、養豚部門の収穫開始時点での要増が増加し大量の買付けが行なわれた。

ハ) 国内消費量を満足させる供給量の不足。

このような状況下においてサン・パウロ州の1991年における生産者受取価格は前年を実質的に11.2%上昇したが、これも89年の価格水準よりは(-)27.5%、88年よりは(-)16.4%と依然として低いレベルであった。

表56 とうもろこし：生産者受取価格推移 (時価) CR/60kg

月 別	1987	1988	1989	1990	1991
1	99	507	8	111	1,456
2	93	551	8	154	1,506
3	98	561	7	261	1,396
4	99	679	7	288	1,674
5	113	873	9	412	1,946
6	150	1,020	12	460	1,964
7	164	1,298	11	546	2,163
8	197	1,840	13	711	2,896
9	239	2,334	22	764	
10	296	3,448	27	838	
11	382	4,752	40	1,089	
12	435	6,194	61	1,320	

注：1988年12月まではクルザード、89年1月～90年2月までクルザード・ノーボ、90年3月以降クルセイロ

(1991年8月をベースとした実質価格)

月 別	1987	1988	1989	1990	1991
1	3.983	3.713	4.318	2.622	3.156
2	3.285	3.426	3.897	2.128	2.679
3	3.000	2.956	3.493	1.988	2.315
4	2.518	2.971	3.203	1.971	2.554
5	2.257	3.199	3.584	2.584	2.786
6	2.383	3.091	3.814	2.644	2.560
7	2.378	3.237	2.646	2.777	2.498
8	2.740	3.734	2.282	3.203	2.896
9	3.076	3.766	2.710	3.082	—
10	3.425	4.361	2.369	2.961	—
11	3.866	4.696	2.458	3.276	—
12	3.791	4.749	2.483	3.411	—

出所：IEA

90/91 農年の作付削減策として実施された農業政策では、その中心となる生産費融資基準額に最低保証価格をBTN (国債価額) の変動率に応じて調整する方法を採用すると共に、最低価格保証制度の根本的な改訂、すなわち過去10年間にわたって続けられた全国統一の最低価格を地域別に設定し、輸送コストの高い奥地方の価格を低目に設定する方法が実施されることになった。この政策の結果とうもろこしの最低価格は1俵(60kg)当り価格が南部、南東及びバイヤ州南部について、CR550,00、マット・グロソ・ド・スール州、ゴヤス州及びブラジリア連邦区において、CR470,00、マット・グロソ州南部及びトカンチンス州がCR377,00、マット・グロソ州北部及びロンドニア州ではCR358,80と定められた。これらの価格は、91年1月までにBTNに応じて調整されたあと、2月以降は、第Ⅱコーロル・プランによって凍結され、7月10日に再調整が開始された。この結果南部、南東及びバイヤ州南部では、2月にCR1.298,40/60kgで凍結され、7月になってようやくCR1.818,00に調整されたが、いずれも市場価格を下回る価格であった。このような状況のため、製品の買上げ又は融資のための資金が政府になかったもの、最低価格保証制度は、機能することなく終わった。

他の施策として過去にそれなりの成果を納めた政府在庫の放出による市場介入の措置も価格凍結のため実施されなく終わった。

次に過去6年間にわたるとうもろこしの需給バランスをみると国内消費に対する自給態勢が失われ、輸入の増加が見られる。食糧の国内供給を管轄する国家供給公社のデータによれば90/91 農年には、期首在庫に生産量を加えた国内供給量25,1百万トンでは国内消費量と見做される25,5百万ドルを賄い、かつ最少限度10月分のストックを保有することが不可能の見通しから、1,2百万トンの輸入が必要視された。

表57 とうもろこし：需給バランス 1,000t

年 度	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90	90/91
期 日	86年3月1日	87年3月1日	88年3月1日	89年3月1日	90年3月1日	91年3月1日
期首在庫	600,0	1.600,1	2.879,4	2.797,0	3.079,7	1.237,1
生産量	20.264,1	26.758,3	25.223,4	26.266,8	22.257,4	23.876,7
輸入量	2.423,6	871,2	15,0	154,9	700,0	1.200,0
供給量	23.287,7	29.229,6	28.118,0	29.219,7	26.037,1	26.313,8
消費量	21.687,6	26.350,2	25.320,0	26.140,0	24.800,0	25.550,0
輸出量	0	0	0	0	0	0
期末在庫	1.600,1	2.879,4	2.798,0	3.079,7	1.237,1	763,8

出所：CONAB

乾燥の被害による南部地方の減産からリオ・グランデ・ド・スール州では、とうもろこしの需要先(主に養鶏及び養豚部門)に対する供給が危ぶまれ早期の輸入が必要とされた。これら南部地方については、リオ・グランデ・ド・スール州では需給は均衡を保とうが、サンタ・カタリーナ州では約100万トンが不足するだろうとの予想が90年12月にすでにたてられていたものであるが、その後の長期乾燥の結果、この両州がそれぞれ170万トンの供給が不足することが明らかとなり国内の他州及び外国よりの輸入を緊急に必要とする状況にいたったものであった。結局この不足分の約3分の1がアルゼンチンよりの輸入によって補給され、残りが国内で調達されることになった。91年アルゼンチンは、約400万トンの余剰品があり、ブラジルへの供給に向けられることになったものであるが、このアルゼンチン産とうもろこしは、国内中央部よりの輸入品よりも低いコストで供給されており、南部地方にとっては、もっとも有利な供給先となっている。

1991年中、とうもろこし部門に対して行なわれた政府の決定事項としては、次のものがあげられる。

- a) 公共在庫の形成及び政府の市場介入に関する基準の設定、b) 生産費融資を受けない生産者に対してもPROAGRO (農業保険制度) の適用 (注：従来農業融資の条件として農業保険・PROAGROへの加入が義務づけられており、農業

融資を受けるものは自動的に保険に加入することになっていたが、融資を受けず自己資金のみで営業を行なうものは、農業保険の圏外に置かれていた)、c) 農産物の輸入に対し国産品と競合しないための関税の設定。d) 融資の基準とされる生産者の規模別分類の再編成。e) 融資の基準となるVBC(生産融資基準額) 限度の引上げ及び生産性に応じた融資枠拡大方法の決定、f) 最低保証価格の地域別設定、g) 零細農及び小農に対し債務の最低価格による量への換算方法の設定(注: 銀行債務を最低価格を基準とした作物の量に換算し、返済時に同量の作物にその時点の最低価格を乗じて返済額とする法)。

91/92 農年の生産コストについては、サン・パウロ州農務局農業経済研究所が発表したコスト表によると同州内リバイロン・プレット地方において生産性が1haあたり、3,600kg 収穫の場合、1俵(60kg)のコストは91年8月の価格でCR1,610,27、ソロカバ地方の場合1haあたり3,300kg の生産性でCR1,888,19、又アシス地方で4,500 kg/ha の反収を得る場合CR1,638,92となっている。

コストの算出方法は直接コスト(労賃、種苗量、肥料及び石灰、農薬、機械、維持費及び収穫請負費)と間接コスト(機械類の減価償却費、金融費用)を合わせたものであるが、これらの項目の中で種子代が前年コスト全体に7~8%を占めていたものが今農年には12~16%へと上昇しているのが観察される。

表58 とうもろこし:91/92 農年生産コスト予想(A)
サン・パウロ州、リバイロン・プレット地方、1haあたり60俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたりコスト	1俵あたりコスト	構成比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	7,160,00	119,33	7,41
b) 種子	11,212,77	186,88	11,61
c) 肥料石灰	29,331,68	488,86	30,36
d) 農薬	2,489,80	41,56	2,58
e) 機械維持費	27,780,14	463,10	28,76
f) 収穫請負費	4,200,00	70,00	4,35
小計	82,180,39	1,369,67	85,06
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	11,216,22	186,94	11,61
b) 金融費用	3,219,60	53,66	3,31
小計	14,435,82	240,60	14,94
合計	96,616,21	1,610,27	100,00

出所: I B A

表59 とうもろこし:91/92 農年生産コスト予想(B)
サン・パウロ州、ソロカバ地方、1haあたり55俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたりコスト	1俵あたりコスト	構成比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	4,920,00	89,45	4,74
b) 種子	16,500,00	300,00	15,89
c) 肥料石灰	31,055,48	564,65	29,90
d) 農薬	2,640,00	48,00	2,54
e) 機械維持費	27,834,52	506,08	26,80
f) 収穫請負費	5,115,00	93,01	4,93
小計	88,065,50	1,601,19	84,80

B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	11.288,27	205,24	10,87
b) 金融費用	4.496,93	81,76	4,33
小計	15.785,20	287,00	15,20
合計	103.850,70	1.888,19	100,00

出所：IEA

表60 とうもろこし：91/92 農年生産コスト予想

サン・パウロ州、アシス地方、1haあたり75俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたりコスト	1俵あたりコスト	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	1.933,46	25,78	2,48
b) 種子	11.035,40	147,14	14,16
c) 肥料石灰	25.950,00	346,00	33,30
d) 農薬	15.325,86	204,34	19,67
e) 機械維持費	14.407,97	192,11	18,49
f) 収穫請負費	—	—	—
小計	68.652,69	915,37	88,11
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	6.710,24	89,47	8,61
b) 金融費用	2.555,64	34,08	3,28
小計	9.265,88	123,55	11,89
合計	77.918,57	1.038,92	100,00

出所：IEA 注：機械収穫

3.1.2 米

イ) 生産

表61

米：1990年の生産実績

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スカ	835,7	698,1	3.194,4	4.576
ミナス・ジェライス	441,2	422,7	580,1	1.373
サンタ・カタリーナ	152,8	152,2	567,7	3.730
マラニョン	690,5	679,1	464,8	684
マト・グロソ	381,7	355,2	420,7	1.184
サン・パウロ	221,5	221,5	313,0	1.413
ゴヤス	351,0	296,1	307,8	1.040
トカンチンス	209,6	174,9	260,9	1.492
パラナ	153,6	151,0	253,5	1.679
マト・グロソ・ド・スカ	138,6	117,0	182,5	1.560
その他	717,0	677,1	873,1	1.289
全国計	4.293,2	3.944,9	7.418,5	1.881

表62

米：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオグランデ・ド・スカ	816,5	804,1	3,809,8	4,738
マラニオン	759,0	759,0	970,3	1,278
ミナス・ジェライス	444,4	439,9	784,2	1,783
サンタ・カタリーナ	147,8	130,1	597,1	4,588
ゴヤス	332,8	328,1	524,2	1,598
マット・グロソ	325,1	316,9	488,0	1,540
ピアウイ	274,5	273,5	382,6	1,399
サン・パウロ	189,5	189,5	325,2	1,716
トカンチンス	164,6	164,0	306,7	1,870
マトグロソ・ド・スカ	110,5	101,4	197,2	1,944
その他	675,0	628,9	1,111,5	1,767
全国計	4,239,7	4,135,4	9,496,8	2,296

IBGEが、91年9月に行なった調査の結果によると90/91農年の米作は、4,239千ヘクタールの作付けに対して、4,135千ヘクタールの収穫が行われ、9,5百万トンの生産を行なっている。

この生産量は、前年最低の規模に落ちていた7,4百万トンの生産量に対して28%の大幅な増産となっているが、87年より89年まで続いた10百万トン以上の生産規模には戻っていない。91年の生産を増加させたのは、反収が過去最高の2,296 Kg/haを記録したためであり、収穫面積は前年を4,8%増加したに止まっている。

表63

米：過去5ヶ年間の生産推移

1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオグランデ・ド・スカ	3,561,8	3,881,3	3,968,9	3,194,4	3,809,8
マラニオン	595,7	1,294,3	1,094,3	464,8	970,3
ミナス・ジェライス	904,6	890,8	764,7	580,1	784,2
サンタ・カタリーナ	505,1	553,3	555,1	567,7	597,1
ゴヤス	1,501,0	1,551,5	1,294,5	307,8	524,2
マット・グロソ	922,4	973,7	890,2	420,7	488,0
その他	2,428,4	2,664,6	2,476,8	1,883,0	2,323,2
全国計	10,419,0	11,809,5	11,044,5	7,418,5	9,496,8
収穫面積1,000ha	5,979,8	5,959,1	5,250,1	3,944,9	4,135,4

出所：IBGE

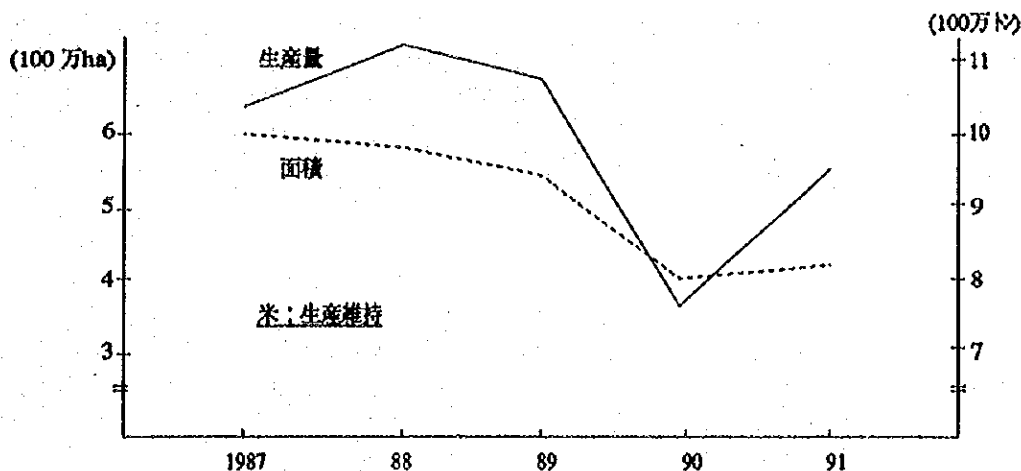
表64

米：主要生産地の反収

Kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオグランデ・ド・スカ	4,435	4,786	1,936	4,576	4,738
マラニオン	640	1,354	1,172	684	1,278
ミナス・ジェライス	1,489	1,538	1,641	1,373	1,783
サンタ・カタリーナ	-	-	-	3,730	4,588
ゴヤス	1,270	1,412	1,546	1,040	1,598
全国平均	1,742	1,982	2,104	1,881	2,296

出所：IBGE



ロ) 国際市場

世界的な基礎食料である米は、その90%がアジアで生産されている。米国農務局(USDA)のデータによると90/91 農年における世界の米生産量は515 百万トン、これに対する消費量は、509 百万トンでいずれも史上最大の記録となっている。但し消費国における生産量が増加したため、世界の貿易量は88/89 年に達した22百万トンに劣る18,7百万トン、期末在庫は、過去5ヶ年間最大の82,6百万トンであった。

表6.5 米：世界の需給バランス

区 分	1986/87	87/88	88/89	89/90	90/91
面積 1,000 ha	145,3	141,6	145,6	146,6	147,1
生産量 100万t	468,5	463,5	488,9	508,1	513,9
反 収 t/ha	3,2	3,3	3,4	3,5	3,5
輸出量 100万t	19,0	17,5	22,2	17,6	18,7
消費量 100万t	474,4	470,4	483,0	496,2	509,2
期末在庫 100万t	75,6	67,0	70,4	80,1	82,6

出所：USDA

前年に比して生産が伸びたのは、世界最大の生産規模を持つ中国とインドにおいて面積が前年並みに維持された上、単位面積当りの収量が中国において3%、インドにおいて1,2%の増加をみたこと、又、ラテン・アメリカ最大の生産国ブラジルにおいて面積の増加と単収の向上が同時に起ったためであった。但しブラジルの単収2,3kg/haは中国の3,9tも大きく下廻るレベルにある。

91/92 農年に対するUSDAの予想は、生産量が509 百万トン、消費量が508 百万トンで期末在庫は、81百万トンへと若干の減少をみる見込みである。世界の貿易量は前年を200 千トン増加するが、世界の生産国間における激しい競争から国際相場は90/91 農年の1 俵 (45kg) 当り\$7,25 から\$6,25 へと落ちる見込みである。ただし1986年の平均価格\$3,87 より、はるかに高い水準である。

世界貿易における米の取引価格は、輸出国における政府の補助政策によって大きく変動するが、中期的には日本の米市場解放に対する米国の圧力も価格に影響を与える要素となろう。

国際間貿易に関するUSDAのデータによると、1990年及び1991年における世界の三大輸入市場は、EC、イラン、及びブラジルであった。この中、ブラジルの輸入についてUSDAは、91年、92年共300～600 千トンと予想している。

世界の輸出に関しては、タイが依然として世界最大の輸出国として地位を保ち、かつ年々輸出量を増加しており、

これに続く米国もコンスタントな輸出を続けているが、従来3位の輸出国であったベトナムの輸出が減少しており、92年にはパキスタンにその位置を譲ることが予想されている。この外最近新しい傾向としては、ウルグアイとアルゼンチンで生産される米がブラジルに大量輸出されているのが観察される。ブラジルと隣接するこの両国では、生産融資面でブラジルよりも有利な条件が得られることから多くのブラジル人が米作に投資しているが、生産コストが低く競争力を持つことやMERCOSUL（南部共同市場）の構成国としての有利な立場からも将来にかけてブラジルとの交易は増大していくものと考えられている。

ハ) 国内市場

89/90 農年の生産は前サルネイ政権末期のハイパー化したインフレ、農業融資資金の減少など不安定な経済情勢の中で植付けられたもので、このような背景を反映した大巾な減産に終り、供給量を減少させたが、その収穫販売期がコーロル政府の発足とぶつかり、新政府の経済政策として行なわれた流通資金の凍結による極度の購買力低下が起った、めに米の需要も落ち、生産の減少にかかわらず価格の上昇をひきおこすことはなかった。サン・パウロ州の場合を例にとると、同州で生産されているアマレロン種の価格は、過去15ヶ年間最低の記録であった。

これに対し、リオ・グランデ・ド・スール州を中心として生産される水稲（アグリニャ種）だけは、年末になって価格が上向きとなったが、すでに年の大半が終っていた、め、その増加率は5%に止まった。水稲においてみられた価格の上昇は、陸稲に比して需要が大きいため供給量が不足し、在庫も少量であった、め輸入米の場合と同様にドルに平行した値動きがあった。

91年始めにかけて上昇した価格も輸入米が必要以上に上がったことや、90/91 農年の収穫が開始されたことなどから、再び下降を開始した。しかし生産者価格の低下は、それ程大きなものではなく、次期アグリニャ種の生産量が再び消費量を下廻ることが予想されたこと、昨年生産者の手を放れたあとに値上りがあった、め、生産者は出来る限り生産物を保留し、債務その他の必要分だけ販売しようとする空気が多くあったことなどから価格は下降してはいたが、6月には過去4年間の各6月と比較して最も高い価格が記録されること、なった。

この間91年6月には米の輸入に対する税率の引き下げ(15%)が行なわれたが、このため輸入米が国産品より安くなるという現象があり、これに対する生産者の抗議によってこの減税措置は中止された。

表66

米：生産者受取価格

月 別	1989	1990	1991
1	10,32	211,75	3.323,21
2	11,25	351,08	3.691,62
3	11,03	471,22	3.655,85
4	12,08	511,42	3.967,19
5	13,74	630,24	4.217,58
6	17,21	716,04	4.372,20
7	19,43	800,77	4.531,67
8	22,07	894,80	4.914,02
9	28,96	1.067,28	6.000,14
10	39,18	1.358,14	8.216,79
11	52,99	1.925,11	9.856,24
12	83,90	2.265,65	

出所：IEA

表67

米：生産者受取価格推移

月 別	1991年8月をベースとした実質価格					CR/60kg
	1987	88	89	90	91	
1	5.751	4.843	5.794	5.016	7.159	
2	4.571	4.491	5.650	4.844	6.565	
3	4.430	4.444	5.314	3.586	6.062	
4	4.074	4.493	5.534	3.496	6.049	
5	3.589	4.756	5.583	3.949	6.037	
6	3.544	5.296	5.516	4.116	5.697	
7	3.812	5.874	5.516	4.074	5.233	
8	4.505	6.136	3.759	4.031	4.914	
9	5.252	6.094	3.550	4.304	—	
10	5.212	6.357	3.438	4.798	—	
11	5.311	6.158	3.223	5.790	—	
12	5.162	6.325	3.400	5.852	—	

出所：IEA

米の需給バランスについては、89/90年、90/91年共、生産量が消費量を下廻ったため、それぞれ800千トン及び700千トンの大型輸入を行なって、なお、期末在庫は過去6ヶ年間で最低の線に落ちている。この次期繰越在庫量（1,686,2千トン）は、約1,5ヶ月分の消費量に相当する量である。

表68

米：国内需給バランス

1,000t

区 分	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90	90/91
期首在庫	122,3	1.763,3	2.571,3	4.013,5	4.495,5	2.253,4
生産量	9.813,0	10.578,0	11.762,2	11.092,0	7.967,6	9.962,8
輸入量	2.074,0	235,0	190,0	200,0	800,3	700,0
供給量計	12.009,3	12.576,3	14.523,5	15.305,5	13.263,4	12.916,2
国内消費量	10.240,0	10.000,0	10.500,0	10.800,0	11.000,0	11.220,0
余剰	1.769,3	2.576,3	4.023,5	4.505,5	2.263,4	1.696,2
輸出品	6,0	5,0	10,0	10,0	10,0	10,0
期末在庫	1.763,3	2.571,3	4.013,5	4.495,5	2.253,4	1.686,2

出所：CONAB

過去5ヶ年間のうち、前年の3年に比して後半の2年間に栽培面積の減少がみられたのは、前述の通り政権の交替時期にあたって不安定な経済環境におかれていたこと、農業政策面では農業融資資金の不足、最低価格と融資残高のコレソン（インフレに合せた調整率）の違いによる支払能力の低下、新政府が設定した新しい最低価格保証制度の中で、従来の全国画一の価格制度を廃し、地域別に異なる価格制度に切替えたが、この新政度により不利な条件に置かれた中西部地方の米作意欲の低下、87/88、88/89年末における大量の国内在庫が市場価格の上昇を押える状況にあったことなどがあげられる。

このような状況の中で生産者収益は極度に低下しており、サン・パウロ州農務局、農業経済研究所（IEA）が発表した91/92農年の生産コスト予想によると、政府が設定した最低価格は生産コストの78%しかカバーしておらず付加価値を鈍らせた理由が明らかとされている。

この他農業融資新設定の基準となるVBC（生産費融資基準額）もIEAのコストをはるかに下廻る線、すなわち、

水稲の場合71%、陸稲で64%に決められ不足分は自己資金又は外部調達を必要としたが、インフレ下における高金利の資金を利用することは、とくに利益率の低い米作にとっては非常に大きなリスクであり、これも作付減少の理由の1つとして加えられる。更にコーロル政府の新しい農業政策として打ち出されたPROAGRO（農業保険制度）の改訂、すなわち従来のPROAGROは政府の農業融資を受けたものが義務的に加入し、融資を受けない者は対象外に置かれていたが、新農業政策では農業融資を受けず自己資金で営農するものもPROAGROを利用出来る制度とし、農業者の安全を図った制度への改訂もその保険額がVBCを限度とするため、災害があった場合保険金で生産コストもカバー出来ないという問題も加えられる。

農業融資残高と最低価格のコレソン（通貨価値修正率）を同一とした新しい制度は、融資の返済能力を維持させる方法として生産者に大きな保証を与えたが、この方法も全般に適用された訳ではなく、小農業者が生産費融資をEGF（販売融資）又はAGF（政府の買上げ）に切替える場合のみ適用されるものであり、米作の主体となる中、大農には適用されていないのでその効果は期待薄である。

以上のような問題はあるとしても小農にとっては、自家食糧として重要な作物であり、又中、大農にとってはすでに生産インフレへ投資を行なっていることから、全面的に放棄することは出来ず、米の栽培は継続されて行こうが、依然として続く不安定な経済情勢下において農業政策の指針も明確に打出されないところから余裕のある供給態勢に持ち込むことは、期待出来る状況にない。

1992年については、次の予想がたてられている。イ) 国内消費量はこ、数年間の平均が維持される。ロ) 輸入は200千トン程度に減少する。ハ) 繰越在庫は、2ヶ月分の消費量を下回る。ニ) 1ヘクタール当りの反収は過去5ヶ年間の平均2トンが得られる。ホ) 給与水準の低下による購買力の減退から蛋白質の需要が減少し、安価な米の需要増加が予想され、米価の昇が期待される。ちなみに最低給料の購買力については1月分の給料で購入出来る量がこ、1年間で(-)25%、1959年と比較すると(-)64%の低下となっている。

表69 米：91/92年生産コスト予想(A)
サン・パウロ州サン・ジョゼ・ドス・カンボス地区、機械耕作 1ha70俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたり CR	1俵あたり CR	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	21.697,00	309,96	8,17
b) 種子	27.550,00	393,57	10,37
c) 肥料	17.822,80	254,61	6,71
d) 農薬	63.032,16	900,46	23,72
e) 機械維持費	61.735,28	881,93	23,24
f) 袋代	35.000,00	500,00	13,17
小計	226.837,23	3.240,53	85,37
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	26.444,43	377,78	9,95
b) 金融費用	12.416,66	177,38	4,67
小計	38.861,09	555,16	14,62
合計	265.698,32	3.795,69	100,00

出所：IEA

表70

米：91/92年生産コスト(B)

サン・パウロ州リベイロン・プレット地区、機械耕作 1ha当り27俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたり CR	1俵あたり CR	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	12.130,00	455,93	9,64
b) 種子	7.980,00	295,56	6,25
c) 肥料	24.250,57	898,17	18,99
d) 農薬	159,52	5,91	0,12
e) 機械維持費	32.146,90	1.190,63	25,17
f) 収穫精集費	16.400,00	607,41	12,84
g) 袋代	16.200,00	600,00	12,68
小計	109.446,99	4.053,59	85,70
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	12.806,82	474,33	10,03
b) 金融費用	5.461,63	202,28	4,28
小計	18.268,45	676,61	14,31
合計	127.715,45	4.730,20	100,00

出所：IEA

3.1.3. フェイジョン

イ) 生産

表71

フェイジョン：1990年の生産実績

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
ミナス・ジェライス	533,1	523,0	293,4	561
サンタ・カタリーナ	432,1	404,3	280,8	695
パラナ	644,3	550,6	279,0	507
サン・パウロ	367,7	367,7	271,8	739
バイア	634,2	592,5	227,2	383
リオ・グランド・ド・ノル	214,9	214,3	140,6	656
ゴヤス	171,4	169,7	112,8	665
ロンドニア	120,8	120,8	73,2	606
エスピリト・サント	94,5	94,5	72,0	762
その他	2.111,5	1.642,7	482,4	294
全国計	5.324,5	4.680,1	2.233,2	477

出所：IBGE

表72

フェイジョン：1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
バイア	756,6	729,5	369,9	507
パラナ	648,0	637,5	352,4	553
ミナス・ジェライス	559,6	551,6	333,2	604
サン・パウロ	336,1	336,1	283,2	843

セアラ	682,3	645,1	208,4	323
サンタ・カタリーナ	420,4	374,8	197,5	527
ゴヤス	174,6	172,0	111,4	648
ピアウイ	295,5	294,2	105,1	357
ベルナンブーコ	392,1	343,5	103,5	301
その他	1,474,9	1,323,5	686,9	519
全国計	5,740,1	5,407,8	2,751,5	509

出所：IBGE

90/91農年のフェイジョン生産は、9月の調査時点で未だ冬期収穫の結果が推定の域を出していないが、農業政策が満足すべきものでなかったにもかかわらず、付付、及び収穫面積、単収のいずれにおいても前年を上回り、過去5ヶ年間は、88年に次ぐ大型の収穫となっている。このような生産の拡大は前年の生産量223万トンが約260万トンと推定される国内消費量に不足し、価格の上昇を期待させる状況にあったためである。

国内の生産分布については、90年と91年に生産量の順位が大きく変化したのが観察される。すなわち、前年1、2位にあったミナス・ジェライス州とサンタ・カタリーナ州に代わってパイア州とパラナ州の生産が伸び、主要生産地であるサンタ・カタリーナ州の生産が極度に減少している。これは、南部地方の長期乾燥の被害に基づくものであった。

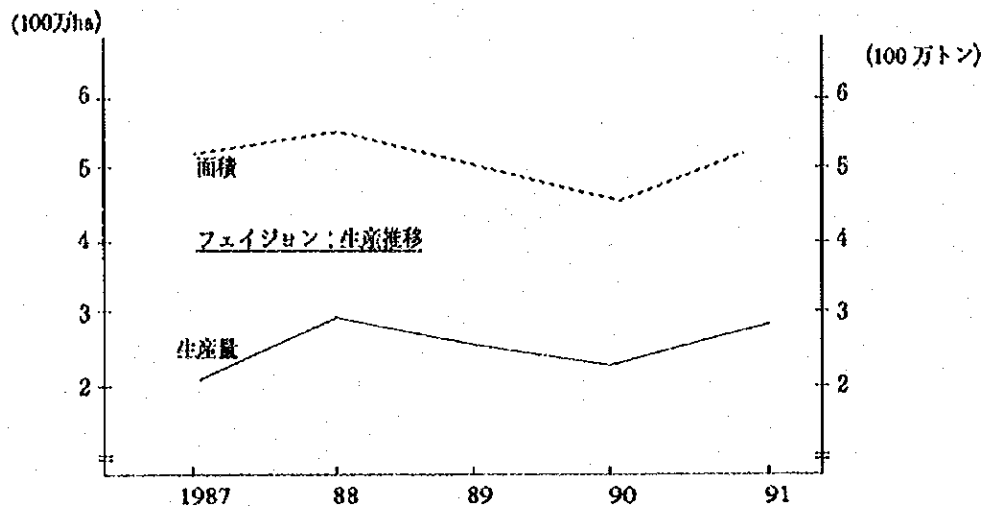


表73 フェイジョン：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パイア	149,7	292,3	192,1	227,2	369,9
パラナ	391,4	441,0	226,1	279,0	352,4
ミナス・ジェライス	268,7	284,8	252,0	293,4	333,2
サン・パウロ	291,5	401,4	319,3	271,8	283,2
セアラ	49,9	206,6	194,4	76,6	208,4
サンタ・カタリーナ	224,4	265,5	268,8	280,8	197,5
その他					
全国計	2,007,2	2,808,6	2,310,5	2,233,1	2,751,5

収穫面積	1,000ha	5,201,8	5,781,2	5,181,0	4,680,1	5,407,8
------	---------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

表74 フェイジョン：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パイア	205	332	312	383	507
パラナ	519	595	430	507	553
ミナス・ジェライス	476	517	484	561	604
サン・パウロ	637	882	884	739	843
セアラ	178	331	783	201	323
サンタ・カタリーナ	665	697	772	695	527
全国平均	386	486	446	477	509

出所：IBGE

ロ) 国内市場及び価格

フェイジョンはブラジル人の基礎食料であり、その価格動向は、国民とくに大多数を占める低所得層の生活費に大きな影響を与えるため、過去数回にわたって行なわれたインフレ対策の中でも常にその消費市場価格が統制されてきた。しかし、消費者を保護するために実施されてきた小売価格の統制は、生産者の収益を圧迫したばかりではなく、低い小売価格を避けるため供給の減少、ヤミ値の横行など、消費者にも被害をもたらしており、統制経済の難しさを示してきた商品でもある。

CONAB（国家供給公社）が最近発表したフェイジョンの需給バランスによると、1990/91年度の供給量は生産量の2,900千トンに前年よりの繰越在庫116千トンは91年6月までに行なわれた輸入40千トンを加えた300万トンに達しているが、この量は、国内供給量としては最大の記録となる。これに良好な条件下で行なわれている東北地方の収穫を加えると、偶発的に起り得る消費の増大にも対応出来る供給態勢である。

表75 フェイジョン：需給バランス 1,000t

区分	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90	90/91
期首在庫	332,0	267,2	106,3	265,3	76,7	116,1
生産量	2,244,8	2,108,0	2,752,0	2,386,4	2,339,9	2,873,8
輸入量	95,0	35,0	10,0	25,0	70,3	40,4
供給量計	2,670,8	2,410,2	2,868,3	2,676,7	2,486,9	3,030,3
消費量	2,400,0	2,300,0	2,600,0	2,600,0	2,370,8	2,582,1
余剰	271,8	110,2	268,3	76,7	116,1	448,2
輸出量	4,6	3,9	3,0	0,0	0,0	0,0
期末在庫	267,2	106,3	265,3	76,7	116,1	448,2

出所：CONAB

1991/92農年に関しては、政府が発表している農業優先の政策にかかわらずフェイジョンを含む、基礎食糧の飛躍的増産は、期待薄の状況にある。より多くの農業生産者に農業融資を利用させようとする政府の方針も融資を受けた生産者がこれを精算するまでに極めて困難な問題が山積みしていることから、実際問題としては簡単なことではない。

生産を刺激する農業政策の中では、最低価格保証制度が非常に重要な役割を占めている。IEA（サン・パウロ州農務局、農業経済研究所）が発表した91/92農年の生産コスト予想によると、1俵（60kg）あたりコストが91年8月

の価格でCR5,866.14 (注:生産性が1,620kg/haの場合)であるのに対し、91/92農年の最低価格はCR9,419.40と定められており、生産刺激する価格となっている。

このような状況に加え、新しい給与政策が設定される場合、フェイジョンの消費増大も予想されるところから、これに応じる生産の増加が期待されている。

表76 フェイジョン:生産者受取価格 CR/60kg

月別	1989	1990	1991
1	30,96	575,22	5,202,70
2	33,94	711,65	6,762,50
3	37,13	1,539,29	7,567,23
4	48,33	1,858,26	10,866,78
5	75,27	2,052,55	15,826,08
6	133,42	2,494,34	15,086,24
7	132,22	2,789,07	13,249,08
8	131,49	2,596,85	11,289,42
9	128,68	2,930,26	13,577,39
10	122,45	3,938,69	17,456,92
11	217,25	4,215,00	16,144,70
12	236,25	4,093,82	

出所: IEA

表77 フェイジョン:91/92年生産コスト予想
サン・パウロ州ソカバ地方1ha当り75俵(60kg)収穫の場合 機械耕作

項目	1haあたり コスト	1俵あたり コスト	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	11,266,88	417,29	7,11
b) 種子	26,450,00	979,63	16,70
c) 肥料石灰	39,496,38	1,462,83	24,94
d) 農薬	20,908,60	774,39	13,20
e) 機械維持費	25,730,60	952,99	16,25
f) 寄せ焼き	9,918,75	367,36	6,26
g) 袋代	8,100,00	300,00	5,11
小計	141,871,21	5,254,49	89,57
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	10,673,85	395,33	6,74
b) 金融費用	5,840,81	216,33	3,69
小計	16,514,66	611,66	10,43
合計	158,385,86	5,866,14	100,00

出所: IEA

3. 1. 4. ソルガム

表78 ソルガム：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオグランデ・ド・スカ	49,8	49,8	97,8	1,964
サン・パウロ	45,7	45,7	94,4	2,064
マト・グロソ	10,5	10,5	10,2	970
パイア	15,1	14,8	9,3	633
ゴヤス	5,5	5,4	8,7	1,616
マト・グロソ・ド・スカ	5,9	5,0	5,2	1,057
ベルナンブーコ	1,0	0,9	0,6	660
その他	1,8	1,3	2,7	2,077
全国計	135,3	133,4	227,9	1,708

出所：IBGE

表79 ソルガム：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	44,3	44,3	92,7	2,090
マト・グロソ	61,1	48,4	64,3	1,330
リオグランデ・ド・スカ	43,1	43,0	63,1	1,467
パイア	20,7	20,7	13,8	669
リオグランデ・ド・ノリ	7,8	7,8	9,4	1,204
ゴヤス	4,8	4,8	9,1	1,918
マト・グロソ・ド・スカ	1,0	0,9	1,1	1,317
その他	1,4	1,2	1,9	1,583
全国計	184,2	171,1	255,4	1,493

出所：IBGE

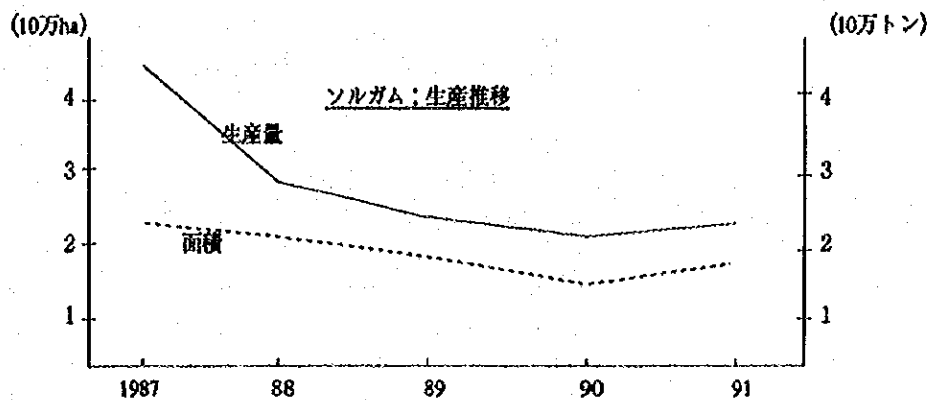


表80 ソルガム：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	80,6	67,4	83,9	94,4	92,7

マツト・グロツソ	27,4	25,1	18,7	10,2	64,3
リオ・グランド・スカ	256,6	94,5	75,9	97,8	63,1
パイア	10,3	7,0	11,6	9,3	13,8
その他	63,5	108,0	51,0	16,2	21,5
全国計	438,4	302,0	241,1	227,9	255,4
収穫面積 1.000ha	230,7	195,4	164,6	133,4	171,1

出所：IBGE

表81

ソルガム：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	2.371	2.200	2.155	2.064	2.090
マツト・グロツソ	1.435	1.202	1.261	970	1.330
リオ・グランド・スカ	1.988	1.596	1.650	1.964	1.467
パイア	786	757	385	633	669
全国平均	1.900	1.545	1.465	1.708	1.493

出所：IBGE

3. 1. 5. 小麦

イ) 生産

表82

小麦：1990年の生産実績

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
パラナ	1.826,6	1.197,1	1.394,1	1.164
リオ・グランド・スカ	988,2	988,2	1.168,6	1.183
マツト・グロツソ	221,6	184,4	204,0	1.106
サン・パウロ	200,0	200,0	203,0	1.015
サンタ・カタリーナ	108,1	105,5	108,3	1.026
ミナス・ジェライス	5,2	5,1	14,6	2.874
その他	0,6	0,6	0,9	1.500
全国計	3.350,3	2.680,9	3.093,5	1.154

出所：IBGE

表83

小麦：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
パラナ	1.185,0	1.185,0	2.014,5	1.700
リオ・グランド・スカ	623,8	619,1	817,1	1.320
マツト・グロツソ	114,0	113,2	158,4	1.400
サン・パウロ	98,1	98,2	141,8	1.445
サンタ・カタリーナ	76,0	75,5	96,2	1.274
ミナス・ジェライス	3,4	3,4	11,0	3.231
その他	0,4	0,4	0,5	1.250
全国計	2.100,7	2.094,8	3.239,5	1.546

出所：IBGE

ブラジルの小麦生産は、87年より89年にかけて550万～600万トンの規模に達し自給態勢にあと一歩というところまで到達していたが、90年には再び300万トン台に逆行し、91年も324万トン程度の低い生産量に止まった。91年の生産量については、CONAB（国家供給公社）では、350万トンまでいくのではないかと希望的な観測であったが、業界団体のABITRIGO（全国小麦工業協会）やFECOTRIGO（リオ・グランデ・ド・スール州小麦及び大豆生産者組合連合会）が予想していた330万トン止りとの見方が当てっており、減産に伴う国内供給力の低下は、必然的に大量の輸入を余儀なくしている。

このような生産の大巾な減少は、90年以降新政府による小麦取引の民間移行に関連しており、民間移行に伴う生産者収益の保証が薄れたことから、作付けを控えたあとが伺われる。政府の明確な農業政策とりわけ小麦政策の不在による結果であると批判するものもある。業界代表の意見としては、政府がVBC（生産者融資基準額）を現実に沿った線で設定し、植付資金を十分準備し、適切な最低価格を設定しない限り生産の復活は困難であろうとしている。

91年の場合は、農業融資々金の不足から肥料や農薬の使用度が低下し、これが全般な生産減少の理由を作ったが、パラナ州だけは、天候に恵まれたことから、前年を大巾に上回る生産を行なったもの、87年～89年のレベルには戻っていない。このパラナ州でも生産者の40%が肥料を用いず、80%が追肥を行っていないといわれており、若しこれを行なうだけの資金準備があれば、生産量は、はるかに大きなものであったろうと推定されている。

パラナ州と並び国内最大の小麦生産地帯を持つリオ・グランデ・ド・スール州では、前年を(-)30%下回る817千トンの生産に止まっているが、こゝでも生産資材使用の減少があったほか、7月末の降霜と8月の乾燥が被害を大きくした理由であった。

表84 小麦：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	3,252.7	3,250.0	3,100.0	1,394.1	2,014.5
リオ・グランデ・スル	1,783.4	1,403.3	1,174.1	1,168.4	817.1
マト・グロソ・スル	498.7	410.2	360.6	204.0	158.4
サン・パウロ	319.8	358.1	355.8	203.0	141.8
サンタ・カタリーナ	160.1	89.3	115.2	108.3	96.2
その他	19.9	227.1	447.1	15.5	11.5
全国計	6,034.6	5,738.0	5,552.8	3,093.5	3,239.5

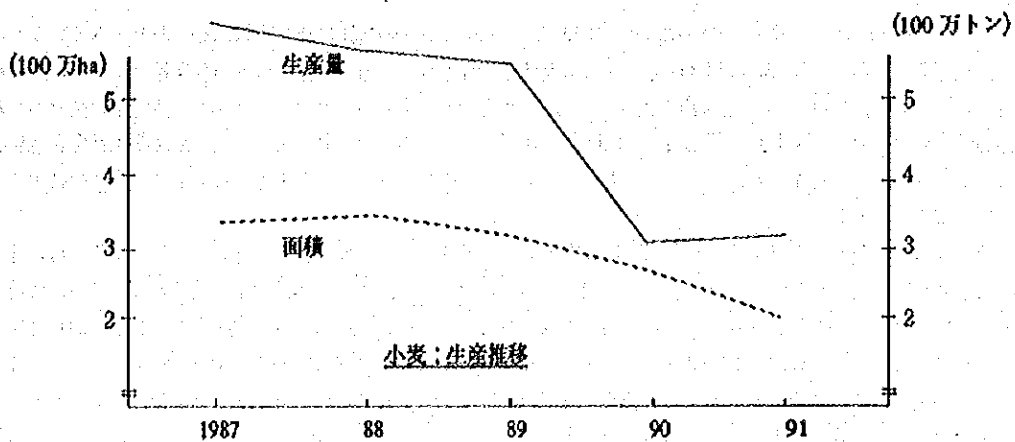
収穫面積 1,000ha	3,455.9	3,467.6	3,281.4	2,680.9	2,094.8
--------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

表85 小麦：主要生産地の収取 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	1,894	1,831	1,610	1,164	1,700
リオ・グランデ・スル	1,786	1,386	1,548	1,183	1,320
マト・グロソ・スル	1,172	1,191	1,138	1,106	1,400
サン・パウロ	1,776	1,847	1,622	1,015	1,445
サンタ・カタリーナ	1,283	895	1,200	1,026	1,274
全国平均	1,745	1,655	1,692	1,154	1,546

出所：IBGE



ロ) 国際市場

USDAのデータによると91/92農年に対する小麦の世界生産は、下降気味であり、価格の上昇が予想されている。これは主に米国における減反政策、旧ソ連における生産資材利用の減少を理由としており、予想される570万トンの生産量に対し世界の消費量が前年の570百万トンより575百万トンに増加する見込みのため、小麦の国際相場は、91年5月のトンあたり\$120,-より92年6月には\$135,-へと上昇する可能性がある。

米国、旧ソ連に限らず、90/91農年における生産者受取価格が低かったことから各生産国において作付の減少が予想されている。大型生産国の中国では、作付面積の減少を阻止するため各種の措置が採られているが大きな効果はない模様である。

EC諸国では、生産者を国際価格の変動より保護するためMINIMUM GUARANTEED QUANTITY (MQQ)制度を設け、ECの総生産が160百万トンを超える時に最低保証価格を引下げる措置を採っているが、USDAの推定では91/92農年に価格の引下げは起らないだろうとみている。カナダ及びオーストラリアの生産も前年の低価格が影響して減少する見込みであり、アルゼンチンでも生産者価格が低かった他、輸出税を再び設定する動きもあるため、栽培面積の増加は考えられていない。

このような国際市場の動きは、ブラジルにとって好ましいものではなく、国内生産が低調な折から、前年並みの輸入を行なうとして6億ドル以上の支出を余儀なくすることとなる。

ハ) 生産コスト

サン・パウロ農務局農業経済研究所が作成した91/92農年コスト予想は、次表の通りである。

表86 小麦：91/92農年生産コスト予想
サン・パウロ州アシス地区1haあたり27俵(60kg)収穫の場合

項目	1haあたり CR	1俵あたり CR	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	1,981.58	73.39	4.20
b) 種子	11,383.00	421.60	24.11
c) 石灰	3,335.00	123.52	7.06
d) 肥料	6,956.25	257.64	14.73
e) 農薬	10,921.97	404.52	23.14
f) 機械維持費	7,684.50	284.61	16.28
小計	42,262.50	1,565.28	89.52

B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	3,467,70	128,43	7,35
b) 金融費用	1,479,19	54,78	3,13
小計	4,946,89	183,21	10,48
合計	47,209,39	1,748,50	100,00

出所：IEA

3. 1. 6. 大麦

表87 大麦：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオ・グランデ・ド・スル	71,5	53,3	98,7	88,8	110,1
パラナ	92,0	47,5	80,0	50,8	45,1
サンタ・カタリーナ	33,3	22,8	45,7	17,7	14,3
全国計	196,8	125,5	248,2	157,4	169,5

収穫面積 1,000 ha	102,2	102,0	113,4	105,1	96,6
---------------	-------	-------	-------	-------	------

出所：IBGE

表88 大麦：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオ・グランデ・ド・スル	1,690	1,336	1,774	1,394	1,626
パラナ	2,260	1,079	2,000	1,802	2,200
サンタ・カタリーナ	1,734	1,162	1,891	1,346	1,704
全国平均	1,925	1,231	2,188	1,498	1,923

出所：IBGE

表89 大麦：1990年の生産実績

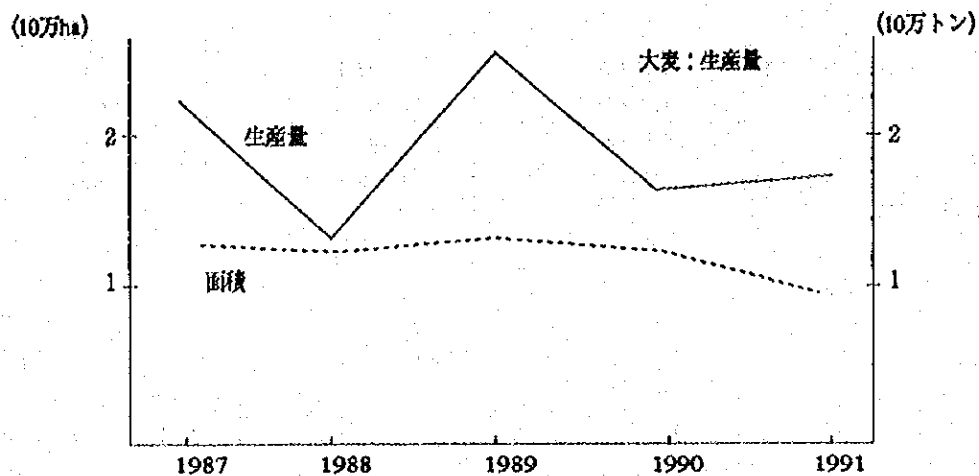
州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スル	63,7	63,7	88,8	1,394
パラナ	28,2	28,2	50,8	1,802
サンタ・カタリーナ	13,1	13,1	17,7	1,346
全国計	105,1	105,1	157,4	1,496

出所：IBGE

表90 大麦：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スル	67,7	67,7	110,1	1,626
パラナ	20,5	20,5	45,1	2,200
サンタ・カタリーナ	8,4	8,4	14,3	1,704
全国計	96,6	96,6	169,5	1,923

出所：IBGE



3. 1. 7. からす麦

表9 1 からす麦：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオグランデ・ドスル	150,3	147,8	127,6	86,4
パラナ	36,5	31,5	34,3	1,088
サンタ・カタリーナ	9,8	9,6	12,3	1,283
全 国 計	196,5	188,9	174,2	922

出所：IBGE

表9 2 からす麦：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオグランデ・ドスル	185,0	185,0	204,4	1,105
パラナ	50,0	50,0	75,0	1,500
サンタ・カタリーナ	13,6	13,6	17,3	1,270
全 国 計	248,4	244,7	277,5	1,134

出所：IBGE

表9 3 からす麦：過去5ヶ年間生産推移 1,000t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
リオグランデ・ドスル	96,6	93,0	162,4	127,6	204,4
パラナ	48,0	27,7	54,4	34,3	75,0
サンタ・カタリーナ	21,2	8,0	22,6	12,3	17,3
全 国 計	176,0	139,4	253,9	174,2	277,5

収穫面積 1,000ha	141,1	127,8	203,8	188,9	244,7
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

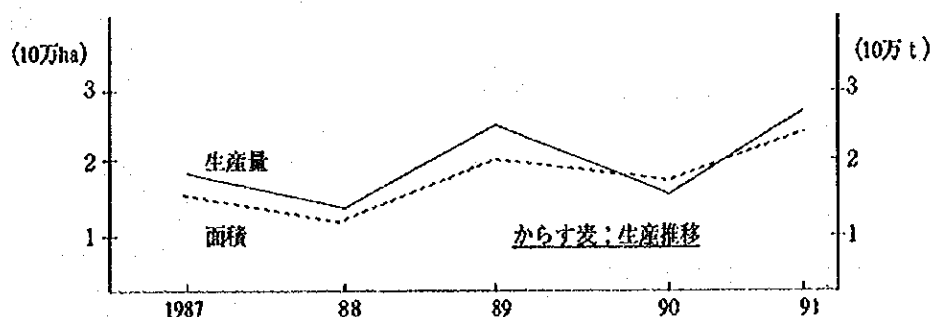
表94

からす麦：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオ・グランド・スル	897	1,117	1,159	864	1,105
パラナ	1,448	1,320	1,700	1,088	1,500
サンタ・カタリーナ	1,296	793	1,200	1,283	1,270
全国計	1,247	1,091	1,158	922	1,134

出所：IBGE



3. 1. 8. ライ麦

表95

ライ麦：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランド・スル	2,4	2,4	3,0	1,224
パラナ	1,7	1,7	1,4	791
サンタ・カタリーナ	0,3	0,3	0,2	846
全国計	4,4	4,4	4,5	1,032

出所：IBGE

表96

ライ麦：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	2,7	2,7	3,7	1,400
リオ・グランド・スル	2,1	2,1	3,2	1,493
サンタ・カタリーナ	0,1	0,1	0,1	857
全国計	4,9	4,9	7,0	1,425

出所：IBGE

表97

ライ麦：過去5ヶ年間の生産推移

1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	3,2	1,5	3,1	1,4	3,7
リオ・グランド・スル	0,5	0,5	2,1	3,0	3,2
サンタ・カタリーナ	0,4	0,3	0,6	0,2	0,1
全国計	4,1	2,3	4,0	4,5	7,0

収穫面積 1,000ha	3,0	2,3	3,9	4,4	4,9
--------------	-----	-----	-----	-----	-----

出所：IBGE

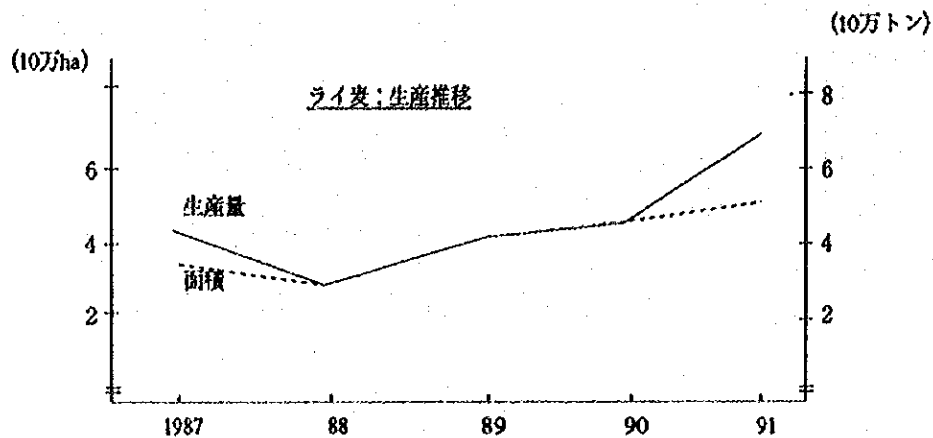
表98

ライ麦：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	1.449	1.007	1.400	1.224	1.400
リオ・グランデ・ド・スル	1.056	1.022	1.384	791	1.493
サンタ・カタリーナ	1.130	1.363	1.516	846	857
全国平均	1.348	1.004	1.043	1.032	1.425

出所：IBGE



3. 2. 油糧原料作物

3. 2. 1. 大豆

イ) 生産

表99

大豆：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スル	3,521.5	3,516.0	6,313.5	1,796
パラナ	2,269.6	2,267.6	4,649.8	2,050
マット・グロソン	1,552.9	1,527.8	3,064.7	2,006
マト・グロソ・ド・スル	1,286.4	1,256.5	2,038.6	1,622
ゴヤス	1,001.7	972.4	1,258.4	1,294
サン・パウロ	561.2	561.2	937.2	1,670
ミナス・ジェライス	569.1	558.4	748.8	1,341
サンタ・カタリーナ	370.0	366.1	537.4	1,468
バイア	360.0	360.0	220.4	612
ブラジリア	53.5	53.5	79.6	1,487
その他	38.8	31.6	39.2	1,241
全国計	11,594.7	11,481.1	19,887.6	1,732

出所：IBGE

表100

大豆：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	1,930,0	1,930,0	3,490,0	1,808
マット・グロソ	1,118,8	1,111,5	2,628,9	2,365
リオ・グランデ・ド・スル	3,132,1	3,116,6	2,220,5	712
マト・グロソ・ド・スル	1,072,0	1,064,8	2,017,7	1,895
ゴヤス	800,8	797,7	1,661,3	2,082
ミナス・ジェライス	474,9	474,9	976,8	2,057
サン・パウロ	500,0	500,0	967,5	1,935
パイア	210,0	210,0	441,0	2,100
サンタ・カタリーナ	267,9	261,7	249,5	953
ブラジリア	43,1	43,1	101,2	2,348
その他	9,0	9,0	16,9	1,878
全国計	9,558,6	9,519,3	14,771,3	1,552

出所：IBGE

IBGEのデータによると89/90農年の大豆生産量は、19,9百万トンで前年に達した史上最大の収穫量24,0百万トン(-)17,2%落すものであった。この生産減少は、作付に対する融資の不足から、その面積が(-)6%減少したに加え、単位面積当りの収益が前年に達した1,971kg/haより、1,732kgへと大きく低下したためであった。反収の低下は、生産資材使用の減少と天候不順によるものであった。

このような低調な生産実績は90/91年にいたって更に悪化し、その収穫量は前年比(-)27%、88/89年と比較すると実に(-)61%の落ち込みで14,8百万トンに止まった。

このような生産の低下は、前年を通じた国内外価格の低迷と公共融資の不足、生産者資本の極度の減少に基づくもので作付能力が落ちていたところに加え、作付時点で将来の市場が好転する見通しがなく他の作物、とくにとうもろこしへの切換えが行なわれたこと、更に生育期の後半に国内生産の半分を占める南部地方が、長期乾熱の被害によって単位面積当りの収量を極度に落したためであった。

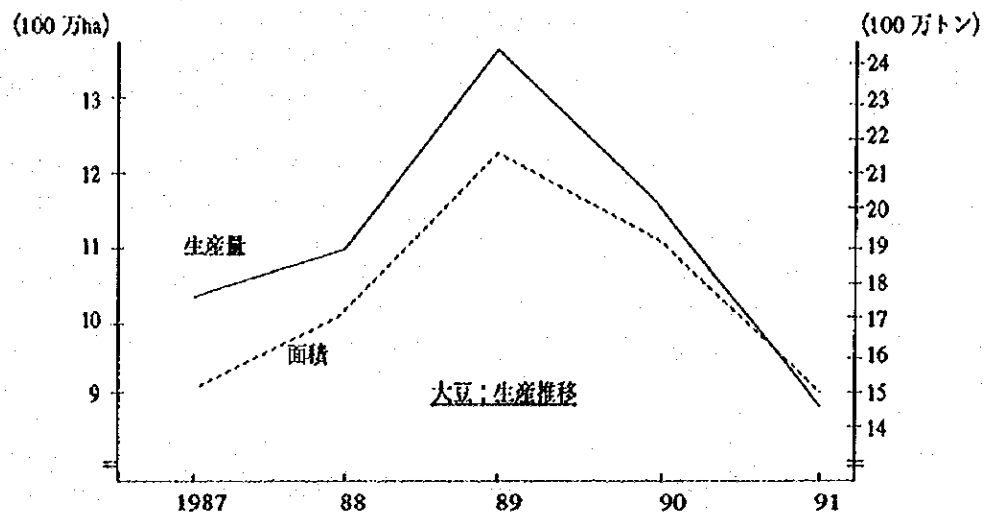


表101 大豆：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	3,810,0	4,800,0	5,060,0	4,649,8	3,490,0
マット・グロソ	2,389,0	2,694,7	3,795,4	3,064,7	2,628,9
リオ・グランデ・ド・スカ	4,995,2	3,631,3	6,296,3	6,313,5	2,220,5
マト・グロソ・ド・スカ	2,283,9	2,480,5	2,845,8	2,038,6	2,017,7
ゴヤス	1,064,7	1,498,0	2,155,8	1,258,4	1,661,3
ミナス・ジェライス				748,8	976,8
その他				1,813,8	1,776,1
全国計	16,968,0	18,016,2	24,071,4	19,887,6	14,771,3

収穫面積 1,000ha	9,134,3	10,520,0	12,211,2	11,481,1	9,519,3
--------------	---------	----------	----------	----------	---------

出所：IBGE

表102 大豆：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	2,270	2,270	2,106	2,050	1,808
マット・グロソ	2,178	2,043	2,228	2,006	2,365
リオ・グランデ・ド・スカ	1,582	1,057	1,716	1,796	712
マト・グロソ・ド・スカ	1,984	2,109	2,191	1,622	1,895
ゴヤス	1,752	1,937	2,057	1,294	2,082
ミナス・ジェライス				1,341	2,057
全国平均	1,858	1,713	1,971	1,732	1,552

出所：IBGE

ii) 国際市場とブラジルの輸出

IEA (サン・パウロ州農務局農業経済研究所) がOIL WORLD WEEKLYのデータとして発表したところによると90/91農年における10大脂原料作物の世界生産量は、前年比1,6%増の215,2百万トン、又、この生産量に前年よりの繰越在庫28,5百万トンを加えた世界の供給量は、前年を1,7%上回る243,7百万トンと推定されている。

これに対する90/91農年の世界消費量も又、前年を2,5%増加する216,3百万トンに達したため、供給量の増加分が相殺された他、期末在庫量をも減少させることになった。

91/92農年の見通しについては、供給量が90/91年度をわずかながら1%増加する245,5百万トンに達する予想がたてられている。主要作物の中では、前年に比してオイルパーム (8,6%)、落花生油 (4,2%)、綿実油 (3,9%)、菜種油 (3,8%)、大豆油 (1,2%) 等の増産が見込まれている。

この世界供給量は、世界最大の大豆生産地帯である米国が開花期に乾燥の被害を受け、同国の主要生産地帯で反収の減少があったため、当初の予想を大巾に下回る結果となった。

91/92農年における世界の消費量は218,1百万トンで生産量と全く同一であり、期末在庫も又前年と同等の27,4百万トンと予想されている。

表103 10大油脂作物の世界需給 100万トン

区分	1988/89	1989/90	1990/91	1991/92*
期首在庫	27,4	27,7	28,5	27,4
世界生産量	202,3	211,9	215,2	218,1

供給総量	229,7	239,6	243,7	245,5
世界消費量	202,0	211,1	216,3	218,1
期末在庫	27,7	28,5	27,4	27,4

出所：OIL WORLD WEEKLY *予想

このような需給関係のもとで、89年下半年以降国際相場の変動は少なく、ロッテルダムCIF価格でトン当り、\$250、前後の価格が継続している。今後の相場変動は、世界の生産と需要動向によって決定されていくが生産面では、世界最大のシェアを持つ米国の動向が大きく影響する。米国の生産については、USDAが91年8月に行なった調査では、50,9百万トンと推定されており、前年を(-)2,7%下回る予想のため、これまでの安定した価格に変化を与える要素となるものと考えられている。

このような情勢下でUSDAでは、91/92農年における米国の生産者受取価格をブッセル当り\$4,85 から\$6,85 の間で前後するものと予想している。

他方需要面では、91年上半年期に大豆及び副産物取引きの減少を引き起こした世界経済活動の後退もわずかながらの回復をみていることから、大豆及び副産物への需要も次第に高まってくるものと思われる。又、ソ連の解体と新体制への移行が政治的に大きな混乱もなく行なわれたことは、新体制の食糧買付けに対する米国、EC及び日本等よりの資金融資を早期に実現させるものと考えられ、これが食糧需要とりわけ旧ソ連が大型の消費を行なってきた大豆及び副産物の需要を増大させ価格に影響を与えるものと予想される。

91年の下半期における相場が魅力的なものとなる場合、南米諸国とくにブラジルの作付けを刺激し需給の均衡が図られていくこととなる。

表104 大豆(豆)の国際相場(CIFロッテルダム) us\$/t

月別	1987	1988	1989	1990	1991
1	200	254	318	242	239
2	198	254	307	240	241
3	199	257	313	242	244
4	207	270	297	247	245
5	221	285	297	259	241
6	228	253	291	249	241
7	222	351	272	252	229
8	215	342	236	250	...
9	214	337	237	250	...
10	217	313	238	248	...
11	228	313	246	239	...
12	240	313	248	244	...

出所：OIL WORLD WEEKLY

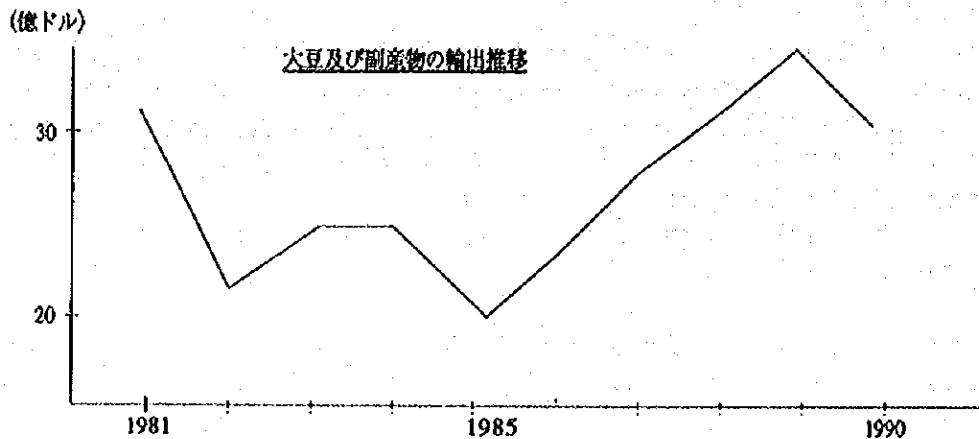
(ブラジル大豆及び副産物輸出)

表105 大豆及び副産物の輸出実績 100万ドル

年度	大豆(豆)	大豆粕	大豆油	計
1981	404	2.163	545	3.112
82	123	1.668	379	2.170
83	309	1.793	461	2.563

84	454	1,460	651	2,565
85	363	1,175	602	2,140
86	243	1,198	138	1,579
87	570	1,450	304	2,324
88	728	1,892	294	2,914
89	1,138	1,950	395	3,483
90	910	1,610	321	2,841

出所：CACEX、DECEX



1990年度における大豆及び副産物の輸出は、原料生産の減少を反映して大豆(豆)、大豆粕及び大豆油のすべてにおいて重量、金額とも前年比減少を記録した。但し、90年の国内情勢が製品輸出にとって決して恵まれた環境ではなく、とくにコーロル政権への移行後、長期にわたって継続した為替レートにおけるクルゼイロの過大評価は、輸出を困難としたものであるが、このような状況下での実績としては良好な成果であったといえる。大豆及び副産物の輸出総額も前2年には劣るものの、80年代を通じると81、88及び89年に次ぐ4位の輸出額で平均額を上廻るものであった。

大豆及び副産物の輸出先市場には大きな変化はなく、大豆(豆)においてオランダ、日本、スペイン、イタリー、大豆粕では、オランダ、フランス、スペイン、イタリーと前年と同様の輸出先国が上位を占めているが、大豆油のみは、米国の輸入が減少し、中国の大量の買付けを行っており、これまでとや、異なった市場構成となっている。

DECEX (外国貿易局) のデータによると大豆及び副産物の輸出実績は下表の通りである。

表106 大豆(豆)の輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均価格 US\$/t
1981	1,450	404	279
82	500	123	246
83	1,295	309	239
84	1,561	454	291
85	3,491	763	218
86	1,200	243	202
87	3,024	570	188

88	2,577	728	280
89	4,618	1,154	249
90	4,077	910	223

出所：CACEX、DECEX

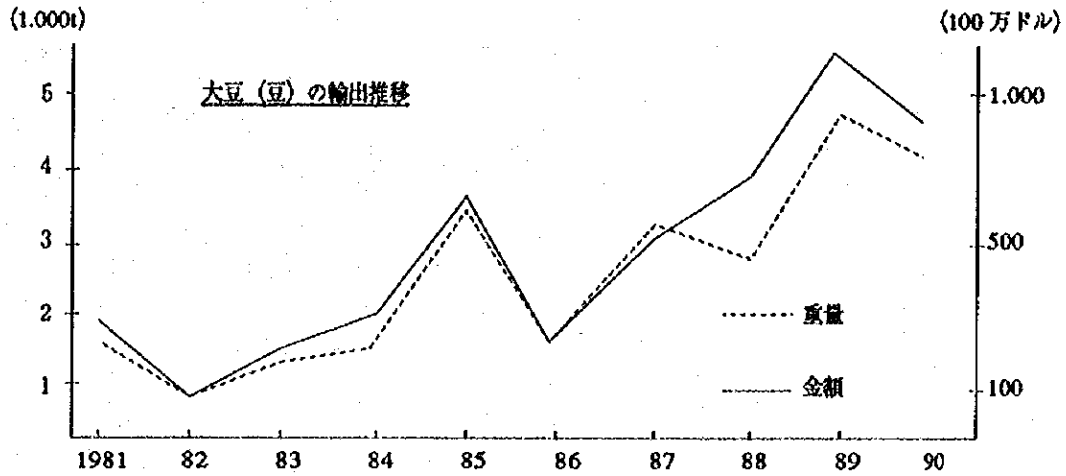


表107 大豆(豆)の輸出先市場(1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万ドル
オランダ	1,488.7	331.0
日本	733.8	164.6
スペイン	488.1	109.3
イタリア	266.6	57.9
ベルギー	225.5	50.7
西独	189.5	42.1
フランス	134.2	30.7
韓国	111.6	24.7
ルーマニア	96.0	21.4
スイス	74.7	17.2
その他	268.6	60.4
計	4,077.3	910.0

出所：DECEX

表108 大豆粕の輸出推移

年度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価 US\$/t
1981	8,886	2,176	240
82	7,954	1,668	210
83	8,493	1,793	211
84	7,587	1,460	192
85	9,588	1,175	123
86	6,666	1,198	180

87	7.802	1.450	186
88	8.129	2.023	249
89	9.871	2.136	216
90	8.744	1.610	184

出所：CACEX、DECEX

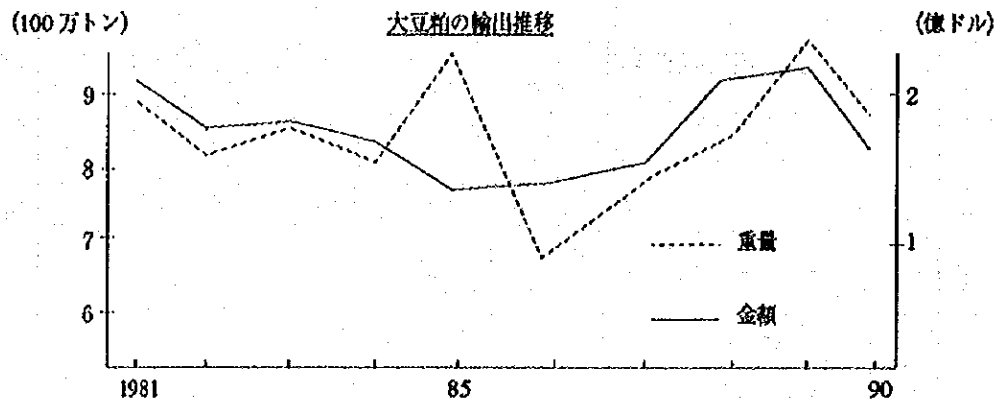


表109

大豆粕の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万ドル
オランダ	1,831.8	344.1
フランス	1,604.8	302.3
イタリア	1,134.1	207.4
スペイン	1,077.5	192.6
ハンガリー	744.2	138.0
ベルギー	546.6	101.6
西独	500.5	88.3
チェコスロバキア	196.8	34.0
ユーゴスラビア	177.0	31.0
南アフリカ連邦	107.9	20.2
その他	823.3	151.0
計	8,744.5	1,610.5

出所：DECOP

表110

大豆油(粗油)の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万ドル
中国	293.5	122.0
イラン	178.0	74.5
バングラデシュ	78.0	32.7
ソ連	46.9	19.6
オランダ	25.6	10.7
シンガポール	22.8	9.6
ベネズエラ	17.8	7.3

ドミニカ	12,9	5,1
マレー	11,9	4,8
米国	11,0	4,7
その他	33,5	30,4
計	771,9	321,4

出所：DECEX

ハ) 国内市場

国内生産の減少に由来する供給量の低下により、中央・南部地方の各州における生産者受取価格は、91年の上半期中前年同期と比較して実質的に10～29%の上昇があった。この価格動向は、次の理由により実質価格が落ちるとみていた予想をくつがえしたものである。

a) 3月にUSDAが発表した米国の91/92農年作付意向調査の結果では、57,1百万エーカーとなっていたが6月に行なわれた再調査では59,8百万エーカーとなり、前年を3,5%増加することが明らかとされ、これを中心とした世界供給量の増加が予想された。

b) 主要消費国であるソ連が政治上、経済上の理由で買付け中止したため、91/92農年における世界の需要が減少する見込みがあったほか、ソ連に対する米国の穀類輸出に対する融資も未決定のままであった。又ヨーロッパ通貨及び円に対するドル高が大豆及び副産物の消費を抑えた。

このような情勢下で国内価格が上昇したのは、在庫量が減少していたのに加え90/91農年の不作から国内の供給量が減少し、供給の不順を見越して生産者が出荷を控えて手許に保留し供給量を更に減少したためであった。このようにして上昇した生産者価格の上昇は、過去2年間の不況によって資本を減少した大豆生産者にとって有利な情勢ではあったが、この価格の上昇自体不作によってもたらされたものであり、生産者全体に利益を与えたわけではない。

生産者による収穫物の売控えは、これを原料として使用する工場や輸出部門にとって原料入手の困難を招いたほか、91年2月1日に実施された第Ⅱコーロル・プランの中で大豆油の消費価格が統制されたことから工場側のマージンが圧迫され、さらに高金利政策のもとで在庫を形成することが、コストを上昇させる状況下にあったことから工場側も買付けを出来る限り先に伸ばす戦略を持ってこれに対応した。後日大豆油の消費者価格が調整されたことや、輸出契約の履行などのために下半期に入って買付けは再び増加した。

表111

大豆：生産者受取価格

CR/60kg

月別	1989	1990	1991
1	13,57	179,70	1.775,31
2	14,15	261,11	2.222,89
3	13,95	414,27	2.309,58
4	14,03	468,83	2.511,60
5	14,64	551,49	2.693,30
6	14,62	562,86	2.869,65
7	20,03	663,17	3.006,00
8	20,87	724,81	3.757,61
9	21,78	746,83	4.806,93
10	44,48	945,10	7.018,79
11	64,09	1.253,62	7.471,47
12	101,23	1.441,41	

出所：IEA

表112

大豆：生産者受取価格（実質価格）推移

CR/60kg

月別	リオ・グランデ・ド・スール州			サン・パウロ州		
	1989	1990	1991	1989	1990	1991
1	6.126	2.794	3.012	6.598	3.686	3.310
2	5.740	2.287	3.303	6.153	3.120	3.420
3	5.507	2.566	3.528	5.820	2.730	3.316
4	5.475	2.429	3.326	5.566	2.775	3.338
6	5.277	2.712	3.407	5.151	2.993	3.237
6	4.330	2.515	3.204	4.058	3.802	3.006
7	3.865	2.617	...	4.032	2.922	...
8	3.097	2.720	...	3.078	2.828	...
9	3.567	2.418	...	3.374	2.608	...
10	3.420	2.665	...	3.380	2.891	...
11	3.255	3.376	3.265	...
12	3.343	3.341	...	3.569	3.223	...

出所：IEA

国家供給公社が発表した大豆の需給バランスによると91/92（91年2月～92年1月）農年における大豆の国内供給量は、91年2月1日現在前年より繰越されたストックの794.5千に大巾な減産をみた14.6百万トンの生産量と500千トンの輸入品を加えた15.8百万トンと推定されている。

大豆及び副産物の輸出については大豆（豆）において1.8百万トン、大豆粕が6.9百万トン、大豆油で400千トンと予想されているが、これは90年の輸出実績と比較してそれぞれ(-)53.8%、(-)22.5%及び(-)54.5%の大巾な減少となる。

91/92農年における消費量、すなわち搾油原料として処理される大豆の量は13.6百万トンの予定で、これ又前年を(-)19.5%と大きく減少する見込みが立てられている。又、大豆粕の国内消費量は前年を44%上回る3.1百万トンの予想である。これは91年中に牛肉価格が上昇したのと消費者の購買力低下により鶏肉、豚肉への需要転換があったことから養鶏、養豚活動が活発化しそれに伴う飼料需料が増加し大豆粕の買付けを促しているためである。大豆油の国内消費量も91/92年には人口の増加に応じ2.6百万トンに達するものと予想されている。

大豆及び副産物の輸出減少見込みにかかわらず、90/91農年の期末在庫に446.5千トンの見積られている。この量は過去2年と比較して非常に低いものであり、以後の価格動向に大きな影響を与える要素となる。このため、92年当初より次期収穫物の販売が開始されるまでの間、価格の上昇を予想させるものがある。

このような状況は、米国生産の減産予想の前に上昇した91年下半期の国際価格動向と共に次期作付に対するある程度の刺激剤とはなる。

表113

大豆：需給バランス

1,000t

項目	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90	90/91
基準月日	86年2月1日	87年2月1日	88年2月1日	89年2月1日	90年2月1日	91年2月1日
期首在庫	849,0	783,0	442,0	475,0	1.493,2	794,5
生産量	13.997,0	17.072,0	18.127,0	23.929,0	20.101,3	14.552,0
輸入量	340,0	450,0	62,0	63,0	0,0	500,0
供給量計	15.186,0	18.305,0	18.631,0	24.467,0	21.594,5	15.846,5
消費量	13.210,0	14.860,0	15.545,0	18.389,0	16.900,0	13.600,0
余剰	1.976,0	3.445,0	3.086,0	6.078,2	4.694,5	2.246,5

輸出量	1,193,0	3,003,0	2,611,0	4,585,0	3,900,0	1,800,0
期末在庫	783,0	442,0	475,0	1,493,2	794,5	446,5

出所：CNA

IEA (サン・パウロ州農務局、農業経済研究所) が91年3月に発表した91/92農年の生産コスト予想によると1俵 (60kg入) あたりのコストは同州リベイロン・プレット地方においてCR2,598,28、又マリリア地方でCR2,315,54となっている。これに対し政府が設定している最低保証価格のCR2,761,20は、これらのコストに対しそれぞれ106,3%及び119,3%の割合であり、最低価格がコストをカバーしてなお、若干の生産者収益を出す余裕を持つ形となっており、大豆の最低価格が満足すべき線で設定されていることが示されている。但し以後収穫までのコストがどのように変動していくか、これに対する最低価格の調整率がそれに平行していくか否か大きな疑問として残されている。

表114 大豆：91/92農年の生産コスト予想 (A)
サン・パウロ州リベイロン・プレット地区 1haあたり35俵 (60kg) 収穫の場合機械化耕作

項目	1haあたり コスト	1俵あたり コスト	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	7,040,00	201,14	7,74
b) 種子	10,606,50	303,04	11,66
c) 肥料・石灰	21,952,60	627,22	24,14
d) 農薬	7,574,37	216,41	8,33
e) 機械維持費	27,504,94	785,86	30,25
f) 運搬費	2,450,00	70,00	2,69
小計	77,128,41	2,203,67	84,81
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	11,550,61	330,02	12,70
b) 金融費用	2,260,88	64,60	2,49
小計	13,811,49	394,62	15,19
合計	90,939,89	2,598,28	100,00

出所：IEA

表115 大豆：91/92農年の生産コスト予想 (B)
サン・パウロ州マリリア地区、1haあたり35俵 (60kg) 収穫の場合機械化耕作

項目	1haあたり コスト	1俵あたり コスト	構成比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	5,113,00	146,10	6,31
b) 種子	9,000,00	257,14	11,11
c) 肥料・石灰	19,080,00	545,14	23,55
d) 農薬	11,701,00	334,31	14,44
e) 機械維持費	22,206,84	634,48	27,41
小計	67,101,50	1,917,19	82,83
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	10,126,91	289,34	12,50
b) 金融費用	3,780,65	108,02	4,67
小計	13,907,56	397,36	17,17

合 計	81,009,06	2,314,54	100,00
-----	-----------	----------	--------

出所：IEA

3. 2. 2. 落花生

表116 落花生：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	68,5	68,5	121,3	1,771
リオグランデ・ド・ノル	5,1	5,1	5,8	1,137
パラナ	2,4	2,4	3,5	1,458
パイア	2,5	2,4	2,6	1,083
セルジッペ	1,1	1,1	1,2	1,091
パライーバ	1,4	1,1	1,1	1,000
その他	1,9	2,0	1,6	800
全 国 計	82,9	82,6	137,1	1,660

表117 落花生：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	73,8	73,8	123,8	1,678
リオグランデ・ド・ノル	5,0	5,0	4,3	867
パイア	3,1	3,1	3,7	1,206
パラナ	2,4	2,4	3,1	1,291
セルジッペ	1,3	1,3	1,4	1,102
セアラ	1,2	1,2	1,2	1,031
その他	2,2	2,1	2,1	1,143
全 国 計	89,0	88,9	139,6	1,570

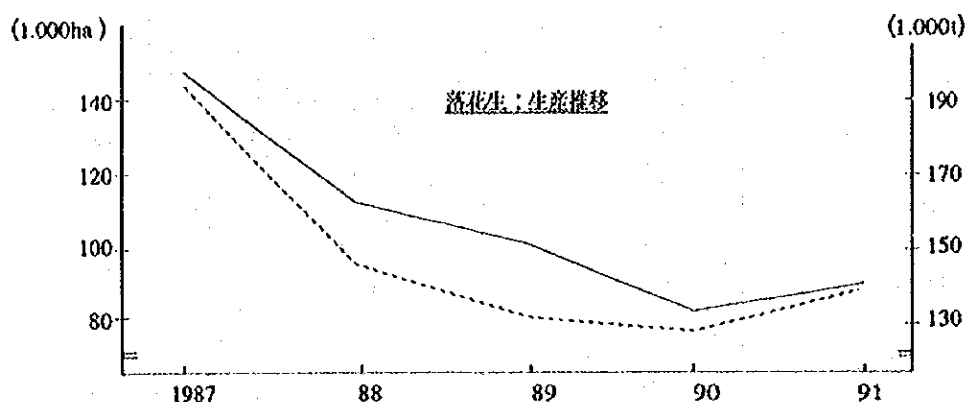


表118 落花生：過去5ヶ年間の生産推移

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	164,9	145,2	133,1	121,3	123,8
リオグランデ・ド・ノル	5,7	5,6	5,7	5,8	4,3

パイア	3,7	3,4	3,3	2,6	3,7
パラナ	11,5	5,5	3,8	3,5	3,1
セルジッペ	1,3	1,5	1,2	1,2	1,4
その他	9,0	5,8	4,0	2,8	2,1
全国計	196,1	167,0	151,1	137,2	139,6

収穫面積 1.000ha	143,6	99,9	85,5	82,8	88,9
--------------	-------	------	------	------	------

出所：IBGE

表119 落花生：主要生産地の収収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	1.413	1.796	1.901	1.771	1.678
マトグロソ・ド・スル	1.017	1.060	1.140	1.137	867
パイア	1.275	1.110	1.178	1.083	1.206
パラナ	1.493	1.628	1.520	1.458	1.291
セルジッペ	928	1.143	923	1.091	1.102
全国平均	1.366	1.672	1.767	1.658	1.570

出所：IBGE

表120 落花生：生産者受取価格 CR/25kg

月別	1989	1990	1991
1	9,30	95,21	1.322,93
2	10,95	120,75	1.383,72
3	11,61	189,75	1.507,44
4	12,09	212,77	2.189,80
5	12,40	303,45	2.278,60
6	19,85	521,63	2.605,07
7	20,65	600,96	2.821,64
8	25,32	759,17	3.107,21
9	29,13	1.072,31	3.758,33
10	34,01	1.164,23	4.937,60
11	43,72	1.124,96	7.377,75
12	66,54	1.258,90	

出所：IEA

表121 落花生：輸出実績 1.000t

品目	1988/89	1989/90	1990/91
落花生(殻つき及び殻なし)	2,6	3,2	3,6
落花生油(粗油及び精製油)	8,5	12,0	11,0
大豆粕	2,6	6,0	6,4

出所：IEA

表122

落花生油の国際価格

月別	1989	1990	1991
1	592	903	1.013
2	630	933	1.027
3	746	971	1.022
4	753	938	986
5	792	919	919
6	802	931	919
7	806	925	930
8	820	963	...
9	798	991	...
10	813	1,012	...
11	868	1,040	...
12	877	1,038	...
平均	775	964	974

出所：OIL WORLD WEEKLY

表123

落花生：生産者受取価格（1991年8月を基準とした実質価格）

月別	1987	1988	1989	1990	1991
1	3.035	3.015	5.222	2.255	2.849
2	2.435	3.101	5.499	1.666	2.460
3	2.471	2.839	5.594	1.444	2.449
4	2.127	2.637	5.539	1.454	3.339
5	1.870	2.465	5.038	1.901	3.261
6	1.731	3.400	6.362	2.998	3.394
7	2.016	4.419	4.800	3.057	3.258
8	2.524	3.897	4.312	3.420	3.107
9	3.036	4.077	3.571	4.325	...
10	3.297	3.674	2.985	4.113	...
11	3.058	3.508	2.659	3.384	...
12	3.013	3.897	2.709	3.251	...

出所：IEA CR/25kg

表124

落花生：91/92農年生産コスト予想

サン・パウロ州、リベイロン・プレット地区、機械耕作 1haあたり90俵(25kg)収穫

項目	1haあたりコスト	1俵あたりコスト	構成比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	44.861,25	498,46	17,66
b) 種子	70.000,00	777,78	27,56
c) 肥料・石灰	27.058,50	300,65	10,65
d) 農薬	23.270,80	258,56	9,16
e) 機械維持費	47.764,97	530,72	18,80
f) その他	9.000,00	100,00	3,54

小計	221,955,52	2,466,17	87,38
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	20,575,94	228,62	8,10
b) 金融費用	11,476,54	127,52	4,52
小計	32,052,48	356,14	12,62
合計	254,007,99	2,822,31	100,00

出所：IEA

3.2.3. 綿

イ) 生産

表125

綿(草綿)：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	490,0	490,0	852,6	1,740
サン・パウロ	300,8	300,8	480,1	1,596
パイア	196,5	186,4	109,4	587
ミナス・ジェライス	134,2	129,9	94,5	727
マト・グロソド・スル	44,8	44,6	73,6	1,650
ゴヤス	35,5	35,5	57,6	1,327
その他	306,4	196,3	106,7	544
全国計	1,508,2	1,383,5	1,774,5	1,283

出所：IBGE

表126

綿(木綿)：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
セアラ	198,5	198,5	18,8	95
ピアウイ	138,9	124,7	9,0	72
パライーバ	82,2	71,7	3,9	55
リオ・グランデ・ド・ノル	97,1	78,1	3,8	49
ペルナンブコ	42,2	37,5	2,4	63
その他	1,3	1,3	0,3	230
全国計	560,2	511,8	38,2	75

出所：IBGE

表127

綿(草綿)：1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	600,0	600,0	950,0	1,583
サン・パウロ	221,5	221,5	341,3	1,541
ミナス・ジェライス	119,5	118,5	106,9	902
マト・グロソ	74,3	73,8	91,3	1,238
マト・グロソド・スル	53,2	52,3	88,6	1,693
ゴヤス	43,2	43,0	83,7	1,946
その他	309,7	301,2	171,6	570

全国計	1,421,4	1,410,3	1,833,4	1,300
-----	---------	---------	---------	-------

出所：IBGE

表128 綿（木綿）：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
セアラ	153,7	153,6	18,6	121
パラíba	58,4	58,4	14,7	252
ピアウイ	94,4	93,9	8,4	89
マト・グロソド・ノル	23,2	23,2	4,9	211
ペルナンブコ	32,5	29,4	3,3	114
その他	0,7	0,6	0,2	333
全国計	362,9	359,1	50,1	140

出所：IBGE

1990/91年度における綿の生産量は、中央・南部地方で生産される草綿が1,833千トン、東北地方のみで栽培される永年性の木綿が50千トン計1,883千トンで前年を3,3%上回った。主要生産地帯の中では、サン・パウロ州が大巾な減産をみた以外は、増産もしくは前年並みの生産量を維持したが、中でもマト・グロソ州における顕著な増産が観察される。これは90/91年度に実施された農業政策の中で最低価格保証制度が変更され、奥地方での穀類生産が不利な立場に置かれたため、綿に切替えた農場が多く出現したため現象であった。パラナ州に次いで全国二位の生産規模を持つサン・パウロ州における減産は、農業融資の不足に加え収穫時の天候が悪く、栽培面積、反収のいづれにおいても減少したためであり、その生産量341,3千トンは80年代を通じ最低の線に落ちている。

表129 綿（草綿）：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	711,9	874,2	805,3	852,6	950,0
サン・パウロ	567,1	675,2	513,5	480,1	341,3
ミナス・ジェライス	60,0	135,2	78,0	109,4	106,9
マト・グロソ					91,3
マト・グロソド・ノル	68,0	73,5	78,5	73,6	88,6
その他					255,3
全国計	1,613,1	2,437,8	1,813,4	1,774,5	1,833,4

収穫面積 1,000 ha	1,277,3	1,824,6	1,506,8	1,383,5	1,410,3
---------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

表130 綿（木綿）：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
セアラ	23,7	41,2	25,8	18,8	18,6
パラíba	8,8	19,3	8,7	3,9	14,7
ピアウイ	16,6	13,7	6,4	9,0	8,4
マト・グロソド・ノル	3,0	14,2	12,1	3,8	4,9
ペルナンブコ	3,9	8,6	2,2	2,4	3,3
その他	16,3	2,3	1,9	0,3	0,2

全国計	60,3	99,3	57,1	38,2	50,1
-----	------	------	------	------	------

収穫面積 1,000 ha	691,1	734,4	618,6	511,8	359,1
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

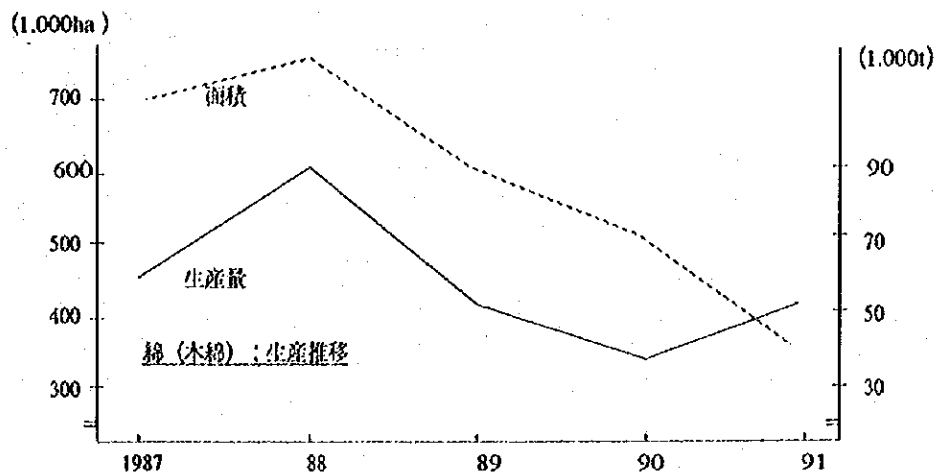
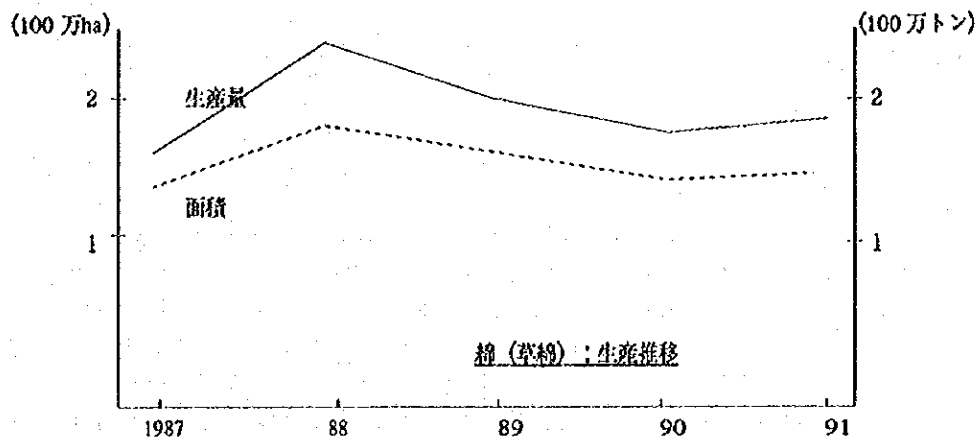


表131

綿(草綿) : 主要生産地の反収

Kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	1.844	1.860	1.940	1.740	1.583
サン・パウロ	1.743	2.023	1.889	1.596	1.541
ミナス・ジェライス	456	832	616	727	902
マツト・グロッソ					1.238
マツト・グロッソ・スル	1.351	1.468	1.728	1.650	1.693
全国平均	1.263	1.336	1.203	1.283	1.300

出所：IBGE

表132 綿(木綿)：主要生産地の反収 Kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
セアラ	88	144	113	95	121
パライーバ	81	184	94	55	252
ピアウイ	103	84	40	72	89
サウダダ・ド・ノル	40	138	120	49	211
ベルナンブコ	66	144	63	63	114
全国平均	87	135	76	75	140

出所：IBGE

ii) 国際市場

USDAのデータによると90/91農年における世界の綿生産量は、86,65百万トンで前年を8,3%上廻った。世界の主要生産国では、米国(前年比2,70%増)、オーストラリア(25,0%増)、中国(17,8%増)、パキスタン(12,4%増)などの生産増加があり、ソ連は前年の生産量を(-)5,4%減少した。大半の生産国にみられた生産の増加は、国際相場の上昇に基づくものであり、中国を除く外は、大型の輸出国であるため、国際相場の上下が生産を左右する鍵となっている。中国のみは、国内生産量のほとんどが国内で消費されるので輸出余力は持っていない。

90/91年における世界の供給量は、113,09百万包で前年を0,9%増加したものであった。消費量も1,0%の減退をみせたが、供給量の減少により価格は維持された。

表133 綿(繰綿)：世界の需給バランス 100万包(480ポイント)

区分	1989/90	90/91	91/92 *
生産量	80,01	86,65	91,10
供給量	112,06	113,09	118,60
消費量	86,53	85,64	88,00
期末在庫	26,44	27,51	30,0

出所：USDA

表134 綿の国際相場 US\$/ポイント

月別	1989	1990	1991
1	63,27	74,78	83,58
2	63,02	77,02	85,17
3	65,63	79,26	84,00
4	73,22	81,68	82,99
5	76,92	80,74	83,64
6	78,64	81,48	83,77
7	82,35	83,17	...
8	82,87	81,12	...
9	81,65	81,23	...
10	82,18	81,63	...
11	82,20	82,51	...
12	77,68	83,97	...
平均	75,80	80,72	83,86

出所：WORLD COTTON SITUATION / IBA

1990/91農年における世界の綿取引量は、前年よりも少なく、89/90農年の240百万俵に対し、234百万俵に止まった。EC及びアジア（中国とインドを除く）諸国の減産によるものであるが、これに対し米国は輸出を伸ばし、世界の輸出に占めるシェアを89/90年の32%より90/91年は34%へと増加して国際市場における競争力を強化した。これに次いでオーストラリアも大輸出国の地位を確立し、伝統的な輸出国のパキスタンをしりぞいた。1992年については、USDAの予想によると世界の生産量が91,1百万包に達するため供給量は、前年を4,9%上回る史上最大の規模に達する見込みとなっている。

91/92年度における世界の消費量は、88,0百万包と予想されており、前年を2,8%増加する規模となる。しかし、この量は90/91年にみられた世界消費の減少を回復した程度のもので本格的な増加ではない。世界の消費国の中ではアジア（3,2%増）、EC（-5,2減）、米国（2,3%増）等生産の上下があるものと予想されている。

世界の貿易量は、前年の23,39百万包より23,60百万包へと若干の増加が予想されるが、これも89/90年の24,00百万包を下回る量である。

このように世界の消費量が生産量の増加に平行せず期末在庫は、9,0%増加する見込みのため、92年中には21数年間続いてきた高値も傾くものと考えられている。

ハ) 国内市場

91年度における綿綿の生産量は698,1千トンと推定されている。これに前年よりの繰越在庫及び輸入を加えた供給量は、878,7千トンで前年を上回るが、1986年から89年にかけての供給量よりは、はるかに少ない。このため輸入量が増加しており、91年には、前年を64,3%上回る140千トンの輸入が行なわれたものと推定される。

91年度における綿綿の国内消費量は、前年と同様の700千トンと推定されているが、この量は、1986年以前の消費水準であり、綿織維に対する需要の減退が伺われる。

表135

ブラジルの綿綿供給

項目	1987/88	88/89	89/90	90/91
期首在庫	182,1	279,7	100,0	40,5
生産量	863,6	709,3	665,7	698,2
輸入量	81,0	130,0	85,2	140,0
供給量	1.126,7	1.119,0	850,9	878,7
消費量	812,0	859,0	700,0	700,0
余剰	314,7	260,0	150,9	178,7
輸出量	35,0	160,0	110,4	80,0
期末在庫	279,7	100,0	40,5	98,7

出所：CONAB

表136

綿：生産者受取価格

CR/15kg

月別	1989	1990	1991
1	4,33	87,36	941,27
2	5,35	146,57	1.216,79
3	5,31	284,67	1.532,67
4	6,77	239,98	1.602,74
5	8,97	345,79	1.628,67
6	9,70	379,65	1.685,98
7	10,32	419,26	1.816,50
8	14,76	522,51	2.000,54

9	21,22	550,69	2,183,06
10	31,23	572,47	2,651,49
11	38,77	611,31	3,103,38
12	53,00	630,37	

出所：I E A

ハ) 生産コスト

サン・パウロ農務局農業経済研究所(I E A)91年8月に発表した91/92農年の生産コスト予想は次表の通りである。

表137 綿：91/92年生産コスト予想(A)

項目	1haあたりコスト	アローバ当りコスト	構成比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	26,223,84	180,85	7,11
b) 種子	13,675,20	94,31	3,71
c) 肥料・石灰	126,797,00	874,46	34,36
d) 農薬	20,201,93	139,32	5,48
e) 機械維持費	63,125,96	435,35	17,11
f) 収穫請負費	72,500,00	500,00	19,65
小計	322,523,93	2,224,30	87,41
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	25,183,98	173,68	6,83
b) 金融費用	21,274,20	146,72	5,77
小計	46,458,18	320,40	12,60
合計	368,982,10	2,544,10	100,00

出所：I E A サン・パウロ州カンピーナス地区、機械耕作1haあたり145アローバ収穫の場合

綿：91/92年生産コスト予想(B)

項目	1haあたりコスト	アローバ当りコスト	構成比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	51,291,20	625,50	15,49
b) 種子	15,892,80	193,81	4,80
c) 肥料・石灰	70,840,48	863,91	21,39
d) 農薬	30,395,00	370,67	9,18
e) 機械維持費	62,728,47	764,98	18,94
f) 収穫請負費	51,660,00	630,00	15,60
小計	282,807,95	3,448,88	85,38
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	25,352,04	309,17	7,65
b) 金融費用	23,055,10	281,16	6,95
小計	48,407,14	590,33	14,60
合計	331,215,08	4,039,21	100,00

出所：I E A サン・パウロ州ブレジアンテ・ブルダンテ地区1ha82アローバ収穫の場合

3. 2. 4. ヒマ

表138 ヒマ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	204,5	204,5	100,3	491
サン・パウロ	12,5	12,5	16,5	1.319
ベルナンブーコ	38,6	37,4	12,3	330
パラナ	3,9	3,9	5,8	1.474
セアラ	15,3	11,3	5,7	503
ピアウイ	13,7	13,7	4,8	348
ミナス・ジェライス	2,7	2,5	2,1	822
その他	0,5	0,5	0,2	400
全 国 計	291,7	286,3	147,7	516

出所：IBGE

表139 ヒマ：1991年の生産状況 (91年9月の調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	165,5	161,8	85,4	528
サン・パウロ	11,7	11,7	12,9	1.103
セアラ	14,1	14,1	11,2	798
ピアウイ	10,4	10,1	10,3	1.014
ベルナンブーコ	41,2	30,6	8,1	265
パラナ	3,1	3,1	4,1	1.323
ミナス・ジェライス	0,6	0,6	0,6	963
その他	0,7	0,7	0,5	714
全 国 計	247,3	232,7	133,1	572

出所：IBGE

表140 ヒマ：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	51,0	72,8	62,8	100,3	85,4
サン・パウロ	21,2	16,4	16,1	16,5	12,9
セアラ	3,4	13,1	11,6	5,7	11,2
ピアウイ	2,0	8,7	14,6	4,8	10,3
ベルナンブーコ	2,8	15,6	18,4	12,3	8,1
パラナ	19,0	12,6	7,9	5,8	4,1
その他	4,4	8,7	4,1	1,3	1,1
全 国 計	103,6	147,9	135,5	147,7	133,1

収穫面積 1,000ha	262,5	278,9	269,1	286,3	232,7
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

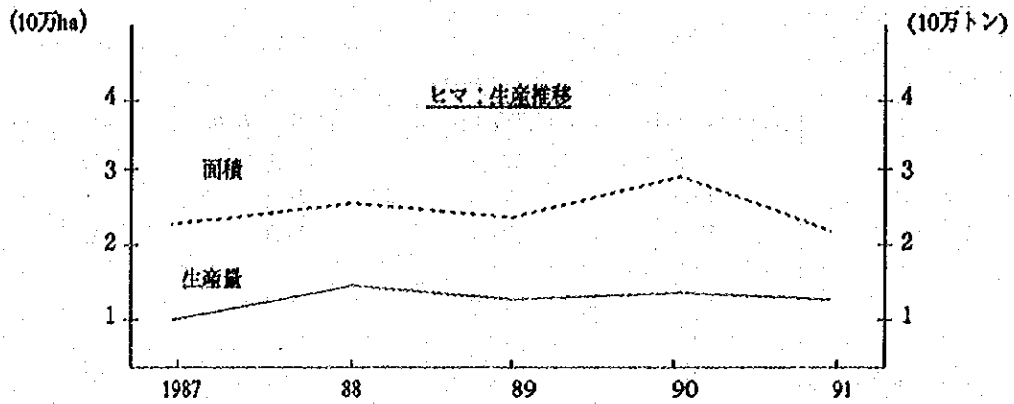


表141 ヒマ：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	286	390	356	491	528
サン・パウロ	1,269	1,265	1,247	1,319	1,103
セアラ	326	791	515	503	798
ピアウイ	131	692	1,057	348	1,014
ペルナンブーコ	115	570	512	330	265
パラナ	1,328	1,374	1,408	1,474	1,323
全国平均	395	530	476	516	572

出所：IBGE

表142 ヒマ：生産者受取価格 CR/60kg

月別	1989	1990	1991
1	0,17	3,40	20,22
2	0,22	4,89	28,00
3	0,26	6,64	29,50
4	0,26	7,75	30,10
5	0,29	11,00	44,78
6	0,36	13,40	49,22
7	0,45	14,70	57,90
8	0,69	17,50	54,67
9	0,95	16,78	66,74
10	1,34	16,29	68,53
11	1,62	18,80	77,49
12	2,51	17,64	

出所：IEA

3. 2. 5. ココヤシ

表143

ココヤシ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パイア	48,6	48,6	188,5	3,882
セアラ	35,4	35,4	133,9	3,783
パラ	10,4	10,4	97,1	9,306
セルジーバ	43,1	43,1	86,5	2,007
アラゴアス	15,8	15,8	67,1	4,238
リオグランデ・ド・ノル	26,9	26,9	54,5	2,027
ペルナンブコ	12,7	11,7	38,5	3,301
その他	14,2	14,1	43,2	3,064
全 国 計	207,1	206,0	709,3	3,443

出所：IBGE

表144

ココヤシ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000ヶ	単収 kg/ha
パイア	49,4	49,4	190,6	3,859
セアラ	38,2	38,2	149,6	3,920
パラ	12,2	12,2	115,3	9,418
リオグランデ・ド・ノル	35,0	35,0	108,3	3,094
セルジーバ	43,0	43,0	83,6	1,943
アラゴアス	15,2	15,2	63,8	4,200
ペルナンブコ	11,4	11,4	36,0	3,156
その他	14,5	14,5	44,8	3,090
全 国 計	218,9	218,9	792,0	3,619

出所：IBGE

表145

ココヤシ：過去5ヶ年間の生産推移

1,000個

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パイア	112,1	120,0	132,6	188,5	190,6
セアラ	108,2	134,2	129,9	133,9	149,6
パラ	38,5	49,5	65,6	97,1	115,3
リオグランデ・ド・ノル	83,9	99,2	68,3	54,5	108,3
セルジーバ	94,7	91,7	87,1	86,5	83,6
その他	165,8	205,3	197,5	148,8	134,6
全 国 計	603,2	699,9	681,0	709,3	792,0

収穫面積 1,000ha	183,6	198,1	198,1	206,0	218,9
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

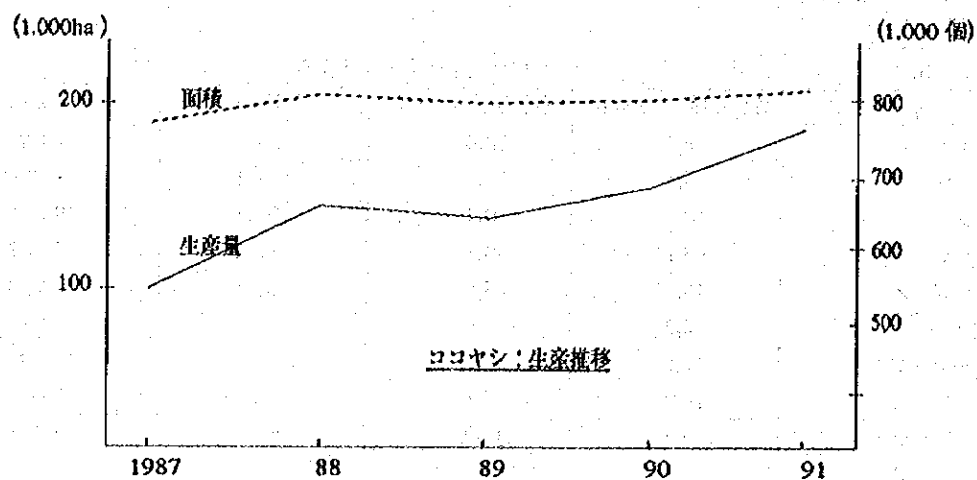


表146 ココヤシ：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	2.823	3.000	3.544	3.882	3.859
セアラ	4.471	4.255	4.028	3.783	3.920
パラウ	5.923	6.818	7.172	9.306	9.418
リオ・グランド・ノル	3.728	3.632	2.647	2.027	3.094
セルジペ	2.075	2.022	2.039	2.007	1.943
全国平均	3.284	3.533	3.439	3.443	3.619

出所：IBGE

3. 3. 工業原料作物

3. 3. 1. 砂糖キビ

イ) 生産

表147 砂糖キビ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	1,812.0	1,812.0	137,835.0	76.069
アラゴアス	558.6	558.6	26,151.0	46.819
ペルナンブーコ	467.3	467.3	22,817.7	48.831
ミナス・ジェライス	299.6	298.1	17,533.4	58.824
パラナ	159.4	159.4	11,736.4	73.621
バイバ	159.0	155.9	8,254.8	52.936
ゴヤス	106.8	98.0	6,896.3	70.407
リオ・デ・ジネイロ	205.0	204.8	5,574.7	27.220
マト・グロソ	67.9	67.4	4,193.3	62.254
バイア	79.7	79.7	3,435.4	43.082

マツト・グロツソ	51,3	50,7	3.036,7	59.925
セアラ	63,1	63,1	2.723,9	43.171
リオ・グランデ・ド・ノボ	56,9	56,9	2.491,0	43.793
セルジューベ	38,1	38,1	2.182,2	57.269
マラニョン	37,4	37,4	2.042,0	54.636
ピアウイ	19,3	19,3	1.562,5	80.849
スピリト・サント	43,1	42,2	1.501,0	35.531
サンタ・カタリーナ	16,4	16,4	979,0	59.740
その他	49,4	45,6	1.658,3	36.366
全国計	4.290,3	4.270,9	262.604,6	61.487

出所：IBGE

表148 砂糖キビ：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	1.852,4	1.852,4	136.200,0	73.526
アラゴアス	489,9	489,9	23.132,1	47.219
ペルナンブーコ	436,9	436,9	21.139,9	48.383
ミナス・ジェライス	283,9	276,3	17.588,3	63.647
パラナ	175,0	175,0	13.125,0	75.000
リオ・デ・ジネイロ	194,9	194,9	8.178,2	41.963
バイーバ	155,6	155,6	8.178,0	52.543
ゴヤス	101,2	101,2	7.062,6	69.816
マツト・グロツソ・ノバ	64,4	64,4	4.264,8	66.267
マツト・グロツソ	64,8	61,0	4.000,5	65.605
バイア	76,7	76,7	3.425,7	44.638
リオ・グランデ・ド・ノボ	62,7	62,7	3.129,2	49.893
セアラ	68,8	68,8	2.892,3	42.023
セルジューベ	35,7	35,7	2.279,1	63.801
マラニョン	37,3	37,3	2.010,1	53.945
スピリト・サント	33,5	33,5	1.523,1	45.456
ピアウイ	19,2	19,2	1.490,3	77.686
その他	65,9	60,1	2.288,0	38.070
全国計	4.213,8	4.201,6	261.907,2	62.335

出所：IBGE

砂糖キビの生産は、87年を頂点として以後下降を続け、89年末より90年当初にかけてこれを原料とする燃料用アルコール不足の事態を招くが、その対策として採られた各種の措置、中でも砂糖キビ生産者価格の大改正訂と合わせ、90年後半に緊迫した中東情勢の中で石油輸入の中断すら予想され、国内燃料としてのアルコールの必要性が再認識されたこと、更に国際砂糖市場が高値を保ったことなどから砂糖キビの栽培に対する関心が高まり、89年を底辺とした生産量は90年にいたってようやく復活し、91年もや、同等のレベル（262,6百万トン）を維持している。ただし、87年に達した268,7百万トンには戻っていない。

砂糖キビの収穫期は、中央・南部地方においては5月～11月、北部・東北地方では9月～2月の間に行なわれる。中央・南部地方では、7月から8月にかけて糖分が最高に達するため、この時期に刈り取るが理想とされているが、

製糖工場やアルコール工場の処理能力の関係から5月以降は、平均した刈り取りが行なわれ、12月の中旬に終了するのを常としている。

表149 砂糖キビ：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	130,421.9	135,399.4	131,705.2	137,835.0	136,200.0
アラゴアス	34,522.0	18,354.3	23,208.0	26,151.0	23,132.1
ペルナンブーコ	22,786.5	22,557.3	24,508.1	22,817.7	21,139.9
ミナス・ジェライス	17,574.1	18,308.5	17,006.2	17,533.4	17,588.3
パラナ	11,911.4	12,210.0	12,337.5	11,736.4	13,125.0
リオ・デ・ジANEIRO	8,922.4	10,482.8	10,527.7	5,574.7	8,178.2
パライーバ	9,514.8	8,798.2	8,647.3	8,254.8	8,178.0
その他	33,088.0	29,302.4	10,602.6	62,701.6	34,365.7
全国計	268,741.1	258,412.9	252,642.6	262,604.6	261,907.2

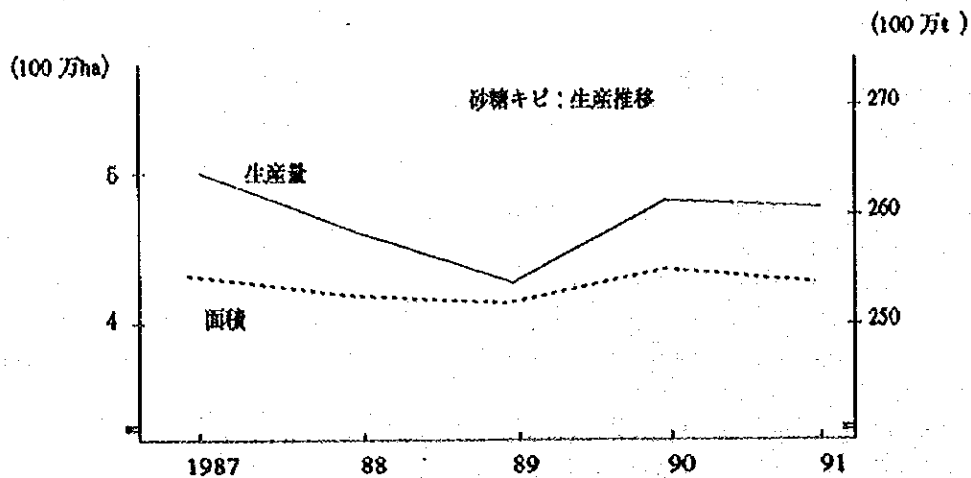
収穫面積 1,000t	1987	1988	1989	1990	1991
	4,314	4,117.4	4,075.8	4,270.9	4,201.6

出所：IBGE

表150 砂糖キビ：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	75.519	75.839	80.609	76.069	73.526
アラゴアス	50.184	43.439	47.304	46.819	47.219
ペルナンブーコ	52.832	50.639	53.581	48.831	48.383
ミナス・ジェライス	55.720	59.156	57.808	58.824	63.647
パラナ	74.260	74.000	75.000	73.621	75.000
リオ・デ・ジANEIRO	40.299	46.231	47.179	27.220	41.963
パライーバ	58.624	54.834	54.467	52.936	52.543
全国平均	62.293	62.762	61.985	61.487	62.335

出所：IBGE



国内の砂糖キビ生産分布は80年代を通じて変化はなく、州別で圧倒的なジェアー（全国栽培面積の44%、全国生産の52%）を持つサン・パウロ州を含む南東地方が全国栽培面積の55%を占め、東北地方が34%でこれに続いている。州別ではサン・パウロ州に続き、東北地方のアラゴアス、ベルナンブーコ両州、南東地方のミナス・ジェライス州及び南部地方に属するパラナ州が年間10百万トン以上の生産を行なう主要生産地帯である。

砂糖キビの反収については、全国平均が1haあたり62トンの線は過去5ヶ年間変化はなく、パラナ州とサン・パウロ州が70トン以上の収量で最も高い水準である。主要生産地帯の中アラゴアス、ベルナンブーコ、及びパライーバ等、東北地方の各州において生産性が低いのは乾燥の影響によるものである。

ロ) 砂糖及びアルコール市場

砂糖キビを原料とする砂糖及びアルコールの生産は、この両品目が砂糖において基礎食糧、アルコールにおいて国内燃料という極めて重要な性格を持つところから政府のコントロール下にあり、その生産、消費及び価格が設定される。管轄機関は商工省管下の砂糖、アルコール院（IAA）が長期にわたって担当してきたが、現コーロル政権による行政改革の中でこれが廃止されたあと新設された大統領府地域開発庁がその業務を統轄している。

砂糖及びアルコールの生産は、従って同開発庁が設定する生産計画にもとづいて行なわれ、全国の各工場毎に生産目標が設定される。州別にまとめた91/92農年の生産計画は次表の通りである。

表151 91/92農年の砂糖及びアルコール生産計画

地域別及び州別	砂 糖		アルコール 1,000
	50kg入	1,000t	
北部・東北部地方			
パライーバ	56,0	2,8	10.015
トカンチンス	-	-	3,000
マラニョン	610,0	30,5	39.500
ピアウイ	-	-	36.000
セアラ	707,0	35,4	19.000
マトグロソ・ド・ミナス	1.918,0	95,9	118.800
パライーバ	2.200,0	110,0	288.080
ベルナンブーコ	24.000,0	1.200,0	550.000
アラゴアス	24.000,0	1.200,0	703.000
セルジッペ	2.051,0	102,6	33.000
パイア	1.688,0	84,4	30.000
小 計	57.230,0	2.861,5	1.830.395
中央・南部地方			
ミナス・ジェライス	9.240,0	462,0	470,0
エスピリト・サント	626,0	31,3	90,0
マトグロソ・ド・ミナス	7.274,0	363,7	190,7
サン・パウロ	78.000,0	3.900,0	8.216.485
パラナ	5.100,0	255,0	745.000
サンタ・カタリーナ	580,0	29,0	6.000
マトグロソ・ド・ミナス	-	-	4.000
マトグロソ	720,0	36,0	266.350
マトグロソ・ド・ミナス	500,0	25,0	276.000
ゴヤス	980,0	49,0	369.600

小計	103,020,0	5,151,0	10,634,135
合計	160,250,0	8,012,0	12,464,530

出所：SDR

上記計画は、91/92農年の砂糖キビ生産が前年比4%増加する見込みのもとに作成されたもので、アルコールについては前年比5,6%増の12,4百万 m^3 、砂糖は前年を8,6%上回る800万トンの生産を見込んでいる。砂糖の輸出については前年と同様に東北地方を主体として行なわれ、中央・南部地方は地域内の需給バランスに余剰が出来る場合、又は東北地方の生産量が280万トンを超える場合のみ輸出出来るものとした。海外市場としては、米国がブラジルに割り当てられている240千トンが最も大きく極東諸国も700千トンを購入する予定である。

アルコールの国内需給については、今年の生産計画12,4百万 m^3 に前年よりの繰越し1,2百万 m^3 及びメタノールの輸入1,0百万 m^3 を加えると総供給量は、14,6百万 m^3 となり、13,5百万 m^3 と見積られる需要量に十分応じ得る態勢にあり、当面アルコール不足は発生しない見通しである。

表152 アルコールの需給バランス 1,000m

年 度	生産量	消費量	過不足
1981	4,207	2,949	1,258
82	5,618	4,088	1,530
83	7,951	5,906	2,045
84	9,201	7,346	1,855
85	11,563	9,019	2,544
86	9,983	11,598	(-) 1,615
87	12,340	11,759	581
88	11,523	12,398	(-) 875
89	11,809	13,426	(-) 1,617
90	11,900	12,460	(-) 560

出所：DNC/COPLAN

ロ) 輸出

表153 砂糖の輸出実績(重量) 1,000トン

年 度	粗 糖	精製糖	結晶糖	計
1981	1,564	916	222	2,702
82	1,222	1,090	398	2,710
83	1,575	783	146	2,504
84	1,545	1,212	303	3,060
85	1,048	1,192	308	2,548
86	874	1,154	304	2,322
87	908	1,093	193	2,194
88	892	781	92	1,765
89	433	504	116	1,053
90	825	577	101	1,503

			(金額)	100万ドル
1981	579	396	87	1.062
82	259	244	77	580
83	333	168	26	527
84	326	213	48	587
85	166	168	33	367
86	138	184	33	355
87	134	159	31	324
88	167	162	16	345
89	114	159	33	306
90	289	186	37	512

出所：CACER、DECEX

表154 砂糖(粗糖)の輸出先市場

輸出先国	重量 t	金額 1,000ドル
米国	389.777	157.900
モロッコ	165.457	48.326
ソ連	152.406	47.532
エジプト	63.852	18.660
ポルトガル	22.430	6.273
ユーゴスラビア	18.000	5.501
メキシコ	12.740	4.483
その他	-	-
計	824.661	288.675

出所：DECEX

表155 精製糖の輸出先市場

輸出先国	重量 t	金額 1,000ドル
イラン	134.951	44.033
ナイジェリア	114.809	40.776
メキシコ	135.596	40.121
アンゴラ	33.399	12.119
ジョルダニア	27.000	8.939
ツニジア	22.800	8.398
米国	34.271	7.443
その他	73.766	24.668
計	576.592	186.497

出所：DECER

表156

結晶糖の輸出先市場

輸出先国	重量 t	金額 1,000ドル
エジプト	76,489	29,094
リビア	12,800	4,698
ナイジェリア	6,000	1,645
米国	5,789	1,257
その他	17	7
計	101,095	36,701

出所: DECER

ニ) 生産コスト

サン・パウロ州農務局農業経済研究所が91年8月に発表した91/92農年の生産コスト予想は次表の通りである。

表157

砂糖キビ: 91/92 農年生産コスト予想 (A)

サン・パウロ州カンピーナス地区機械耕作 第1年目 1haあたり95t 収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	46,601.03	490.54	6.84
b) 肥料石灰	113,788.00	1,197.77	16.70
c) 農薬	35,225.02	370.79	5.71
d) 機械維持費	196,785.14	2,071.42	28.88
e) 収穫請負費	35,205.50	370.58	5.17
f) 苗代	112,309.33	1,182.20	16.48
小計	539,914.03	5,683.31	79.25
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	76,597.89	806.29	11.24
b) 金融費用	64,789.68	682.00	9.51
小計	141,387.57	1,488.29	20.75
合計	681,301.60	7,171.60	100.00

第2年目 1haあたり75t 収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	11,149.19	148.66	4.83
b) 肥料石灰	46,800.00	624.00	20.26
c) 農薬	13,962.98	186.17	6.04
d) 機械維持費	78,765.56	1,049.94	34.09
e) 収穫請負費	26,254.80	350.06	11.97
小計	176,912.53	2,358.83	76.59
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	32,845.12	437.93	14.22
b) 金融費用	21,229.50	283.06	9.19
小計	54,074.62	720.99	23.41
合計	230,987.16	3,079.83	100.00

第3年目1haあたり62t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	19,388,61	312,72	8,76
b) 肥料石灰	46,800,00	754,84	21,15
c) 農薬	13,962,98	225,21	6,31
d) 機械維持費	69,745,57	1,124,93	31,51
e) 収穫諸負費	21,814,65	351,85	9,86
小計	171,711,81	2,769,55	77,59
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	29,001,29	467,76	13,10
b) 金融費用	20,605,42	332,35	9,31
小計	49,606,71	800,11	22,41
合計	221,918,52	3,569,65	100,00

第4年目1haあたり52t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	19,388,61	372,86	8,92
b) 肥料石灰	46,800,00	900,00	21,52
c) 農薬	13,962,98	268,52	6,42
d) 機械維持費	69,745,57	1,341,26	32,08
e) 収穫諸負費	18,339,75	352,69	8,43
小計	168,236,91	3,235,33	77,38
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	29,001,29	557,72	13,34
b) 金融費用	20,188,43	388,24	9,24
小計	49,189,72	945,96	22,58
合計	217,426,63	4,181,28	100,00

出所：IEA

表158 砂糖キビ：91/92 農年生産コスト予想 (B)
サン・パウロ州リベイロン・プレット地区、機械耕作 第1年目1haあたり100t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	36,522,92	365,23	5,24
b) 肥料石灰	113,330,00	1,133,30	16,26
c) 農薬	19,035,00	190,35	2,73
d) 機械維持費	178,333,78	1,183,34	25,58
e) 収穫諸負費	41,198,25	411,98	5,91
f) 苗代	169,833,62	1,698,34	24,36
小計	558,253,57	5,582,54	80,08
B. 間接コスト			

a) 機械減価償却費	71,851,71	718,52	10,31
b) 金融費用	66,990,43	669,90	9,61
小計	138,842,14	1,388,42	19,92
合計	697,095,72	6,970,96	100,00

第2年目1haあたり78t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	15,348,37	196,77	5,84
b) 肥料石灰	64,807,60	830,87	24,65
c) 農薬	19,035,00	244,04	7,24
d) 機械維持費	76,535,15	981,22	29,11
e) 収穫請負費	30,503,59	391,07	11,60
小計	206,229,71	2,643,97	78,45
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	31,901,21	408,99	12,14
b) 金融費用	24,747,57	317,28	9,41
小計	56,648,78	726,27	21,55
合計	262,878,49	3,370,24	100,00

第3年目1haあたり65t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	14,015,14	215,62	5,74
b) 肥料石灰	64,807,60	997,04	26,55
c) 農薬	19,035,00	292,85	7,80
d) 機械維持費	69,099,95	1,065,08	28,30
e) 収穫請負費	25,348,05	389,97	10,38
小計	192,305,74	2,985,55	78,77
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	28,746,73	442,26	11,78
b) 金融費用	23,076,69	355,03	9,45
小計	51,823,42	797,29	21,23
合計	244,129,16	3,755,83	100,00

第4年目1haあたり60t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	14,015,14	233,59	5,79
b) 肥料石灰	64,807,60	1,080,13	26,78
c) 農薬	19,035,00	317,25	7,87
d) 機械維持費	69,099,95	1,151,67	28,56
e) 収穫請負費	23,414,73	390,25	9,68

小計	190,372,42	3,172,87	78,68
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	28,746,73	479,11	11,88
b) 金融費用	22,844,69	380,74	9,44
小計	51,591,42	859,85	21,32
合計	241,963,84	4,032,73	100,00

出所：IEA

3.3.2 マンジョカ

表159

マンジョカ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パイア	325,6	325,6	4,152,3	12,753
バラ	233,5	230,5	2,857,5	12,395
ピアウイ	171,8	166,5	2,296,6	13,796
バラナ	101,9	101,9	2,184,6	21,448
マラニオン	230,9	227,0	1,782,2	7,853
オ・グ・ラ・グ・ド・スル	121,5	121,5	1,738,1	14,309
サカ・カリーナ	67,6	67,6	1,162,2	17,194
ベルナンブーコ	120,4	119,6	1,131,1	9,455
その他	580,2	573,4	6,980,1	12,173
全国計	1,953,4	1,933,6	24,284,7	12,559

出所：IBGE

表160

マンジョカ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パイア	329,9	329,9	4,170,9	12,644
バラ	233,9	233,8	3,005,1	12,853
バラナ	110,0	110,0	2,310,0	21,000
ピアウイ	159,7	159,7	1,968,9	12,325
マラニオン	237,5	237,5	1,962,6	8,264
オ・グ・ラ・グ・ド・スル	111,9	111,9	1,500,4	13,411
セアラ	137,6	137,6	1,183,1	8,597
サカ・カリーナ	63,5	63,5	1,104,2	17,381
その他	577,7	575,3	6,427,0	11,172
全国計	1,961,7	1,959,2	24,632,2	12,572

出所：IBGE

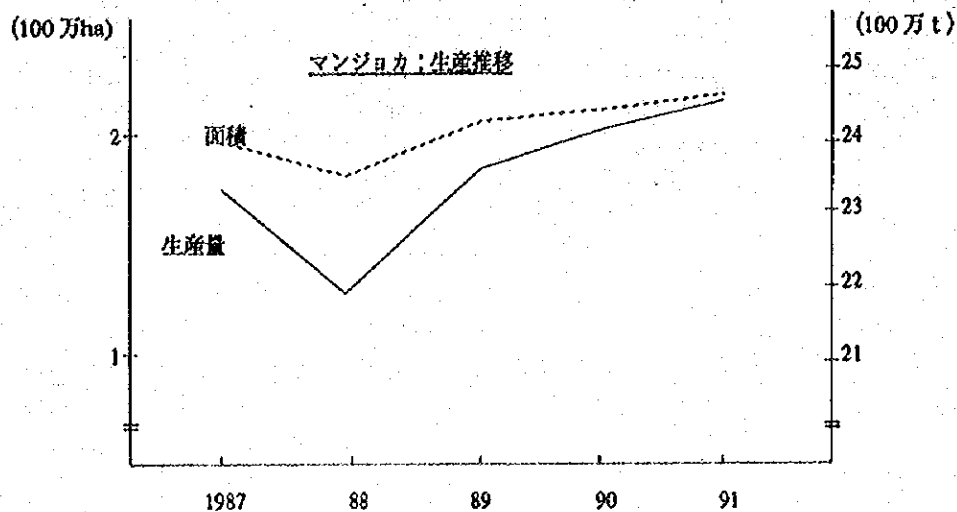


表161 マンジヨカ：過去5ヶ年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	3,920,3	3,429,0	4,022,7	4,152,3	4,170,9
パラナ	2,025,9	1,908,9	2,609,6	2,857,5	3,005,1
パラナ	1,854,0	1,850,0	1,743,0	2,184,6	2,310,0
ピアウイ	1,781,5	1,597,0	1,978,6	2,296,6	1,968,9
マラニオン	1,966,3	1,619,4	1,855,6	1,782,2	1,962,6
その他					
全国計	23,464,5	21,673,8	23,668,5	24,284,7	24,632,2

収穫面積 1,000ha	1987	1988	1989	1990	1991
	1,936,0	1,752,0	1,880,9	1,933,6	1,959,2

出所：IBGE

表162 マンジヨカ：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	12,544	12,700	12,571	12,753	12,644
パラナ	12,606	12,116	13,174	12,395	12,853
パラナ	21,709	21,264	21,000	21,448	21,000
ピアウイ	11,296	11,642	14,233	13,796	12,325
マラニオン	8,108	7,911	7,984	7,853	8,264
全国平均	12,120	12,371	12,584	12,559	12,572

出所：IBGE

表163 マンジヨカ（工業原料用）：生産者受取価格 CR/t

月別	1989	1990	1991
1	81,71	470,49	3,906,60
2	92,46	614,29	4,595,24

3	92,86	997,14	5.859,33
4	96,16	1.050,40	6.123,69
5	103,35	1.335,56	6.708,61
6	115,37	1.422,88	6.198,65
7	114,44	1.495,76	7.508,71
8	121,87	1.548,58	9.385,14
9	133,75	1.816,08	11.018,16
10	173,87	1.945,01	13.593,18
11	181,47	2.608,94	18.003,00
12	222,79	2.980,95	

出所：IEA

3.3.3 煙草業

表164 煙草業：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランド・スル	118,0	115,4	204,6	1.772
サンタ・カタリーナ	84,2	84,2	152,4	1.809
パラナ	22,5	22,5	40,3	1.792
アラゴアス	26,6	26,6	31,6	1.189
バイア	17,2	17,0	10,5	623
その他	6,7	6,7	5,0	746
全 国 計	275,2	272,4	444,4	1.632

出所：IBGE

表165 煙草業：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
リオ・グランド・スル	123,2	123,2	186,6	1.515
サンタ・カタリーナ	89,7	89,1	143,2	1.607
パラナ	23,0	23,0	42,2	1.835
アラゴアス	30,5	30,5	26,0	852
バイア	15,7	15,7	10,2	654
その他	7,2	7,2	5,6	778
全 国 計	289,3	288,7	413,8	1.433

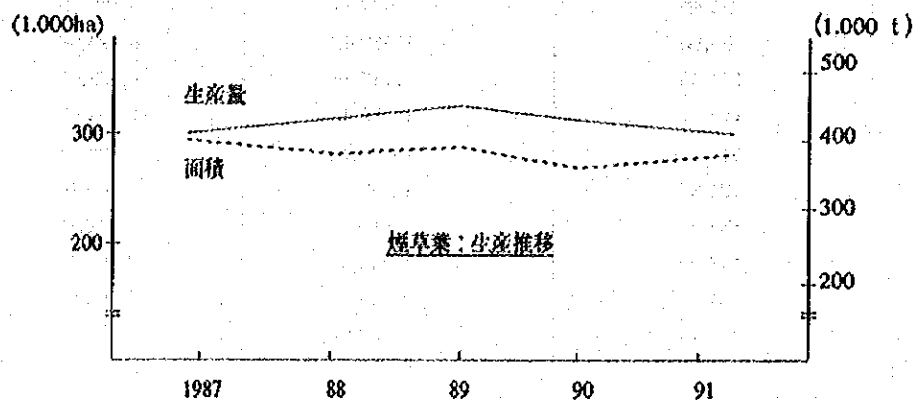


表166 煙草業：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
リオグランデ・ド・スル	147,5	183,3	201,2	204,6	186,6
サンタ・カタリーナ	156,7	149,1	146,3	152,4	143,2
パラナ	40,8	44,0	46,6	40,3	42,2
アラゴアス	29,0	26,6	45,6	31,6	26,0
パイア	14,8	17,4	15,6	10,5	10,2
その他	8,7	10,6	0,7	5,0	5,6
全 国 計	397,5	431,0	456,0	444,4	413,8

収穫面積 1,000ha	1987	1988	1989	1990	1991
	297,7	280,5	289,1	272,4	288,7

出所：IBGE

表167 煙草業：主要生産地の反収 kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
リオグランデ・ド・スル	1.390	1.766	1.722	1.722	1.515
サンタ・カタリーナ	1.594	1.722	1.600	1.809	1.607
パラナ	1.758	1.973	1.850	1.792	1.835
アラゴアス	801	791	1.200	1.189	852
パイア	714	739	784	623	654
全 国 平 均	1.335	1.537	1.543	1.632	1.433

出所：IBGE

3.3.4 サイザル

表168 サイザル：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パイア	170,1	170,1	119,1	700
パラíba	69,0	69,0	57,3	830
リオグランデ・ド・スル	30,0	8,8	8,0	912

ベルナンブーコ	1,5	1,0	0,5	500
その他	10,2	0,3	0,2	647
全国計	270,8	249,2	185,1	743

出所：IBGE

表169 サイザル：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	170,0	170,0	119,0	700
パライーバ	74,5	74,5	57,9	777
マダラダ・ド・ナタ	7,2	7,2	6,6	917
ベルナンブーコ	1,3	1,3	1,0	774
その他	0,2	0,2	0,2	1,000
全国計	253,2	253,2	184,7	729

出所：

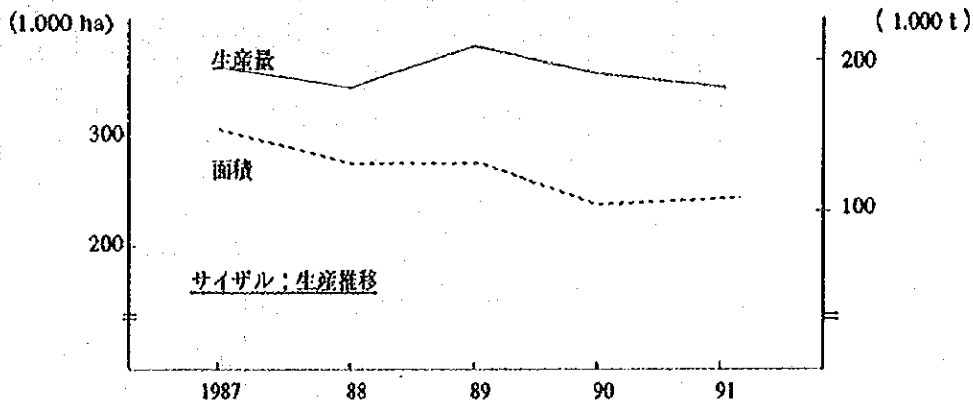


表170 サイザル：過去5ヶ年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	108,0	112,8	150,0	119,1	119,0
パライーバ	64,2	67,5	67,2	57,3	57,9
マダラダ・ド・ナタ	17,6	8,1	7,6	8,0	6,6
ベルナンブーコ	1,3	1,0	1,1	0,5	1,0
その他	0,2	0,1	0,1	0,2	0,2
全国計	191,3	185,4	221,0	185,1	184,7

収穫面積 1,000ha	296,2	270,2	270,2	249,2	253,2
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

表171 サイザル：主要生産地の反収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	600	620	800	700	700
パライーバ	810	815	890	830	777

カグワグ・ド・ワ	504	1,137	872	912	917
ペルナンブコ	762	812	850	500	774
全国平均	646	685	818	743	729

出所：IBGE

3.3.5 ジュート及びマルバ

表172

ジュート：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
アマゾナス	2,4	2,4	2,8	1,200
パラ	0,9	0,7	0,8	1,246
全国計	3,3	3,0	3,6	1,210

出所：IBGE

表173

ジュート：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラ	1,9	1,3	1,7	1,258
アマゾナス	1,3	1,3	1,6	1,200
全国計	3,2	2,6	3,2	1,230

出所：IBGE

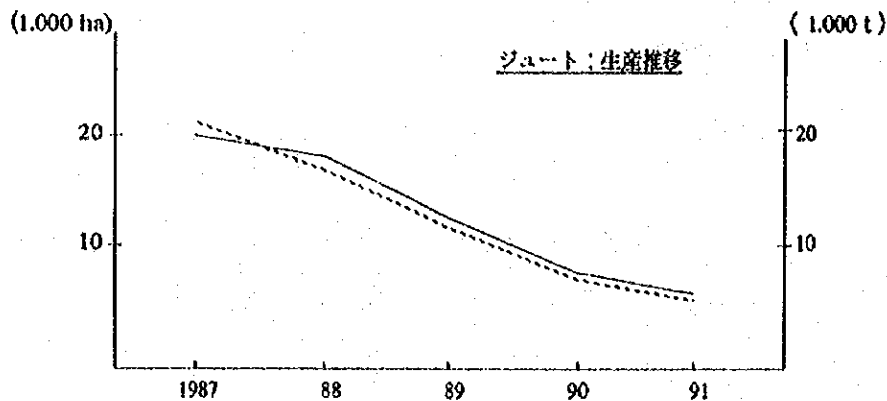


表174

ジュート：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラ	7,6	5,2	2,4	0,8	1,7
アマゾナス	11,9	10,9	5,9	2,8	1,6
全国計	19,5	16,1	8,3	3,6	3,2

収穫面積 1,000ha	20,6	13,5	7,1	3,0	2,6
--------------	------	------	-----	-----	-----

出所：IBGE

表175

シュート：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バラー	1,114	1,158	1,018	1,246	1,258
アマゾーナス	866	1,200	1,200	1,200	1,200
全国平均	947	1,186	1,176	1,210	1,230

出所：IBGE

表176

マルバ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バラー	15,7	13,2	9,2	699
アマゾーナス	3,0	2,9	5,2	1,800
マラニョン	5,1	5,1	4,1	798
全国計	23,8	21,2	18,5	873

出所：IBGE

表177

マルバ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バラー	9,3	9,3	6,8	735
マラニョン	3,7	3,7	2,9	796
アマゾーナス	1,4	1,4	2,5	1,800
全国計	14,4	14,4	12,3	854

出所：IBGE

表178

マルバ：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バラー	26,2	20,8	14,9	9,2	6,8
マラニョン	2,4	2,5	4,1	4,1	2,9
アマゾーナス	17,6	29,6	27,8	5,2	2,5
全国計	46,1	52,9	31,7	18,5	12,3

収穫面積 1,000ha	44,5	47,2	32,2	21,2	14,4
--------------	------	------	------	------	------

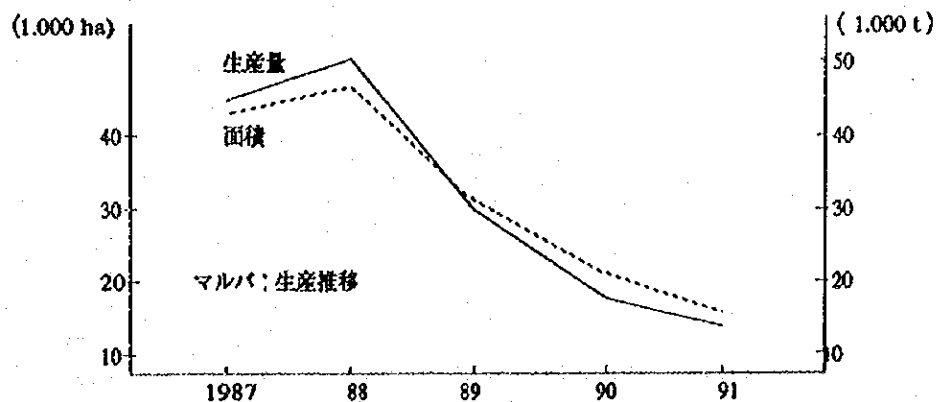


表179

マルバ：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラ	875	757	752	735	735
マラニョン	812	796	798	798	796
アマゾナス	1,513	1,783	1,800	1,800	1,800
全国平均	1,037	1,121	984	873	854

出所：IBGE

3.3.6 ラミー

表180

ラミー：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	7,1	7,1	10,2	1,426
計	7,1	7,1	10,2	1,426

出所：IBGE

表181

ラミー：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パラナ	5,7	5,7	7,4	1,310
計	5,7	5,7	7,4	1,310

出所：IBGE

表182

ラミー：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	15,5	19,1	9,2	10,2	7,4
収穫面積 1,000ha	7,1	8,2	8,0	7,1	5,7

表183

ラミー：主要生産地の反収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	2,183	2,335	1,145	1,426	1,310

3.4 嗜好作物

3.4.1 コーヒー

イ) 生産

表184

コーヒー：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
ミナス・ジェライス	963,2	963,2	1,040,8	1,226
サン・パウロ	567,0	567,0	649,6	1,146
エスピリト・サント	507,7	507,7	436,3	1,030
パラナ	429,7	426,4	313,4	735
Rondônia	148,6	148,6	174,2	1,173

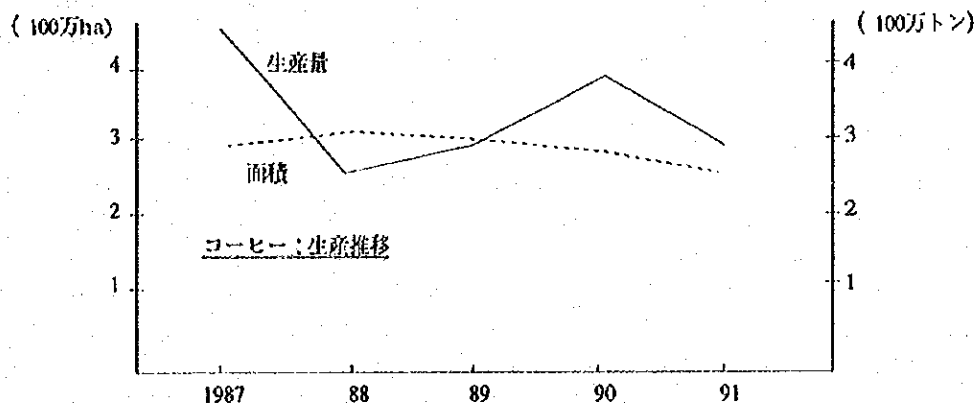
その他	293,4	292,9	311,9	1.065
全国計	2.909,6	2.905,8	2.926,2	1.007

出所：IBGE

表185 コーヒー：1991年の生産状況（91年9月調査）

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000t	単収 kg/ha
ミナス・ジェライス	956,1	951,5	1.166,7	1.226
サン・パウロ	494,5	494,5	540,0	1.092
エスピリト・サント	508,8	508,8	523,6	1.029
パラナ	370,0	370,0	330,0	900
ロンドニア	135,7	135,7	149,3	1.100
その他	281,4	281,4	284,9	1.012
全国計	2.746,5	2.741,9	2.994,5	1.092

出所：IBGE



80年代末におけるコーヒーの全国植付株数は、約43.4億株と推定されている。州別ではミナス・ジェライス州が17億株で40%を占めて最も大きく、サン・パウロ州が7.3億株で17%、エスピリト・サント州もほぼ同等の7.2億株で17%、パラナ州5.2億株12%の分布状況にある。一般にコーヒー樹1,000本より精選コーヒー10俵を得るので現在の植付株数は、年間40百万俵を生産出来る規模である。

IBGEのデータによると全国のコーヒー栽培面積は、1989年に達した3,026,5千ヘクタールを頂点として以後縮小傾向にあり、91年にいたって2,741,9千ヘクタールの収穫面積へと減少している。これは後述する市況の中でコーヒー栽培を放棄、又は他の有利作物に切替える農家が相成り出ているための現象とみられる。農務省関係当局の情報によると年間150～200百万本が伐根又は、放置の状態にあるといわれており、生産態勢にあるコーヒー樹数は全体の85%に相当する35億株程度であろうと推定されている。

ブラジルのコーヒーは基本的にアラビカ種が多く、全生産量の85%がこの品種によって占められており、15%がロブスタ～コニロン種である。アラビカ種は、サン・パウロ及びミナス・ジェライス州に多く、ロブスタ種はエスピリト・サント州及びロンドニア州に多く栽培されている。

表186 コーヒー：過去5ヶ年間の生産実績 1.000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ミナス・ジェライス	1.610,7	1.029,4	1.200,5	1.040,8	1.166,7

サン・パウロ	977,7	565,8	469,5	649,6	540,0
エスピリト・サント	445,0	519,2	526,7	436,3	523,6
パラナ	990,9	228,0	456,0	313,4	330,0
その他	381,1	395,3	407,0	486,1	434,2
全国計	4.405,4	2.737,7	3.059,7	3.926,2	2.994,5

収穫面積 1.000ha	2.875,6	2.975,2	3.026,5	2.905,8	2.741,9
--------------	---------	---------	---------	---------	---------

出所：IBGE

表187 コーヒー：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ミナス・ジェライス	1.875	1.144	1.244	1.226	1.226
サン・パウロ	1.355	814	720	1.146	1.092
エスピリト・サント	1.014	1.081	1.032	1.030	1.029
パラナ	1.962	465	903	735	900
全国平均	1.532	920	1.011	1.007	1.092

出所：IBGE

ロ) 国際市場とブラジルの輸出

USDA (米国農務省) によると91/92 農年における世界のコーヒー生産は、99,9百万俵(60kg入)で90/91 農年の99,7百万俵をや、上回るものと推定している。この中、ブラジルの生産量については、28百万俵と予想しているが、この量はブラジル側も認めており、過去屢々起っていたUSDAの過大又は過少評価はなく妥当な線とされている。世界の生産国としては、ブラジル(28,0百万俵)、コロンビア(14,5百万俵)、インドネシア(6,9百万俵)メキシコ(4,5百万俵)象牙海岸(4,5百万俵)等が主要生産国であり、又大陸別の生産分布はブラジル、コロンビアを含む南米大陸が40%を占め、アフリカが19%でこれに続いている。

国際コーヒー市場は、89年7月に国際コーヒー協定の中で生産国の輸出割当てを定めた経済条項が破棄されて以来、価格コントロールが失われ、生産国よりの輸出拡大による供給量の増加から価格は下降し、以後今日にいたるまで価格の低迷が続いており、今ところこれが回復する見込みは少ない。

表188 コーヒーの国際相場 US\$/ポンド

年 度	コロンビア・スアーベ種	その他のスワーベ種	ブラジル他アラビア種	ロブスタ種
1986年	220,04	192,74	231,19	147,83
87々	123,46	112,29	106,37	102,34
88々	—	135,10	121,84	95,11
89々	107,14	106,96	98,76	75,70
90年1月	96,01	88,26	82,94	52,38
7々	92,45	86,48	78,94	51,47
8々	103,30	94,42	90,25	55,10
9々	102,21	94,92	92,20	57,09
10々	97,20	91,41	85,78	58,05
11々	92,38	84,84	77,46	56,79
12々	97,06	89,89	80,17	57,04

91年1月	91,55	86,32	75,54	53,92
2ヶ月	94,23	89,57	79,39	52,46
3ヶ月	99,36	93,72	83,83	52,13
4ヶ月	97,27	91,73	81,58	52,38
5ヶ月	91,51	87,50	75,56	48,22
6ヶ月	90,18	85,50	72,44	47,10
7ヶ月	88,02	82,73	69,24	46,49
8ヶ月	88,09	81,63	68,15	46,57

出所：OIC

生産国の輸出割当てを復活させ価格コントロールのシステムを再び導入するためのOIC（国際コーヒー機構）会議が2年振りに91年9月に開催され、アフリカ諸国を始めとする多くの生産国が会議の成功を期待していたが、生産国を代表するブラジル及びコロンビア、消費国を代表する米国の利害が一致せず、会議は具体的結論を見せぬまま、92年4月に繰越された。会議の成否を左右する上記3国の中、ブラジルとしては新しい協定が過去のブラジルに対する割当量であった世界輸出の30%の線が維持されない限り協定の復活には反対する態度で臨んでおり、コロンビアは従来の割当量を高め得るシステムの導入、及びコロンビアが産出する高品質コーヒーに対する特典の供与を主張、又、消費国を代表する米国は友好関係にあるコーヒー生産国との政治的約束はあるもの、すべての生産国とより低い価格での取引を可能とする方法を希望し、低価格の輸入により国内市場を更に拡大したい意向を示した。従って今後の会議においてコンセンサスを求めるためには、この3国の意見の調整が先決となる。

89年7月、コーヒー協定の経済条項が撤廃された直後ブラジルの競合国は競って輸出量を増加し、これが国際価格の下落の端緒となったものであるが、ブラジルは逆に89年の18,3百万俵より90年には16,8百万俵へと輸出を減少しており、この余白は協定の復活により、より多くの輸出割当てを要求するコロンビアによって埋められている。

コロンビアでは、コーヒー生産者を保護する政策としてコーヒー基金を設けており、生産コストをベースとする国内価格と世界の需給によって定まる国際価格との差額を基金で負担する制度が続けられているが、低迷が続く国際情勢の中でこの基金も底をついており、緊急に国際協定の復活を必要としている国内事情がある。ブラジルが協定復活に積極的な態度を示さなかったのは、他の生産国が無規制に輸出を増加した中で、港湾ストなど国内事情もあって国内に多くを保留したブラジルは、他の生産国に輸出余力がなくなった時点で十分の貯蔵があり、供給不足によって価格が上昇する場合、これを利用出来る感勢にあったため、あらためて輸出割当てを受けるのは、不利との考えがあったことや、90年3月に発足したコーロル政府の貿易政策が自由解放の線に向っていたことから、国際協定の輸出割当てによって国内的にも規制を行なわねばならないシステムは避けたい意向も強く影響した。ブラジルとしては国際間における価格コントロールの消滅によって一時的なインパクトはあるとしても長期的にみる場合、高品質のコーヒーが生き残り、生産性が低く品質の悪いコーヒーは、国際市場より脱落し、世界の需給は均衡に向うという考えである。

表189 コーヒー：コーヒー（豆）の輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	単価 US\$/t
1981	784	2,486	3,171
82	825	1,517	1,839
83	888	1,858	2,092
84	940	2,095	2,229
85	1,032	2,564	2,484
86	1,034	2,369	2,291
87	988	1,959	1,983
88	514	1,170	2,276

89	653	1.610	2.465
90	853	1.106	1.357

出所：CACEX, DECEX

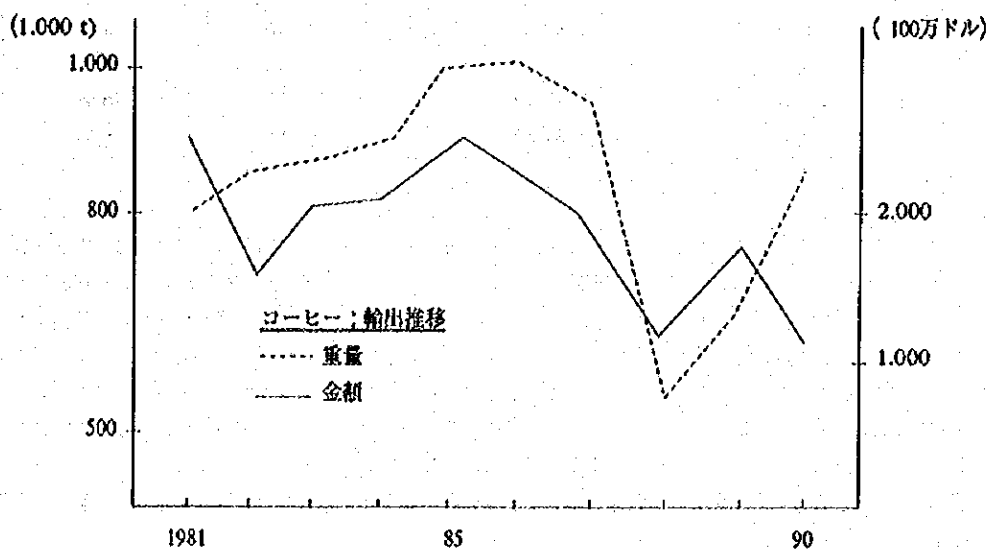


表190 コーヒー：コーヒー（豆）の輸出先市場（1990）

輸出先国	重量 トン	金額 1,000ドル
米国	245.697	299.901
西独	78.412	107.383
イタリー	69.646	98.329
日本	54.031	74.639
フランス	40.026	55.492
スウェーデン	37.458	52.392
スペイン	37.543	47.081
ベルギー	31.794	39.716
ユーゴスラビア	22.954	29.001
オランダ	22.963	28.513
その他	212.364	273.331
計	852.891	1,105.778

出所：DECEX

表191 コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	単価 US\$/t
1981	44	238	5.409
82	45	251	5.578
83	43	247	5.698
84	45	287	6.338
85	40	253	6.325

86	46	297	6,457
87	36	210	5,833
88	23	124	5,369
89	30	193	6,433
90	51	147	2,878

出所：CACEX, DECEX

表192 コーヒー：インスタント・コーヒーの輸出先市場（1990年）

輸出先国	重量 トン	金額 100万ドル
米 国	17,424	44,088
ソ 連	15,255	39,592
英 国	4,892	18,916
カナダ	2,744	7,825
日本	1,887	6,407
ハンガリー	1,523	5,939
オーストラリア	1,860	4,392
イラク	843	3,591
ルーマニア	1,270	5,458
東 独	748	2,576
その他	2,737	10,532
計	51,183	147,316

出所：DECEX

ハ) 国内市場

国際協定の復活に躊躇するブラジル政府の態度は十分の理由があり、長期にみてブラジルに利益をもたらすとの考え方にもとづくものであるが、現実の問題としては、すでに2年にわたって低迷する国際市場の中でブラジルのコーヒー生産者は最悪の状態に置かれており、91年9月の国際コーヒー会議にかけた期待も空しく、協定復活の延期によって更に下降する価格の前に数ヶ月、若しくは数年間苦境が継続していく状況にある。

生産者受取価格を91年3月の価格をベースとした実質価格でみる場合、国際コーヒー協定の経済条項が破棄された直前の89年6、7月に1俵あたりCR100千であった価格は、協定破棄直後の8月にはCR40千に落ちたあと以後反動をみることなく、91年11月にいたって依然としてCR34千の状態にある。

表193 精選コーヒーの生産者受取価格 CR/60kg入1俵

月 別	市場価格			1990年3月をベースとした実質価格		
	1989	1990	1991	1989	1990	1991
1	79	1,092	10,349	81,423	47,571	40,982
2	79	2,248	14,079	72,808	57,060	46,039
3	82	3,207	15,529	72,603	44,898	47,362
4	106	4,046	16,530	89,682	50,855	46,283
5	134	4,221	16,287	100,179	48,625	42,435
6	139	4,233	17,213	82,177	44,744	41,311
7	132	4,331	17,992	56,409	40,537	38,143
8	129	5,776	18,968	40,561	47,887	34,901

9	171	5,940	25,033	38,567	44,074	39,553
10	210	5,964	29,998	33,887	38,709	37,798
11	326	6,263	34,847	36,426	34,633	34,847
12	499	7,929	--	37,372	37,711	--

出所：IEA

このような情勢下でコーヒー生産者の資本は年々減少し、資金の不足は栽培管理の不備につながり、肥料や石灰の使用量が減少する中で多くのコーヒー樹が落葉し、全く放棄された状態に置かれている。州政府の農業普及事務所では、サン・パウロ州内で約50%のコーヒー園がこの状態に置かれているが、91年の開花期には多くの生産地帯が長期乾燥の被害まで蒙ったため、92年度の生産量は30%以上の減産になろうとの見通しを発表している。

サン・パウロ州にかぎらず他の州においても生産の減少が予想されており、例えばミナス・ジェライス州の場合、91年には110万俵以上の収穫を行なったが次年度には、これを約30%減少する生産に落ちるとの見通しがつよい。この減産予想はコーヒーの持つ1年置き増産・減産の繰返えしによるものではなく、管理面の不足にもとづくものであり、州内の主要生産地帯で輸出用高級コーヒーの生産地でもある通称三角ミナス地帯でも大きな減産が見込まれている。

コーヒー価格の下落による生産者収益の低下は、各生産州（サン・パウロ、ミナス・ジェライス、エスピリト・サント、パラナ）の州政府にとっても重大な問題である。コーヒー販売高の低下に伴ない州の重要な財源としてのICMS（商品流通サービス税）が半減するため州財政に大きな支障をもたらしているためである。

コーヒー価格の下落は又、これが国の代表的輸出商品であるだけに貿易収支に大きな影響を与えることはいうまでもないが、これら経済上の問題に加え深刻な社会問題を併発する点も見逃すことの出来ない。

IEA（サン・パウロ農務局、農業経済研究所）が行なった調査によると、コーヒー園が必要とする労働力は、1ヘクタール年間150日間、毎日1人となっているがサン・パウロ州の場合、現在保有する516千ヘクタールのコーヒー園が10%縮小する場合直接雇用26千人が失業することになる。この計算を2,700千ヘクタールの全国コーヒー面積にあてはめて考えると10%の面積減少は、135千人の失業を意味することになる。

苦境にあるコーヒー生産者対策としては、各州でそれぞれの措置が講じられている。サン・パウロ州では、コーヒー生産者が持つ債務の返済期限の延長（92年4月20日まで）、450億クルゼイロの新期融資の提供等の措置が行なわれているが根本的な救済策とするためには、2年据置きの長期融資が必要とされている。すなわち最初の1年目は、放棄されているコーヒー樹の再生のための投資にあてねばならず2年目にこれらが結実し3年目より通常の生産態勢に戻ることにになり、収入がない1～2年の資金融資が必要となる。

サン・パウロ州農務局農業経済研究所が1991年10月に算出したコーヒーの生産コスト表によると1haあたり10俵の生産性の場合、コストはCR45,420,-、20俵の場合CR37,325,-、30俵の場合でCR30,031,-となっているが、これを10月の生産者受取価格CR37,798,-比較する場合、生産性が10俵場合は完全な赤字、20俵収穫して損益なし、30俵を収穫してようやく1俵あたりCR7,700程度の利益が出る計算となっている。

表194 コーヒー：生産コスト推定（91/92農年）（A）
1haあたり10俵(60kg)収穫の場合

項目	1ha当り CR	1俵当り CR	構成比率 %
A) 直接コスト			
1) 労賃	193,096,96	19,309,70	42,51
2) 肥料及び石灰	105,195,60	10,519,56	23,16
3) 農業	--	--	--
4) 機械維持費	29,988,34	2,998,83	6,60
5) 収穫前負債	75,680,00	7,560,00	16,64

6) その他の経費	21,464,00	2,146,40	4,73
小計	425,344,90	42,534,49	93,65
B) 間接コスト			
1) 機械減価償却費	9,717,66	971,77	2,14
2) 金融費用	19,140,52	1,914,05	4,21
小計	28,858,18	2,885,82	6,35
合計	454,203,08	45,420,31	100,00

出所：IEA 1991年10月価格

表195 コーヒー：生産コスト推定(91/92 農年) (B)
1haあたり20俵(60kg)収穫の場合

項目	1ha当り CR	1俵当り CR	構成比率 %
A) 直接コスト			
1) 労賃	199,352,96	9,967,65	26,70
2) 肥料及び石灰	156,643,50	7,832,18	20,98
3) 農薬	108,252,00	5,426,25	14,54
4) 機械維持費	48,836,50	2,441,83	6,54
5) 収穫請負費	151,200,00	7,560,00	20,25
6) その他の経費	31,664,00	1,583,20	4,24
小計	696,221,96	34,811,10	93,26
B) 間接コスト			
1) 機械減価償却費	16,932,14	846,61	2,27
2) 金融費用	33,357,51	1,667,88	4,47
小計	50,289,65	2,514,49	6,74
合計	746,511,62	37,325,58	100,00

出所：IEA 1991年10月価格

3.4.2 ココア

表196 ココア：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	549,5	548,4	298,0	543
パラ	48,5	48,2	28,6	592
ロンドニア	41,4	41,4	20,3	492
エスピリト・サント	22,2	21,0	6,5	308
マツト・グロッソ	2,9	2,9	1,7	565
その他	3,0	1,4	0,1	123
全国計	667,5	663,3	355,2	536

出所：IBGE

表197 ココア：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
パイア	543,3	543,0	284,2	523
パラ	51,6	51,3	29,7	579
ロンドニア	43,3	43,3	22,8	526
エスピリト・サント	21,1	21,1	6,5	308
マツト・グロソ	3,1	3,1	1,7	554
その他	2,9	2,9	0,4	125
全 国 計	665,3	664,7	345,3	519

出所：IBGE

表198 ココア：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パイア	269,9	272,9	320,8	298,0	284,2
パラ	20,7	23,6	29,2	28,6	29,7
ロンドニア	29,1	32,7	40,9	20,3	22,8
エスピリト・サント	5,8	10,5	6,6	6,5	6,5
マツト・グロソ	1,9	1,5	2,7	1,7	1,7
その他	1,9	1,2	2,4	0,1	0,4
全 国 計	329,3	392,4	392,6	355,2	345,3

収穫面積 1,000 ha	649,4	702,5	660,0	663,3	664,7
---------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

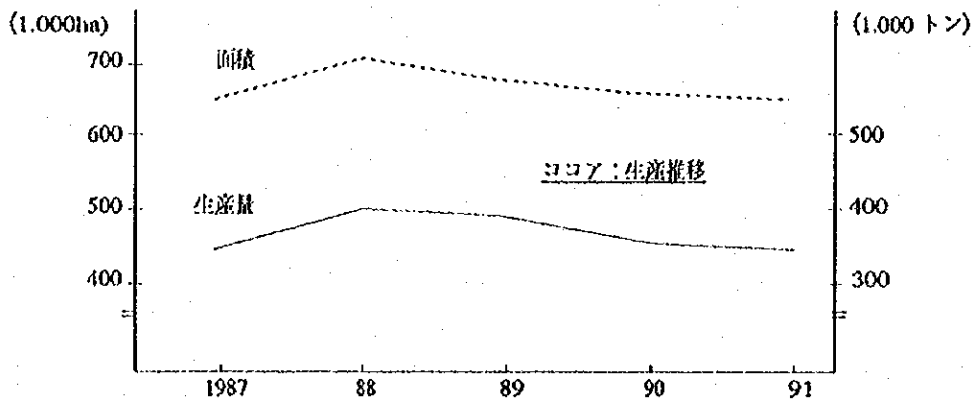


表199 ココア：主要生産地の反収 kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パイア	485	490	551	543	523
パラ	585	600	710	592	579
ロンドニア	971	841	955	492	526

エスピリト・サント	267	486	296	308	308
マツ・グロツソ	809	375	337	565	554
全国平均	507	559	595	536	519

出所：IBGE

表200 ココア：ココア（豆）の輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価 US\$/t
1981	125	242	1,929
82	144	216	1,505
83	153	284	1,857
84	107	249	2,322
85	172	361	2,094
86	134	273	2,037
87	143	266	1,860
88	134	215	1,602
89	107	134	1,252
90	118	128	1,082

出所：CACEX, DECEX

表201 ココア（豆）の輸出先市場（1990年）

輸出先国	重量 t	金額 1,000ドル
米 国	41,296	44,483
オランダ	18,370	21,368
ソ 連	17,360	16,555
ポーランド	7,260	8,119
カナダ	5,665	6,617
英 国	5,340	5,648
スペイン	4,790	5,072
ユーゴスラビア	3,780	4,061
アルゼンチン	2,658	3,219
その他	11,607	12,613
計	118,126	127,785

出所：CACEX, DECEX

表202 ココア・リコールの輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価 US\$/t
1981	73	195	2,688
82	37	79	2,179
83	52	119	2,269
84	67	194	2,895
85	69	181	2,635
86	53	131	2,142
87	42	99	2,357

88	46	95	2.071
89	43	73	1.698
90	27	42	1.531

出所: CACEX, DECEX

表203 ココア・リロールの輸出先市場 (1990年)

輸出先市場	重量 t	金額 1,000ドル
ソ連	10,100	14,240
米国	8,928	13,919
アルゼンチン	3,859	6,279
ハンガリー	900	1,625
オーストラリア	1,019	1,609
ポーランド	625	989
チリー	464	850
南アフリカ連邦	300	478
その他	1,145	1,865
計	27,340	41,854

出所: DECEX

表204 ココア・バターの輸出推移

年度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価 US\$/t
1981	29	145	4,991
82	31	120	3,952
83	32	129	4,004
84	36	168	4,687
85	43	203	4,752
86	44	199	4,522
87	44	184	4,279
88	47	171	3,638
89	34	100	2,941
90	47	136	2,875

出所: CACEX, DECEX

表205 ココア・バターの輸出先市場 (1990年)

輸出先市場	重量 t	金額 1,000ドル
米国	23,349	66,913
オランダ	9,939	29,555
ソ連	4,600	12,080
日本	3,460	9,257
アルゼンチン	1,408	4,377
チリー	790	2,569
ハンガリー	905	2,530
ユーゴスラビア	783	2,269

カナダ	693	2.143
その他	1.295	4.092
計	47.222	135.785

出所：DECEX

3.4.3 ビメンタ

表206 ビメンタ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000t	単収 kg/ha
パラ	31,2	30,2	68,1	2.257
エスピリト・サント	2,0	2,0	4,9	2.436
マラニョン	0,5	0,5	1,1	2.355
パイア	0,2	0,2	0,5	2.608
その他	0,4	0,3	0,1	333
全国計	34,3	33,2	74,7	2.249

出所：IBGE

表207 ビメンタ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000t	単収 kg/ha
パラ	34,3	33,3	75,8	2.275
エスピリト・サント	2,3	2,3	5,5	2.439
マラニョン	0,5	0,5	1,1	2.382
パイア	0,2	0,2	0,6	3.019
その他	0,3	0,3	0,2	667
全国計	37,6	36,6	83,2	2.273

出所：IBGE

表208 ビメンタ：主要生産地の反収 kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラ	2.262	2.593	2.581	2.257	2.275
エスピリト・サント	2.658	2.259	2.328	2.436	2.439
マラニョン	1.161	1.113	1.464	2.355	2.382
パイア	1.345	1.140	2.571	2.608	667
全国平均	2.206	2.490	2.241	2.249	2.273

出所：IBGE

表209 ビメンタ：過去5ヶ年間の生産推移 1.000トン

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラ	42,0	55,8	63,1	68,1	75,8
エスピリト・サント	3,0	2,8	3,3	4,9	5,5
マラニョン	0,4	0,4	0,5	1,1	1,1
パイア	0,3	0,2	0,4	0,5	0,6
その他	0,2	0,2	0,2	0,1	0,2

全国計	45,9	59,4	65,5	74,7	83,2
-----	------	------	------	------	------

収穫面積 1,000ha	20,8	23,9	29,2	33,2	36,6
--------------	------	------	------	------	------

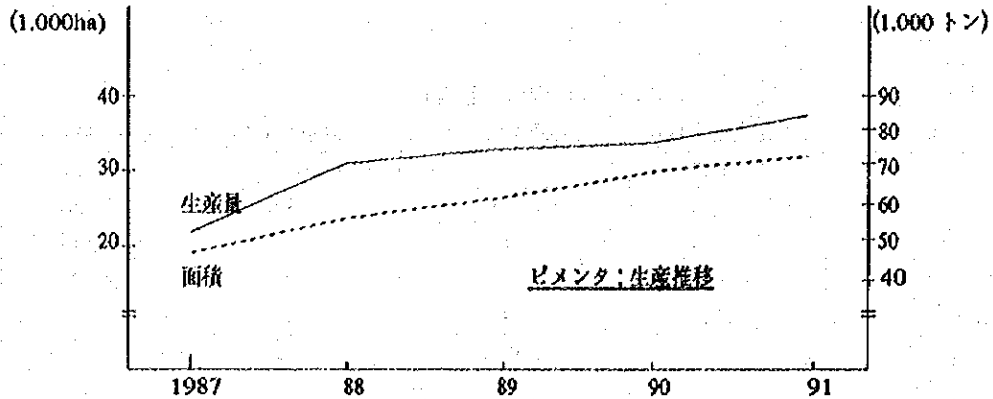


表210 ビメンタ (黒) の輸出先市場

輸出先国	重量 t	金額 1000ドル
米国	9,600	14,237
西独	4,238	5,718
オランダ	2,458	3,242
フランス	2,463	3,230
メキシコ	899	1,418
ソ連	800	1,210
モロッコ	915	1,205
スペイン	855	1,104
シンガポール	750	998
その他	4,131	6,081
計	27,109	38,443

出所：DEC EX

表211 ビメンタ (白) の輸出先市場

輸出先国	重量 t	金額 1000ドル
アルゼンチン	650	1,624
ウルグアイ	49	142
メキシコ	44	107
西独	69	93
オランダ	42	67
米国	16	37
フランス	15	21
その他	19	47

計	904	2,138
---	-----	-------

出所：DECEX

3.4.4 グアラナ

表212 グアラナ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	1,5	1,5	0,8	518
アマゾンナス	8,4	7,1	0,4	63
マット・グロッソ	0,8	0,8	0,2	238
バラ	0,3	0,2	0,1	365
その他	0,1	0,1	-	-
全国計	11,1	9,7	1,5	155

出所：IBGE

表213 グアラナ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バイア	1,6	1,6	0,9	596
アマゾンナス	7,1	7,1	0,5	63
マット・グロッソ	0,8	0,8	0,2	261
バラ	0,2	0,2	0,1	412
その他	0,1	0,1	-	-
全国計	9,8	9,8	1,7	174

出所：IBGE

表214 グアラナ：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	0,6	0,6	0,6	0,8	0,9
アマゾンナス	-	-	-	0,4	0,5
マット・グロッソ	0,3	0,3	0,2	0,2	0,2
バラ	0,1	0,1	0,1	0,1	0,1
その他	0,6	0,9	0,5	-	-
全国計	1,6	1,9	1,4	1,5	1,7

収穫面積 1,000ha	11,7	12,4	11,2	9,7	9,8
--------------	------	------	------	-----	-----

出所：IBGE

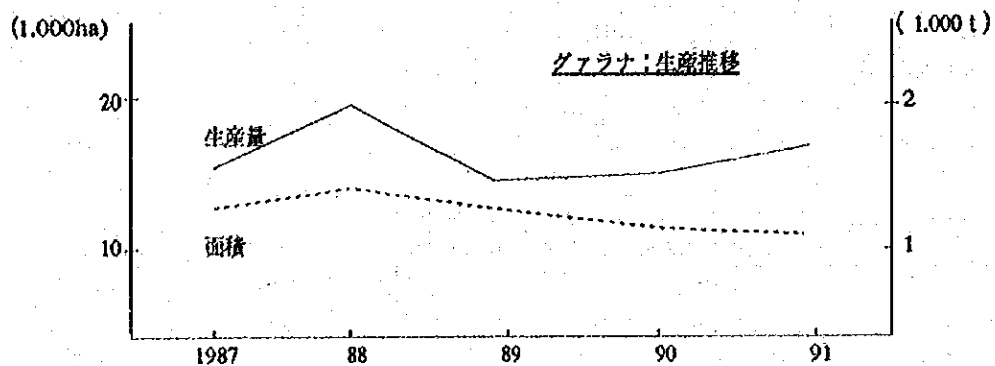


表215

グアラナ：主要生産地の反収

kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
バイア	479	479	478	518	596
アマゾンナス	—	—	—	63	63
マツト・グロツソ	127	134	189	238	261
パラ	384	249	300	365	412
全国平均	135	156	122	155	172

出所：IBGE

3.5 果実類

3.5.1 オレンジ

イ) 生産

表216

オレンジ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 100万個	単収 万個/ha
サン・パウロ	722,9	722,9	72.325,0	100.055
セルジッペ	34,4	34,4	3.674,8	106.905
リオ・デ・ジャネイロ	34,4	34,2	2.449,7	71.657
バイア	28,7	28,7	2.116,0	73.751
リオ・グランデ・ド・スカ	25,3	25,3	2.056,3	81.199
ミナス・ジェライス	33,4	33,4	2.020,1	60.425
パラ	5,4	5,4	594,8	110.005
パラナ	4,3	4,3	418,4	98.189
サンタ・カタリーナ	2,6	2,6	365,9	141.235
マラニョン	2,7	2,7	267,6	100.151
ゴヤス	3,6	3,6	258,0	72.078
アマゾンナス	1,4	1,3	180,8	134.604
ピアウイ	1,4	1,4	174,7	124.163
ペルナンブコ	2,5	2,4	137,1	56.074
その他	7,9	7,9	492,6	62.354
全国計	910,9	910,5	87.531,8	96.136

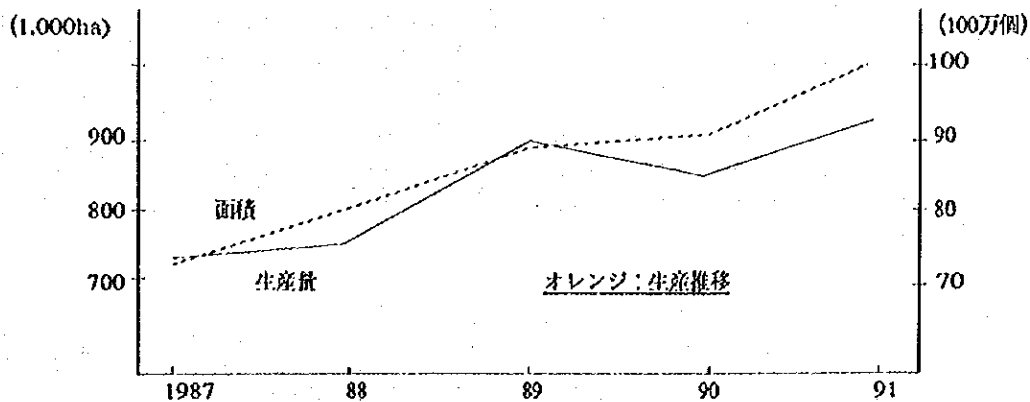
出所：IBGE

表217 オレンジ：1991年の生産状況（91年9月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 100万個	単収 /ha
サン・パウロ	789,3	789,3	79.000,0	100.114
セルジッペ	35,6	35,6	3.583,2	100.731
リオ・デ・ジャネイロ	34,1	34,1	2.447,3	71.743
パイア	32,3	32,3	2.393,2	74.153
ミナス・ジェライス	33,7	33,7	2.043,1	60.654
リオ・グランデ・ド・スカ	24,9	24,9	1.896,9	76.302
パラナ	6,8	6,8	890,5	131.733
パラナ	4,4	4,4	440,0	100.000
サンタ・カタリーナ	3,3	3,3	372,9	113.625
ゴヤス	4,3	4,3	301,4	69.921
マラニョン	2,6	2,6	259,8	98.325
ピアウイ	1,6	1,6	191,9	122.710
アマゾン	1,4	1,4	189,0	135.000
ペルナンブコ	2,5	2,5	156,2	62.464
その他	8,1	8,1	545,4	67.333
全 国 計	984,9	984,9	94.710,8	96.165

出所：IBGE

国際相場の変動が大きい濃縮オレンジ・ジュースの原料として不安定な国際価格動向に左右される部門であるが、過去数年間に到来した価格の高騰とくに米国フロリダ州の降霜に伴う国際相場の高騰がすでに数回にわたって起り、その都度国内価格をつりあげ、オレンジ・ブームをもたらしたことからオレンジ栽培への関心は、年毎に高まっており栽培面積が継続して増加を続けている数少ない農産物の一つである。



IBGEのデータにもとづく最近の栽培面積は1990年が10,5千ヘクタール、91年度が984,9千ヘクタールで100

万ヘクタール台へと接近している。国内の生産分布は、サン・パウロ州を含む南東地方がもっとも大きく東北地方がこれに続いている。州別の生産規模としては、サン・パウロ州が圧倒的に大きく、90年度の実績をみると収穫面積において全国の80%、生産量において、83%を占めている。東北地方では、セルジッペ州の生産が大きく全国生産量の4.2%を占めてサン・パウロに続く重要な生産地帯となっている。その他、南東地方に属するリオ・デ・ジャネイロ州(2.8%)、東北地方のバイア州(2.4%)、南部地方のリオ・グランデ・ド・スール州(2.3%)、サン・パウロに隣接するミナス・ジェライス州(2.3%)を主要生産地帯とする形態は変わっていない。

オレンジの生産量については生産統計の公式機関であるIBGE(ブラジル地理統計院)が毎年発表する生産統計は個数をもって表わされており、91年の生産量を91,710百万個と推定している。これに対し業界(生産者、中央市場ジュース工場、輸出企業)では箱数を用いており91/92農年の生産量を300百万箱(1箱の重量40.8kg)と推定している。この中、サン・パウロ州の生産量は245百万箱である。

表218 オレンジ：過去5ヶ年間の生産推移 (100万個)

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	60,635,0	63,115,0	71,935,0	72,325,0	79,000,0
セルジッペ	3,148,4	3,366,6	3,529,3	3,674,8	3,583,2
リオ・デ・ジャネイロ	2,033,7	2,059,9	2,521,2	2,449,7	2,447,3
バイア	1,160,1	1,242,5	1,940,5	2,116,0	2,393,2
ミナス・ジェライス	2,111,5	2,321,9	2,126,2	2,020,1	2,043,1
リオ・グランデ・ド・スール	1,918,9	1,629,2	365,5	2,056,3	1,896,9
その他	2,561,2	1,830,1	6,598,5	2,889,9	5,348,1
全 国 計	73,568,8	75,565,2	89,016,2	87,531,8	94,710,8

収穫面積 1,000ha	725,6	805,7	882,6	910,5	984,9
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

表219 オレンジ：主要生産地の反収 万個/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	107,718	96,899	105,361	100,055	100,114
セルジッペ	106,725	109,887	108,528	106,905	100,731
リオ・デ・ジャネイロ	62,383	63,186	71,740	71,657	71,743
バイア	69,885	71,000	81,924	73,751	60,654
ミナス・ジェライス	66,191	73,182	66,944	60,425	76,302
リオ・グランデ・ド・スール	89,251	74,542	85,290	81,199	131,733
全 国 平 均	101,396	93,789	100,853	96,136	96,165

出所：IBGE

ロ) 国際都市とブラジルの輸出

オレンジ部門でブラジルが国際市場に進出しているのは、濃縮オレンジ・ジュース分野であり、世界最大の生産国かつ輸出国としての地位を築いている。オレンジ青果の国際市場には殆ど参加比率は少なく、輸出量は僅少である。ブラジルにとってもっとも関心が深い市場は国際濃縮オレンジ・ジュース市場である。

濃縮オレンジ・ジュースの消費市場は、米国が圧倒的に大きなシェアを占めているため米国自体の原料生産状況が濃縮オレンジ・ジュースの国際相場(ニューヨーク取引市場相場)を左右する決め手となっている。当然世界最大

の生産規模を持つブラジルの生産動向が国際相場に影響を与えることは当然であるが、ブラジルの場合はオレンジ・ジュースの国内消費がまだ初期の段階にあって僅少であり、生産されたジュースの大半が米国を中心とした世界の各国に輸出されている状況にあるため、ニューヨークの取引相場を動かす鍵は、あくまで米国のオレンジ生産如何にかかっている。中でも米国最大のオレンジ生産地帯を構成するフロリダ州の生産動向は、世界の相場を左右するだけの方があり、過去数年置きに発生した降霜の被害が国際相場高騰のきっかけとなってきた。

米国のフロリダ州における生産動向が国際相場を大きく動かした最近の例としては、89年末の降霜による被害とそれに伴う価格の高騰、90年10月にUSDA（米国農務局）が発表したフロリダ州の生産回復と増産予想による相場の暴落、91年10月同じくUSDAによるフロリダ州の減産予想にもとづく相場の上昇があげられる。

過去の記録をみるとフロリダ州における降霜の発生は、12月と1月に集中しており、中でもクリスマス前後に発生率ももっとも多く、又1月20日が降霜のリスクがある最後の日とされている。91年末の降霜は、クリスマスの24、25日に発生しており、被害率15%（降霜前の収穫予想130百万箱を110百万箱に落す）という被害で過去の例と比較して中位の被害状況（過去最大の被害は1962年の36%、1983年の30%）であったがニューヨーク取引市場の相場は12月中に早くも降霜前のポンド当り126.65セントより160.05セントへと上昇、1月には200セントの大口を越す暴騰を引き起こしブラジルのオレンジ業界にも久し振りの高値をもたらしオレンジ・ブームを出現させた。

この高値は91年8月まで継続したあと、9月に入ると毎年10月に行われるUSDAの次期生産予想を前に買い控えが始まって下降を開始し130セント台を辛うじて維持する状況にあったが、10月に行われたUSDAによるフロリダ州の生産予想が、業界が予想していた130百万箱を大巾に上回る160百万箱と発表されたことからニューヨーク取引市場の相場は110セントへと暴落し、以後1年間にわたって120セント前後を低迷する低い相場の時期を作ることになった。

91年を支配した低値はブラジルのオレンジ業界をも直撃し90年のブームとは逆に沈滞した市場を形成し、それまで続いてきたオレンジ園拡大の傾向は中断され、オレンジ・ジュース工場の和議申請(CITRO PECTINA社)、オレンジ生産者が工場より受取る価格の低下などの問題が発生した。

1年間にわたる低い相場がようやく上昇に転じたのは前年の場合と同様に10月に行なわれたUSDAによる次期フロリダ州の生産予想にもとづくもので、91年の場合は前年とは逆に一般に予想されていた160百万前後の生産量が130百万箱と発表されたため相場は一転して上昇傾向に入り、以後92年に入っても高値が続いている。

このように上下を繰返したニューヨーク市場の取引相場は、次の通りであった。

表220 ニューヨーク取引市場の濃縮オレンジ・ジュース相場

年 月	ポンド当り	US\$	備 考
1989年 12月	126.65	～ 160.05	フロリダ州の降霜
1990年 1々	168.05	～ 196.50	1月23日204.85セントを記録
2々	194.50	～ 204.85	2月29日最高記録を再現
3々	188.25	～ 195.20	高値継続
4々	198.75	～ 185.30	〃
5々	188.50	～ 194.30	〃
6々	173.60	～ 177.55	フロリダ州の降霜被害が予想外に低かった
7々	177.65	～ 164.95	ことから相場は下る。
8々	163.90	～ 148.30	価格は下降傾向に入る。
9々	143.90	～ 132.10	10月のUSDA発表を前に取引停滞。
10々	132.40	～ 110.75	10月12日USDAの次期生産予想の結果相場暴落
11々	111.90	～ 110.50	低価格の時代に入る。
12々	110.30	～ 116.15	月末のカリフォルニアの寒波も相場に影響なく低値継続。
1991年 1々	111.15	～ 119.35	ブラジルの次期生産が減産との予想に若干の

1991年	2ヶ月	119,10	～	110,10	値動きがあったが、根本的な変化はない。 USDAの生産予想は依然として変わらず低相場によりブラジルの輸出登録価格はUS\$970/トンと設定された。
	3ヶ月				
	4ヶ月	118,10	～	115,40	4月の先物市場も取引量が少なく低相場が継続した。この間23日には、112,10セントの最低記録を残している。
	5ヶ月	145,50	～	120,90	米国の生産が順調にすすんでいるため価格反発の材料はなく依然として低値が継続した。
	6ヶ月	122,90	～	113,90	月末にかけて下降する価格が支配し低値のまま継続した。
	7ヶ月	114,85	～	117,10	月間を通じて120セントに達したのは、1日のみで他は、すべて115セント前後の低い価格であった。
	8ヶ月	116,90	～	119,35	全 上
	9ヶ月	118,60	～	122,10	10月のUSDAによる次期生産予想の発表を控え取引量は少なく、わずかな上昇をみるに止まった。
	10ヶ月	121,70	～	168,50	12日に行なわれたUSDAの次期生産に関する予想が業界全般で予想していた170百万箱を(-)25%も下回る136百万箱と発表されたことからニューヨーク相場は、USDA発表の翌日から上昇を開始、そのまま、上昇を続けて月末には早くも168,50の高値を記録するにいたった。
	11ヶ月	171,20	～	168,40	11月に入ると更に上昇して170セントを越え、6日には178セントと最高を記録したが、これを頂点として以後下降し、フロリダ州に降霜の危険もなかったことから12月末から156セントへと落ちた。降霜のリスクが完全に遠のいた1月中旬以降は、可成り平穏に戻って140セント台に落ちついているが、それでも91年の全体を通じて支配した価格と比較すると高い水準である。
92年	1ヶ月	153,45	～	143,00	

出所：GAZETA MERCANTIL

濃縮オレンジ・シユースの輸出は、このような国際相場の影響を受けて毎年大きな変動を繰返しているが過去2ヶ年間をみると90年度には、10月のUSDA発表によって暴落したのがすでに年も終りに近い10月であったことから年間の大半が高値の時期に輸出されており、更にこの高値を利用した過去最大の重量（954千トン）が輸出されたため、平均単価では、1985年のトン当たり1,544,-に劣る1,539,-であったものの、輸出金額は85年の記録を破る14,7億ドルを記録した。

90年とは逆に91年は10月のUSDA発表により相場の上昇をみるが、年間の大半が低値であったため1～10月間の統計で平均価格はトン当たり\$910と低く、従って輸出金額も10月まで666百万ドルに止まっており、年間を通じた輸出

額が10億ドルを越すのは困難な状況となっている。

濃縮オレンジ・ジュースの輸出先市場は、90年において降霜の被害を受けた米国が最大の輸入（6,2億ドル）を行なったが、91年はオランダが米国を抜いて最大の市場となっている。ブラジルの濃縮オレンジ・ジュース輸出会社は総数40社である。

表221 濃縮オレンジ・ジュースの輸出推移

年 度	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価 US\$/t
1981	639,1	659,1	1.031
82	521,2	573,4	1.100
83	553,1	607,9	1.099
84	904,8	1.414,5	1.563
85	484,8	748,9	1.544
86	808,3	682,2	844
87	755,0	830,5	1.100
88	663,6	1.144,3	1.724
89	723,9	1.019,0	1.407
90	953,9	1.468,4	1.539

出所：CACEX, DECEX

表222 ブラジルの輸出総額に占めた濃縮オレンジ・ジュースの比率

年 度	輸出総額 100万ドル	オレンジ・ジュース輸出額 100万ドル	比率 (%)
1981	23.293	659	2,8
82	20.175	573	3,0
83	21.899	608	2,8
84	27.005	1.415	5,2
85	25.639	749	2,9
86	22.393	682	2,8
87	26.273	831	3,2
88	33.500	1.144	3,4
89	34.383	1.019	3,0
90	31.390	1.469	4,2

出所：CACEX, DECEX

表223 濃縮オレンジ・ジュースの輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 FOB 100万ドル	平均単価 US\$/t
米国	401,4	617,3	1.538
オランダ	306,2	474,5	1.550
ベルギー	114,8	168,1	1.464
カナダ	34,7	57,5	1.660
西独	34,8	49,0	1.410
日本	20,6	35,6	1.726
韓国	15,4	24,2	1.565
イスラエル	4,6	7,5	1.637

ギリシャ	3,6	6,4	1.772
英国	3,8	5,7	1.480
プエルトリコ	3,3	5,2	1.569
フィンランド	3,0	4,9	1.634
ニュージーランド	2,2	3,5	1.622
オーストラリア	1,2	1,8	1.559
その他	4,3	7,2	
計	953,9	1.468,4	1.539

出所：DEC EX

表224

濃縮オレンジ・ジュースの輸出 (1991年1-10月)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万ドル	平均単価US\$/t
オランダ	274,6	254,4	926
米国	230,9	207,1	897
ベルギー	84,6	76,4	903
カナダ	44,2	39,0	882
韓国	30,8	29,2	950
日本	19,6	17,5	892
西独	14,2	12,8	901
英国	7,3	7,1	972
オーストラリア	6,4	5,3	833
ギリシャ	3,6	3,2	886
プエルトリコ	2,9	2,8	953
フィンランド	3,0	2,7	922
その他	9,6	8,9	-
計	731,7	666,4	910

出所：DEC EX

表225

濃縮オレンジ・ジュースの輸出会社 (1990年)

輸出会社	金額 FOB 100万ドル	主要輸出先国
SUCOCHTRICO CUIRAL S.A.	407,1	米国、オランダ、西独
CITRO SUCO PAULISTA S.A.	345,5	米国、ベルギー、カナダ
FRUTESP S.A.	190,2	オランダ、米国、日本
CARGILL - CITRUS LTDA.	85,6	米国、日本、カナダ
MONTECITRUS TRADING S.A.	82,0	オランダ、米国、日本
FRUTRODIC S.A.	63,2	オランダ、米国、ギリシャ
CITRO PECTINA S.A.	38,0	西独、オランダ、英国
BRANCO PERES CITRUS S.A.	36,9	米国、オランダ
CARGILL TRADING S.A.	35,9	オランダ、米国、カナダ
FRUTENTIB IND. DE FRUTOS S.A.	18,5	オランダ、米国
BRACITRUS AGRO IND S.A.	17,5	米国、ギリシャ、オランダ
その他 29社	148,0	
計 40社	1.468,4	

出所：DEC EX

ハ) 国内価格

ジュース工場よりオレンジ生産者が受取る価格、すなわち工場への出荷価格については、ニューヨーク市場の相場を基準として行なうことが定められており、ニューヨーク相場が上れば、オレンジ生産者の受取価格も上り、相場が下れば生産者の受取価格も落ちる仕組みとなっている。

過去87/88年より89/90農年にいたる3ヶ年間1箱あたりの価格は、\$3.50前後の高い水準にあったため、91年度についても年間の価格を暫定的に\$2.60と定め、これを基準として契約時点で\$1.40、残りを農年が終る91年6月まで月払いとし農年の終了時点で、過去1年間のニューヨーク相場を基準として精算を行なうことになっていた。90年10月USDAによるフロリダ州の増産予想は、ニューヨーク相場を暴落させたがその結果1箱当りの生産者価格も\$1.10に下落したため、すでに前途金と、毎月の支払いを受けてきたオレンジ生産者は工場に対し払戻しを行なうが、債務を次期の生産物で精算せねばならぬ破目に陥ることとなり、深刻な情勢となった。91年10月子期しなかったニューヨーク相場の上昇によって活路を見出したもの、若しこの相場の高騰がなければ極めて深刻な情勢であったといえる。目まぐるしく変動する濃縮オレンジ・ジュースの市場を浮彫りにした動きであった。

表226 オレンジ生産者受取価格の推移

年 度	US \$ / 1箱 (40,8kg)
1987/88	3,23
1988/89	3,74
1989/90	3,54
1990/91	1,11

出所：ABRASSUCO

ニ) 生産コスト

サン・パウロ州農務局農業経済研究所が発表した91/92農年の生産コスト予想は、次表の通りである。

表227 オレンジ園造成コスト (1ヘクタール)

内 訳	第1年目	第2年目	第3年目	第4年目
生産コスト				
労賃	97.103	67.278	84.204	106.190
苗代	76.890	—	—	—
肥料石灰	34.216	23.000	63.633	49.474
農薬	11.007	28.879	43.086	72.615
機械維持費	112.583	63.203	82.368	124.643
減価償却費	41.542	26.752	34.830	51.511
金融費用	39.816	21.883	32.795	42.351
計 CR	413.159	230.955	340.915	446.784
1箱あたりコスト CR	—	—	—	1.405
US\$換算 (1ha当り)	676,75	378,37	558,42	731,83
US\$換算 (1箱当り)	—	—	—	2,30
出所：IEA				

表228

オレンジ生産コスト

内 訳	リベロン・プレート	カンピーナス	サント・ド・カタリナ
1ha当り生産量 (箱)	524	560	564
生産コスト			
労賃	38,036	30,428	33,653
苗代	—	—	—
肥料石灰	141,414	82,077	142,407
農薬	146,260	92,463	136,768
機械維持費	64,327	47,748	60,723
減価償却費	41,112	34,361	39,735
金融費用	46,804	31,526	44,826
計	477,952	328,603	458,112
1箱あたりコスト CR	912	587	812
US\$ 換算 (1ha当り)	782,89	538,25	750,39
US\$ 換算 (1箱当り)	1,49	0,96	1,33

出所：IEA

3.5.2 バナナ

表229

バナナ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000房	単収 房/ha
パイア	76,9	76,9	83,7	1,089
サン・パウロ	43,2	43,2	64,8	1,500
パラナ	27,4	26,9	42,9	1,593
サンタ・カタリーナ	29,3	29,2	42,5	1,453
ベルナンプーコ	31,1	30,9	39,7	1,282
ミナス・ジェライス	35,8	35,2	35,7	1,015
カタリナ	34,5	34,5	34,0	989
セアラ	37,1	37,1	32,2	867
パラíba	18,5	18,5	28,4	1,534
マツト・グロソン	35,3	35,3	26,1	741
その他	123,9	119,7	120,0	1,003
全 国 計	493,0	487,4	550,2	1,129

出所：IBGE

表230

バナナ：1991年の生産状況

kg

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000房	単収 房/ha
サン・パウロ	44,8	44,8	81,0	1,808
パイア	75,8	75,8	80,1	1,056
サンタ・カタリーナ	30,6	30,5	43,3	1,417
ベルナンプーコ	31,3	31,3	39,3	1,258
パラナ	26,4	26,4	38,7	1,465
セアラ	39,8	39,8	36,2	910
ミナス・ジェライス	34,2	34,2	35,6	1,040

カヂ・ジ・林田	34,6	34,6	34,3	989
マツト・グロツソ	35,8	35,8	27,1	756
バライーバ	18,6	18,6	25,7	1.385
その他	118,7	118,7	121,3	1.022
全 国 計	490,6	490,5	563,0	1.148

出所：IBGE

表231 バナナ：過去5ヶ年間の生産推移 房

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	69,1	53,2	69,9	64,8	81,0
バイア	76,7	81,8	90,1	83,7	80,1
サンタ・カタリーナ	39,0	39,6	40,6	42,5	43,3
ペルナンブーコ	35,5	37,6	39,4	39,7	39,3
パラナ	20,7	27,7	43,6	42,9	38,7
その他	272,1	271,9	266,9	276,6	280,6
全 国 計	513,1	511,8	550,5	550,2	563,0

収穫面積 1.000ha	447,4	466,0	483,2	487,4	490,5
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

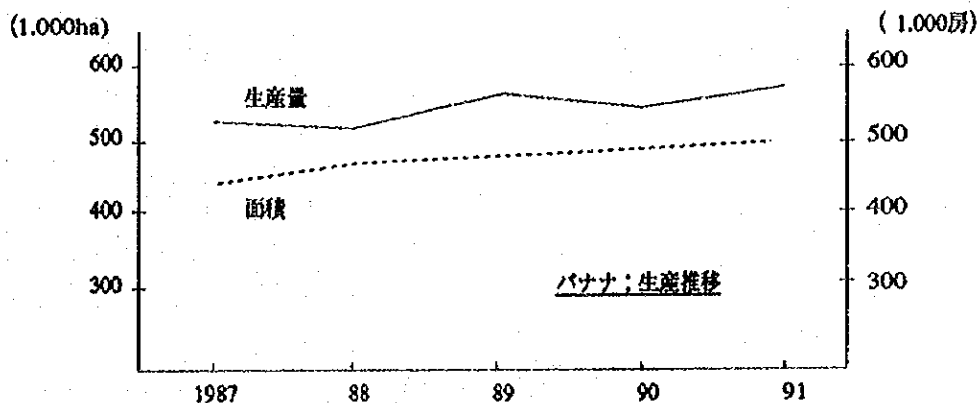


表232 バナナ：主要生産地の反収

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	1.393	1.150	1.553	1.500	1.808
バイア	1.183	1.240	1.209	1.089	1.056
サンタ・カタリーナ	1.449	1.443	1.482	1.453	1.417
ペルナンブーコ	1.491	1.321	1.336	1.282	1.258
パラナ	1.361	1.416	1.598	1.593	1.465
全 国 平 均	1.147	1.098	1.139	1.129	1.148

出所：IBGE

2. 5. 3 バイン・アップル

表233 バイン・アップル：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000個	単収 個/ha
パラíba	11,5	9,4	284,2	30.373
ミナス・ジェライス	10,0	10,0	186,0	18.690
バイア	2,3	2,3	45,6	19.949
ベルナンブコ	1,8	1,7	32,0	18.451
エスピリト・サント	1,3	1,3	30,2	22.799
リオ・グランド・ノルテ	1,5	1,3	28,5	22.028
アラゴアス	0,9	0,9	21,0	23.120
サン・パウロ	1,0	1,0	19,7	20.258
その他	4,3	4,2	76,8	18.286
全 国 計	34,6	32,1	724,0	22.561

出所：IBGE

表234 バイン・アップル：1991年の生産状況（91年9月調査）

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000万個	単収万個 /ha
パラíba	10,7	10,7	307,3	28.797
ミナス・ジェライス	9,9	9,9	196,3	19.772
バイア	2,5	2,5	48,9	19.623
リオ・グランド・ノルテ	2,0	2,0	43,4	22.097
エスピリト・サント	1,8	1,8	40,9	22.645
ベルナンブコ	2,0	2,0	36,2	18.003
アラゴアス	0,9	0,9	21,2	23.467
リオ・グランド・ノルテ	0,6	0,6	18,7	30.589
その他	4,2	4,2	73,9	17.595
全 国 計	34,6	34,6	786,8	22.766

出所：IBGE

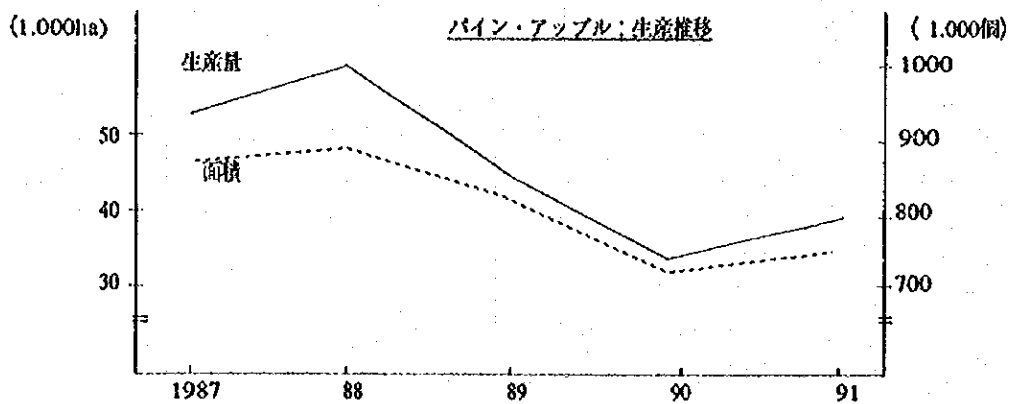


表235

パイナップル：過去5ヶ年間の生産推移

1,000個

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラíba	426,4	451,5	332,5	284,2	307,3
ミナス・ジェライス	276,1	241,8	225,0	186,0	196,3
パイア				45,6	48,9
リオ・グランデ・ド・ノル	26,6	77,4	53,2	28,5	43,4
エスピリト・サント	30,8	34,4	35,5	30,2	40,9
その他				149,5	150,0
全国計	957,4	1.012,8	838,8	724,0	786,8

収穫面積 1,000ha	45,7	46,1	38,0	32,1	34,6
--------------	------	------	------	------	------

出所：IBGE

表236

パイナップル：主要生産地の反収

個/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
パラíba	25.230	28.149	29.012	30.373	28.797
ミナス・ジェライス	18.782	17.664	18.792	18.690	19.772
パイア				19.949	19.623
リオ・グランデ・ド・ノル	24.181	25.745	25.713	22.028	22.097
エスピリト・サント	25.666	24.127	23.431	22.799	22.645
全国平均	20.945	21.980	22.072	22.561	22.766

出所：IBGE

3.5.4 ぶどう

表237

ぶどう：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スカ	40,0	40,0	538,7	13.459
サン・パウロ	8,8	8,8	126,2	14.362
サンタ・カタリーナ	4,7	4,7	70,8	15.039
パラナ	2,7	2,7	36,0	13.192
ペルナンブーコ	1,1	1,1	14,5	12.716
全国計	57,4	57,4	786,2	13.699

出所：IBGE

表238

ぶどう：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
リオ・グランデ・ド・スカ	40,0	40,0	395,9	9.901
サン・パウロ	8,9	8,9	122,8	13.739
サンタ・カタリーナ	4,3	4,3	44,1	10.275
パラナ	2,9	2,9	38,8	13.321

ベルナンブーロ	1,2	1,2	17,1	13,981
全国計	57,4	57,4	618,8	10,788

出所：IBGE

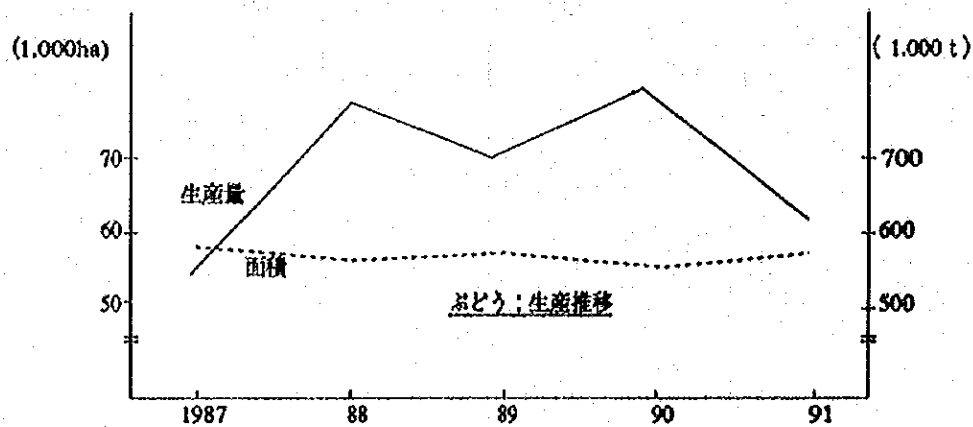


表239

おどろ：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオ・グランデ・ド・スカ	351,4	541,8	471,6	538,7	395,9
サン・パウロ	107,2	99,4	106,0	126,2	122,8
サンタ・カタリーナ	60,0	77,8	74,3	70,8	44,1
パラナ	24,6	30,1	34,9	36,0	38,8
その他				14,5	17,1
全国計	566,0	771,7	716,6	786,2	618,8

収穫面積 1,000ha	58,8	58,3	59,2	57,4	57,4
--------------	------	------	------	------	------

出所：IBGE

表240

おどろ：主要生産地の収収

kg/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
リオ・グランデ・ド・スカ	8.817	13.599	11.622	13.459	9.901
サン・パウロ	11.805	11.588	11.622	14.362	13.739
サンタ・カタリーナ	10.309	14.010	13.647	15.039	10.275
パラナ	11.056	12.398	13.327	13.192	13.321
全国平均	9.625	13.230	12.110	13.699	10.788

出所：IBGE

3.6 野菜類

3.6.1 トマト

表241 トマト：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
サン・パウロ	15,4	15,4	593,5	38.636
ゴヤス	6,9	6,9	320,4	46.462
ミナス・ジェライス	5,8	5,8	283,3	48.775
ペルナンブコ	10,2	10,0	269,6	27.020
パイア	7,7	7,7	236,4	30.624
リオ・デ・ジャネイロ	3,0	3,0	142,2	47.357
セアラ	2,2	2,2	72,6	33.574
エスピリト・サント	1,5	1,5	72,1	49.925
サンタ・カタリーナ	1,7	1,6	69,1	42.450
マト・グランド・ド・スル	2,8	2,8	61,5	22.030
その他	3,9	3,7	134,6	
全 国 計	61,1	60,6	2.255,3	37.208

出所：IBGE

表242 トマト：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
サン・パウロ	14,4	14,4	668,3	46.406
ペルナンブコ	11,3	10,2	317,5	31.188
ミナス・ジェライス	6,1	6,1	267,5	43.702
ゴヤス	5,4	5,4	231,1	43.122
パイア	6,5	6,5	214,9	33.093
リオ・デ・ジャネイロ	3,2	3,2	156,9	49.505
セアラ	2,2	2,2	81,9	36.668
エスピリト・サント	1,5	1,5	78,3	51.864
サンタ・カタリーナ	1,7	1,7	71,8	42.397
マト・グランド・ド・スル	2,9	2,9	56,6	19.685
その他	4,7	4,5	1.264,2	
全 国 計	59,9	58,6	2.309,0	39.370

出所：IBGE

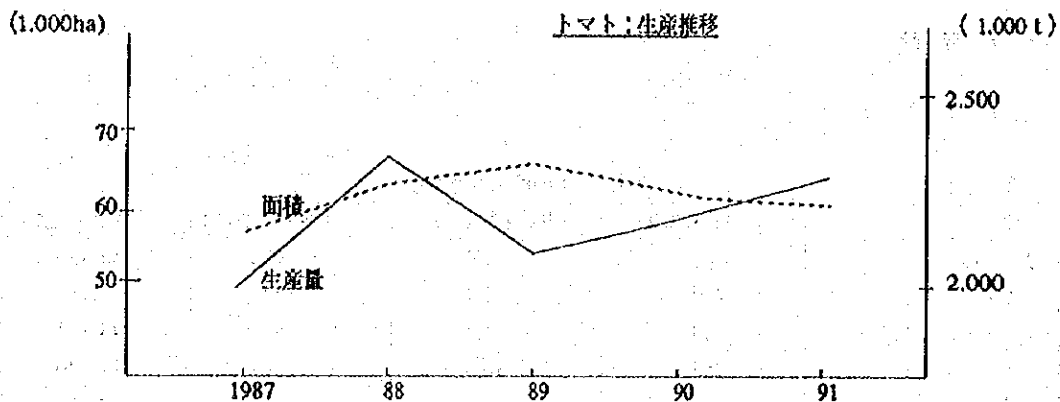


表243

トマト：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	733,8	766,4	785,2	593,5	668,3
ペルナンブーコ	300,7	497,6	487,7	269,6	317,5
ミナス・ジェライス	186,2	168,8	182,1	283,3	267,5
ゴヤス				320,4	231,1
パイア	267,9	329,6	316,3	236,4	214,9
その他				552,1	609,7
全 国 計	2,049,3	2,406,9	2,177,5	2,255,3	2,309,0

収穫面積 1,000ha	57,6	62,8	64,5	60,6	58,6
--------------	------	------	------	------	------

出所：IBGE

表244

トマト：主要生産地の反収

kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	41,931	41,966	42,483	38,636	46,406
ペルナンブーコ	25,483	36,671	31,379	27,020	31,188
ミナス・ジェライス	40,478	41,761	42,127	48,775	43,702
ゴヤス				46,462	43,122
パイア	35,720	36,135	33,228	30,624	33,093
全 国 平 均	35,574	38,328	33,780	37,208	39,370

出所：IBGE

表245

トマト（食卓用）：生産者受取価格

CR/27kg

月 別	1989	1990	1991
1	3,83	52,64	988,71
2	10,68	136,10	1,415,59
3	16,36	237,34	2,300,58
4	17,42	327,69	2,614,14

5	15,60	615,25	2.232,18
6	17,42	962,57	1.777,78
7	15,60	1.158,14	1.640,81
8	14,30	1.259,08	1.616,51
9	12,89	1.155,01	2.170,36
10	11,33	958,80	2.989,73
11	16,10	860,38	3.418,42
12	38,39	875,14	

出所：IEA

表246 トマト（工業原料用）：生産者受取価格 CR/27kg

月 別	1989	1990	1991
1	--	0,44	--
2	--	0,84	--
3	--	--	--
4	0,06	--	--
5	0,09	4,15	20,88
6	0,12	5,01	23,75
7	0,12	5,95	23,94
8	0,13	6,94	25,78
9	0,17	7,60	28,44
10	0,24	7,41	32,59
11	0,44	7,80	--
12	0,24	10,05	

出所：IEA

3. 6. 2 ジャガイモ

表247 ジャガイモ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
パラナ	41,6	41,3	616,5	14.927
ミナス・ジェライス	28,7	28,4	535,1	18.842
サン・パウロ	25,1	25,1	505,9	20.155
オ・ダ・グアラ・ド・スル	41,8	41,7	339,5	8.141
サンタ・カタリーナ	18,2	18,1	181,4	10.022
その他	4,2	3,2	40,7	12.719
全国計	159,6	157,8	2.219,1	14.066

出所：IBGE

表248 ジャガイモ：1991年の生産状況（91年9月調査）

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
パラナ	41,9	41,9	639,9	15.272
サン・パウロ	26,9	26,9	568,8	21.145

ミナス・ジェライス	24,8	24,8	485,1	19.560
リオ・グランデ・ド・ノル	45,9	45,5	323,5	7.110
サンタ・カタリーナ	18,4	18,2	162,1	8.907
その他	2,8	2,8	24,4	8.714
全国計	160,7	160,1	2.213,8	13.828

出所：IBGE

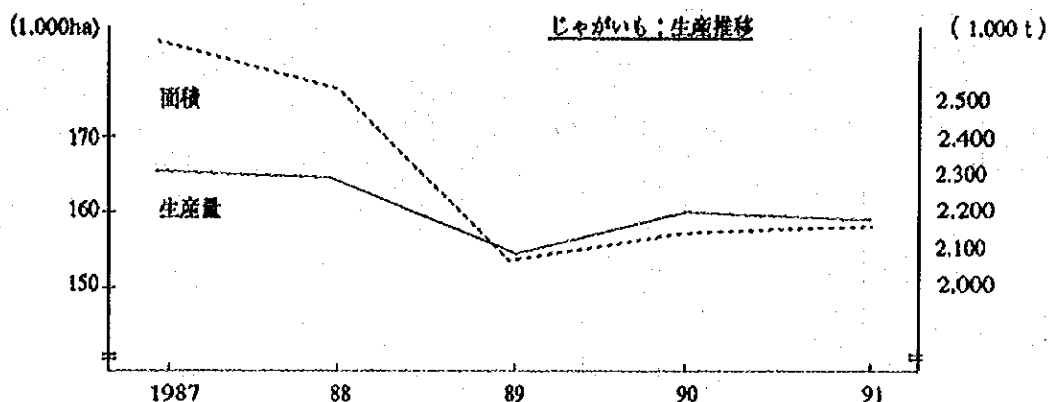


表249

ジャガイモ：過去5ヶ年間の生産推移

1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	662,1	660,5	501,4	616,5	639,9
サン・パウロ	574,8	500,6	525,0	505,9	568,8
ミナス・ジェライス	601,4	605,4	577,1	535,1	485,1
リオ・グランデ・ド・ノル	274,3	315,2	294,3	339,5	323,5
サンタ・カタリーナ	180,6	170,0	162,3	181,4	162,1
その他	37,6	63,3	72,2	40,7	24,4
全国計	2.330,8	2.315,0	2.132,3	2.219,1	2.213,8

収穫面積 1,000ha	176,9	173,7	156,8	157,8	160,1
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所：IBGE

表250

ジャガイモ：主要生産地の反収

kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
パラナ	13.189	13.403	12.790	14.927	15.272
サン・パウロ	19.160	19.740	19.962	20.155	21.145
ミナス・ジェライス	18.060	18.081	18.921	18.842	19.560
リオ・グランデ・ド・ノル	6.962	7.443	7.664	8.141	7.110
サンタ・カタリーナ	8.940	9.302	11.780	10.022	8.907
全国平均	13.179	13.325	13.602	14.066	13.828

出所：IBGE

表251

じゃがいも：生産者受取価格

CR/60kg

月 別	1989	1990	1991
1	7.80	204.13	3,680.09
2	19.45	298.12	3,877.79
3	25.13	602.89	5,001.27
4	25.18	921.13	7,824.91
5	37.32	979.76	8,668.48
6	51.42	1,057.14	7,577.77
7	50.97	1,552.93	6,455.93
8	46.22	1,295.80	5,488.94
9	39.89	1,781.30	4,879.62
10	41.08	3,003.03	4,719.39
11	62.22	3,353.80	4,096.92
12	83.23	3,373.64	

出所：IEA

3.6.3 玉ねぎ

表252

玉ねぎ：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
サンタ・カタリーナ	28.4	27.3	306.5	11,237
サン・パウロ	15.7	15.7	276.0	17,602
リオ・グランデ・ド・スル	17.3	17.3	131.6	7,622
バイア	5.1	5.1	68.5	13,440
パラナ	5.5	5.5	44.6	8,049
ベルナンブコ	2.8	2.8	34.3	12,473
その他	0.8	0.7	5.6	8,000
全 国 計	75.6	74.4	867.1	11,653

出所：IBGE

表253

玉ねぎ：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000 t	単収 kg/ha
サン・パウロ	15.6	15.5	296.1	19,025
サンタ・カタリーナ	27.0	26.9	289.0	10,735
リオ・グランデ・ド・スル	17.4	17.1	110.9	6,465
バイア	7.0	7.0	94.7	13,532
ベルナンブコ	3.7	3.5	52.9	15,043
パラナ	6.0	6.0	42.5	7,095
その他	0.8	1.0	25.1	25,000
全 国 計	77.5	77.0	891.2	11,575

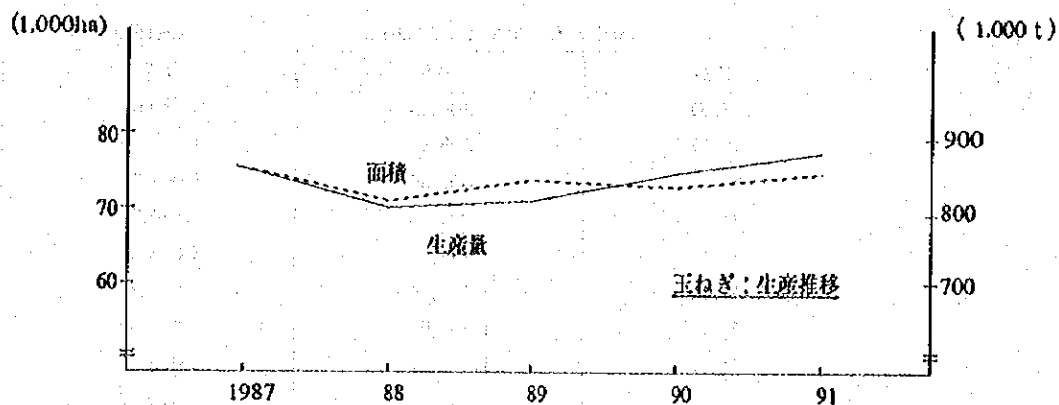


表254 玉ねぎ：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	282,5	266,7	283,9	276,0	296,1
サンタ・カタリーナ	261,4	211,7	207,6	306,5	289,0
マトグゾス	166,7	124,3	127,4	131,6	110,9
バイア	54,4	88,1	88,5	68,5	94,7
ペルナンブーコ	48,1	28,4	41,3	34,3	52,9
その他	40,9	61,1	48,6	50,2	47,6
全国計	854,0	780,3	797,3	867,1	891,2

収穫面積 1,000ha	75,0	69,3	73,8	74,4	77,0
--------------	------	------	------	------	------

出所：IBGE

表255 玉ねぎ：主要生産地の反収

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	16.916	16.996	17.433	17.602	19.025
サンタ・カタリーナ	11.000	9.686	8.544	11.237	10.735
マトグゾス	8.505	7.745	7.630	7.622	6.465
バイア	14.645	11.765	12.253	13.440	13.532
ペルナンブーコ	11.186	12.113	12.080	12.473	15.043
全国平均	11.380	11.240	10.802	11.653	11.573

出所：IBGE

表256 玉ねぎ：生産者受取価格 CR/kg

月 別	1989	1990	1991
1	0,22	2,31	34,72
2	0,24	3,63	47,50
3	0,24	—	87,68
4	0,27	—	—
5	0,23	25,76	130,15
6	0,29	87,87	69,47

7	0,25	109,16	38,29
8	0,17	71,12	47,55
9	0,66	27,99	65,25
10	1,93	17,66	90,69
11	3,06	14,58	59,00
12	2,80	16,95	

出所：IEA

3.6.4 にんにく

表257 にんにく：1990年の生産実績

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
サンタ・カタリーナ	4,1	4,1	19,8	4.834
ミナス・ジェライス	3,1	3,0	13,2	4.340
リオ・グランド・ノルテ	2,8	2,8	9,3	3.310
ゴヤス	2,2	2,2	9,1	4.131
エスピリト・サント	1,5	1,5	6,3	4.323
パラナ	1,3	1,3	4,3	3.373
サン・パウロ	0,8	0,8	4,0	5.077
バイア	0,8	0,8	2,8	3.367
その他	0,6	0,6	2,3	3.833
全 国 計	17,2	17,1	71,1	4.145

出所：IBGE

表258 にんにく：1991年の生産状況 (91年9月調査)

州 別	作付面積 1.000ha	収穫面積 1.000ha	生産量 1.000 t	単収 kg/ha
サンタ・カタリーナ	4,5	4,5	26,3	5.806
ミナス・ジェライス	3,5	3,5	16,7	4.838
リオ・グランド・ノルテ	3,3	3,3	12,2	3.709
ゴヤス	2,5	2,5	11,4	4.625
エスピリト・サント	1,1	1,1	6,4	5.927
パラナ	1,3	1,3	5,0	3.800
サン・パウロ	1,0	1,0	4,9	5.031
バイア	0,7	0,7	2,5	3.642
その他	0,5	0,5	2,0	4.000
全 国 計	18,4	18,4	87,4	4.768

出所：IBGE

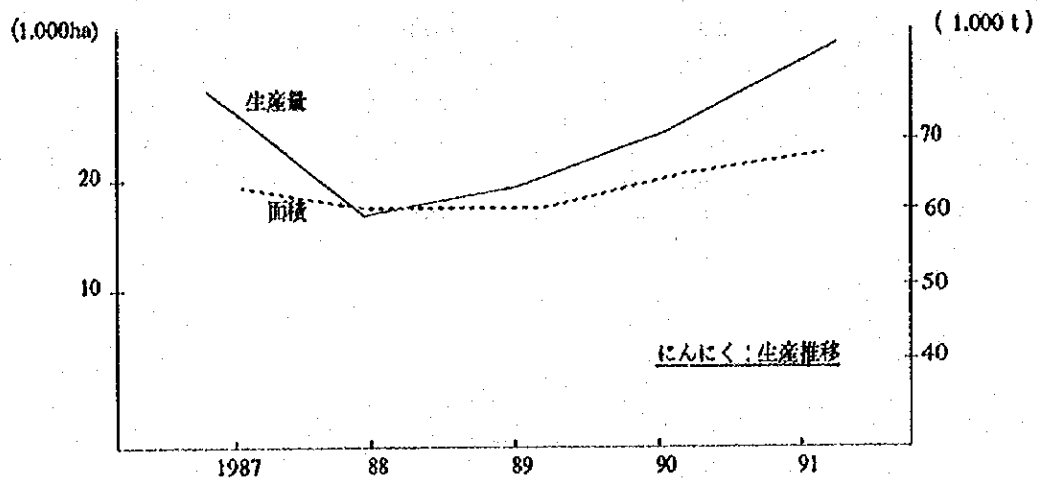


表259 にんにく：過去5ヶ年間の生産推移 1,000 t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サンタ・カタリーナ	24,4	13,5	15,9	19,8	26,3
ミナス・ジェライス	17,1	13,1	13,3	13,2	16,7
リオ・グランデ・ド・スル	8,0	6,9	7,0	9,3	12,2
ゴヤス	6,0	6,1	6,9	9,1	11,4
エスピリト・サント	6,7	4,1	4,4	6,3	6,4
その他	14,0	13,8	14,5	11,4	14,4
全 国 計	76,2	57,5	62,0	71,1	87,4

収穫面積 1,000ha	17,9	14,3	14,0	17,1	18,4
--------------	------	------	------	------	------

出所：IBGE

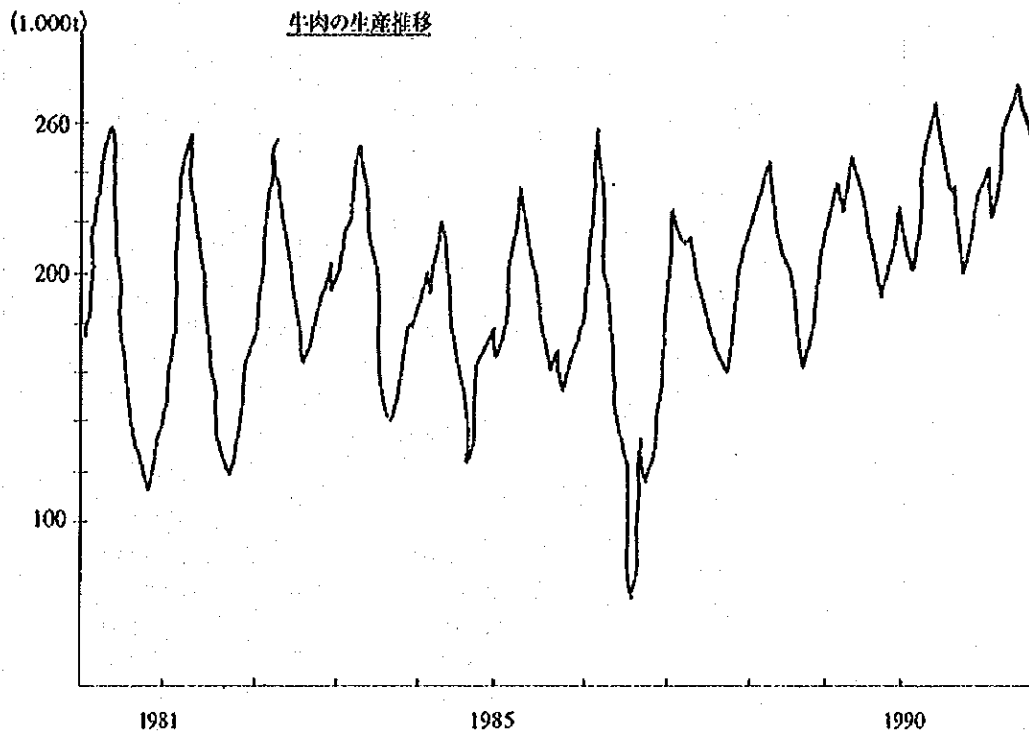
3.7 牧畜部門

3.7.1 牛

イ) 国内市場

IBGEが毎月行なっている屠殺数調査の結果によると、1990年には13百万頭が屠殺され、2,8百万トンの牛肉が生産された。1991年度についてはいまだ、年間全体の統計は発表されていないが、これまでに判明している1-8月間の実績をみると屠殺数は、前年同期を4%上回る9,3百万頭、牛肉生産が2,2百万トンに達しているのが年間を通じ前年を3,5%増加した2,9百万トンの牛肉が生産されたものと推定されている。

牛肉の生産推移を示したグラフによると毎年年頭に生産量が増大し、後半の相場期にかけて減少する類似した傾向がみられる。これによると1986年クルザード・プランによって実施された価格の凍結を避けて生産を大巾に落した他は、平均的な推移がみられるが1つの傾向として年間における上下の巾が次第に縮小していることが観察される。



国内の牛肉需要については、全般的に困難な経済情勢下にかかわらず比較的順調な供給態勢にあったが、リセッション経済の中で消費者の購買力が低下し、蛋白質に対する需要も牛肉と比較して安価な鶏肉、卵や魚卵に移行したため、牛肉市場は大きな影響を受けることになった。このような情勢下で91年を通じた牛肉の消費量は前年を約(-)4%落したものと推定されており、このような需要の減退が牛肉価格にネガティブな影響を与えることになった。

91年1月末に実施された物価の凍結を中心とする第2コーロル・プラン直後にみられた牛肉市場の混乱も短期間におさまり、当初高値をみていた肥育牛価格も3月以降国内の主要市場における取引の正常化に従い緩和されていった。牧畜生産者が牛の補給のために資金を必要としたことから牛の売りものが増加し価格を押し上げたものである。

実質価格でみて前年度より落ちたもの、91年の価格は、一応満足すべきものとされている。上半期の取引量は1,5百万トンで平均価格は、アローバ(15kg)当り、\$19.00で前年より実質(-)29%の下落であったが下半期は\$24.00に戻っており、例年の平均価格となっている。端境期(10月)と収穫期(5月)との値の開きは90年が62%であったのに対し、91年は49%に止まった。

1992年についてはまず生産面では、91年の8月以降全国的にみられた長期の乾燥により牧草の生育がいちじるしく阻害されたもの、91年の生産レベルが維持される見込みである。

消費面については、依然として続くリセッション下において楽観的見通しを立てることは、困難であるが海外市場への販売は近隣国に比して低い生産コストのブラジル産品が持つ競争力やアルゼンチンの輸出を制約している同国の為替レートの問題、ウルグアイにおける生産量の減少などから輸出とくに米国市場向輸出の復活が期待されている。

表260

牛(仔牛)：生産者受取価格

CR/1頭

月 別	1989	1990	1991
1	79,09	1,952,57	16,774,24
2	94,63	3,289,92	24,316,47
3	115,80	5,079,24	26,768,32

4	154,30	5.515,57	31.396,60
5	213,54	7.960,19	33.526,00
6	295,76	11.260,98	37.670,44
7	283,83	11.678,03	42.147,05
8	283,88	12.396,37	54.222,84
9	432,09	15.241,18	55.369,81
10	458,91	15.566,14	68.927,38
11	562,60	13.031,08	98.201,89
12	802,47	13.200,31	

出所：IEA

表261 牛(放牧牛)：生産者受取価格 CR/1頭

月 別	1989	1990	1991
1	181,50	4.218,09	34.029,17
2	202,39	6.953,67	44.959,10
3	232,96	9.862,41	48.903,50
4	293,24	11.011,82	55.298,02
5	389,12	15.157,95	57.927,44
6	546,01	20.187,19	65.619,71
7	537,80	20.813,63	76.683,75
8	790,00	23.080,86	97.832,18
9	869,37	27.744,16	109.214,70
10	932,17	27.974,18	148.170,50
11	1.256,47	25.676,87	172.477,25
12	1.982,67	25.912,06	

出所：IEA

表261 牛(肥育牛)：生産者受取価格 CR/15kg

月 別	1989	1990	1991
1	18,23	431,82	3.547,91
2	18,94	652,45	4.443,07
3	20,33	1.000,03	4.465,10
4	25,46	1.082,26	4.831,98
5	23,16	1.264,46	4.944,44
6	50,47	1.760,38	5.722,83
7	50,65	1.830,36	7.230,34
8	82,47	2.170,90	9.586,45
9	86,56	2.777,06	10.812,29
10	97,79	2.788,97	15.804,08
11	151,92	2.662,73	18.321,54
12	226,46	2.665,12	

出所：IEA

表263

牛(1日10リットル以上の乳牛):生産者受取価格

CR/1頭

月 別	1989	1990	1991
1	324,35	9,384,39	77,037,71
2	425,87	14,872,09	95,331,72
3	505,89	18,623,81	105,548,50
4	568,45	24,421,36	123,620,40
5	721,11	34,174,83	136,000,00
6	1,062,89	46,958,26	158,395,00
7	1,082,93	61,322,60	183,886,00
8	1,715,52	69,009,53	212,606,20
9	2,228,19	72,835,28	236,502,40
10	2,504,29	79,488,43	278,545,00
11	3,204,01	69,773,40	326,744,20
12	4,396,23	69,244,36	

出所:IEA

ロ) 国際市場とブラジルの輸出

91年9月にUSDAが行なった調査によると1991年度における世界の牛肉生産量は48,2百万トンと推定されている。これは前年の90年に記録された48,5百万トンと殆んど同レベルである。世界の主要生産国の中では米国(前年比10%増)、ブラジル(2,3%増)ニュージーランド(5,1%増)日本(2,2%増)等の増加があった反面、EC(-0,9%)アルゼンチン(-0,4%)オーストラリア(-0,2%)ウルグアイ(-9,7%)等に生産の減少があった。

1991年における世界の牛肉輸入量は前年を3,0%増加した3,3百万トンに達したものと推定されている。又輸出は再輸出を含み、4,2百万トンの見込みでEC(前年比17,0%)ニュージーランド(5,0%)米国(3,5%)等の増加がみられる。

91年度における世界の牛肉消費量は47百万トンと推定されており、90年の消費量を1,0%増加している。又91年末の期末在庫は1,4百万トンと推定されており、その60%EC圏に保有されている。

1992年度については、世界の生産量が2,0%増加して49百万トンに達する予想が行なわれている。92年以降期待される世界経済の回復が牛肉需要を復活させ、世界の牛肉取引を活性化させ、価格に良好な影響を与えようとの期待である。92年における世界の生産分布は、中国23%、EC19%、米国15%、ロシア連邦12%、東ヨーロッパ6%、ブラジル4%、その他20%の割合と予想されている。

表264

世界の牛肉需給(生産量)

1,000 t

国 別	1989	1990	1991	91/90
米国	10,633	10,464	10,566	10
ソ連	8,800	8,700	8,700	-
EC	7,840	8,272	8,346	-0,9
アルゼンチン	2,600	2,650	2,640	-0,4
ブラジル	2,660	2,835	2,900	2,3
オーストラリア	1,565	1,695	1,691	-0,2
ニュージーランド	550	470	494	5,1
日本	548	545	557	2,2
ウルグアイ	376	349	317	-9,7

(輸出量)

EC	1,005	834	976	17,0
オーストラリア	872	1,050	990	- 5,7
米国	464	456	472	3,5
ニュージーランド	435	359	377	5,0
アルゼンチン	360	425	340	-20,0
ブラジル	300	300	280	- 6,6
ウルグアイ	177	190	125	-34,2

(輸入量)

米国	988	1,068	1,030	- 3,6
日本	498	520	500	- 3,8
EC	455	427	300	- 6,3
ソ連	150	250	200	-20,0
ブラジル	160	180	180	-

(消費量)

米国	11,195	11,048	11,181	1,2
ソ連	8,945	8,945	8,895	-0,6
EC	7,355	7,194	7,200	0,1
ブラジル	2,480	2,450	2,350	4,0
アルゼンチン	2,250	2,240	2,200	-1,8
日本	986	1,059	1,135	7,2
オーストラリア	700	660	685	3,8
ウルグアイ	193	180	180	-
ニュージーランド	125	119	118	-0,8

出所：USDA

ABIEC (ブラジル肉輸出工業協会) の発表によると1991年度における牛肉の輸出は重量が前年を16,6%上回る315千トン、金額で370百万ドルの収入を得た。これは前年を69,7%も上回る大型のものであった。

他方、国内の大手工場の一つSADIA社によると、91年度における肉類輸出の増加は91年々頭にみられた生肉及び加工肉の価格上昇にもづくものであり、又ECが高級肉に対して行なっている割当制度(COTA HILTON)の中でブラジルへの割当量が前年の1,000トンより91年は6,600トンへと7倍近く増加したことが加えられる。HILTON割当に含まれる牛肉の相場は普及肉よりもトンあたり200ドル高価であるのでトン当たり2,000ドル違えばそれだけでも13百万ドルの収入増加となるものであり、これも輸出額増加の大きな要因となった。91年度における牛肉輸出増加の他の理由としてECより行なわれた100,000千トンの輸入より、年間を通じて国内市場が安定したことも加えられる。又、政府の価格調整在庫が、一般市場の競境期を預った投機的な動きを押し過去この時期にはアローバ当り、\$35,-に高騰したこともある牛肉価格を\$25~28,-間に押さえる安定さを示した。このような国内市場の安定が余剰品の海外輸出を計画的にすゝめ得た大きな理由であった。

輸出された牛肉を生肉と加工肉に分けてみると、生肉の輸出量は90年の108千トンに対して91年は126千トン、これによる外資収は90年の87,2百万ドルより91年は148百万ドルへと伸びた。又加工肉の方は輸出量が前年の162,000トンより91年は189千トンへと増加した、めその輸出収入は、90年の130,8百万ドルより91年には222百万ドルへの上昇振りであった。

91年中、ブラジルの牛肉輸出において特筆すべき事項は9月以降米国市場が再び買付けを始めたことである。米国市場はブラジル政府による衛生管理の不足、家畜に対するホルモン剤の使用に対する政府の監督不行届などを理由と

して1年2ヶ月間にわたってブラジルよりの牛肉輸入を中止していたものであった。

91年9月ようやく、この障害が除却されたがすでに年の後半に入っていたので対米輸出量は、30千トンに止まったもの、92年には輸出量を345千トンに伸ばし400百万ドルの外貨を得ることが目標とされている。

表265 冷凍牛肉の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 (t)	金額 \$ 1,000
イタリー	9,449	21,190
イラク	8,485	12,686
西独	3,580	8,772
オランダ	2,725	7,454
スペイン	3,767	6,706
香港	3,180	5,648
英国	1,776	3,490
サウジアラビア	1,536	1,837
エジプト	1,957	1,755
シンガポール	780	1,210
その他		
計	41,415	76,545

出所：DECEX

牛乳

イ) 国内市場

IBGEのデータによると1990年中、国内の工場に搬入された牛乳の量は、96億ℓで前年を7.6%上回るものであった。これは冬期に降雨があったため、牧草の状態を改良して乳牛の飼育能力を高めたことを主な理由としているが、このほか90年には、市場解放政策のもとで競争力の強いアルゼンチン産チーズが大量に輸入されたため、国内のチーズ製造が減少し、その分牛乳の供給量を増加させたのも理由の1つとして加えられている。

91年1-8月間についてみると供給総量は62億ℓで90年を0.6%上回っているがこの間5-8月間は、長期乾燥と第Ⅱコーロル・ランによる価格の統制から牛乳の供給量は(-)5.0%の減少をみている。このため国内の大消費市場では、リセッションの中にか、わず牛乳の供給不足が感じられた。大消費市場への供給不足は奥地方の工場が消費市場までの運賃を避けるため地元や近隣地帯への販売を強化し、生産者への支払額を高めようとしたことも消費市場における供給不足に影響した。

今後の供給態勢については、短期的には国の経済情勢如何にか、わり、中、長期的には価格の自由化が続けられる限り、より多くの生産態勢が形成される見込みである。従来度重なるインフレ対策の中で価格が統制され生産コストとの関係から生産を縮小する農家が多く出ており、価格統制が継続する限り供給問題を解決することは難しい。自由競争の中では、より効率的、より高い生産性により生産コストを低く押え得るものが競争に勝ち残っていくこととなり、正常な価格が形成されていくものと考えられている。又このような生産性の向上はブラジルの牛乳業界が南部共同市場(MERCOSUL)の中で競合していく上で不可欠の問題である。

生産性の向上を図る1つの手段としては天然牧草に依存せず優良品種による牧草の造成があげられる。サン・パウロ州の場合をみると1986年-91年間における牧場全体の面積増加率がわずか1%であったのに対し、造成牧場の増加率は、3.9%を記録しており、牧場に投資されたあとが明らかとなっている。これを1980-91年間で見てもほぼ同様の傾向が観察され、全体の増加率が4.5%であったのに対し造成牧場のみの増加率は、13%であった。

表266

サン・パウロ州における牧場面積

1,000 ha

年 度	天然牧場	造成牧場	計
1980	2,799	7,108	9,907
81	2,663	6,966	9,629
82	2,814	7,248	10,062
83	2,882	7,372	10,254
84	2,664	7,572	10,236
85	2,808	7,613	10,421
86	2,543	7,710	10,253
87	2,530	7,740	10,270
88	2,511	7,616	10,177
89	2,352	7,670	10,022
90	2,351	7,804	10,155
91	2,348	8,007	10,355

出所: IEA, CATI

サン・パウロ州内の乳牛数については、純粋の乳牛と、肉牛を兼用する乳牛の二つの種類に大別されるが、1986年より91年間の推移をみると純粋種が減少(-5%)しているのに対し混合種が23.7%増加しているのが統計として表わされている。

表267

サン・パウロ州内の乳牛数の推移

年 度	乳 牛	混 合	肉 牛	計
1980	3,804	—	6,867	10,671
81	3,891	—	6,679	10,570
82	3,949	—	6,642	10,591
83	4,103	—	6,532	10,635
84	4,146	—	6,584	10,730
85	4,706	—	6,144	10,853
86	2,895	2,306	5,859	11,060
87	2,896	2,586	6,110	10,592
88	2,875	2,486	5,867	11,217
89	2,870	2,847	5,994	11,711
90	2,775	2,876	6,068	11,699
91	2,852	6,166	6,165	11,760

出所: IEA, CATI.

サン・パウロ州における牛乳の生産者受取価格及び交換係数として乳牛1頭を購入するのに必要とした牛乳の量及び飼料1kgを購入するのに必要とした牛乳の量は、次表の通りである。

表268

牛乳(C型)の生産者受取価格(91年10月=100とした実質価格)

CR/ℓ

月 別	1987	1988	1989	1990	1991
1	203	159	156	147	127
2	183	162	154	156	130

3	164	158	148	157	121
4	208	163	141	145	116
5	164	171	137	133	113
6	211	164	131	123	122
7	215	154	136	112	123
8	207	154	139	116	121
9	194	149	133	116	173
10	201	155	127	116	114
11	188	156	124	118	—
12	173	149	127	125	—
平均	193	158	138	130	120

出所：IEA

表269 乳牛（1日5ℓ）1頭を購入するのに必要とする牛乳（C）の量 ㉔

月 別	1988	1989	1990	1991
1	928	1,108	2,368	1,088
2	823	1,194	1,908	1,085
3	843	1,381	756	1,173
4	894	1,761	961	1,293
5	827	2,112	1,364	1,428
6	923	2,404	1,813	1,309
7	1,082	1,710	2,047	1,346
8	1,078	1,739	1,902	1,442
9	1,105	1,613	1,906	1,439
10	1,165	1,371	1,776	1,512
11	1,189	1,264	1,336	—
12	1,310	1,181	1,091	—

出所：IEA

表270 飼料1kgを購入するために必要とした牛乳の量 ㉔

月 別	1988	1989	1990	1991
1	0,72	0,56	0,92	1,09
2	0,73	0,54	1,00	1,03
3	0,70	0,54	2,89	1,05
4	0,58	0,60	2,91	0,95
5	0,60	0,58	1,87	0,97
6	0,51	0,54	1,64	0,85
7	0,56	0,44	1,40	0,94
8	0,63	0,46	1,17	0,93
9	0,61	0,48	1,10	0,92
10	0,71	0,56	0,90	0,89
11	0,75	0,59	0,89	—

12	0,63	0,43	0,87	--
----	------	------	------	----

出所：IEA

ロ) 国際市場

USDAのデータによると1990年における世界の牛乳生産量は440,9百万トンで89年1%上回る量であった。又1991年については前年を0,4%増加する442,7百万トンに達したものと推定されている。

世界の主要生産地帯ではEC圏において乳製品のストックが増加したため従来行なわれてきた牛乳の生産割当てが緩和されたこと、又米国では90年中の価格が生産者を満足すべきものであったため91年の生産を刺激しており、メキシコにおいても降雨が順調であったことや牛乳価格が良好であったこと及び基本的に米国を中心として行なわれている良品種の継続した導入などにより、供給量を増加した。

牛乳の副産物に関しては主要生産国におけるバターや粉乳の在庫が増加したため、これを減らさせるための各種の措置が採られた。又年間1人当たりチーズ消費量の増加傾向やECが低所得国に対して行なってきた粉乳の輸出等は、チーズの生産増加のための基本的な要因となっている。

1986年以降世界の乳製品ストックは急速に減少し、それに伴う価格の上昇がみられた。その傾向は1989年に最高点に達したが、以後在庫の増加を伴ない価格は下降して現在にいたっている。

表271 乳製品：世界の12月末在庫及び価格

年 度	乳 粉		バ タ ー		チ ー ズ	
	在庫 1,000t	価格 US\$/t	在庫 1,000t	価格 US\$/t	在庫 1,000t	価格 US\$/t
1986	1.661	680~ 720	2.078	800~ 1.150	1.538	1.000~ 1.200
1987	1.123	760~ 1.150	1.480	750~ 1.150	1.426	900~ 1.300
1988	483	1.150~ 2.050	792	1.350~ 1.550	1.418	1.250~ 2.050
1989	560	1.750~ 2.000	761	1.650~ 2.000	1.444	1.750~ 2.150
1990※	899	1.100~ 1.650	1.060	1.250~ 1.450	1.488	1.575~ 1.800
1991※※	955	1.150~ 1.430	1.076	1.266~ 1.450	1.456	1.630~ 1.850

出所：USDA ※予備推定値 ※※予想値

3. 7. 2 豚

イ) 国内市場

養豚生産者協会 (APCS) のデータによると1991年度の豚肉生産量は、前年を9,5%増加した1,15百万トンで最近数年間増加してきた飼育頭数を反映した。この結果全般的な購買力減退の前に供給過剰の状態を呈している。

養豚生産者の受取価格は、8月まで比較的安定してきたが、主要飼料原料のとうもろこしが生産量が低く供給が不順であったため、その影響もあって価格は9月より上昇を開始した。しかし原料価格の上昇率が豚肉価格のそれを上廻ったため豚肉ととうもろこし、及び大豆粕の価格関係が悪化し養豚生産者の購買力をも落すことになった。

毎年年末になるとクリスマスを中心として豚肉の需要が増加し、年内でももっとも活気のある市場となるのが91年末はリセッション下における消費者の購買力減退に加え、牛肉と鶏肉の供給量が増加したため、豚肉市場を更に悪化させることとなり、各屠殺冷凍工場は大量のストックを保存し、操業中止の状態におかれた。

表272 サン・パウロ州における豚肉価格 CR/15kg

月 別	1988	1989	1990	1991
1	8.122	15.055	10.640	9.484
2	8.196	15.074	8.340	10.074
3	9.701	15.510	7.761	10.297

4	10.289	18.648	8.479	10.212
5	9.352	23.760	10.706	10.499
6	9.700	26.895	13.960	10.704
7	11.255	18.306	13.507	10.718
8	11.033	15.702	12.578	10.978
9	10.954	12.171	13.069	9.842
10	11.544	9.550	11.062	8.983
11	13.421	9.475	9.407	
12	16.120	10.725	8.118	
平均	10.807	15.906	10.636	8.483

出所：IEA 1991年10月をベースとした実質価格

表273 豚肉ととうもろこしの価格関係
(豚肉1kgの販売代金で購入出来たとうもろこしの量 kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	4,42	8,13	7,11	5,71
2	4,80	8,56	7,39	7,24
3	6,85	9,12	6,64	8,29
4	7,94	11,56	6,67	7,73
5	6,58	14,78	8,01	7,44
6	7,35	15,28	10,02	8,03
7	8,32	13,81	8,78	8,94
8	7,28	13,12	8,32	8,15
9	6,72	8,69	8,05	7,38
10	6,89	7,87	7,35	6,22
11	7,59	7,47	5,17	-
12	9,50	8,51	4,41	-

出所：IEA

表274 豚肉と大豆粕との価格関係
(豚肉1kgの販売代金で購入できた大豆粕の量~kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	2,33	4,52	4,91	4,57
2	2,67	5,07	4,92	5,69
3	3,27	5,40	4,65	5,44
4	3,74	7,71	6,02	6,78
5	3,37	9,85	8,28	6,60
6	3,23	13,17	8,39	5,94
7	2,98	8,35	7,87	5,64
8	3,17	9,13	9,03	4,86
9	3,07	6,55	9,06	3,86
10	2,94	5,22	8,10	3,24
11	3,52	5,11	4,48	-

12	4,56	4,39	3,66	-
----	------	------	------	---

出所：IEA

豚肉価格の伸びが悪かったのに対し生産コストが上昇したため生産者は飼育期間を短縮し軽量のまゝ出荷する傾向が支配的となっており、この状況が続く場合92年の供給量は減少する見込みがある。但し供給量の減少は、価格の上昇を伴うものではなく、需給を均衡させる効果しかないだろうと見られている。

今後の市況回復を期待出来るものとしては、過去15年間にわたって続いたECへの輸出中断が再開されること、米国や日本など強力な市場がブラジル産豚肉の輸入を開始する見込みがあることがあげられる。業界では、このような情勢変化により年間15千トンに過ぎない現在の輸出規模を10倍の150千トンに拡大する期待を持っている。このためにはECを中心とする輸出先市場の要請に応える衛生管理が要求され、又国内生産の40%、販売高の70%を占める南部の3州の生産者を保護し生産を奨励する措置が必要となる。

1992年度の見通しも楽観的なものではなく、年頭には牛肉や鶏肉との競合がある他豚肉自体の供給過剰が予想されるが、年間を通じた輸出増加見込みの前に5%程度の生産増加があるものと推定されている。養豚部門にとって重要な国内市場拡大については、これを達成するための技術面の指導が必要とされている。

ロ) 国際市場

USDAの発表によると1991年度における世界の豚飼育頭数は、763百万頭で前年の759百万頭を0.5%増加させている。92年については、91年を更に1%増加するとの見通しである。

1991年における世界の豚肉生産量は、64.6百万トン、1992年はこれを2%増加する予想となっている。世界の市場では、ヨーロッパと中国が最大の生産国かつ最大の消費地である。91年におけるヨーロッパの豚肉生産量は、13.5百万トンで前年を(-)4%減少したが、92年もこの傾向を繰り返す見込みとなっている。これは旧社会主義ブロックにおける農業部門機構の再編成により、旧東独の生産量が大幅に落ちたのを理由としている。これに対し中国の豚肉生産量は、前年を6%増加する24.6百万トンに達する見込みである。

3.7.3 鶏

イ) 国内市場

鶏肉生産者協会 (APINCO) によると、1991年度における鶏肉の生産量は2.6百万トンに達したものと推定されている。この量は、前年を11%増加した量である。

91年2月1日以降消費者価格の統制が行われたにもかかわらず、消費者の購買力減退から牛肉より鶏肉への需要転換があったことや、コレラ問題から魚類の消費が減り、これ又鶏肉需要の増加につながったことから、国内の主要生産地帯 (サンタ・カタリーナ、サン・パウロ、パラナ、リオ・グランデ・ド・スール、及びミナス・ジェライス州) では養鶏部門の継続した成長がみられた。

上昇するコストと政府による販売価格の統制は生産者収益を圧迫したが生産量が増大したことや、輸出の増加によって、これがカバーされた。消費価格の統制が解除された9月以降は、牛肉価格に平行した価格の上昇がみられた。

全国の飼育数は8月以降増加を続けたが10月には、168.5百万羽に達し史上最大の記録となった。この飼育数は前月を5.6%、前年の10月を11.3%増加するものであったが、当初の170百万羽に達すると見込まれていたものが、リセッション下のため消費がこれに伴わないとの見方から縮小されたものであった。

10月には又1日ヒナ (100万羽) が近隣国に輸出されており、これまたこの数年間初めての出来ごとであった。

91年における1人年間の鶏肉の消費量は15.5kgと推定されており前年比10.1%の増加である。又飼料原料としてのとうもろこしや大豆価格の上昇により、鶏肉と飼料の価格関係が悪化しており、91年の当初鶏肉1kgの価格で2.18kgの配合飼料を購入することが出来たのが、9月には1.60kg、10月には1.74kgと低く養鶏生産者の購買力が落ちたのが明らかとなっている。

表275 鶏肉1kgの価格で購入出来た配合飼料の量 ~kg

月 別	1988	1989	1990	1991
1	1,64	2,65	2,16	2,18
2	2,14	2,78	2,45	2,53
3	2,19	3,03	3,07	2,17
4	2,57	3,26	2,80	2,12
5	2,15	4,37	2,06	2,32
6	2,31	4,66	2,43	2,04
7	2,46	3,75	2,56	1,66
8	2,21	3,60	2,27	1,57
9	2,74	3,27	2,89	1,60
10	2,52	2,06	2,25	1,74
11	2,25	2,23	1,49	-
12	3,03	3,46	1,42	-

出所：IEA

表276 牛肉1kgの価格で購入出来た鶏肉の量 ~kg

月 別	1988	1989	1990	1991
1	1,92	1,65	2,01	1,72
2	1,60	1,61	1,69	1,66
3	1,39	1,60	1,93	1,71
4	1,58	1,31	2,04	1,70
5	1,46	1,31	2,06	1,65
6	1,65	1,48	2,29	1,63
7	1,69	1,64	1,68	2,04
8	1,72	1,99	1,68	2,44
9	1,70	1,72	1,75	2,47
10	1,77	1,84	1,72	2,59
11	1,66	1,91	1,88	-
12	1,77	1,48	1,85	-

出所：IEA

以上の状況にあるが、1992年度における鶏肉の生産は飼育数の増加から91年を更に5%増加する見通しである。

次に輸出面についてみると、全国のプロイラー輸出協会（ABEF）のアーターによると、91年のプロイラー輸出量は310千トンで前年を2%増加し、約400万トンの外貨を得たものと推定されている。このようなプロイラー輸出の増加は、いまだに湾岸戦争の影響を残している中東諸国が在庫の形成を図るための買付けを増加したことを大きな理由とするものであるが、これら需要の増加からブラジルの輸出価格は、1990年の平均US\$909,-(FOB)より91年には\$1,033,-(FOB)に上昇、輸出額増加の理由となった。

ブラジルのプロイラー輸出は相変わらず中東及び西ヨーロッパを最大の顧客としている。91年には、又アルゼンチン向けに6年振りの120万ドル相当の輸出があったが、これは同国の供給面に異常があった特殊のケースであり、本来自給態勢にあるアルゼンチンへの継続した輸出は考えられない。

ブラジルは米国とフランスに次ぐ世界第3位の輸出国であるが、米国とフランスが強力な輸出補助を行なっているためブラジルの輸出が阻害されており、GATTによる調停を要する事項としてブラジル側の交渉が続けられている。

表277

プロイラーの輸出推移

年 度	重量 1,000kg	金額 100 万ドル	単価 US\$/t
1981	293,9	354,3	1,205
82	301,8	285,5	946
83	289,3	242,2	837
84	280,3	263,5	940
85	277,1	242,9	877
86	225,6	222,2	985
87	210,8	215,9	1,024
88	236,6	235,0	993
89	235,0	262,0	1,115
90	211,5	192,3	909

出所：CACEX、DECEX

表278

プロイラーの輸出先国 (1990年)

輸出先国	重量 1,000 t	金額 100 万ドル
サウジ・アラビア	98,1	91,4
キューバ	26,5	25,3
ソ連	19,7	16,0
アラブ首長国連邦	13,6	12,4
アンゴラ	13,4	10,8
クエート	6,8	6,1
バレーン	5,9	5,4
イエメン	5,0	4,3
カタール	4,0	3,6
その他	18,5	17,0
計	211,5	192,3

サン・パウロ州養鶏協会 (APA) によると1991年度における卵の国内生産量は、34,9百万箱(30 打入)を前年を2%増加、1992年は飼育数の増加から同率の増加が予想されている。

国内生産の40%を占めるサン・パウロ州では供給量の増加に対し消費が減退したため、91年下半期には卵と飼料の価格関係が悪化しており、養鶏収益を圧迫されてきた。このような情勢を幾分にも緩和するため、海外への輸出が図られており、現在91年11月より92年2月にかけて、15百万個、600千ドルの輸出契約が養鶏場のプールによってすめられている。

表279

卵1打の価格で購入出来た産卵鶏飼料の量 ~kg

月 別	1988	1989	1990	1991
1	0,94	1,66	1,00	1,33
2	1,47	1,74	1,15	1,19
3	1,82	1,95	2,48	1,32
4	2,14	2,19	2,25	1,88
5	1,91	2,62	1,64	1,75
6	1,80	3,32	1,64	1,46

7	1,90	3,03	1,81	1,21
8	1,96	2,70	1,68	1,06
9	1,49	1,55	1,43	1,00
10	1,44	0,98	0,97	0,88
11	1,27	0,97	0,85	—
12	1,60	1,42	0,83	—

出所：IEA

3.8 林業部門

IBGE (ブラジル地理統計院) の1991年度年鑑によると、1989年度における全国の州別木材、木炭及び薪の生産量は次の通りである。

表280 全国の木材、木炭及び薪生産量 (天然林) 1,000 m³

州別	木材	木炭	薪
北部地方			
パラ	43.138,7	75,8	7.738,3
ロンドニア	2.255,4	1.009,6	967,7
アマゾナス	626,0	—	—
その他			
小計	47.486,3	81,5	12.686,2
東北地方			
バイア	4.790,3	135,3	20.357,6
マラニョン	999,8	183,4	7.098,9
ピアウイ	895,0	6,3	1.734,1
セアラ	877,5	49,9	12.163,9
リオグランデ・ノル	93,0	23,4	5.360,8
その他			
小計	7.826,9	503,7	53.596,1
中西部地方			
マット・グロッソ	1.659,9	3,3	5.055,9
ゴヤス	586,2	544,8	3.954,9
マト・グロッソ・スル	397,8	259,4	1.614,0
その他			
小計	2.643,9	807,6	10.624,8
南東地方			
ミナス・ジェリス	627,7	1.892,9	13.019,2
サン・パウロ	246,7	36,3	4.150,6
スピリト・サン	84,2	24,4	265,1
リオ・デ・ジANEIRO	28,4	2,6	406,6
小計	987,0	1.956,2	17.841,5
南部地方			
パラナ	3.397,2	68,9	6.050,4

サンタ・カタリーナ	3,176,7	171,1	10,066,0
リオ・グランデ・ド・スル	332,4	2,1	4,386,9
小計	9,606,3	242,1	20,503,3
全 国	65,850,4	3,591,0	115,251,9

出所：ANUÁRIO ESTATÍSTICO 1991

表 2 8 1

全国の木材及び薪生産量 (植林)

1,000 m³

地域及び州別	木 材		木 炭	薪
	紙、セルローズ原料	その他の目的		
北部地方				
パラナ	1,114,0	--	--	--
アマバ	333,8	--	--	23,2
小計	1,447,8	--	--	23,2
東北地方				
セアラ	--	67,6	--	104,4
リオ・グランデ・ド・ノル	--	--	--	86,6
パイア	145,4	106,5	91,5	435,7
その他				
小計	145,4	174,4	91,5	626,9
中西部地方				
マト・グロソ・ド・スル	318,0	95,4	119,8	1,047,6
ゴヤス	--	3,3	129,0	256,3
ブラジリア	--	29,9	26,5	79,3
小計	318,0	128,6	275,3	1,383,1
南東部地方				
ミス・ツイス	1,071,3	2,373,9	1,289,5	4,184,9
スピリト・サン	1,803,5	16,4	47,0	218,0
リオ・デ・ジ・ヤレイ	118,4	8,1	0,6	128,0
サン・パウロ	10,913,6	4,369,9	143,4	9,023,5
小計	13,906,8	6,768,4	1,480,5	13,554,4
南部地方				
パラナ	11,783,8	2,171,1	8,7	1,553,6
サンタ・カタリーナ	2,710,8	3,078,9	--	1,262,6
リオ・グランデ・ド・スル	1,752,9	1,470,5	34,9	5,219,1
小計	16,247,5	6,720,5	43,8	8,035,3
全 国	32,065,5	13,791,9	1,891,2	23,622,9

出所：ANUÁRIO ESTATÍSTICO 91

〈参考資料〉

RELATÓRIO DE BANCO CENTRAL DO BRASIL	ブラジル中央銀行
ANUÁRIO ESTATÍSTICO DO BRASIL 1991	ブラジル地理統計院
LEVANTAMENTO SISTEMÁTICO DA PRODUÇÃO AGRÍCOLA	全 上
INFORMAÇÕES ECONÔMICAS	サンパウロ州農務局、農業経済研究所
MERCADO EXTERIOR	ブラジル銀行貿易管理局
GAZETA MERCANTIL	ガゼッタ・メルカンチル紙
FOLHA DE SÃO PAULO	フォーリャ・デ・サンパウロ紙
その他業界資料各種	

報告書作成

1992年2月10日

ブラジル国サンパウロ市

T.N.K. CONSULTORIA ECONOMICA LTDA

フランドル国に於ける農林業の興隆の歴史 (1900~1901)

